Universal CMDB Configuration Manager

ソフトウェアバージョン: 2018.08

ユーザーガイド

ドキュメントリリース日: 2018年8月
ソフトウェアリリース日: 2018年8月

ご注意

免責事項

ここでアクセス可能な特定バージョンのソフトウェア/ドキュメント (以降「本製品」) には、Hewlett-Packard Company (現在のHP Inc.) およびHewlett Packard Enterprise Companyのブランド名を使用した内容が含まれる場合があります。2017年9月1日以降、本製品は別途所有および経営される会社、Micro Focusから提供されることになりました。HP、Hewlett Packard Enterprise、HPEマークに関する記述は実際は過去のものであり、HP、Hewlett Packard Enterprise、HPEマークは、所有する各社に帰属します。

保証

Micro Focus、その関連会社、およびライセンサー (以降「Micro Focus」と総称) の製品およびサービスの保証は、当該製品およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、Micro Focusはいかなる責任も負いません。ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。所有、使用、コピーするには、別途規定する場合を除き、Micro Focusからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© 2011 - 2018 Micro Focus or one of its affiliates.

商標

Micro FocusおよびMicro Focusロゴは、英国、米国、およびその他の国におけるMicro Focus (IP) Limitedまたはその子会社の商標または登録商標です。その他すべての商標は、該当する所有者に帰属します。

Adobe™ は、Adobe Systems Incorporatedの商標です。

Microsoft® およびWindows® は、Microsoft Corporationの米国登録商標です。

UNIX® は、The Open Groupの登録商標です。

文書の更新

最新のアップデートまたはドキュメントの最新版を使用していることを確認するには、次のURLにアクセスしてください: https://softwaresupport.softwaregrp.com

このサイトでは、Softwareパスポートに登録してサインインする必要があります。SoftwareパスポートIDを登録するには、Micro Focus Support Webサイト (https://softwaresupport.softwaregrp.com) で [**Softwareパスポートに登録**] をクリックします。

適切な製品サポートサービスに登録すると、更新情報や最新情報も入手できます。詳細についてはMicro Focusの営業担当にお問い合わせください。

サポート

次のMicro Focusサポートのサイトを参照してください。https://softwaresupport.softwaregrp.com

このWebサイトには、連絡先情報と、Micro Focusが提供する製品、サービス、およびサポートについての詳細が掲載されています。

Micro Focusのオンラインサポートでは、お客様にセルフソルブ機能を提供しています。ビジネス管理に必要な、インタラクティブなテクニカルサポートツールに迅速かつ効率的にアクセスできます。有償サポートをご利用のお客様は、サポートサイトの次の機能をご利用いただけます。

- 関心のある内容の技術情報の検索
- サポートケースおよび機能強化要求の提出および追跡
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- Micro Focusサポートの連絡先の表示
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- ほかのソフトウェア顧客との議論に参加
- ソフトウェアのトレーニングに関する調査と登録

ほとんどのサポートエリアでは、Softwareパスポートユーザーとして登録し、ログインする必要があります。また、多くの場合、サポート契約も必要です。SoftwareパスポートIDを登録するには、Micro Focus Support Webサイト (https://softwaresupport.softwaregrp.com) で [**Softwareパスポートに登録**] をクリックします。

アクセスレベルに関する詳細は、以下のWebサイトにアクセスしてください。https://softwaresupport.softwaregrp.com/web/softwaresupport/access-levels

統合カタログは、Micro Focusの統合カタログWebサイトにアクセスします。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすMicro Focus製品ソリューションを検索したり、Micro Focus製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このWebサイトのURLはhttps://softwaresupport.softwaregrp.com/km/KM01702731です。

目次

はじめに 12
第1章: Configuration Managerの紹介 13
Micro Focus Universal CMDB Configuration Manager概要 13
設定モデリングと分析 14
オフライン分析 14
ポリシー 15
定義済みのポリシー 16
データ管理 - 実際のステータスと認証済みのステータス 17
履歴の比較 18
トポロジモードとインベントリモード 19
システム操作の自動化 19
ユーザー管理 20
複数テナントUCMDB環境でのConfiguration Manager 20
UCMDB管理のみでのConfiguration Manager (推奨) 20
エンドユーザー機能でのConfiguration Manager 21
ライセンス認可されたコンテンツ 21
高度なコンテンツの有効化 22
高度なコンテンツの削除 22
ホームページ 23
UCMDB Browserモジュール 25
UCMDB Browserモジュールへのアクセス 26
ユースケース 26
Configuration Managerの作業のベストプラクティス 27
第2章: コンテンツ管理 28
コンテンツ管理の概要 28
変更要求 29
Configuration Managerコンテンツのワークフロー 29
Configuration Managerのコンテンツの管理 - ユースケース 32
トラブルシューティングと制限事項 – コンテンツ管理 35
第3章: UCMDBへのデータ連携 37
連携データの概要 37

ポリシーコンプライアンスデータの連携 38
サポートされているTQLクエリ - ポリシーコンプライアンスデータ 38
レポートの作成 39
KPIの統合 41
ビジネスサービスビューの特定 43
サポートされているTQLクエリ - KPI 44
レポートの作成 44
BSMでのKPIの使用 45
UCMDBとの連携ワークフロー 45
前提条件 45
ポリシーコンプライアンスデータを連携するための統合ポイントの作成 46
KPIデータを連携するための統合ポイントの作成 47
ビューまたはカスタムTQLクエリでのCIに基づくポリシーレポートの作成 49
ビューまたはカスタムTQLクエリでのCIに基づくサマリーポリシーレポートの作成 50
KPIレポートの作成 53
Business Service Management でのKPIの使用 55
トラブルシューティングおよび制限事項 – UCMDBへのデータ統合 56
Configuration Managerでの作業 57
第4章 : クイック値 58
インベントリビューウィザード 58
[ビュー定義] ページ 58
[ビュー詳細] ページ 59
[レポート] ページ 60
データ品質ポリシーウィザード 60
[ビューの選択] ページ 61
[検証のためのCIタイプの選択] ページ 61
[必要な属性の選択] ページ 62
[必要な関連CIタイプの選択] ページ 63
[ポリシー詳細] ページ 63
類似性ポリシーウィザード 64
[ビューの選択] ページ 64
[CIタイプの選択] ページ 65
[定義] ページ 65
[ポリシー詳細] ページ 66

第5章：KPIサマリー 67
KPIサマリーの概要 67
KPIサマリーのユーザーインターフェイス 67
[KPIサマリー] ページ 67
左の表示枠 68
[認証済みの変更] 表示枠 68
[管理CI] 表示枠 69
[非準拠CI] 表示枠 69
[ポリシーサマリー] 表示枠 70
第6章：ビューサマリー 71
ビューサマリーの概要 71
自動ステータス遷移のステータスのレビュー 72
ビューサマリーのユーザーインターフェイス 72
[ビューサマリー] ページ 72
第7章：ポリシーサマリー 75
ポリシーサマリーの概要 75
ポリシーサマリーのユーザーインターフェイス 75
[ポリシーサマリー] ページ 75
左の表示枠 77
右の表示枠 77
第8章：ビューの調査 79
ビューの調査の概要 79
影響分析 80
自動化の衝突 80
レポート 81
コントロールされた自動化またはコントロールされていない自動化の実行 82
ポリシー違反を修正するためのRFCの作成 84
特定CIのRFCを作成 85
複合CIの折りたたみルールの設定 85
外部アプリケーションの起動 85
ビューの調査のユーザーインターフェイス 86
[自動化実行] ダイアログボックス 87
[実施の詳細] 表示枠 89
[ポリシー] 表示枠 90
[自動化分析] > [インパクト - <ステータス>] 表示枠 91

[自動化分析] > [自動化] 表示枠 93
[自動化分析] > [衝突] 表示枠 94
ベースラインポリシーウィザード 96
[ベースライン定義] ページ 96
[ポリシー詳細] ページ 97
[CI詳細] ダイアログボックス 97
[新規RFCの作成] ダイアログボックス 98
[ポリシー修復用のRFCの作成] ダイアログボックス 99
[ビューの調査] ページ 100
[複合CI] 表示枠 102
[トポロジ] 表示枠 103
[ポリシー詳細] 表示枠 104
[コントロールされた自動化] タブ 104
[フィルター] 表示枠 105
[ポリシー詳細] ダイアログボックス 107
[ポリシールールの選択] ダイアログボックス 107
[表示するスナップショットの選択] ダイアログボックス 108
[CIのソート] ダイアログボックス 109
トポロジページ 109
トラブルシューティング – Explore Views 110
第9章: ベースライン分析 113
ベースライン分析の概要 113
比較用の構成モデルの定義 114
ベースライン分析のユーザーインターフェイス 115
[複合CIの追加] ダイアログボックス 115
[ベースライン分析] ページ 116
[分析結果] 表示枠 117
[分析範囲] 表示枠 117
[構成モデル] 表示枠 118
[比較詳細] ダイアログボックス 119
[ベースラインポリシーの選択] ダイアログボックス 120
[複合CIの選択] ダイアログボックス 120
第10章: セグメント分析 122
セグメント分析の概要 122
類似するCIのグループを含むCIの選択 123

セグメント分析のユーザーインターフェイス 124
[複合CIの追加] ダイアログボックス 124
[CI詳細] ダイアログボックス 125
[比較詳細] ダイアログボックス 125
[セグメント分析] ページ 126
[分析範囲] 表示枠 127
[構成モデル] 表示枠 128
[セグメントリスト] 表示枠 128
[セグメント結果] 表示枠 128
[セグメントパラメーター] ダイアログボックス 129
第11章: レビュー/認証 130
レビュー/認証の概要 130
Service Managerとの統合 131
レポート 132
CIの変更の認証 133
Service ManagerへのUNLファイルのインポート 134
外部アプリケーションの起動 134
レビュー/認証のユーザーインターフェイス 135
[選択した差異の認証] ダイアログボックス 135
[CI詳細] ダイアログボックス 136
[変更をロールバックするためのRFCの作成] ダイアログボックス 137
[ポリシー詳細] ダイアログボックス 138
[レビュー/認証] ページ 139
[複合CI] 表示枠 141
[比較詳細] 表示枠 142
[フィルター] 表示枠 144
[トポロジ] 表示枠 145
[CIのソート] ダイアログボックス 146
[トポロジの表示] ダイアログボックス 147
トラブルシューティング – レビュー/認証 147
第12章: 変更履歴 150
変更履歴の概要 150
レポート 151
スナップショットの比較 151
変更履歴のユーザーインターフェイス 151

[変更履歴] ページ 152
[複合CI] 表示枠 153
[比較詳細] 表示枠 154
[トポロジ] 表示枠 155
[CI詳細] ダイアログボックス 156
[ポリシー詳細] ダイアログボックス 157
[表示するスナップショットの選択] ダイアログボックス 158
[CIのソート] ダイアログボックス 159
トポロジページ 160
第13章: 認証履歴 161
認証履歴の概要 161
レポート 162
スナップショットの比較 162
認証履歴のユーザーインターフェイス 162
[認証履歴] ページ 163
[複合CI] 表示枠 164
[比較詳細] 表示枠 165
[CI詳細] ダイアログボックス 166
[ポリシー詳細] ダイアログボックス 167
[表示するスナップショットの選択] ダイアログボックス 168
[CIのソート] ダイアログボックス 169
トポロジページ 170
第14章: ビュー 171
ビューの概要 171
定義済みのビュー 172
トポロジビューとインベントリビュー 173
ビューの更新頻度 173
自動ステータス遷移 174
管理対象ビューの追加 175
ビューの自動ステータス遷移ルールの設定 176
ビューの更新頻度の指定 177
ビューのユーザーインターフェイス 177
[ビュー] ページ 177
[全般] 表示枠 178
[削除候補ポリシー] 表示枠 179

[自動ステータス遷移] 表示枠 179
トラブルシューティングおよび制限事項 – ビュー 180
第15章: ポリシー 182
ポリシーの概要 182
ベースラインの設定 184
ポリシーグループ 184
ベースラインポリシーまたはトポロジポリシーの定義 185
類似性ポリシーの定義 186
Configuration Managerのトポロジポリシー - ユースケース 187
Configuration Managerの類似性ポリシー - ユースケース 192
Oracleデータベースに接続されるラボ内のすべてのUNIXマシンのOSバージョンは、同一にする必要がある 192
各クラスター内のすべてのアプリケーションサーバーが同じ属性を持つ必要がある 194
ポリシーのユーザーインターフェイス 196
属性演算子 196
[ポリシー] ページ 197
左の表示枠 199
[詳細] 表示枠 199
[ポリシープレビュー] ダイアログボックス 203
[複合CIの選択] ダイアログボックス 204
トラブルシューティングおよび制限事項 – ポリシー 204
第16章: レポート 205
レポートの概要 205
レポートのスケジュール 206
レポートのユーザーインターフェイス 207
レポートの詳細ウィザード 207
[レポート定義] ページ 207
[頻度の選択] ページ 208
[フィルターの選択] ページ 208
[その他の受信者] ページ 209
[レポート] ページ 209
第17章: 設定 211
設定の概要 211
トポロジレイアウトへの新しいレイアウトの追加 212

構成の変更の保存と適用 213
設定のユーザーインターフェイス 213
[構成セットを開く] ダイアログボックス 214
[ドラフトとして保存] ダイアログボックス 214
[設定] ページ 215
左の表示枠 216
自動化インパクト 218
変更管理 218
表示設定 219
取得されるRFC基準 219
高優先度ビュー - オフライン分析と認証タスク 220
低優先度ビュー - 日次ビューの更新設定 220
メール設定 220
オフライン消去 222
Operations Orchestration 222
RFC作成 223
RFC表示 223
Service Manager 224
トポロジレイアウト 224
トポロジ制限 225
UCMDBファウンデーション 226
UI統合 226
値の推奨 227
[問題] 表示枠 227
第18章: 自動化設定 229
自動化設定の概要 229
自動化のセットアップ 230
[自動化設定] ユーザーインターフェイス 231
[自動化設定] ページ 231
左の表示枠 232
<自動化>表示枠 - [自動化の詳細] 領域 232
<自動化>表示枠 - [実行の詳細] 領域 233
<自動化>表示枠 - [実行パラメーター] 領域 234
第19章: 自動化ポリシー 235
自動化ポリシーの管理の概要 235

自動化ポリシーの定義 236
Configuration Manager自動化ポリシー - 使用例 236
[自動化ポリシー] ユーザーインターフェイス 238
[自動化ポリシー] ページ 238
[ポリシー] 表示枠 239
[全般] 表示枠 239
[範囲] 表示枠 240
[制限] 表示枠 240
第20章: ユーザープリファレンス 242
ユーザープリファレンスの概要 242
電子メール通知の構成 242
ユーザープリファレンスのユーザーインターフェイス 243
[ユーザープリファレンス] ダイアログボックス 243
お気に入りビュー 244
ローカリゼーション設定 245
通知 245
付録 247
付録 A: キャパシティに関する制限事項 – Configuration Manager 248
付録 B: ユーティリティ 249
構成セットのエクスポート 249
構成セットのインポート 251
パスワード暗号化 253
ポピュレート 254
キー生成 254
付録 C: システムデータのエクスポートとインポート 256
システムデータのインポートとエクスポートの概要 256
インポート操作のログファイル 257
システムデータのエクスポート 258
システムデータのインポート 258
ログの冗長レベルの設定 259
ドキュメントに関するフィードバックの送信 260

はじめに

第1章: Configuration Managerの紹介

本章の内容

Micro Focus Universal CMDB Configuration Manager概要 13
設定モデリングと分析 14
オフライン分析 14
ポリシー 15
データ管理 - 実際のステータスと認証済みのステータス 17
履歴の比較 18
トポロジモードとインベントリモード 19
システム操作の自動化 19
ユーザー管理 20
複数テナントUCMDB環境でのConfiguration Manager 20
ライセンス認可されたコンテンツ 21
ホームページ 23
UCMDB Browserモジュール 25
ユースケース 26
Configuration Managerの作業のベストプラクティス 27

Micro Focus Universal CMDB Configuration Manager概要

構成管理は、ITIL V3に準拠したプロセスであり、ITがビジネスをサポートするために必要な情報を集約したデータソース(CMS、Configuration Management Systemの略)を管理します。このプロセスは、ITインフラストラクチャーとソフトウェアを完全かつ正確に把握することで、ITILプロセスの品質を向上し、ビジネス上の意思決定を容易にします。さらに、組織のITを正常稼働することで、ビジネスの中断を最小限に抑えます。

Micro Focus Universal CMDB Configuration Manager (以下、Configuration Managerとします) は、CMSデータの管理を効率化するシステム管理者向けのツールです。このツールは、ITIL V3に基づいてCMS内

にあるデータを分析および管理することを主な目的とします。Configuration Managerは、CMSインフラストラクチャーを管理するための環境を整備し、さまざまなデータソースや、幅広い製品およびアプリケーションに対応します。

構成管理機能は、CIを適切に管理できる環境を実現すると同時に、CI、バージョン、場所、保管/所有の変更履歴を保持します。インフラストラクチャーの物理的または電子的な資産やコンポーネントを管理することによって、物理的な環境に基づいて最新の構成データを提供します。

設定モデリングと分析

Configuration Managerの基本機能の1つに、設定された基準に基づいてIT環境を測定する機能があります。この機能では、「目的が同じCIには同じ構成を適用する」という考え方に基づいて、保守コストの削減と予測の精度向上を図ります。構成分析モジュールは、選択した複合CIと、組織の標準となる構成モデルを比較します。これにより、CIとモデルの類似性を測定できます。

この分析では、選択したCIと、組織のニーズに合わせて作成したカスタム構成モデルを比較します。CIとモデルの類似性のレベルは、複合CIのトポロジとCIの属性に基づいて判定されます。分析は、モデルの定義と比較分析という2つの手順を繰り返して行われます。具体的には、モデルを定義し、それをCIと比較した結果、構成上の相違点を特定するか、モデルを再定義して比較に戻ります。

この分析を利用すると、たとえば、複数の環境内に存在するさまざまなCIの構成を比較できます。同じアプリケーションが運用環境とステージング環境にある場合、これを比較することによって、テスト構成を使って運用環境で問題が発生した場合の原因を究明できます。

構成分析プロセスの詳細については、「ベースライン分析」(113ページ)を参照してください。

オフライン分析

Configuration Managerで実行される分析プロセスは、オフラインのプロセスであり、非同期的に実行され、管理ビューに表示される情報が更新されます。定期的に、UCMDBで更新済みのCIがポーリングされます。Configuration Managerでビューを次回開いたときに、更新された情報が表示されます。この分析は、次のいずれかの指定した更新頻度に従って実行できます。

- 毎日指定した時刻に実行
- オフライン分析の繰り返し間隔に従って、いずれかのCIで変更が検出されるたびに実行

更新頻度とオフライン分析設定の指定方法の詳細については、「[設定] ページ」(215ページ)を参照してください。

ポリシー

ポリシーとは、組織の標準を定義するルールです。定義した標準を管理対象環境 (ビュー) に適用することによって、設定した標準へのコンプライアンスを継続的に監視できます。ポリシーをビューに適用すると、Configuration Managerはビュー内のCIがポリシーに適合しているかどうかをチェックします。1つのビューに複数のポリシーを同時に適用することが可能です。

また、連携機能を使用して外部アプリケーションからポリシーデータを導入することも可能です。このデータはその後、Configuration Manager内でポリシーを直接作成した場合と同じように利用されます。連携できるCIタイプはNode、RunningSoftware、IpAddressです。

ビューの**ポリシーステータスレベル**は、ビューに適用されているすべてのポリシーに基づいて総合的に決定されます。ビューのポリシーステータスレベルは、ポリシーに適合するCIの割合 (%) を表します。

適用可能な構成ポリシーの1つに**ベースラインポリシー**があります。このポリシーは、ポリシーのベースラインとなる構成モデルを保存したものであり、これをもとに構成分析機能をさらに拡張することができます。ベースラインポリシーをビューに適用すると、個々のCIをベースラインと比較するのではなく、ビュー内にある特定のタイプのすべてのCIをベースラインと比較できます。これによって、同じタイプのCIがベースラインに適合していることを確認できます。さらに、新しいCIをシステムに追加する際には、ベースラインに基づいた構成が可能になります。ベースラインの詳細については、「ベースラインの設定」(184ページ)を参照してください。

トポロジポリシーも構成ポリシーの1つです。これは、UCMDBで使用するトポロジクエリ言語 (TQL) を使って定義します。トポロジポリシーでは、トポロジ構成 (CIのセットとCI間の関係) を定義します。

追加のポリシータイプは、**類似性ポリシー**であり、そこでビューの特定のタイプのすべてのCIまたはビューのCIのグループ (各グループが定義されたCITに接続されている) の間で類似性を強制するCIおよび属性を選択します。

トポロジポリシーの使用例としては、ビジネスクリティカルなアプリケーションの高い可用性を確保し、障害発生時には迅速に復旧できるように、このようなアプリケーションをサポートするサーバー群が同じ場所に設置されていないことを確認するポリシーを定義します。

ポリシーの定義および管理の詳細については、「ポリシー」(182ページ)を参照してください。

定義済みのポリシー

> **注 :** Advancedライセンスを購入していない場合、このコンテンツを利用することはできません。適切なライセンスを入手するには、Micro Focusの営業担当またはMicro Focusビジネスパートナーに連絡してください。

Configuration Managerには、UCMDBで作成されたTQLクエリに基づいた定義済みのポリシーグループが同梱されています。定義済みのポリシーには3つのタイプがあります。

- データ品質ポリシー – これらのポリシーによって、UCMDBでデータが欠落していないことが確認されます。
  - 各サーバーに場所が必要 – このポリシーがアクティブになるのは、少なくとも1つのWindowsマシンまたはUNIXマシンが場所CIに接続されている場合だけです。
  - 各サーバーに所有者が必要 – このポリシーがアクティブになるのは、少なくとも1つのWindowsマシンまたはUNIXマシンが、関係タイプが所有であるユーザーに接続されている場合だけです。
  - 各MSSQLデータベースまたはOracleデータベースにバージョンが必要。
- 未使用リソースポリシー - これらのポリシーによって、Windows 7、2003、または2008マシンに冗長なプロセッサーやメモリがインストールされていないことが確認されます。たとえば、ポリシーによって、PAEが無効化されたWindows 32ビットシステムに、4 GBを超えるメモリがインストールされていないかが確認されます。
- クラスター復元性ポリシー – これらのポリシーによって、すべてのクラスターが復元性を持つことが確認されます。たとえば、ポリシーによって地理的冗長性が確認されます (サーバー上に地理的な単一障害点がないこと)。

  次のさまざまなクラスター復元性シナリオにポリシーが用意されています。

  - 地理的な単一障害点 – 仮想環境では、ポリシーによって、クラスターの仮想マシンホスト (たとえば、ESXサーバー) が少なくとも2つの異なる場所にあることが確認されます。非仮想環境では、ポリシーによって、クラスターのすべてのノードが少なくとも2つの異なる場所にあることが確認されます。これらのポリシーを使用するには、サーバーの場所をUCMDBでモデリングし、電力配分装置を検出するApertura VISTA統合をアクティブ化する必要があります。
  - 電力配分装置の単一障害点 – 仮想環境では、ポリシーによって、クラスターの仮想マシンホスト (たとえば、ESXサーバー) が少なくとも2つの異なる電力配分装置に接続されていることが確認されます。非仮想環境では、ポリシーによって、クラスターのすべてのノードが少なくとも2つの異なる電力配分装置に接続されていることが確認されます。

- 仮想マシンホストの単一障害点 – 仮想環境では、ポリシーによって、クラスターの仮想マシンが複数のサーバー (たとえば、複数のESXサーバー) でホストされていることが確認されます。
- ネットワークの単一障害点 – 仮想環境では、ポリシーによって、仮想マシンが複数の仮想スイッチに接続されていることが確認されます。
- アプリケーションサーバーの類似性 – ポリシーによって、クラスター内のすべてのアプリケーションサーバーが同一であることが確認されます。
- クラスターノードの類似性 – ポリシーによって、クラスター内のすべてのノード (仮想マシンまたは非仮想マシン) が同一であることが確認されます。

これらのポリシーは、UCMDBの次の場所にあります: [**モデリングスタジオ] > [リソース**] タブ (リソースタイプとして [**クエリ**] を選択) > [**Configuration Manager] > [Configuration Manager - Do not modify**] フォルダー。

> **注 :** これらのポリシーのデータを検出するには、Universal Discovery (UD) (次のすべてのアクティビティの実行を含む) を実行する必要があります。
>
> - ソフトウェア - 基本
> - ソフトウェア - JavaEE
> - ソフトウェア - クラスター
>
> 加えて、ディスカバリを実行して仮想化インフラストラクチャー、ネットワークインフラストラクチャー、レイヤー2トポロジのデータを取得しなければなりません。
>
> これらのアクティビティ、およびディスカバリ実行の詳細については、『Universal CMDBディスカバリ/統合コンテンツヘルプ』のディスカバリアクティビティを参照してください。

データ管理 - 実際のステータスと認証済みのステータス

Configuration Managerは、ビューのステータスを管理することによって、構成管理システム内のデータを管理します。

実際のステータスとは、サービスのトポロジと構成について、構成管理システム (ディスカバリモジュールなど) のデータソースが現在報告している状態を示します。

認証済みのステータスとは、サービスが制御された状態であり、configuration managerに基づく正しいサービス構成を示します。

必要になるCI情報は、製品、プロセス、ユーザーのニーズによって異なります。たとえば、アプリケーションエラーに対応する場合には、アプリケーションを実行しているサーバーの実際のステータスを確認する必要があります。そのためには、サーバーと、サーバーにインストールされているソフトウェアを特定する必要があります。また、たとえばサービスレベル契約を締結する際には、認証済みのサーバー構成を定義することが重要です。実際の構成は必ずしも認証済みの構成と一致するわけではなく(認証されていない変更が発生している可能性があります)、1か月後も同じ構成のままだという保証もありません(追加の変更が行われる可能性があります)。認証済みのステータスは、ポートフォリオを使用する際に保全された環境を提供でき、データは最新の状態ではない可能性がありますが安定性と信頼性が高いという特徴があります。

Configuration Managerは、サービスの実際のステータスの変化を表示し、これに基づいてユーザーが認証します。ビューの実際のステータスで発生した変更を認証すると、ビューのステータスは認証済みになります。

複合CIの変更をレビューし、個々に選択して認証する手動の方法と、条件を設定してビュー全体のステータスを自動的に遷移させる方法があります。自動ステータス遷移を実行すると、ビューの変更内容のうち、すべての条件を満たすものが認証されます。

各種ステータスの管理の詳細については、「レビュー/認証」(130ページ)を参照してください。自動ステータス遷移については、「ビュー」(171ページ)を参照してください。

履歴の比較

問題の根本原因を究明してミスの再発を防止するためには、過去の変更データや変更履歴を検討することが必要になる場合があります。Configuration Managerでは、変更履歴モジュールと認証履歴モジュールを使って、実際のステータスと認証済みのステータスのいずれかについて、過去のデータを参照することができます。

スナップショットとは、特定の日時に記録されたビューの構成を指します。スナップショットを比較することによって、過去に発生した変更内容をスキャンできます。この操作には高機能ユーザーインターフェイスを使用でき、異なるタイミングで取得したスナップショットの比較や、現在の構成との相違の特定が可能です。

Configuration Managerは、ビューに変更が発生すると、実際のステータスのスナップショットを自動的に取得します。また、認証時にもビューのスナップショットを取得します。スナップショットはCMS内に記録され、固定の履歴レコードとして保持されます。同じステータスの同じビューのスナップショットを2つ取得して比較すると、時間の経過に伴う変更内容を追跡できます。変更履歴モジュールは、ビューの実際のステータスのスナップショットを表示し、認証履歴モジュールは、ビューの認証済みステータスのスナップショットを表示します。

スナップショットの使用例として、企業ポータルのパフォーマンスが数週間の間に低下した場合を考えてみましょう。顧客から苦情が寄せられたため、管理者は、ポータル環境の現在のステータスと1週間前に取得したスナップショットを比較します。次に、すべての変更内容をレビューし、パフォーマンス低下の原因となる変更を特定します。

スナップショットの比較の詳細については、「変更履歴」(150ページ)と「認証履歴」(161ページ)を参照してください。

トポロジモードとインベントリモード

構成管理は、トポロジのパースペクティブとインベントリのパースペクティブから実行できます。たとえば、サービスの所有者は、サービストポロジの全体像を、最上位のビジネスサービスCIから下位のハードウェアCIへと参照します。これに対してデータベース管理者などのマネージャーは、特定のCIタイプを参照するために、同じタイプのCIを一覧表示します。

このようなニーズに対応するために、Configuration Managerでは次の2つのモードで管理対象環境を表示できます。

- **インベントリモード**: フィルター可能なCIリスト
- **トポロジモード**: トポロジグラフ

インベントリモードでは、複合CIリストのフィルターや、CIのサブセットの絞り込み (変更されたCIやポリシー違反のCIなど) が可能です。トポロジモードでは、幅広い範囲のサービストポロジをグラフ表示します。

システム操作の自動化

Configuration Managerでは、Operations Orchestrationで事前定義されたフローを使用して、標準的なシステム運用作業を自動化できます。この自動化は、Operations Orchestrationからフローをインポートして設定します。

自動化には、コントロールされた自動化とコントロールされない自動化があります。また、コントロールされた自動化機能は、自動的なリスクの可視化とも呼ばれます。この自動化により、Configuration Managerでの自動実行に伴って発生する可能性のあるリスクを認識することができます。

自動化ポリシーでは、自動化を実行すると大きなリスクが発生するケースを特定することができます。すべての自動化ポリシーは、自動化ポリシー管理モジュールで管理されています。ポリシーでは、自動実行情報と、自動実行の対象となるCIへの影響に基づいて制限を設定します。

コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行方法については、「コントロールされた自動化またはコントロールされていない自動化の実行」(82ページ)を参照してください。

自動化ポリシーの定義方法については、「自動化ポリシーの定義」(236ページ)を参照してください。

ユーザー管理

ユーザー管理、グループ管理、および役割管理の機能は、Universal CMDB アプリケーション内で実行されます。セットアップと構成の詳細については、UCMDBヘルプの管理に関するセクションの次の項を参照してください。

- 「ユーザーとグループ」
- 「ロールマネージャー」

複数テナントUCMDB環境でのConfiguration Manager

Configuration Manager自身はマルチテナンシーをサポートしませんが、UCMDBのマルチテナント環境に接続することは可能です。

エンドユーザーがUCMDBリソースおよびCIをテナントセーフの形で表示できることを確認するには、Configuration Managerを次のいずれかの方法で設定する必要があります。

UCMDB管理のみでのConfiguration Manager (推奨)

UCMDBのマルチテナント環境では、Configuration ManagerはUCMDB管理ツールとして機能します。この場合、すべてのテナント関連の情報を確認する権限を持つ管理者のみが、構成ポリシーの定義や変更内容の追跡を行えます。その一方で、特定のテナントに関連付けられた権限を持つエンドユーザーは、UCMDB Browserモジュールを通して、そのテナントが割り当てられたリソースを確認できます。

これは次のようにアーカイブ保存されます。

- ポリシーはConfiguration Managerで定義され、UCMDB Browserモジュールを介したテナントセーフの方法でエンドユーザーによって利用されます。

すべてのテナントのデータを表示するようにUCMDBで定義されたビューは、Configuration Managerで管理可能で、ポリシーもビューの上に適用できます。Configuration Manager UIにアクセスしている管理者がこのビューですべてのCIのポリシーステータスを表示可能である一方、UCMDB Browserモジュールにアクセスしているエンドユーザーは、表示する権限が与えられているこれらのCIのポリシーステータスのみを利用できます。

- Configuration Managerでは、ポリシーのフィルターの **[所有者テナント]** 属性でテナントを指定することによって、ポリシーをテナント固有のCIに適用できます。これにより、ポリシーは所有者テナントが指定されたテナントであるCIのみに対して適用されます。

> **注 :** CIタイプマネージャーの **[所有者テナント]** 属性を表示可能にするには、Configuration Managerの属性フィルターで、この属性に **[管理]** 修飾子を追加する必要があります。

エンドユーザー機能でのConfiguration Manager

UCMDBのマルチテナント環境では、すべてのエンドユーザーがConfiguration Manager UIへの直接アクセスが可能な場合、Configuration Managerで管理されたビューはテナント固有のデータを持つ必要があり、それらのビューに対するアクセスは、ビューのユーザーの権限に関連付けられたテナントに限定するよう設定されている必要があります。

このオプションによってすべてのエンドユーザーがConfiguration Managerにアクセス可能になる一方で、関連するテナントごとに、個別のビューそれぞれに対する設定と保守管理が必要になります。

ライセンス認可されたコンテンツ

Configuration Managerの一部の機能には、個別に購入する使用ライセンス(LTU)が必要です。Advanced Configuration ManagerのLTUを購入しない場合、これらの機能を使用できません。適切なライセンスを入手するには、Micro Focusの営業担当またはMicro Focusビジネスパートナーに連絡してください。

Advanced Configuration ManagerのLTUに含まれる機能およびコンテンツは次のとおりです。

- セグメント分析。詳細については、「セグメント分析」(122ページ)を参照してください。
- 類似性ポリシー。詳細については、「ポリシー」(182ページ)を参照してください。
- トポロジポリシー。詳細については、「ポリシー」(182ページ)を参照してください。

- 定義済みのポリシー。詳細については、「定義済みのポリシー」(16ページ)を参照してください。
- 定義済みのビュー。詳細については、「定義済みのビュー」(172ページ)を参照してください。

> **注 :** 定義済みのポリシーおよびビューは、インストール時に標準設定でインストールされますが、Advancedライセンスを購入して有効化しない場合は使用できません。

次の機能には、自動リスクビジュアライザーのLTUが必要です。デフォルトでは、次の機能はデプロイ時に含まれません。これらの機能を使用できるのは、以前にUniversal CMDB Configuration Manager バージョン9.20または9.30のライセンスを購入したユーザーだけです。

- 自動化管理
- 自動化ポリシー

これらのモジュールについては、関連バージョンのUCMDBオンラインヘルプのConfiguration Managerに関するセクションを参照してください。

高度なコンテンツの有効化

高度なコンテンツは、次に示す2つの方法で有効化できます。

- デプロイメントの実行時に高度なコンテンツをインストールするには、Advancedライセンスをインストール済みのUCMDBサーバーに接続しなければなりません。Configuration Managerのデプロイ時に、インストールウィザードの [詳細内容] ページでチェックボックスを選択できます。
- Configuration Managerのデプロイ後に該当のライセンスを購入した場合には、次の手順を実行してコンテンツをアクティブ化します。
  a. Webブラウザーを起動して、次のアドレスを入力します。**http://<サーバー名>:<ポート番号>/cnc/jmx-console**。**<サーバー名>**は、Configuration Managerがインストールされているマシンの名前です。
  b. JMXコンソールの認証資格情報を入力します。
  c. [**Configuration Manager**] の下の [**ImportExport service**] をクリックします。
  d. [**activateAutomanageResource**] 操作で、[**Invoke**] をクリックします。

高度なコンテンツの削除

以前にインストールされた高度なコンテンツを削除するには、次の手順を実行します。

1. Webブラウザーを起 動して、次 のアドレスを入 力します。**http://<サーバー名 >:<ポート番 号 >/cnc/jmx-console**。**<サーバー名 >**は、Configuration Managerがインストールされているマシンの名 前 です。
2. JMXコンソールの認 証 資 格 情 報を入 力します。
3. [**Configuration Manager**] の下 の [**Licensed content service**] をクリックします。
4. [**deactivateAutomanagedResources**] 操 作 で、[**Invoke**] をクリックします。

ホームページ

ホームページはConfiguration Managerへの入 口 であり、主 な機 能 への簡 単 なナビゲーションインターフェイスが用 意 されています。

> **注 :** ライセンスが必 要 な機 能 は、横 に鍵 のアイコンが表 示 されます。必 要 なライセンスを購 入 するようにシステム管 理 者 に依 頼 してください。

ホームページには次 の領 域 があります。

- 自 分 の構 成 の管 理
  - [**クイックスタート**] セクションでは、次 のことができます。
    - 既 存 のUCMDBビューの管 理 。詳 細 については、「ビュー」(171ページ)を参 照 してください。
    - インベントリビューの作 成 と管 理 。詳 細 については、「インベントリビューウィザード 」(58ページ)を参 照 してください。
    - 新 規 ポリシーの作 成 または既 存 のポリシーの管 理 。詳 細 については、「ポリシー」(182ページ)を参 照 してください。
    - ポリシー結 果 の表 示 。詳 細 については、「[ポリシーサマリー] ページ」(75ページ)を参 照 してください。
    - 電 子 メールで自 動 的 に送 信 される操 作 レポートのスケジュール設 定 。詳 細 については、「レポートのスケジュール」(206ページ)を参 照 してください。
  - [**IT環 境 の標 準 化**] セクションでは、次 のことができます。
    - 選 択 したCIをゴールドマスターとして使 用 するベースラインポリシーの作 成 。詳 細 については、「ベースラインポリシーまたはトポロジポリシーの定 義 」(185ページ)を参 照 してください。
    - 構 成 のベースとして使 われるトポロジと属 性 を指 定 するポリシーの作 成 。詳 細 については、「ベースラインポリシーまたはトポロジポリシーの定 義 」(185ページ)を参 照 してください。

- データの構成を標準化するためのポリシーの作成。詳細については、「類似性ポリシーウィザード」(64ページ)を参照してください。
- 複数のアプリケーションにわたってクラスターおよびその他のパターンを追跡するためのポリシーの作成。詳細については、「ベースラインポリシーまたはトポロジポリシーの定義」(185ページ)を参照してください。

◦ [**分析**] セクションでは、次のことができます。

- 構成モデルとのCIの比較。詳細については、「比較用の構成モデルの定義」(114ページ)を参照してください。
- 類似する構成を持つCIのグループの検索。詳細については、「類似するCIのグループを含むCIの選択」(123ページ)を参照してください。

◦ [**ビジネスの継続性**] セクションでは、次のことができます。

- ビジネス環境における継続性を実現するために役立つポリシーの選択。詳細については、「ポリシー」(182ページ)を参照してください。
- 既存のビューに基づくポリシーの作成。詳細については、「ベースラインポリシーまたはトポロジポリシーの定義」(185ページ)を参照してください。
- UCMDBでの新しいトポロジビューの作成。詳細については、UCMDBヘルプのモデリングに関するセクションを参照してください。

◦ [**データ品質**] セクションでは、次のことができます。

- 高品質データの要件の指定。詳細については、「データ品質ポリシーウィザード」(60ページ)を参照してください。

◦ [**コントロールの変更**] セクションでは、次のことができます。

- CIの変更のレビューおよび認証。詳細については、「CIの変更の認証」(133ページ)を参照してください。
- 変更履歴の確認。詳細については、「スナップショットの比較」(151ページ)を参照してください。
- 認証履歴の確認。詳細については、「スナップショットの比較」(162ページ)を参照してください。

- データサマリー

◦ **お気に入りビューのコンプライアンス**

このセクションには、お気に入りビューと、各ビューのポリシーステータス(適合、違反、データなし)のグラフィック表現のリストが表示されます。[**お気に入りビューのコンプライアンス**] 上をクリックすると、ビューサマリーモジュールが開き、ビュー上をクリックするとビューの調査モジュールでそのビューを開きます。

をクリックして [ユーザープリファレンスの表 示] ウィンド ウを表 示し、そこでお気 に入 りビューのプリファレンスを変 更 することもできます。

> **注 :** [お気 に入 りビューのコンプライアンス] リストには、最 大 40のビュー (違 反 ポリシーの割 合 が最 も大 きいもの) が表 示 されます。

- **ポリシーサマリー**

  このセクションには、Configuration Managerで定 義 されたポリシーのサマリーと、各 ポリシーのポリシーステータス (適 合 、違 反 、データなし) のグラフィック表 現 が提 示 されます。[**ポリシーサマリー**] 上 をクリックするとポリシーサマリーモジュールが開 き、ポリシー上 をクリックするとポリシーモジュールでポリシーを開 きます。

- **KPIサマリー**

  このセクションでは、Configuration Managerが監 視 する主 要 なデータをダッシュボード で表 示 します。[**KPIサマリー**] 上 をクリックすると、KPI サマリーモジュールが開 き、ビュー上 をクリックするとビューの調 査 モジュールでそのビューを開 きます。

- この他 に、ホームページの上 部 にあるリンクから、Configuration Managerの主 要 機 能 モジュールに直 接 アクセスできます。

UCMDB Browserモジュール

UCMDB Browserモジュールでは、簡 単 かつ直 感 的 にUCMDBのCIを検 索 することができ、選 択 したCIのコンテキスト で重 要 なデータが表 示 されます。特 定 のCI情 報 に素 早 くアクセスできる理 想 的 なツールです。

検 索 クエリの結 果 として見 つかったCIについては、関 連 するデータが表 示 され、情 報 ウィジェット (たとえば、ポリシーウィジェット) にまとめられます。データは標 準 ではプレビューモード で表 示 されますが、拡 張 モード でさらに包 括 的 なデータを表 示 することもできます。

Browserモジュールには軽 量 のUIが組 み込 まれており、UCMDB情 報 にシンプルにアクセスできるようになっています。ユーザー管 理 は不 要 で (ユーザー管 理 はUCMDB UIによって処 理 されます)、新 しいバージョンに更 新 する場 合 もアップグレード する必 要 はありません。

Configuration Managerからのポリシー情 報 は、UCMDB Browserモジュールのポリシーウィジェットを使 用 して表 示 されます。このウィジェット は定 義 済 みで、インストール時 にConfiguration Managerから必 要 な連 携 構 成 が作 成 されます。

ポリシーウィジェットには、Configuration ManagerからUCMDBに連携される選択済みのCIのステータス (適合または違反) が表示されます。また、UCMDBで構成されているポリシー情報の追加連携アダプターも表示されます。

UCMDB Browserモジュールへのアクセス

次のいくつかの方法でUCMDB Browserモジュールに移動できます。

- 新しいウィンドウでUCMDB Browserモジュールを直接開くには、次を入力します。

  https://<サーバー名>:8443/ucmdb-browser

  CMS UIで、[**メニュー**] アイコン ( ) をクリックして [CMSモジュール] ペインを展開し、[**UCMDB Browser**] をクリックします。

- 選択したCIのコンテキストでUCMDB Browserモジュールを開くには、レビュー/認証またはビューの確認モジュールでCIを選択し、をクリックします。

ユースケース

Configuration Managerの使用方法の例をいくつか紹介します。

- **サーバーの表示**

  システム管理者は、サーバーとその詳細情報 (属性、CPU、ファイルシステム、IPアドレス)、サーバー間の関係を表示できます。

- **ハードウェアの調査**

  システム管理者は、物理サーバーに搭載されているCPUのタイプを簡単に確認できます。

- **ラボ用の構成ベースラインの設定**

  ラボ管理者は、サーバー構成の分析に基づいて、(ほとんどの) サーバーの現在の構成を的確に示すベースラインを設定できます。

- **アプリケーションサービスツリーのモデル化と表示**

  アプリケーションの所有者は、アプリケーションサービスツリーのモデル化と表示を、ビジネスレイヤーからアプリケーションおよびソフトウェアレイヤー、さらにインフラストラクチャーレイヤーへと実行できます。

- **アプリケーションで問題を引き起こした可能性のある構成変更の調査および特定**

  アプリケーションの所有者は、パフォーマンスが低下し始めたアプリケーションがある場合、問題が発生したと考えられる時期にアプリケーションサービスツリーで行った構成変更を特定できます。

- **アプリケーションサービスツリーの変更の追跡**

  アプリケーションの所有者は、アプリケーションサービスツリー内の変更を追跡および確認できます。

- **変更の自動確認 (手動による追跡作業を軽減)**

  アプリケーションの所有者は、アプリケーションサービスツリーでの変更を追跡および確認することが可能ですが、手動で確認する変更を重要なものだけに限定し、事前設定した条件を満たす変更を自動確認するオプションを利用することもできます。

- **アプリケーションサービスツリーのコンプライアンススタックの作成**

  アプリケーションの所有者は、アプリケーションの構成コンプライアンスに関するポリシーを作成できます。

Configuration Managerの作業のベストプラクティス

高品質の構成データを必要とするアプリケーションで認証済みのステータスを使用する場合、以下のアプローチをベストプラクティスとしてお勧めします。

- まず、必要なデータを特定します。これに従ってビューを定義し、定義したビューをConfiguration Managerで管理します。
- このビューに適用する自動ステータス遷移条件を設定し、ビューで発生したすべての変更内容を認証します。この処理では、実際のステータスの構成が、認証済みのステータスにコピーされます。
- アプリケーションが、実際のステータスではなく認証済みのステータスのデータを使用するように設定します。
- ポリシーの適用、自動ステータス遷移ルールの変更、手動による変更の認証を通じて、ビュー内のデータの管理体制を徐々に整えていきます。このアプローチでは、データの可用性を確保しながら、構成の認証プロセスを導入することができます。

第2章: コンテンツ管理

本章の内容

コンテンツ管理の概要 28

変更要求 29

Configuration Managerコンテンツのワークフロー 29

Configuration Managerのコンテンツの管理 - ユースケース 32

トラブルシューティングと制限事項 – コンテンツ管理 35

コンテンツ管理の概要

Configuration Managerで管理ビューを操作するには、UCMDBのコンテンツを準備する必要があります。管理ビューにはIT要素が含まれており、Configuration Managerを使ってCMSデータを分析および管理できるように編成されています。

Configuration Manager向けにコンテンツを編成する方法の1つが、**CIの複合**です。CIの複合とは、特定のCIタイプを上位タイプとして選択し、そのCIに属するすべてのCIをコンポーネントCIとしてグループ化するプロセスを指します。たとえば、CPUはホストの一部なので、ホストの複合CIにCPUが含まれることになります。

複合CIを使用してコンテンツを表示すると、次のような利点があります。

- データをわかりやすく表示することができます。たとえばCPUを参照する際には、通常はホストのコンテキストのみで参照します。
- トポロジは複合CIのレベルのみにマップされるので、トポロジを簡素化できます。多数のコンポーネントCIから複合CIを構成できるので、トポロジマップを大幅に簡素化できます。
- 上位CIから関連CIを管理できます。コンポーネントCIでの変更内容はすべて、上位CIに対する変更としてキャプチャーされます。したがって、複合CIからドリルダウンし、コンポーネントCIの詳細を参照することもできます。

管理ビューのコンテンツから複合CIを作成する場合、どのCIタイプを複合CIのコンポーネントとして認識するかを示した折りたたみルールを定義します。複合CIの折りたたみルールを設定するには、Universal CMDB のCIタイプマネージャーを使用します。詳細については、『UCMDBヘルプのモデリングに関するセクション』の「複合CIの折りたたみルールの設定」を参照してください。

データの編成には、複合CITでレイヤーと分類を定義する方法もあります。**レイヤー**とは、複合CITの機能をグループ化するためのカテゴリです。レイヤーには、ビジネス、ソフトウェア、インフラストラクチャーなどがあります。**分類**とは、複合CITをさらにきめ細かいグループに分けるためのカテゴリです。

さらに、Configuration ManagerでUCMDBコンテンツを使用するための準備として、CITの管理属性と比較可能な属性を定義する必要があります。**管理**属性とは、Configuration Managerで管理対象となるCIT属性を指します。この属性は、変更が認証された時点と履歴で追跡した時点で、認証済みのステータスにコピーされます。また、ポリシーの定義にも使用できます。**比較可能な**属性とは、Configuration ManagerでCIのベースライン比較に使用する管理属性を指します。

レイヤーと分類の値、管理属性と比較可能な属性は、UCMDBのCIタイプで定義されます。

変更要求

Configuration Managerは、Service Managerで発生したUCMDB変更要求 (RFC) をインポートします。RFCは、それぞれが1つ以上のCIに関連付けられています。CIのRFCは、レビュー/認証モジュール、変更履歴モジュール、および認証履歴モジュールにある [比較詳細] 表示枠の [関連RFC] タブに表示されます。

[管理] > [設定] > [アプリケーション管理] > [RFC] の [**取得されるRFC基準**] では、RFCプロパティ、CIタイプ、RFCの完了日からの経過日数に基づいてRFCをフィルターできます。表示するRFCプロパティは、[**RFC表示**] の設定を使用して選択することもできます。

> **注：** RFCの完了予定日によるフィルターは、レビュー/認証モジュールで使用します。変更履歴モジュールと認証履歴モジュールでは、選択したスナップショットの中で、完成予定のRFCのみが表示されます。

ポリシー違反の原因を調査する際のベストプラクティスの1つとして、CIの [関連RFC] タブで違反の有無を確認してください。

Configuration Managerコンテンツのワークフロー

このタスクでは、Configuration Managerコンテンツの管理ワークフローについて説明します。

本項の内容

- 「前提条件」(30ページ)
- 「複合CIの定義」(30ページ)

- 「レイヤーと分類の定義」(30ページ)
- 「管理属性の定義」(30ページ)
- 「比較可能な属性の定義」(31ページ)
- 「比較での一致ルールの定義」(31ページ)

1. **前提条件**

   まず、UCMDBのビューを調べます。ビューの目的と、複合CIでどのようにデータを表示したいのかを考えてください。

2. **複合CIの定義**

   複合CIの範囲のルールを決めたら、関連する複合CIの既存の折りたたみルール定義を編集します。詳細については、UCMDBヘルプのモデリングに関するセクションの「複合CIの折りたたみルールの設定」を参照してください。

   Configuration Managerを起動するか、Micro Focus Universal CMDBで折りたたみルールを変更すると、Universal CMDBで定義されている折りたたみルールに基づき、関連のパースペクティブがUCMDBで自動生成されます。これらのパースペクティブは、モデリングスタジオの[リソース]表示枠の **Configuration Manager - Do not change** フォルダーに格納されます。

   折りたたみルールを定義したら、Configuration Managerのビューの調査モジュールにアクセスし、定義したルールに基づいてビューが正しく表示されることを確認します。

3. **レイヤーと分類の定義**

   それぞれの複合CITがどのレイヤーと分類に所属するかを考えます。複合CITで使用するレイヤーと分類の定義には、UCMDBのCIタイプマネージャーで、**layer** と **classification** の各静的属性を使用します。レイヤーと分類の色を定義するには、Configuration Managerで **[管理] > [設定] > [アプリケーション管理] > [トポロジ表示] > [トポロジレイアウト]** を選択します。

   > **注：** コンポーネントCITでは、レイヤーと分類は定義する必要はありません。

4. **管理属性の定義**

   すべてのCIタイプ(複合とコンポーネント)の中で、どのCIタイプ属性を管理属性として定義するかを決めます。定義するには、UCMDBのCIタイプマネージャーで属性を選択し、[**管理**]修飾子を選択します。

   主要なCIT属性を管理属性として定義することをお勧めします。ただし、ユーザーにとって有意な値が含まれていないCITタイプ属性(ルートコンテナーなど)は除きます。

   > **注：** Configuration Managerでは、管理属性のみが表示され、認証時には認証済みのステー

> タスにコピーされます。

5. **比較可能な属性の定義**

   すべてのCIタイプ(複合とコンポーネント)の中で、どの管理属性を比較可能な属性として定義するかを決めます。比較可能な属性は、Configuration ManagerでCIを比較する際に使用します。定義するには、UCMDBのCIタイプマネージャーで属性を選択し、[**比較可能**]修飾子を選択します。

   複合CITについては、主要な属性は比較可能な属性として定義しないでください。コンポーネントCITについては、主要な属性を比較可能属性として定義することをお勧めします。ただし、ユーザーにとって有意な値を含む場合にかぎります。

6. **比較での一致ルールの定義**

   比較可能なCITの属性には一致ルールを定義できます。このルールは、コンポーネントCIを比較する際のガイドラインになります。Configuration Managerは、一致ルールで指定されている属性を元に、比較対象となるCIを特定します。

   1つのCIT一致ルールに複数の属性を定義することができ、それぞれの属性に異なる優先度(第1属性、第2属性の順で優先など)を割り当てることも可能です。一致ルールの定義は、Universal CMDB のCIタイプマネージャーで行います。Universal CMDB にはConfiguration Managerからアクセスできます。

   a. [**UCMDBの起動**] ボタンをクリックし、Universal CMDB を開きます。

   b. [**マネージャー**] > [**モデリング**] > [**CIタイプマネージャー**] を選択します。

   c. [CIタイプ] 表示枠のリストボックスから、[**CIタイプ**] を選択します。

   d. 右の表示枠で [**一致ルール**] タブをクリックします。

   e. 属性に対する一致ルールを定義し、どのCIを比較するかを決定します。詳細については、UCMDBヘルプのモデリングに関するセクションを参照してください。

   > **注：**
   >
   > - 一致ルールは、複合CITには適用されません。
   > - 一致ルールの定義で使用できるのは、比較可能な属性のみです。

Configuration Managerのコンテンツの管理 - ユースケース

このユースケースでは、IIS Webサーバービューに関するConfiguration Managerコンテンツのワークフローを説明します。

> **注：** このシナリオに関連するタスクについては、「Configuration Managerコンテンツのワークフロー」(29ページ)を参照してください。

このシナリオには次の手順が含まれています。

- 「前提条件」(32ページ)
- 「Universal CMDB での複合CIの設定」(32ページ)
- 「レイヤーの設定」(33ページ)
- 「分類の設定」(33ページ)
- 「管理属性の設定」(33ページ)
- 「比較可能な属性の設定」(34ページ)
- 「一致ルールの定義」(34ページ)

1. **前提条件**

   次のタイプのCIを含むUCMDBのビューを考えてみましょう。

   - **IIS Webサーバー**
   - **Node**
   - **Oracle**

   Configuration Managerで使用するビューを作成するには、次に示す手順に従ってさまざまな設定を行います。

2. **Universal CMDB での複合CIの設定**

   [**UCMDBの起動**] ボタンをクリックし、Universal CMDB を開きます。Universal CMDB で **[マネージャー] > [モデリング] > [CIタイプマネージャー]** を選択します。[CIタイプ] 表示枠のリストボックス

から、[**計 算 関 係**] を選 択します。[**計 算 リンク**] の下 で、[**折 りたたみルール (Config Manager)**] を選 択します。IIS Webサーバーの次 の折 りたたみルールを特 定します。

- **IIS Application Pool**
- **IIS Web Service**
- **IIS Webサイト**

  さらに、IIS WebサイトのコンポーネントCIとして **IIS Web Dir**、IIS Web DirのコンポーネントCIとして**構 成 ファイル** がルールで定 義 されています。

折 りたたみルールの変 更 が必 要 な場 合 は、Universal CMDB で必 要 な変 更 を行 います。詳 細 については、UCMDBヘルプのモデリングに関 するセクションの「複 合 CIの折 りたたみルールの設 定 」を参 照 してください。

3. **レイヤーの設 定**

   UCMDBのCIタイプマネージャーに移 動 します。このビューに含 まれるCIタイプの **layer** 属 性 は、次 のように定 義 されています。

   - IIS Webサーバー - ソフトウェア
   - Node - インフラストラクチャー
   - Oracle - ソフトウェア

   定 義 を変 更 する場 合 は、CITのlayer属 性 を変 更 してください。

4. **分 類 の設 定**

   UCMDBのCIタイプマネージャーに移 動 します。このビューに含 まれるCIタイプの **classification** 属 性 は、次 のように定 義 されています。

   - IIS Webサーバー - Webサーバー
   - Node - インフラストラクチャー
   - Oracle - データベース

   定 義 を変 更 する場 合 は、CITのclassification属 性 を変 更 してください。

5. **管 理 属 性 の設 定**

   管 理 属 性 として定 義 するCIT属 性 を選 択 します。たとえば、IIS Webサーバーの場 合 、**Version** 属 性 と**Name** 属 性 がデフォルトで管 理 属 性 として定 義 されます。**StartupTime** 属 性 は、構 成 の一 部 としてはみなされないため、デフォルトでは管 理 属 性 として定 義 されません。デフォルトの属 性 定 義 は、システムでのニーズに合 わせて変 更 可 能 です。

   管 理 属 性 として属 性 を定 義 するには、次 の手 順 を実 行 します。

a. UCMDBのCIタイプマネージャーの [属性] タブに移動します。

b. 必要な属性を選択し、[**編集**] をクリックします。[属性の編集] ダイアログボックスが開きます。

c. [詳細設定] タブを選択し、[**管理**] 修飾子のチェックボックスを選択します。[**OK**] をクリックします。

d. 変更を保存します。

> **注：** Configuration Managerでは、管理属性のみが表示され、認証時には認証済みのステータスにコピーされます。

6. **比較可能な属性の設定**

比較可能な属性として定義する管理属性を決定します。比較可能な属性は、Configuration ManagerでCIを比較する際に使用します。

たとえばIIS Webサーバーの場合を考えると、**Version** 属性は比較対象として適切です (2つのWebサーバーのバージョンを比較)。ただし、**Name** 属性は適切ではありません。Webサーバーにはさまざまな名前が付けられるからです。

比較可能な属性として属性を定義するには、次の手順を実行します。

a. [**UCMDBの起動**] ボタンをクリックし、Universal CMDB を開きます。

b. [**マネージャー**] > [**モデリング**] > [**CIタイプマネージャー**] で [属性] タブを開きます。

c. 必要な属性を選択し、[**編集**] をクリックします。[属性の編集] ダイアログボックスが開きます。

d. [詳細設定] タブを選択し、[**比較可能**] 修飾子のチェックボックスを選択します。[**OK**] をクリックします。

e. 変更を保存します。

7. **一致ルールの定義**

比較項目となるCIを指定するために、コンポーネントCITの属性を一致ルールとして定義します。[**IIS Application Pool**] と [**IIS Web Service**] のコンポーネントCITについて、Universal CMDB のCIタイプマネージャーで [**Name**] 属性を一致ルールとして定義します。

一致ルールを定義するには、次の手順を実行します。

a. [**UCMDBの起動**] ボタンをクリックし、Universal CMDB を開きます。

b. **[マネージャー] > [モデリング] > [CIタイプマネージャー]** を選択します。

c. [CIタイプ] 表示枠のリストボックスから、[**CIタイプ**] を選択します。

d. 右の表示枠で [**一致ルール**] タブをクリックします。[IIS Web Service] または [IIS Application Pool] を選択すると、[一致ルール] 表示枠に **Name** 属性が表示されます。

この設定の後に、タイプが [IIS Webサーバー] の複合CIを比較すると、[IIS Application Pool] CIと[IIS Web Service] CIが名前を元に比較されます。

トラブルシューティングと制限事項 – コンテンツ管理

問題: UCMDBでCIを変更したが、Configuration Managerに反映されない。

解決策: Configuration Managerはオフラインの非同期分析プロセスを実行します。したがって、UCMDBの最新の変更がまだ処理されていない可能性があります。この問題を解決するには、次のいずれかの手順を実行してください。

- 数分間待ちます。標準設定の分析プロセス実行間隔は10分です。この値は **[システム] > [設定]** で設定できます。
- JMX呼び出しを実行して、関連ビューでオフライン分析計算を実行します。
- [**ポリシー**] に移動します。[**ポリシー分析の再計算**] ボタンをクリックします。これによりすべてのビューで、オフライン分析プロセスが呼び出されます (多少時間がかかる場合があります)。1つのポリシーを擬似的に変更し、保存しなければならない場合もあります。

問題: [**UCMDBの起動**] ボタンをクリックすると、UCMDBのログインページが開く。

解決策: 再度ログインせずにUCMDBにアクセスするには、シングルサインオンを有効にする必要があります。詳細については、『Universal CMDBデプロイメントガイド』の「Configuration ManagerとUCMDB間でのLW-SSOの有効化」に関する項を参照してください。さらに、ログインに使用するConfiguration ManagerユーザーがUCMDBユーザー管理システムで定義されていることを確認してください。

問 題: **[マネージャー] > [モデリング] > [CIタイプマネージャー]** の [CIタイプ] 表 示 枠 のリストボックスから **[CIタイプ]** を選 択しても、Universal CMDB で **[一 致 ルール]** タブが表 示 されない。

解 決 策 : Universal CMDB で **[マネージャー] > [管 理] > [インフラストラクチャー設 定]** を選 択 し、[**Configuration Manager一 致 ルールを有 効 化**] を True に設 定 します。ログアウトしてからログインし直すと、CIタイプマネージャーで [一 致 ルール] タブが表 示 されます。

第3章: UCMDBへのデータ連携

本章の内容

連携データの概要 37

ポリシーコンプライアンスデータの連携 38

KPIの統合 41

UCMDBとの連携ワークフロー 45

前提条件 45

トラブルシューティングおよび制限事項 – UCMDBへのデータ統合 56

連携データの概要

Universal CMDBに組み込まれている連携メカニズムでは、外部アプリケーション間のデータを複製せずに共有するコンタクトリポジトリとしてUCMDBを使用できます。Configuration ManagerからのデータをUCMDBに連携させることで、外部アプリケーションでは、次のようにさまざまな方法でその分析情報を使用できます。

- UCMDBのレポート機能を使用すると、Configuration Managerのデータの上にレポートを生成およびスケジュールできます。
- Configuration ManagerのデータをBusiness Service Managementなどの他のMicro Focusアプリケーションで使用できます。
- Configuration Managerの分析データを他のアプリケーションでの意思決定のベースとして使用できます。

Configuration Managerでは、次のデータを連携用に使用できます。

- **ポリシーコンプライアンスステータス**データ。管理CIと関連付けられているポリシーの現在のポリシー結果データに関する情報が含まれています。
- **認証ステータス**データ。管理CIの認証ステータスに関する情報が含まれています。

UCMDBには、共有するモデルのスキーマのクラスモデルが用意されており、UCMDBでデータをすぐに使用する方法として連携TQLクエリが使用されます。詳細については、「ポリシーコンプライアンスデータの連携」(38ページ)を参照してください。

UCMDBには、Configuration ManagerからのデータをUCMDBに連携するための2つのアダプターが用意されています。アダプターはUCMDBの上に配置され、Configuration Managerから連携データを取り込む操作を実行します。これらのアダプターの詳細については、「UCMDBとの連携ワークフロー」(45ページ)を参照してください。

詳細については、「ポリシーコンプライアンスデータの連携」(38ページ)と「KPIの統合」(41ページ)を参照してください。

ポリシーコンプライアンスデータの連携

Configuration ManagerとUCMDB間のデータの連携を有効にするために、PolicyおよびPolicyResultのCIタイプがUCMDBクラスモデルに追加されました。

Configuration Managerでは、そのポリシーデータが次のモデルに連携されます。

モデル	詳細
ポリシー	• 名前 - Configuration Managerに表示されるポリシーの名前です。 • 説明 - Configuration Managerに表示されるポリシーの説明です。 • PolicyDefinedBy - ポリシーが定義されたアプリケーションです。(UCMDB-CM)
PolicyResult	• コンプライアンス結果 - ポリシーの最新のステータスです(ポリシーが違反している場合0%、ポリシーが準拠している場合100%)。 • コンプライアンスステータス - ポリシーの最新の結果です(違反または準拠を問わず)。

KPIの連携に関する詳細情報については、次の項を参照してください。

- 「サポートされているTQLクエリ - ポリシーコンプライアンスデータ」(38ページ)
- 「レポートの作成」(39ページ)

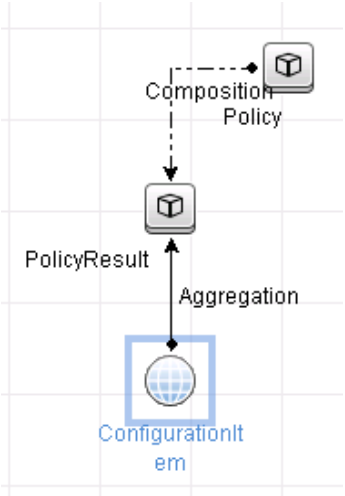
サポートされているTQLクエリ - ポリシーコンプライアンスデータ

UCMDBでデータを使用する基本的な方法は、CMDBから必要な情報を取得するTQLクエリを作成することです。UCMDBからの連携データをサポートするTQLクエリは次のとおりです。

- ポリシーの取得

Policy CIタイプをフィルターするTQLクエリを作成します。これはすべての構成プロパティを取得します。

- CIのポリシー結果の取得



このTQLポリシーはすべてのアタッチされているポリシー結果とポリシーに対する関連付けを取得します。

ポリシーは、名前、説明、PolicyDefinedByクエリノードプロパティでフィルターできます。ポリシー結果は、コンプライアンス結果とステータスでもフィルターできます。

TQLクエリの作成の詳細については、UCMDBヘルプのモデリングに関するセクションを参照してください。

レポートの作成

UCMDBでUCMDBのトポロジレポート機能を使用すると、連携データでレポートを生成できます。連携データで作成できるレポートのタイプは次のとおりです。

- **ポリシーコンプライアンスレポート**

  ポリシーコンプライアンスレポートには、ポリシー別にCIのポリシー結果に関する生データが表示されます。

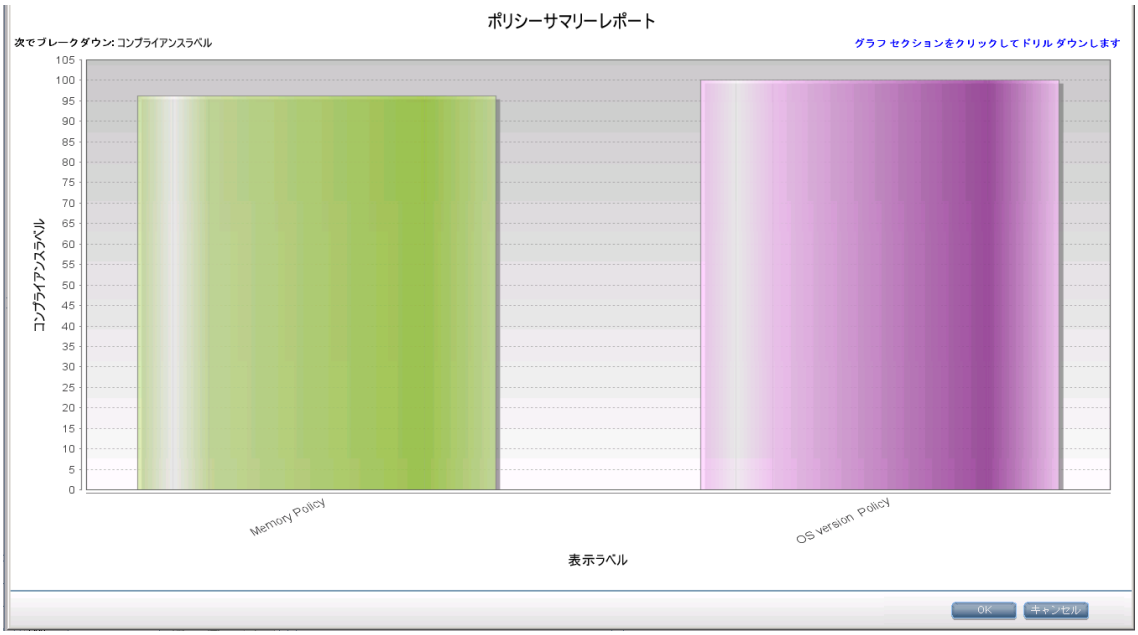
表示ラベル	コンプライアンスレベル	policydefinedby
VMAMQA33		
in_breach	0	
New Baseline Policy		UCMDB-CM
VMAMQA35		
compliant	100	
New Baseline Policy		UCMDB-CM
VMAMQA62		
VMAMQA71		
VMAMQA88		
VMAMQA121		
VMAMQA134		
VMAMQA154		
VMAMQA187		

次の定義済みのポリシーレポートが用意されています。

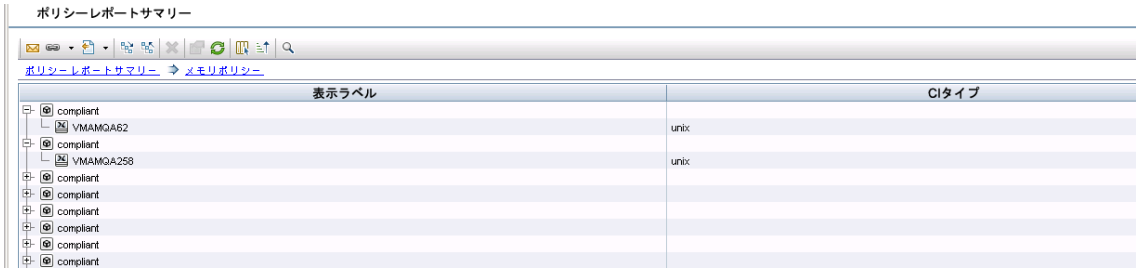
- Unixポリシーコンプライアンス
- Unix with Oracleポリシーコンプライアンス
- Windowsポリシーコンプライアンス

- **ポリシーコンプライアンスサマリーレポート**

  ポリシーコンプライアンスサマリーレポートには、ビュー内のCI全般にわたるポリシーのコンプライアンスレベルが表示されます。



ポリシーをクリックすると、CIリストまでドリルダウンできます。



レポートの作成の詳細については、「UCMDBとの連携ワークフロー」(45ページ)を参照してください。

KPIの統合

KPI (キーパフォーマンスインジケーター) は、事前定義されたパフォーマンスインジケーターに従って、システムの正常性を測定します。Configuration Managerの場合、提供されるKPIは、**ポリシーコンプライアンス**と**認証レベル**です。Configuration Managerでは、2つのKPI (ポリシーコンプライアンスと認証ステータス) が連携されます。ポリシーアダプターによって連携されるポリシー情報は生データであり、KPIポリシーの場合、その情報がKPIのポリシーコンプライアンスの測度としてモデリングされることに注意してください。

これらのKPIは、次の2つのレベルで測定されます。

- 複合CI (ホストなど)。
- ビジネスサービス (ビジネスサービスに関連する構成に基づいて集計されます)。詳細については、「ビジネスサービスビューの特定」(43ページ)を参照してください。

Configuration Managerでは、そのKPIデータが次のモデルに連携されます。

モデル	詳細
ポリシーコンプライアンスKPI (複合CI)	• data_origin - KPIのソース (Configuration Manager) • description - KPI値に関する詳細情報を提供するシステム生成の説明。 • kpi_name - KPIの名前 (**policy_compliance**) • kpi_status - このKPIのステータス (複合CIのポリシーコンプライアンスが100%の場合、[**OK**]、それ以外の場合、[**警告**]) • kpi_unit_of_measure - 測定単位 (%) • kpi_value - ポリシーコンプライアンスの割合 (たとえば、CIに5つのうち3つの適合ポリシーがある場合、コンプライアンスは60%)

モデル	詳細
ポリシーコンプライアンスKPI (ビジネスサービス)	• data_origin - KPIのソース (Configuration Manager) • description - KPI値に関する詳細情報を提供するシステム生成の説明。 • kpi_status - このKPIのステータス (ビジネスサービスのすべての複合CIのポリシーコンプライアンスが100%の場合、[**OK**]、それ以外の場合、[**警告**]) • kpi_unit_of_measure - 測定単位 (%) • kpi_value - ビジネスサービスレベルの範囲内のCIのポリシーコンプライアンスの割合 (たとえば、ビジネスサービスに5つのうち3つの準拠CIがある場合、60%準拠)
認証ステータスKPI (複合CI)	• data_origin - KPIのソース (Configuration Manager) • description - KPI値に関する詳細情報を提供するシステム生成の説明。 • kpi_name - KPIの名前 (**authorization_status**) • kpi_status - このKPIのステータス (複合CIの認証ステータスが同一の場合、[**OK**]、それ以外の場合、[**警告**]) • kpi_value - 割合としてのこのKPIの値 (0 - 未認証、100 - 認証済み)
認証ステータスKPI (ビジネスサービス)	• data_origin - KPIのソース (Configuration Manager) • description - KPI値に関する詳細情報を提供するシステム生成の説明。 • kpi_status - このKPIのステータス (ビジネスサービスのすべての複合CIの認証ステータスが同一の場合、[**OK**]、それ以外の場合、[**警告**]) • kpi_value - 割合としてのこのKPIの値 (0 ～ 100)

CIが複数のビューの範囲内にある場合、ポリシーコンプライアンスまたは認証ステータスの最新の結果が取得されます。

KPIの連携に関する詳細情報については、次の項を参照してください。

- 「ビジネスサービスビューの特定」(43ページ)
- 「サポートされているTQLクエリ - KPI」(44ページ)
- 「レポートの作成」(44ページ)
- 「BSMでのKPIの使用」(45ページ)

ビジネスサービスビューの特定

ビジネスサービスは、CIタイプとしてUCMDBでモデリングされます。目的は、ビジネスサービスに関連付けられている構成全体 (またはその一部) を含むビューを持つビジネスサービスを特定し、集計的ポリシーコンプライアンスと認証情報を提供することです。

UCMDBでこれを行う標準的な方法は、ビジネスサービスCIを作成して、そのビジネスアプリケーションに接続することです。その際、各ビジネスアプリケーションがアプリケーション (通常、WebサービスやDBスキーマなどのソフトウェア) によって特定され、ビジネスアプリケーション専用のリソースに接続される何らかの「アンカー」構成をポイントするようにします。このアンカーが存在すると、パースペクティブ (ハードウェア、仮想化、ソフトウェアなど) を適用し、ビジネスサービスに関連付けられている構成を表示できます。

この構造に従ってビジネスサービスを特定するのが最も一般的ですが、次のようにより全般的なアプローチも使用できます。

1. 必要なCIを含むすべてのビューを探します。

   ビジネスサービスに対して標準的な方法で作成された任意のビューが含まれますが、その他のケースに一致する可能性があります。

2. これらのビューに複数のビジネスサービスが含まれているかどうかを確認します。複数のビジネスサービスが含まれている場合、これらのビューはビジネスサービスで特定されません。

   考えられるケースを絞り込みます。同じビューに複数のビジネスサービスがあると、1つのビジネスサービスだけに関連付けられている構成を記述できないためです。

3. ビジネスサービスで複数の条件が特定される場合、次のように構成を結合します。

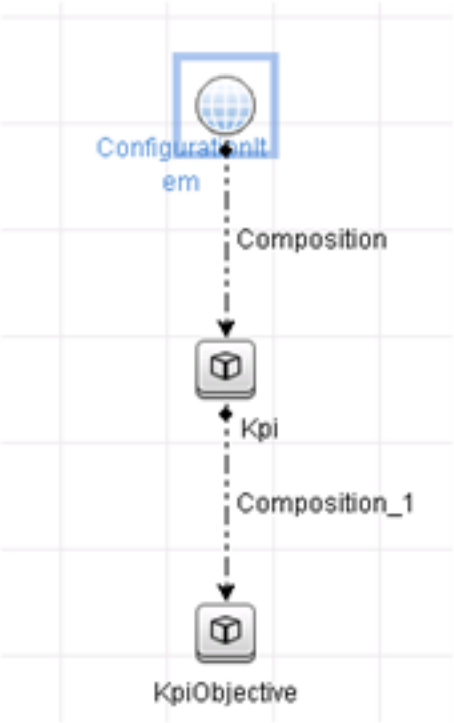
   複数のビューのそれぞれによってビジネスサービスの構成に関する何らかのパースペクティブが与えられるため、これらの構成を結合することで、サービスのKPIに関する完全な情報を指定できます。

ビジネスサービスに対しては、次の2つのタイプのKPIを作成できます。

- ポリシーコンプライアンスKPI:ビジネスサービスで特定されるビューの範囲の構成全体で、ポリシー結果の集計として計算されます。ポリシー集計は、ビジネスサービスの各CIの集計済みポリシーステータスで実行されます。
- 認証ステータスKPI:ビジネスサービスで特定されるビューの範囲の構成全体で、認証ステータスの集計として計算されます。

サポートされているTQLクエリ - KPI

次の図は、UCMDBでのKPIのモデリング方法を示します。



レポートの作成

次の定義済みのKPIレポートが用意されています。

- Business Service KPI
- Unix KPI
- Unix with Oracle KPI
- Windows KPI

レポートの作成の詳細については、「UCMDBとの連携ワークフロー」(45ページ)を参照してください。

BSMでのKPIの使用

UCMDBで連携機能を使用すると、Configuration Managerで連携されたデータをオプションで他のアプリケーションで使用できます。BSMバージョン9.10以降には、このような統合機能が用意されており、Configuration ManagerでKPIをBSMで表示できます。統合のセットアップ方法の詳細については、「Business Service Management でのKPIの使用」(55ページ)を参照してください。

統合が適切にセットアップされると、MyBSMでCI用のKPIを使用できます。連携経由でBSMに入力されたKPIは、KPIコンポーネントの [外部KPI] 領域に表示されます。詳細については、「サービス状況の使用」のKPIコンポーネントのユーザーインターフェイスに関する項を参照してください。BSMでコンポーネントを表示する方法の一般情報については、「サービス状況の使用」の「サービス状況でのページとコンポーネントの開き方」を参照してください。

UCMDBとの連携ワークフロー

このワークフローでは、Configuration Managerからの連携データを使用するために、UCMDBで実行する必要がある手順の簡単な概要を示します。

本項の内容

- 「前提条件」(45ページ)
- 「ポリシーコンプライアンスデータを連携するための統合ポイントの作成」(46ページ)
- 「KPIデータを連携するための統合ポイントの作成」(47ページ)
- 「ビューまたはカスタムTQLクエリでのCIに基づくポリシーレポートの作成」(49ページ)
- 「ビューまたはカスタムTQLクエリでのCIに基づくサマリーポリシーレポートの作成」(50ページ)
- 「KPIレポートの作成」(53ページ)
- 「Business Service Management でのKPIの使用」(55ページ)

前提条件

UCMDBと一緒にMicro Focus UCMDBディスカバリ/統合コンテンツパックもインストールされていることを確認してください。

ポリシーコンプライアンスデータを連携するための統合ポイントの作成

8. UCMDBで、データフロー管理モジュールにアクセスします。
9. をクリックして、新しい統合ポイントを作成します。
10. 次のアダプタープロパティを設定します。

UI要素	詳細
アダプター	をクリックして、[**CM New Policy Adapter**] を選択します。 **注:** インストーラーが [**CM New Policy Adapter**] を使用したデータを連携させるための統合ポイントを作成するため、以前に作成された [**CM Policy Adapter**] を使用する統合ポイントは削除される必要があります。何らかの理由 (UCMDB Integrationサーバーの問題など) によりインストーラーによって新しい統合ポイントが作成されない場合は、統合ポイントを手動で作成する必要があります。
その他のプローブ	統合を実行する際に使用する、追加のプローブを選択できます。 をクリックして、追加のプローブを選択します。 統合の実行時、追加のData Flow Probeが定義されている場合、サーバーは、最も可用性の高いプローブを使用する。
Configuration Managerアプリケーションの URL	Configuration ManagerサーバーのURLが表示されます。 **注:** ルートコンテキストを **http://<IP アドレス>:<ポート>//cnc** から **http://<IP アドレス>:<ポート>/<コンテキスト>/cnc** に変更した場合、統合ポイントの構成時にこのルートコンテキストが含まれているURLを指定する必要があります。
資格情報ID	次の手順を実行します。 a. をクリックします。 b. [**Generic Protocol**] を選択し、[**OK**] をクリックします。 c. をクリックして、資格情報を追加し、Configuration Managerに接続します。管理、認証、およびUIへのアクセスの権限を持つユーザーの資格情報を入力します。 d. 完了したら [**OK**] をクリックします。

UI要素	詳細
Data Flow Probe	統合ジョブの実行に使用するData Flow Probeの名前。
統合の説明	新しい統合ポイントの説明を入力します。
統合名	新しい統合ポイントの名前を入力します。 **注:** 名前は、45文字を超えないようにします。
統合はアクティブ化されています	このチェックボックスを選択すると、アクティブな統合ポイントが作成されます。統合を非アクティブ化する場合 (リモートマシンに実際に接続せずに統合ポイントを設定するときなど) は、このチェックボックスをクリアします。 **注:** 新しい統合ポイントは標準設定で非アクティブに設定されます。

11. [**テスト接続**] をクリックして、統合ポイントを正しく構成したことを確認します。テストに失敗した場合は、「トラブルシューティングおよび制限事項 – UCMDBへのデータ統合」(56ページ)を参照してください。
12. [**OK**] をクリックして統合ポイントを保存します。
13. サポートおよび選択されているCIタイプツリーで、PolicyおよびPolicyResultのCIタイプを選択します。
14. をクリックして統合ポイントを保存します。

統合ポイントの作成の詳細については、UCMDBヘルプのデータフロー管理に関するセクションの「Integration Studio」を参照してください。

KPIデータを連携するための統合ポイントの作成

1. UCMDBで、データフロー管理モジュールにアクセスします。
2. をクリックして、新しい統合ポイントを作成します。
3. 次のアダプタープロパティを設定します。

UI要素	詳細
アダプター	をクリックして、[**CM KPI Adapter**] を選択します。

UI要素	詳細
その他のプローブ	統合を実行する際に使用する、追加のプローブを選択できます。 をクリックして、追加のプローブを選択します。 統合の実行時、追加のData Flow Probeが定義されている場合、サーバーは、最も可用性の高いプローブを使用する。
Configuration ManagerアプリケーションのURL	Configuration ManagerサーバーのURLが表示されます。 **注:** ルートコンテキストを **http://<IP アドレス>:<ポート>//cnc** から **http://<IP アドレス>:<ポート>/<コンテキスト>/cnc** に変更した場合、統合ポイントの構成時にこのルートコンテキストが含まれているURLを指定する必要があります。
資格情報ID	次の手順を実行します。 a. をクリックします。 b. [**Generic Protocol**] を選択し、[**OK**] をクリックします。 c. をクリックして、資格情報を追加し、Configuration Managerに接続します。管理、認証、およびUIへのアクセスの権限を持つユーザーの資格情報を入力します。 d. 完了したら [**OK**] をクリックします。
Data Flow Probe	統合ジョブの実行に使用するData Flow Probeの名前。
統合の説明	新しい統合ポイントの説明を入力します。
統合名	新しい統合ポイントの名前を入力します。
統合はアクティブ化されています	このチェックボックスを選択すると、アクティブな統合ポイントが作成されます。統合を非アクティブ化する場合 (リモートマシンに実際に接続せずに統合ポイントを設定するときなど) は、このチェックボックスをクリアします。 **注:** 新しい統合ポイントは標準設定で非アクティブに設定されます。

4. [**テスト接続**] をクリックして、統合ポイントを正しく構成したことを確認します。
5. [**OK**] をクリックして統合ポイントを保存します。
6. サポートおよび選択されているCIタイプツリーで、KPIおよびKPIObjectiveのCIタイプを選択します。
7. をクリックして統合ポイントを保存します。

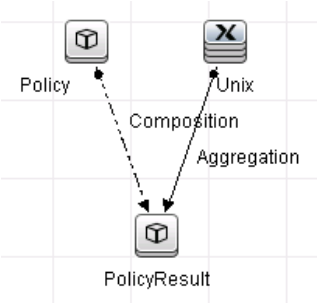
統合ポイントの作成の詳細については、UCMDBヘルプのデータフロー管理に関するセクションの「Integration Studio」を参照してください。

ビューまたはカスタムTQLクエリでのCIに基づくポリシーレポートの作成

1. 統合ポイントが存在しない場合は、「ポリシーコンプライアンスデータを連携するための統合ポイントの作成」(46ページ)の説明に従って、統合ポイントを作成します。
2. UCMDBで、カスタムTQLクエリを使用して新しいビューを作成するか、既存のビューをコピーします。

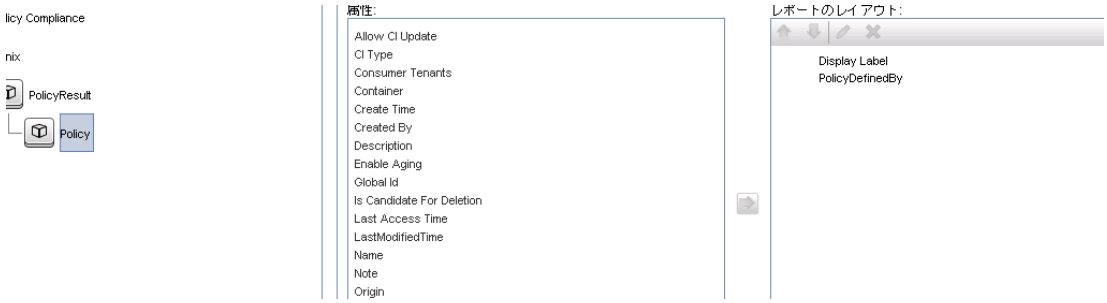
   > **注:** カスタムTQLクエリを使用する場合、連携機能使用時のデータ容量の制限を必ず考慮してください。この制限を考慮するには、TQLクエリでCIをフィルターする必要があります。詳細については、「トラブルシューティングおよび制限事項 – UCMDBへのデータ統合」(56ページ)を参照してください。

3. ポリシーに関連付ける各構成アイテムについて、それぞれ複合と集計のリンクを使用して、Policy CIタイプと選択したCIをPolicyResult CIタイプにアタッチします。関連付けられているポリシー情報がないCIの結果も取得する場合、カーディナリティは0..* である必要があります。例を次に示します。

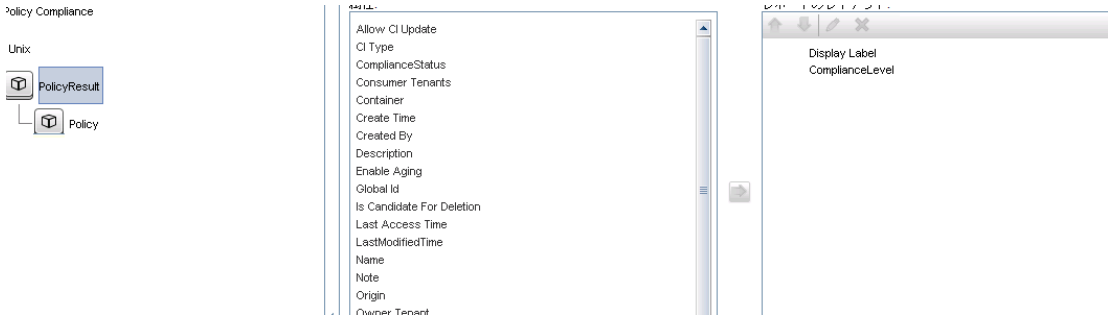


4. ポリシーとポリシー結果データを提供するデータソースとして定義したConfiguration Manager統合ポイントを指定します。
5. 階層を設定します。例を次に示します。

6. Policy CIタイプのプロパティをレポートレイアウトに追加します。例を次に示します。



7. PolicyResult CIタイプのプロパティをレポートレイアウトに追加します。例を次に示します。



8. 必要に応じて、これらのレポートを定期的に作成するようにスケジュールできます。詳細については、UCMDBヘルプのデータフロー管理に関するセクションを参照してください。

レポートの作成の詳細については、UCMDBヘルプのモデリングに関するセクションの「レポート」を参照してください。

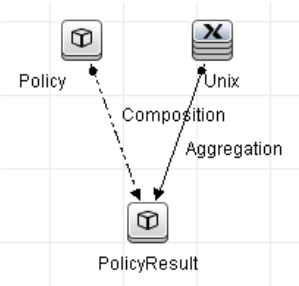
ビューまたはカスタムTQLクエリでのCIに基づくサマリーポリシーレポートの作成

1. 統合ポイントが存在しない場合は、「ポリシーコンプライアンスデータを連携するための統合ポイントの作成」(46ページ)の説明に従って、統合ポイントを作成します。
2. UCMDBで、新しいビューを作成するか、既存のビューをコピーします。

> **注：** カスタムTQLクエリを使用する場合、連携機能使用時のデータ容量の制限を必ず考慮してください。この制限を考慮するには、TQLクエリでCIをフィルターする必要があります。詳細については、「トラブルシューティングおよび制限事項 – UCMDBへのデータ統合」(56ページ)を参照してください。

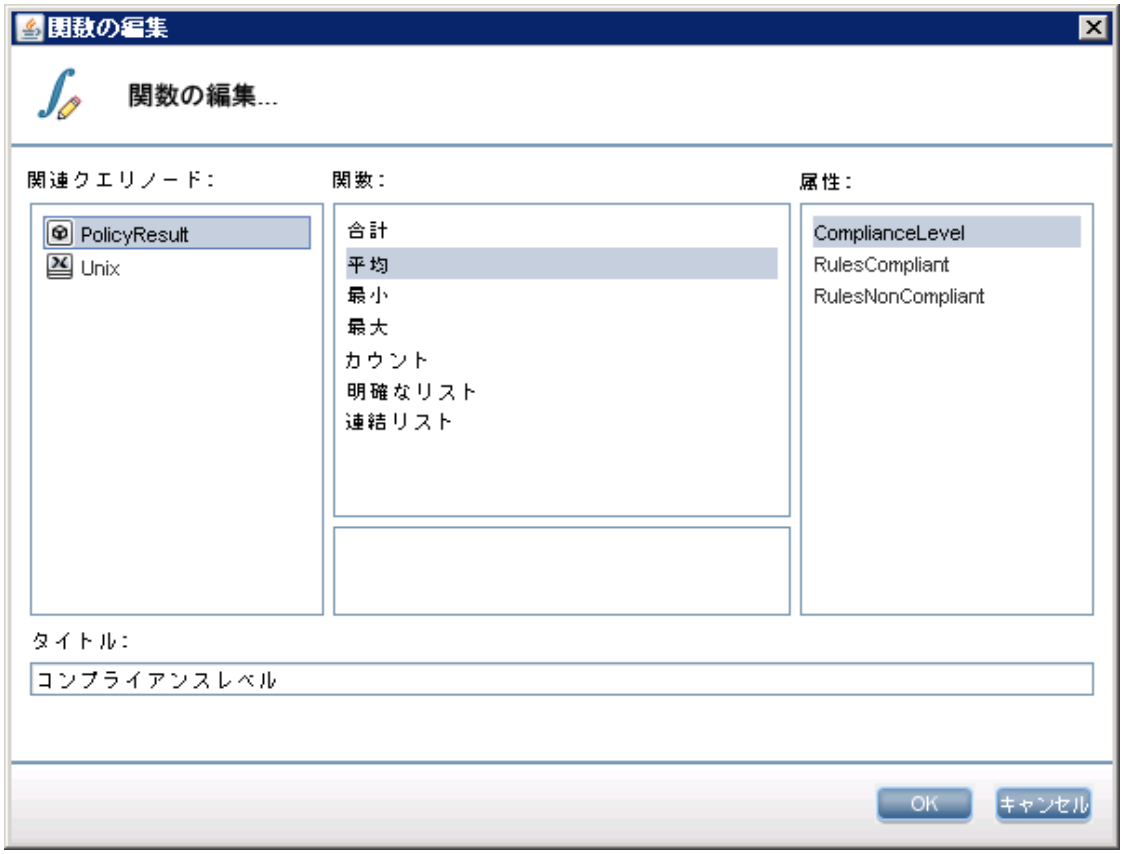
3. ポリシーに関連付ける各構成アイテムについて、それぞれ複合と集計のリンクを使用して、Policy

CIタイプと選択したCIをPolicyResult CIタイプにアタッチします。関連付けられているポリシー情報がないCIの結果も取得する場合、カーディナリティは0..* である必要があります。例を次に示します。



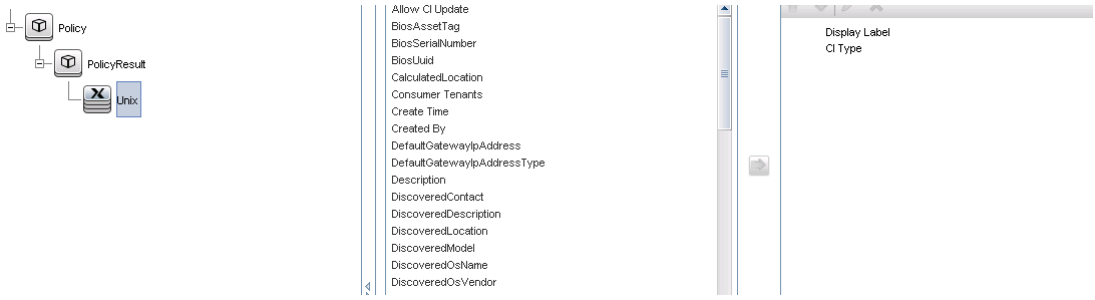
4. ポリシーとポリシー結果データを提供するデータソースとして定義したConfiguration Manager統合ポイントを指定します。
5. 階層を設定します。例を次に示します。

6. Policy CIタイプの集計関数を作成します。例を次に示します。

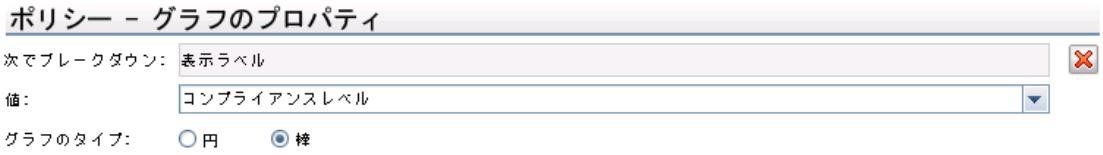


7. Policy CIタイプのプロパティをレポートレイアウトに追加します。例を次に示します。

8. ConfigurationItem CIタイプのプロパティをレポートレイアウトに追加します。例を次に示します。



9. レポート形式を棒グラフに変更します。例を次に示します。



10. 必要に応じて、これらのレポートを定期的に作成するようにスケジュールできます。詳細については、UCMDBヘルプのデータフロー管理に関するセクションを参照してください。

レポートの作成の詳細については、UCMDBヘルプのモデリングに関するセクションの「レポート」を参照してください。

KPIレポートの作成

ビュー、カスタムTQLクエリ、またはビジネスサービスでのCIに基づいてKPIレポートを作成できます。

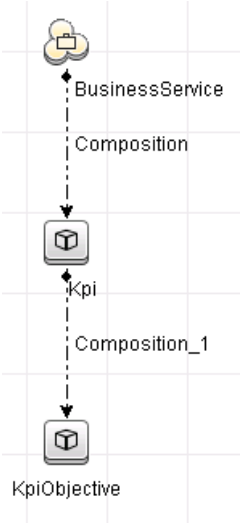
1. 統合ポイントが存在しない場合は、「ポリシーコンプライアンスデータを連携するための統合ポイントの作成」(46ページ)の説明に従って、統合ポイントを作成します。
2. UCMDBで、カスタムTQLクエリに基づいて新しいビューを作成するか、既存のビューをコピーします。

> **注：** カスタムTQLクエリを使用する場合、連携機能使用時のデータ容量の制限を必ず考慮してください。この制限を考慮するには、TQLクエリでCIをフィルターする必要があります。詳細については、トラブルシューティングおよび制限事項を参照してください。

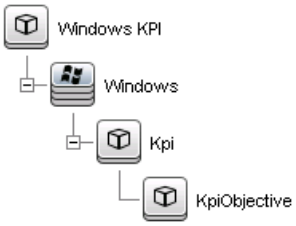
3. ポリシーに関連付ける各構成アイテムについて、複合リンクを使用して、選択したCIをKpi CIタイプに、Kpi CIタイプをKpiObjective CIタイプにアタッチします。関連付けられているKPI情報がないCIの結果も取得する場合、カーディナリティは0..* である必要があります。

> **注：** ビジネスサービスレポートを作成する場合、TQLクエリの作成時にBusinessService CIタイ

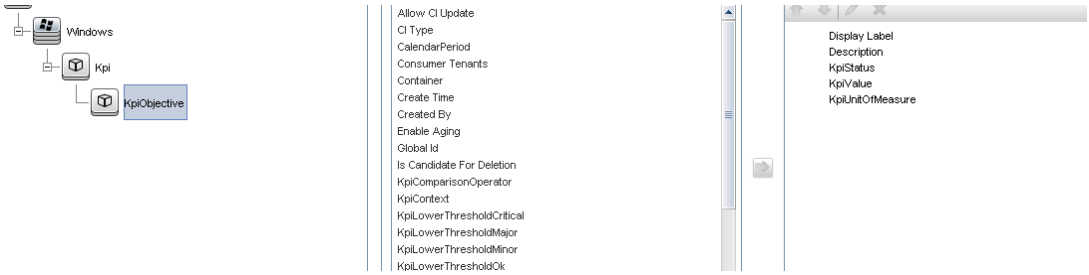
プを選択します。



4. ポリシーとポリシー結果データを提供するデータソースとして定義したConfiguration Manager統合ポイントを指定します。
5. 階層を設定します。例を次に示します。



6. KpiObjective CIタイプのプロパティをレポートレイアウトに追加します。例を次に示します。



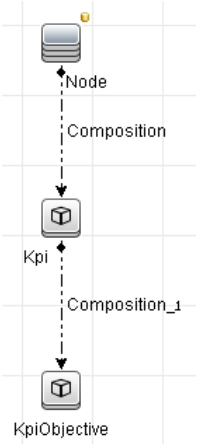
7. 必要に応じて、これらのレポートを定期的に作成するようにスケジュールできます。詳細については、UCMDBヘルプのデータフロー管理に関するセクションを参照してください。

レポートの作成の詳細については、UCMDBヘルプのモデリングに関するセクションの「レポート」を参照してください。

Business Service Management でのKPIの使用

1. 次の操作を実行したことを確認します。
   - UCMDBでCM KPI統合ポイントが構成され、正しく動作していること。
   - BSMバージョン9.10以降をインストールし、DDMがアクティブ化され、BSMを使用するように構成されていること。
2. BSMで、**[管理] > [RTSM管理] > [データフロー管理] > [Integration Studio]** を選択します。
3. [**CMSからRTSM**] 統合ポイントを編集します。必要なUCMDB設定 (ホスト、IPアドレス、資格情報、プローブ設定) を設定します。
4. [**テスト接続**] をクリックし、[**適用**] をクリックします。
5. [入力] タブで、関連するすべての統合ジョブをアクティブ化します。
6. [連携] タブで、[**KPI**] と[**KPIの目的**] を選択し、 をクリックして、変更を保存します。

Configuration ManagerからのKPIデータがBSMで取得されたことを検証するには、RTSMでTQLクエリを実行します。例を次に示します。



同期されているCIタイプを選択し、KpiとKpiObjectiveのCIタイプのデータソースを [**CMSからRTSM**] に設定する必要があります。

トラブルシューティングおよび制限事項 – UCMDBへのデータ統合

- 連携は実際のステータスのCIでのみ動作します。したがって、次のようになります。
  - ポリシーコンプライアンスは、実際のステータスのCIにのみ連携されます。
  - 実際のステータスから削除されたCIの認証ステータスは表示されません。
- 連携できるCIの最大数は構成可能です。この数を変更するには、UCMDBの [インフラストラクチャー設定マネージャー] で [フェデレートするオブジェクトの最大数] 設定の値を編集します。設定の変更の詳細については、UCMDBヘルプの管理に関するセクションの「インフラストラクチャー設定マネージャー」を参照してください。Configuration Managerで大きなビューを有効にしている場合、CIの推奨される数は20,000以下となります。大きなビューのサポートの有効化の詳細については、インタラクティブ形式のUniversal CMDBデプロイメントガイド の大容量計画に関する項を参照してください。
- テスト接続に失敗する場合、詳細については、[**詳細**] をクリックして、スタックトレースの最初のエラーを確認してください。
- 複数のビューでCIを管理できるため、同じポリシーを複数のビューの同一CIに適用できます。また、各種ビューで異なる類似性グループを使用できるため、同じポリシーで異なる類似性の結果を得ることができます。

Configuration Managerでの作業

第4章：クイック値

Configuration Managerには、次のようなビューとポリシーの機能を容易に利用するためのウィザードが用意されています。

- インベントリビューウィザードでは、UCMDBを使用せずに単純なビューを作成し、それに関するレポートを作成することができます。詳細については、「インベントリビューウィザード」(58ページ)を参照してください。
- データ品質ウィザードでは、ベースラインポリシーとトポロジポリシーの要素を組み合わせて1つのポリシーにすることによってUCMDBデータの整合性を確実なものにする、ポリシーを作成できます。詳細については、「データ品質ポリシーウィザード」(60ページ)を参照してください。
- 類似性ポリシーウィザードでは、単純な類似性ポリシーを作成できます。類似性ポリシーは、CIの集合に対して類似性と構成を強制するものです。詳細については、「類似性ポリシーウィザード」(64ページ)を参照してください。

これらのウィザードには、ホームページのリンクからアクセスできます。

インベントリビューウィザード

このウィザードでは、簡単なUCMDBビューを作成してConfiguration Managerで管理します。

このウィザードを使用してビューを作成すると、UCMDBに直接作成された場合と同様のデフォルト設定で新しいビューがUCMDBに保存されます。さらに、同じ名前の管理ビューがConfiguration Managerに保存され、計算されます。

利用方法	[ホーム] ページで、[**新規インベントリビューの作成**] リンクをクリックします。
ウィザードマップ	「[ビュー定義] ページ」 > 「[ビュー詳細] ページ」 > 「[レポート] ページ」
関連情報	「ビューの概要」(171ページ)

[ビュー定義] ページ

このページでは、作成中のビューのメインCIタイプを指定します。さらに、フィルターを使用してこのメインCIタイプのCIのサブセットを取得したり、メインCIタイプを別のCIタイプに関連付けたりすることもできます。たとえば、Oracleデータベースに接続されたUNIXマシンのグループを含むビューを作成したいとします。この

場合、このビューのメインCIタイプはUNIXであり、名前パターンでフィルターすることで特定のグループに属するUNIXマシンだけを抽出し、関連CIタイプとしてOracleデータベースを選択します。

ウィザードマップ	「インベントリビューウィザード」には、次のページが含まれています。 **「[ビュー定義] ページ」** > 「[ビュー詳細] ページ」 > 「[レポート] ページ」

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
ビューのメインCIタイプ	ボタンをクリックし、[**CIタイプの選択**] ダイアログボックスを開きます。CIタイプツリーからCIタイプを選択し、[**OK**] をクリックします。 ビューを作成するために複合CIのみが表示されます。
メインCIタイプの属性条件	(任意指定)アイコンをクリックします。メインCIタイプのフィルターに使用する属性を属性のリストで指定し、[**OK**] をクリックします。 属性を選択できるのは、ビューのメインCIタイプとして選択されているCIタイプの場合だけです。 **注：** 属性条件の一部としてワイルドカードを使用するには、* (Configuration Managerで使用) でなく% (UCMDBで使用) を使用します。
関連するCIタイプ	ボタンをクリックし、[**CIタイプの選択**] ダイアログボックスを開きます。CIタイプツリーから追加の関連CIタイプを選択し、[**OK**] をクリックします。 **注：** 選択するCIタイプは、メインCIタイプと何らかの関係を持つ必要があります。

[ビュー詳細] ページ

このページでは、作成するビューに関する詳細を入力します。

ウィザードマップ	「インベントリビューウィザード」には、次のページが含まれています。 「[ビュー定義] ページ」 > **「[ビュー詳細] ページ」** > 「[レポート] ページ」

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
名前	ビューの名前を入力します。
詳細	(任意指定)ビューの説明を入力します。

[レポート] ページ

このページでは、ビューについて受信する日次レポートをオプションで指定できます。

重要情報	レポートを受信するために、管理者は電子メールを受信できるように設定する必要があります。詳細については、「電子メール通知の構成」(242ページ)を参照してください。
ウィザードマップ	「インベントリビューウィザード」には、次のページが含まれています。 「[ビュー定義] ページ」>「[ビュー詳細] ページ」>**「[レポート] ページ」**
関連情報	「レポート」(205ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
<レポート>	(任意指定)次の日次レポートのどちらかまたは両方を選択できます。 • 検出されたすべての変更 • 構成比較

データ品質ポリシーウィザード

このウィザードでは、データ品質ポリシーを作成できます。データ品質ポリシーは、ベースラインポリシーとトポロジポリシーの要素を組み合わせて1つのポリシーにすることによって、UCMDB データの整合性を確実なものにするために役立ちます。

利用方法	[ホーム] ページで、[**データの品質を追跡するポリシーの作成**] リンクをクリックします。
重要情報	CIタイプを選択して、ベースラインポリシーと同様に、データとともにポピュレートされる必要があるそのCIタイプとコンポーネントCIタイプの属性を定義します。次に、トポロジポリシーと同様に、関連するCI タイプを選択します。元のタイプのCIは、ポリシーが適合する状態になるよう、このタイプのCIに関連付けられる必要があります。関連するCIが選択されていない場合、結果として生じるポリシーはベースラインポリシーのみになります。
ウィザードマップ	「[ビューの選択] ページ」>「[検証のためのCIタイプの選択] ページ」>「[必要な属性の選択] ページ」>「[必要な関連CIタイプの選択] ページ」>「[ポリシー詳細] ページ」

関連情報	「ポリシーの概要」(182ページ)

[ビューの選択] ページ

このページでは、ポリシーを強制するCIが含まれているビューを選択します。

ウィザードマップ	「データ品質ポリシーウィザード」には次のページが含まれています。 **「[ビューの選択] ページ」** > 「[検証のためのCIタイプの選択] ページ」 > 「[必要な属性の選択] ページ」 > 「[必要な関連CIタイプの選択] ページ」 > 「[ポリシー詳細] ページ」

以下では、使用されるインターフェイス要素について説明します。

UI要素	詳細
ビュー	ボタンをクリックし、[**ビューの選択**] ダイアログボックスを開きます。ビューをダブルクリックして選択するか、ビューを選択して [**OK**] をクリックします。 をクリックすると、選択した値がクリアされます。

[検証のためのCIタイプの選択] ページ

このページでは、ポリシーが適用される対象となるCIタイプを選択します。さらに、フィルターを追加して、ポリシーを指定したCIタイプの特定のサブセットに適用できます (たとえば、特定の命名規則があるすべてのWindowsマシン)。

ウィザードマップ	「データ品質ポリシーウィザード」には次のページが含まれています。 「[ビューの選択] ページ」 > **「[検証のためのCIタイプの選択] ページ」** > 「[必要な属性の選択] ページ」 > 「[必要な関連CIタイプの選択] ページ」 > 「[ポリシー詳細] ページ」

以下では、使用されるインターフェイス要素について説明します。

UI要素	詳細
CIタイプ	ボタンをクリックし、[**CIタイプの選択**] ダイアログボックスを開きます。CIタイプツリーから必要なCIタイプを選択し、[**OK**] をクリックします。 このCIタイプは、「[ビューの選択] ページ」(61ページ)で選択したビューに存在する必要があります。

UI要素	詳細
	をクリックすると、選択した値がクリアされます。
属性条件でフィルター	(任意指定) ボタンをクリックすると、[**フィルターのベースラインを指定**] ダイアログボックスが開きます。CIタイプインスタンスのフィルターに使用する属性を選択し、[**OK**] をクリックします。 をクリックすると、選択した値がクリアされます。

[必要な属性の選択] ページ

このページでは、入力が必須のCIタイプの属性を指定します。

ウィザードマップ	「データ品質ポリシーウィザード」には次のページが含まれています。 「[ビューの選択] ページ」 > 「[検証のためのCIタイプの選択] ページ」 > **「[必要な属性の選択] ページ」** > 「[必要な関連CIタイプの選択] ページ」 > 「[ポリシー詳細] ページ」

以下では、使用されるインターフェイス要素について説明します。

UI要素	詳細
属性名	データとともにポピュレートされる必要がある属性のチェックボックスを選択します。 **注：** データ品質ポリシーを作成する目的においては、NumberまたはStringのタイプの属性のみを選択できます。
CIタイプ	選択したCIタイプを表示します。 をクリックして、追加のCIタイプ (複合CIタイプのコンポーネントCIタイプ) を追加します。CIタイプを選択し、その属性を表示します。 をクリックすると、選択したCIタイプが (コンポーネントCIタイプに対してのみ) 削除されます。

[必要な関連CIタイプの選択] ページ

このページでは、ポリシーについて関連するCIタイプを選択します。元のCIタイプのCIは、ポリシーが適合する状態になるよう、このタイプのCIに関連付けられる必要があります。

重要情報	このウィザードページは省略可能です。UCMDBの **Configuration Manager** フォルダーにTQLクエリを作成する権限がない場合、このページは無効になります。
ウィザードマップ	「データ品質ポリシーウィザード」には次のページが含まれています。 「[ビューの選択] ページ」>「[検証のためのCIタイプの選択] ページ」>「[必要な属性の選択] ページ」>**「[必要な関連CIタイプの選択] ページ」**>「[ポリシー詳細] ページ」

以下では、使用されるインターフェイス要素について説明します。

UI要素	詳細
関連するCIタイプ	ボタンをクリックし、[**CIタイプの選択**] ダイアログボックスを開きます。CIタイプツリーから必要なCIタイプを選択し、[**OK**] をクリックします。 をクリックすると、選択した値がクリアされます。

[ポリシー詳細] ページ

このページでは、データ品質ポリシーの名前と説明を入力します。

重要情報	ウィザードが終了すると、2つの新しいポリシーが次の名前で作成されます。 • **<ポリシー名> - ベースラインポリシー** • **<ポリシー名> - トポロジポリシー** <ポリシー名>は、[**名前**] フィールドに入力した名前になります。 関連するCIが見つからなかった場合は、ベースラインポリシーのみが作成され、ポリシー名は [**名前**] フィールドに入力したものになります。
ウィザードマップ	「データ品質ポリシーウィザード」には次のページが含まれています。 「[ビューの選択] ページ」>「[検証のためのCIタイプの選択] ページ」>「[必要

	な属性の選択] ページ」>「[必要な関連CIタイプの選択] ページ」>「**[ポリシー詳細] ページ**」

以下では、使用されるインターフェイス要素について説明します。

UI要素	詳細
詳細	(任意指定)ポリシーの説明を入力します。
名前	ポリシーの名前を入力します。

類似性ポリシーウィザード

このウィザードでは、グループ化オプションなしで簡単な新しい類似性ポリシーを作成します。グループ化パターンに基づく類似性ポリシーの作成の詳細については、「類似性ポリシーの定義」(186ページ)を参照してください。

たとえば、Windowsコンピューターのラボが含まれているビューを管理している場合を考えてみましょう。すべてまたは一部のWindowsコンピューターで、オペレーティングシステムのバージョンとメモリ量を一致させたいとします。類似性ポリシーウィザードで、そのようなポリシーを簡単に作成できます。

利用方法	[ホーム] ページで、**データの構成を標準化するためのポリシーの作成**リンクをクリックします。
ウィザードマップ	「[ビューの選択] ページ」>「[CIタイプの選択] ページ」>「[定義] ページ」>「[ポリシー詳細] ページ」
関連情報	「ポリシーの概要」(182ページ)

[ビューの選択] ページ

このページでは、ポリシーを強制するCIが含まれているビューを選択します。

ウィザードマップ	「類似性ポリシーウィザード」には、次のページが含まれています。 **「[ビューの選択] ページ」**>「[CIタイプの選択] ページ」>「[定義] ページ」>「[ポリシー詳細] ページ」

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
ビュー	ボタンをクリックし、[**ビューの選択**] ダイアログボックスを開きます。ダブルクリックして選択します。

[CIタイプの選択] ページ

このページでは、類似性をチェックするCIタイプを選択します。さらに、フィルターを追加して、ポリシーを指定したCIタイプの特定のサブセットに適用できます (たとえば、特定の命名規則があるすべてのWindowsマシン)。

ウィザードマップ	「類似性ポリシーウィザード」には、次のページが含まれています。 「[ビューの選択] ページ」 > **「[CIタイプの選択] ページ」** > 「[定義] ページ」 > 「[ポリシー詳細] ページ」

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
CIタイプ	ボタンをクリックし、[**CIタイプの選択**] ダイアログボックスを開きます。類似性をチェックするCIタイプをCIタイプのツリーから選択し、[**OK**] をクリックします。 このCIタイプは、「[ビューの選択] ページ」(64ページ)で選択したビューに存在する必要があります。
属性条件でフィルター	(任意指定) ボタンをクリックすると、[**フィルターのベースラインを指定**] ダイアログボックスが開きます。CIタイプインスタンスのフィルターに使用する属性を選択し、[**OK**] をクリックします。

[定義] ページ

このページでは、ポリシーで比較されるコンポーネントおよび属性を指定します。すなわち、この類似性ポリシーの範囲内にあるすべてのCIは、ここで選択されたコンポーネントおよび属性の値が一致する必要があります。

ウィザードマップ	「類似性ポリシーウィザード」には、次のページが含まれています。 「[ビューの選択] ページ」 > 「[CIタイプの選択] ページ」 > **「[定義] ページ」** > 「[ポリシー詳細] ページ」

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
定義	類似性について比較されるコンポーネントおよび属性を指定します。

[ポリシー詳細] ページ

このページでは、類似性ポリシーの名前と説明を入力します。

ウィザードマップ	「類似性ポリシーウィザード」には、次のページが含まれています。 「[ビューの選択] ページ」 > 「[CIタイプの選択] ページ」 > 「[定義] ページ」 > **「[ポリシー詳細] ページ」**

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
詳細	(任意指定) ポリシーの説明を入力します。
名前	ポリシーの名前を入力します。

第 5章 : KPIサマリー

本 章 の内 容

KPIサマリーの概 要 67
KPIサマリーのユーザーインターフェイス 67

KPIサマリーの概 要

KPI統 計 ページでは、Configuration Managerが監 視 する主 要 なデータをダッシュボード で表 示 します。このページでは、認 証 ステータス別 の管 理 CIの数 、ポリシーステータス別 のCIの数 、認 証 済 みの変 更 の数 、非 準 拠 CIの数 などのデータについて、時 間 経 過 に伴 う変 化 をグラフで表 示 します。

> **注 :** 表 示 できるのは、**ビュー**権 限 を持 っているビューのCIのみです。

KPIサマリーのユーザーインターフェイス

本 項 の内 容

[KPIサマリー] ページ 67

[KPIサマリー] ページ

このページでは、管 理 ビューに関 するデータを概 要 で示 します。

> **注 :** すべての表 示 枠 で、ユーザーがビュー権 限 を持 っているビューの CIのみが表 示 されます。

利 用 方 法	**[統 計] > [KPI サマリー]** を選 択 します。
重 要 情 報	[**管 理 CI**] 表 示 枠 には、選 択 した期 間 に含 まれる認 証 済 みCIと未 認 証 CIの数 が表 示 されます。 [**ポリシーサマリー**] 表 示 枠 には、ポリシーに適 合 しているCIと違 反 しているCIの数 がポリシーとステータスごとに表 示 されます。

	[**認証済みの変更**] 表示枠には、選択した期間に含まれる認証済みの変更の数が表示されます。 [**非準拠CI**] 表示枠には、ベースラインポリシーに適合するCIと違反するCIの合計数が表示されます。 **注:** 表示枠のレイアウトは、ドラッグして変更できます。
関連情報	「KPIサマリーの概要」(67ページ)

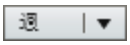
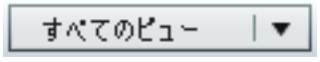
左の表示枠

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
	お気に入りビューのみを表示する: すべてのビューのデータを表示するか、お気に入りビューのデータのみを表示するかが切り替わります。
	更新: 表示データを更新します。
新規ポリシー違反	CIの合計数に対するポリシー違反の数を、管理ビューごとに一覧表示します。
認証待ち	CIの合計数に対する未認証CIの数を、管理ビューごとに一覧表示します。

[認証済みの変更] 表示枠

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	説明
	グラフ表示する期間を選択します。次のオプションを選択できます。 • 週 • 月 • 3か月 • 年
	グラフで表示するビュー (1つまたは複数) を選択します。
	凡例: グラフの凡例を表示します。

UI要素	説明
/	**表示の変更:** 表示をテーブル形式とグラフ形式との間で切り替えます。
<グラフ>	選択した期間に含まれる認証済みの変更の数を表示します。

[管理CI] 表示枠

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	説明
週	グラフ表示する期間を選択します。次のオプションを選択できます。 • 週 • 月 • 3か月 • 年
	凡例: グラフの凡例を表示します。
/	**表示の変更:** 表示をテーブル形式とグラフ形式との間で切り替えます。
<グラフ>	選択した期間に含まれる認証済みCIと未認証CIの数を表示します。緑色の領域は認証済みCI、青色の領域は未認証CIを示します。

[非準拠CI] 表示枠

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
週	グラフ表示する期間を選択します。次のオプションを選択できます。 • 週 • 月 • 3か月 • 年

UI要素	詳細
すべてのビュー	グラフで表示するビュー (1つまたは複数) を選択します。
すべてのポリシー	グラフで表示するポリシーを選択します。
<グラフ>	すべてのベースラインポリシーに適合しているCI (準拠CI) の数は緑色のバー、ベースラインポリシーに違反しているCI (非準拠CI) は赤色のバーで表示されます。

[ポリシーサマリー] 表示枠

この表示枠では、ポリシーの適合レベルをポリシーごとにサマリーで表示します。詳細については、「[ポリシーサマリー] ページ」(75ページ)を参照してください。

第6章：ビューサマリー

本章の内容

ビューサマリーの概要 71
自動ステータス遷移のステータスのレビュー 72
ビューサマリーのユーザーインターフェイス 72

ビューサマリーの概要

ビューサマリーでは、すべての管理ビューのサマリー情報として、認証レベル、ポリシーステータス、最終認証日時、自動ステータス遷移のステータスなどが表示されます。このページは、管理ビューにアクセスするポータルであり、レビュー/認証モジュールにドリルダウンできます。また、データをレポート形式でエクスポートすることもできます。

ポリシーステータス情報では、ビューのポリシー適合レベルを、実際のステータスと認証済みのステータスの両方で追跡します。ポリシーに違反しているビューについては、ドリルダウンによって詳細情報 (違反CIとポリシー) を参照できます。外部ポリシーは認証済みのステータスの統計に含まれていないため、認証済みのステータスのCIが含まれている外部ポリシーの詳細までドリルダウンした場合に表示されるのは、実際のステータスのデータだけです。

認証済みのステータスのCIが含まれている外部ポリシーの詳細までドリルダウンできないので注意してください。

自動ステータス遷移情報では、ビューレベルの認証を追跡できます。ビューが手動または自動のどちらで管理されているかを確認できます。また、認証が必要なビューを簡単に特定でき、ドリルダウンによって適切な操作を実行できます。

また、ビューが最後に認証された日時、認証したユーザー、認証した変更の数の追跡も可能です。最終認証に関する詳細情報のドリルダウンもできます。これにより、認証待ちビューの関連RFCの数がはっきりわかります。

> **注：** ビューサマリーには、**ビュー**権限または**CMでの認証**権限を持っているビューのみが表示されます。

自動ステータス遷移のステータスのレビュー

特定のビューの[自動ステータス遷移のステータス]列の をクリックすると、その実行ステータスが表示されます。

それぞれの実行について、変更日時と変更件数が表示されます。適合していないルールがある場合は、それも表示されます。

- すべての実行ルールに適合し、すべての変更が認証されている場合、[**詳細を表示**]リンクをクリックすると認証履歴モジュールが開き、最新の認証の詳細を確認できます。
- 認証ルールに適合しない変更がある場合、または変更を認証しようとして失敗した場合、[**詳細を表示**]リンクをクリックするとレビュー/認証モジュールが開き、変更をレビューして手動で認証できます。
- 一部の変更のみが認証され、すべての認証ルールに適合しない変更がある場合、認証された変更の横にある[**詳細を表示**]リンクをクリックすると認証履歴モジュールが開き、未認証の変更の横にある[**詳細を表示**]リンクをクリックするとレビュー/認証モジュールが開きます。

ビューサマリーのユーザーインターフェイス

本項の内容

[ビューサマリー] ページ 72

[ビューサマリー] ページ

このページでは、すべての管理ビューについて、認証とポリシーへの適合ステータスがサマリーで表示されます。

利用方法	**[統計] > [ビューサマリー]** を選択します。
重要情報	列ヘッダーをクリックすると、その列の順序でビューサマリーがソートされます。列ヘッダーをクリックすると、黒い小さな三角形が表示されます。上向きの三角形は昇順ソート、下向きの三角形は降順ソートを示します。列ヘッダーをもう一度クリックすると、降順と昇順を切り替えることができます。
関連タスク	「自動ステータス遷移のステータスのレビュー」(72ページ)
関連情報	「ビューサマリーの概要」(71ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
	お気に入りビューのみを表示する: すべてのビューを表示するか、お気に入りビューのみを表示するかを切り替えます。
	レポートのエクスポート: [ビューサマリー] のレポートデータで使用するエクスポート形式を選択できます。次のオプションを使用できます。 • **Excel:** スプレッドシートで表示できる .XLS (Excel) ファイル形式でエクスポートします。 • **PDF:** テーブルのデータは、PDF形式でエクスポートされます。 • **CSV:** テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り(CSV) テキストファイル形式に整形されます。 レポートへの出力の生成時には、現在適用されているフィルターが考慮されます。
	更新: ポリシーリストの表示内容を更新します。
空のビューを非表示	**空のビューを非表示:** 選択すると、データがあるビューだけを表示します。
	ビュー名の横に警告アイコンが表示されている場合は、アイコンの上にカーソルを置くとツールチップに警告が表示され、アイコンをクリックするとダイアログボックスが開いて警告が表示されます。
	ビュー名の横に情報アイコンが表示されている場合は、アイコンの上にカーソルを置くとツールチップにメッセージが表示され、アイコンをクリックするとダイアログボックスが開いてメッセージが表示されます。
	ビューの自動ステータス遷移のステータスを表示します。
<ビューのフィルターボックス>	表示されるビューのリストを、ボックスに入力する文字列でフィルターします。入力した文字列が名前に含まれるビューのみが表示されます。
認証レベル	ビューの認証レベルをグラフ形式と数値 (CIの合計数に対する認証済みCIの数) の両方で表示します。 カーソルをグラフの上に置くと、データの割合 (%) がツールチップで表示されます。
認証レベルの凡例	認証レベルのグラフの凡例を表示します。 次のカテゴリが表示されます。 • 認証済みCI • 未認証CI
最終認証日時	ビューが最後に認証された日時を表示します。日付をクリックすると、

UI要素	詳細
	認証履歴が開き、その時点でのビューのスナップショットが表示されます。
データの最終更新日時	ビューが最後に更新された日時を表示します。
ポリシーステータス	ビューのポリシーのステータスを、実際のステータスと認証済みのステータスの両方について棒グラフで表示します。カーソルをグラフの上に置くと、データの割合 (%) がツールチップで表示されます。 **注：** ステータスバーには、認証済みのステータスのCIを含む連携ポリシーのポリシー適合ステータスが表示されません。
ポリシーステータスの凡例	ポリシーステータスグラフの凡例を表示します。 次のカテゴリが表示されます。 • 適合 • 違反
[関連RFC]	現在のビューのCIに適用される変更要求の数が表示されます。
ビュー名	ビュー名をクリックすることによって、選択したビューの [レビュー/認証] ページに移動できます。

第 7 章 : ポリシーサマリー

本 章 の内 容

ポリシーサマリーの概 要 75
ポリシーサマリーのユーザーインターフェイス 75

ポリシーサマリーの概 要

ポリシーサマリーモジュールは、Configuration Managerで定 義したすべてのポリシーのサマリー情 報を提 供します。ポリシーを定 義したすべてのCIについて、ポリシーステータスを表 示します。また、ポリシーサマリーのデータをレポート形 式 でエクスポートすることもできます。

> **注 :** ポリシー統 計 の計 算 は、**ビュー**権 限 があるビューについてのみ実 行 されます。

ポリシーサマリーのユーザーインターフェイス

本 項 の内 容

[ポリシーサマリー] ページ 75

[ポリシーサマリー] ページ

このページでは、ポリシーの適 合 レベルをポリシーごとにサマリーで表 示します。

利 用 方 法	**[統 計] > [ポリシーサマリー]** を選 択します。

重要情報	各ポリシーについて、適合ステータスごとにビュー内のCIの数を表示します。表示可能なステータスは、[ポリシーステータスの凡例] で示されます。 • 適合 • 違反 列ヘッダーをクリックすると、その列の順序でポリシーサマリーがソートされます。列ヘッダーをクリックすると、黒い小さな三角形が表示されます。上向きの三角形は昇順ソート、下向きの三角形は降順ソートを示します。列ヘッダーをもう一度クリックすると、降順と昇順を切り替えることができます。
関連情報	「ポリシーサマリーの概要」(75ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
	お気に入りビューに関連するポリシーのみを表示する: すべてのビューのデータを表示するか、お気に入りビューのデータのみを表示するかが切り替わります。
	レポートのエクスポート: ポリシーサマリーのデータで使用するエクスポート形式を選択できます。次のオプションを使用できます。 • **「ポリシーサマリー」レポートをExcelにエクスポート:** テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる .XLS (Excel) ファイル形式に整形されます。 • **「ポリシーサマリー」レポートをPDFにエクスポート:** テーブルのデータは、PDF形式でエクスポートされます。 • **「ポリシーサマリー」レポートをCSVにエクスポート:** テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り(CSV) テキストファイル形式に整形されます。 レポートへの出力の生成時には、現在適用されているフィルターが考慮されます。
すべてのカテゴリ	ユーザー定義のカテゴリでポリシーサマリーのデータをフィルター処理できます。カテゴリの定義は、[ポリシー] ページの [詳細] 表示枠の [全般] セクションで行えます。詳細については、「[ポリシー] ページ」(197ページ) を参照してください。
	更新: ポリシーリストの表示内容を更新します。
アクティブなポリシーのみを表示	**アクティブなポリシーのみを表示:** 選択すると、現在アクティブなポリシーだけが表示されます。

左の表示枠

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
	レポートのエクスポート： ポリシーサマリーのデータで使用するエクスポート形式を選択できます。次のオプションを使用できます。 • **Excel:** テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる .XLS (Excel) ファイル形式に整形されます。 • **PDF:** テーブルのデータは、PDF形式でエクスポートされます。 • **CSV:** テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り (CSV) テキストファイル形式に整形されます。 レポートへの出力の生成時には、現在適用されているフィルターが考慮されます。
ポリシー名	ポリシー名を表示します。 説明およびルール有効性を含むポリシーの詳細を示したツールチップを表示するには、ポリシー名の上にポインターを置きます。
ソース	ポリシーのソースである製品を表示します。
ポリシーステータス	実際の状態と承認された状態のポリシー適合度ステータスを (棒グラフで) 表示します。グラフの上にポインターを置くと、CIの割合と数によってデータを要約したツールチップが表示されます。 **注：** 承認状態のCIを含む外部ポリシーの場合、ステータスバーには実際の状態データのみが表示されます。

右の表示枠

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
<ビューテーブルごとの内訳>	左の表示枠で選択したポリシーについて、ポリシー適合に関するデータをビューごとに表示します。各ビューのCIの数をステータスごとに表示します。 各ポリシーについては、次の項目をドリルダウンすると、ビューの調査モジュールで詳細を参照できます。 • ビュー名

UI要素	詳細
	• 適合CI (実際のステータス) • 違反CI (実際のステータス) • 適合CI (認証済みのステータス) • 違反CI (認証済みのステータス)

第8章: ビューの調査

本章の内容

ビューの調査の概要 79

影響分析 80

自動化の衝突 80

レポート 81

コントロールされた自動化またはコントロールされていない自動化の実行 82

ポリシー違反を修正するためのRFCの作成 84

特定CIのRFCを作成 85

複合CIの折りたたみルールの設定 85

外部アプリケーションの起動 85

ビューの調査のユーザーインターフェイス 86

トラブルシューティング – Explore Views 110

ビューの調査の概要

ビューの調査モジュールでは、IT環境の現状を実際のステータスまたは認証済みのステータスのいずれかで調査できます。また、実際のステータスまたは認証済みのステータスの管理ビューについて、保存したスナップショットを表示することもできます。ビューに含まれるCIとポリシーに関する情報を表示し、ビューのポリシーが適合または違反のどちらの状態かをチェックできます。

ビューのCIリストは [複合CI] 表示枠、トポロジマップは [トポロジ] 表示枠に表示されます。トポロジマップでは、レイアウト (レイヤーまたは分類ごとにCIを表示するオプションなど) を指定できます。また、トポロジマップにはビュー内の複合CIのみが表示されますが、[CI詳細] ダイアログボックスでコンポーネントCIまでドリルダウンすることが可能です。このような機能によって、トポロジマップはシンプルでわかりやすい構造になっています。

ポリシーが定義されているCIには、CIのポリシーステータスがアイコンで表示されます。ビューのCIにポリシー違反がある場合は、[ポリシー詳細] 表示枠に詳細情報が表示されます。

ビューの調査モジュールのユーザーインターフェイスの詳細については、「ビューの調査のユーザーインターフェイス」(86ページ)を参照してください。

> **注：** 選択できるのは、**ビュー**権限または**CMでの認証**権限があるビューのみです。

影響分析

影響分析では、自動化がCIに及ぼす影響を計算します。Universal CMDB のCIおよび関係情報を使用します。

影響分析結果の表示は、[自動化分析] > [インパクト - <ステータス>] 表示枠で行うことができます。この表示枠には、自動化の影響を受けたビジネスおよびシステムCIが表示されます。これには、影響を受けたビジネスまたはシステムCIの一般情報と、自動化のインパクト重大度インジケーターが含まれます。詳細については、「[自動化分析] > [インパクト - <ステータス>] 表示枠」(91ページ)を参照してください。

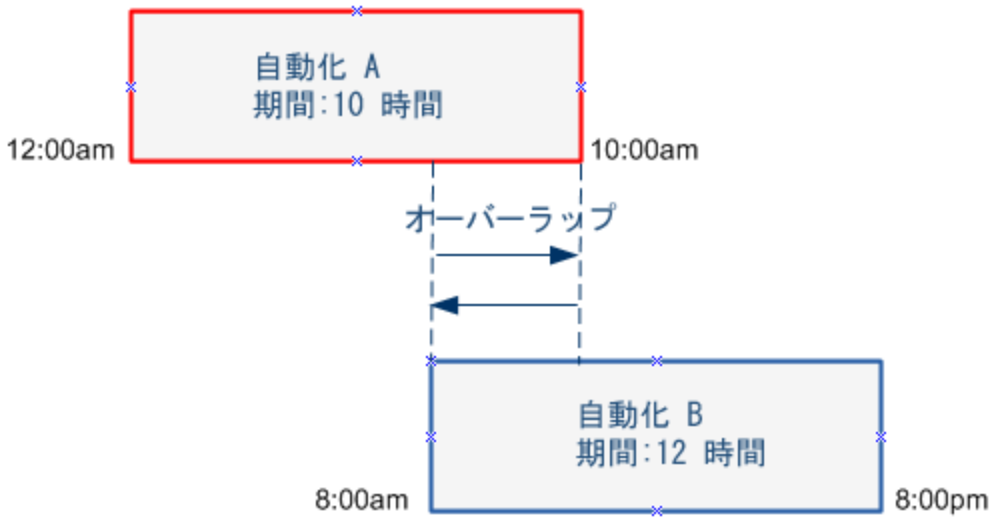
CIのインパクト重大度レベルは、次のルールで決定されます。

- トリガーされたCIは自動的に [**クリティカル**] に設定されます。
- インパクトを受けたCIは、直接接続されているCIの重大度レベルになります。
- インパクトを受けたCIは、間接的に接続されているCIの重大度レベルより1つ下の重大度レベルになります。たとえば、ビジネスCIが **My_CI** というCIに間接的に接続されており、**My_CI** の重大度レベルが [**中**] の場合、このビジネスCIの重大度レベルは [**低い**] になります。

自動化の衝突

自動化の衝突は、システムまたはビジネスCIを複数の自動化で使用する場合に、使用期間が重なると発生すると定義されています。

自動化の衝突は、スケジュールの競合に基づいて計算されます。2つ以上の自動化が共通の要素を共有しており、開始時と終了時が重なっている場合、これらの自動化は衝突しているとみなされます。



同時に実行される2つの自動化が必ずしもお互いに影響するとは限りません。衝突が発生するのは、少なくとも1つの共通CIが関わっている場合のみです。衝突には2つのタイプがあります。

- **直接衝突：** 2つ以上の自動化が同じCIに直接影響する場合に発生します。
- **間接衝突：** 自動化のいずれかが同じCIに間接的に影響する場合に発生します。たとえば、自動化によってサーバーAのメモリが増加する場合、サーバーAは影響を直接受けています。アプリケーションBがサーバーAに接続されていても、自動化に直接関わっていない場合は、自動化によって間接的に影響を受けているだけです。

> **注：** 衝突タイプは、インパクトを受けるCIの重大度レベルのうち最も高いものによって決まります。

衝突の詳細の表示については、「[自動化分析] > [衝突] 表示枠」(94ページ)を参照してください。

レポート

Configuration Managerには、定義済みポリシーに違反しているCIに関する情報を含むビューのポリシー情報をエクスポートする機能があります。違反CIの原因として次の理由が考えられます。

- ベースライン条件を満たさないCI
- 欠落CI
- 複合CI内の追加CI

> **注：** 違反CIに関する情報は、.pdf形式でエクスポートされるレポートには含められません。

レポートには、特定の時点での特定のステータス(実際または認証済み)のCIオン分析が含まれています。レポートには、違反しているCI (属性レベルまで)とそれらの違反の原因が表示されます。

コントロールされた自動化またはコントロールされていない自動化の実行

このタスクでは、コントロールされた実行またはコントロールされていない自動化の実行方法を説明します。

本項の内容

- 「管理対象ビューの追加」(82ページ)
- 「フローの追加と自動化パラメーターの構成」(82ページ)
- 「コントロールされた自動化またはコントロールされていない自動化の実行」(83ページ)

> **注：** また、コントロールされた自動化機能は、自動的なリスクの可視化とも呼ばれます。

1. **管理対象ビューの追加**

   UCMDBの**ビュー**モジュールで、管理対象のビューを追加します。詳細については、「管理対象ビューの追加」(175ページ)を参照してください。

2. **フローの追加と自動化パラメーターの構成**

   [**管理**] > [**自動化設定**] で、次の手順を実行します。

   a. をクリックして [**フローの選択**] ウィンドウを開きます。

   b. 左の表示枠でフローツリーをクリックして展開し、Configuration Managerで自動化として実行するOperations Orchestrationのフローを選択します。

   c. [**OK**] をクリックして [自動化設定] ウィンドウに戻ります。

   d. [自動化の詳細] 表示枠で、[**関連するCIタイプ**] リストから、自動化を実行するCIタイプを指定します。

   e. [実行の詳細] 表示枠で [**コントロールされた実行**] チェックボックスを選択し、選択したフローをコントロールされた自動化として実行します。コントロールされない自動化は、システムによる介入なしで実行されます。コントロールされない自動化を実行するには、[**コントロールされた実行**] チェックボックスの選択を解除します。デフォルトでは、自動化はコントロールされた状態で実行されるように設定されています。

その他の自動化パラメーターの構成方法の詳細については、「[自動化設定] ページ」(231ページ)を参照してください。

3. **コントロールされた自動化またはコントロールされていない自動化の実行**

   a. [**エクスプローラー**] > [**ビューの調査**] を選択します。

   b. [ビューの調査] ツールバーで、次の手順を実行します。

      - [**ステータス**] ボックスで、[**実際のステータス**] または [**認証済みのステータス**] を選択します。
      - [**スナップショットの選択**] ボックスで、[**最新**] を選択します。

   c. [複合CI] 表示枠で、自動化設定モジュールの [**管理CIタイプ**] ボックスで選択したものと同じタイプか、そのサブクラスのCIタイプを選択します。詳細については、「[自動化設定] ページ」(231ページ)を参照してください。

   d. [複合CI] 表示枠で [**自動化の実行**] ボタンをクリックし、[自動化実行] ダイアログボックスを開きます。

   e. [自動化] 表示枠で、目的の自動化を選択します。

   f. [**実行パラメーター**] 表示枠で、選択した自動化に必要な実行パラメーターを入力します。必須パラメーターはアスタリスクが付いているもののみです。

      - 選択した自動化がコントロールされない自動化である場合、ダイアログボックスの下部に [**実行**] ボタンが表示されます。[**実行**] をクリックすると、自動化が実行されます。

        > **注：** 必須パラメーターには赤のアスタリスクが付いています。必要な値を入力しないと、[**実行**] ボタンは無効です。

      - 選択した自動化がコントロールされた自動化である場合、ダイアログボックスの下部に [**次へ**] ボタンが表示されます。[**次へ**] をクリックすると、[自動化プランナー] ページが開きます。

        > **注：** 必須パラメーターには赤のアスタリスクが付いています。自動化を実行するには、必要な値を入力する必要があります。必要な値を入力しないと、[**次へ**] ボタンは無効です。

      自動化をコントロールされた状態またはコントロールされない状態として定義する方法の詳細については、「<自動化>表示枠 - [実行の詳細] 領域」(233ページ)を参照してください。

      > **注：** 次の手順は、コントロールされた自動化でのみ実行します。

   g. [自動化プランナー] ダイアログボックスの [実施の詳細] 表示枠で、カレンダーを使って自動化の日時を設定します。現在または将来の日付の選択が可能です。デフォルトでは、現在の日時に設定されています。

h. 自動化を実行する前に、[ポリシー] 表示枠でポリシーのステータスをチェックします。ポリシー違反がある場合、その違反がIT環境にとってクリティカルかどうかを調べる必要があります。たとえば、自動化によってサーバーダウンタイムが発生することがあります。自動化分析情報については、「[自動化分析] > [自動化] 表示枠」(93ページ)を参照してください。

違反によってリスクが発生しない場合は、ポリシー違反を無視して自動化を実行してかまいません。ポリシーへの違反があるかどうかにかかわらず、自動化は実行されます。詳細については、「[自動化実行] ダイアログボックス」(87ページ)および「[自動化実行] ダイアログボックス」(87ページ)を参照してください。

i. [**実行**] をクリックすると、自動化が実行されます。

- コントロールされた自動化を実行した場合、[コントロールされた自動化] タブで自動化結果の詳細を表示できます。詳細については、「[コントロールされた自動化] タブ」(104ページ)を参照してください。
- コントロールされない自動化を実行した場合、ウィンドウが開き、次のメッセージが表示されます。自動化が起動されました。詳細なレポートを表示するにはここをクリックしてください。**ここ**の部分はリンクになっており、クリックすると、Operations Orchestration が開いて自動化結果を表示できます。

ポリシー違反を修正するためのRFCの作成

このタスクでは、以前に定義した構成ポリシーに違反するCIを変更するRFCを作成できます。複数のCIを選択できますが、選択したCIが複数のポリシーに違反する場合、修復する特定のポリシーの選択が求められ、他のポリシーに違反するCIがこの手順のために破棄されます。

1. ビューの調査モジュールで、[**ビューの選択**] をクリックして、ポリシーに違反するCIを含むビューを開きます。
2. [複合CI] 表示枠でポリシーに違反するCIを選択します。
3. をクリックすると、ポリシー違反を修復するRFCを作成できます。[ポリシールールの選択] ダイアログボックスが開きます。詳細については、「[ポリシールールの選択] ダイアログボックス」(107ページ)を参照してください。
4. ドロップダウンリストから、修復する違反ポリシーを選択します。

   この時点では、[複合CI] 表示枠で以前にそのCIを選択していない場合でも、選択したポリシーに違反するビュー内のすべてのCIを選択できます。それには、[**ポリシーに違反するすべてのCIを選択**]

チェックボックスを選択します。

5. [**続行**] をクリックします。[**ポリシー修復用のRFCの作成**] ダイアログボックスが開きます。詳細については、「[ポリシー修復用のRFCの作成] ダイアログボックス」(99ページ)を参照してください。

   必要な情報を入力して [**送信**] をクリックします。

特定CIのRFCを作成

このタスクでは、特定のCIに対するRFCを作成できます。

1. ビューの調査モジュールで、[**ビューの選択**] をクリックして、ビューを開きます。
2. [複合CI] 表示枠で、RFCを作成するCIを選択します。
3. をクリックします。[**新規RFCの作成**] ダイアログボックスが開きます。詳細については、「[新規RFCの作成] ダイアログボックス」(98ページ)を参照してください。

   必要な情報を入力して [**送信**] をクリックします。

複合CIの折りたたみルールの設定

折りたたみルールによって、Configuration Managerに表示される複合CIが定義され、管理ビューのコンテンツが構成されます。複合CIの折りたたみルールの設定はUniversal CMDBで行います。詳細については、『UCMDBヘルプのモデリングに関するセクション』の「複合CIの折りたたみルールの設定」を参照してください。

> **注：** 前のバージョンのConfiguration Managerでは、折りたたみルールの定義はConfiguration Managerで行っていました。前のバージョンからアップグレードした場合、以前に定義した折りたたみルールがUniversal CMDBに自動的にインポートされます。

外部アプリケーションの起動

Configuration Managerには、UCMDB CIまたはUCMDBビューのコンテキストで任意のアプリケーションユーザーインターフェイスを起動することができる、汎用UI統合を設定するメカニズムが追加されていま

す。たとえば、一部のCIで検出された問題に関連した新しいディスカッションを開いたり、UCMDBを起動して選択したCIのCIプロパティを表示したりするために、Micro Focus Enterprise Collaborationユーザーインターフェイスを起動できます。この機能は[検証/承認]と[Explore Views]モジュールで利用できます。

> **注：** 外部アプリケーションと統合できるようにするため、すべてのアプリケーションをLW-SSOで設定し、同じユーザー管理システムを使用することをお勧めします。これにより、外部アプリケーションごとにユーザー名を入力してログインする必要がなくなります。

外部アプリケーションを起動するには、次の手順を実行します。

1. 開くアプリケーションのURLを指定します。例：

   ```
   https://<UCMDBサーバーマシンまたはIPアドレス>:8443/ucmdb-ui/cms/
   directAppletLogin.do?cmd=ShowProperties&objectId=
   ${ucmdbId}&navigation=false&interfaceVersion=9.0.0
   ```

   この例の場合、`${ucmdbId}` は選択した(UCMDBに表示される)複合CIのIDで置き換えられます。

   詳細については、「UI統合」(226ページ)を参照してください。

   > **注：** 起動 ボタンが表示されるようにするには、この手順を実行する必要があります。

2. 検証/承認モジュールまたはExplore Viewsモジュールで 起動 をクリックします。

   設定したアプリケーションがブラウザーウィンドウで開かれます。

ビューの調査のユーザーインターフェイス

本項の内容

[自動化実行]ダイアログボックス 87
ベースラインポリシーウィザード 96
[CI詳細]ダイアログボックス 97
[新規RFCの作成]ダイアログボックス 98
[ポリシー修復用のRFCの作成]ダイアログボックス 99
[ビューの調査]ページ 100
[ポリシー詳細]ダイアログボックス 107
[ポリシールールの選択]ダイアログボックス 107
[表示するスナップショットの選択]ダイアログボックス 108

[CIのソート] ダイアログボックス 109
トポロジページ 109

[自動化実行] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、コントロールされた実行またはコントロールされない自動化を実行します。

利用方法	[**エクスプローラー**] > [**ビューの調査**] を選択します。[複合CI] 表示枠で目的のCIを選択し、[**自動化の実行**] ボタンをクリックします。
重要情報	• [**自動化の実行**] ボタンを有効にするには、次のことを確認します。 ◦ ツールバーから [**実際のステータス**] または [**認証済みのステータス**] を選択していること。 ◦ 自動化設定モジュールに、[複合CI] 表示枠で選択したCIのCIタイプと同じCIタイプにマッピングされている、管理された自動化があること。詳細については、「[自動化設定] ページ」(231ページ)を参照してください。 • 自動化を実行できるのは、自動化実行権限を持っているユーザーのみです。
関連タスク	「コントロールされた自動化またはコントロールされていない自動化の実行」(82ページ)
関連情報	• 「影響分析」(80ページ) • 「自動化ポリシー」(235ページ) • 「システム操作の自動化」(19ページ)

[自動化実行] ページ

このページでは、実行する自動化を選択できます。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
自動化の詳細	**名前**: [**管理**] > [**自動化設定**] で定義した自動化の名前。 **フローUUID**: Configuration Managerによって使用されている Operations Orchestration インスタンスを一意に識別する、Operations Orchestration インスタンスの名前。 **フローパス**: Operations Orchestration でのフローのフルパスと元の名前。 **詳細**: [**管理**] > [**自動化設定**] で定義した自動化の説明。

UI要素	詳細
自動化	実行できる自動化のリストを表示します。[**自動化**] > [**自動化設定**] からインポートすると、自動化が表示されます。詳細については、「次からのフローのインポート：Operations Orchestration」(231ページ)を参照してください。 表示される自動化は、[ビューの調査] ページの [複合CI] 表示枠で選択したCIタイプに関連しています。
実行パラメーター	フローの実行に必要な実行パラメーターを示します。必須フィールドには赤のアスタリスクが付いています。 **注：** Configuration Managerでは、必要な実行パラメーター値が構成されていない自動化を実行することはできません。 • コントロールされない自動化を実行する場合、必須パラメーターを構成しないと、[**自動化の実行**] ボタンは無効です。 • コントロールされた自動化を実行する場合、必須パラメーターを構成しないと、[**次へ**] ボタンは無効です。
実行タイプ	[**管理**] > [**自動化設定**] で、コントロールされた自動化として定義されているか、コントロールされない自動化として定義されているかを表示します。
[次へ] / [実行]	• このボタンは、コントロールされた自動化では [**次へ**] と表示されます。このボタンをクリックすると、自動化プランナーが表示されます。 • このボタンは、コントロールされない自動化では [**実行**] と表示されます。必須フィールドが入力されていない場合、このボタンは無効です。 コントロールされない自動化を実行した場合、ウィンドウが開き、次のメッセージが表示されます。自動化の実行中です。詳細なレポートを表示するにはここをクリックしてください。**ここ** の部分はリンクになっており、クリックすると、Operations Orchestration が開いて自動化結果レポートが表示されます。

[自動化プランナー] ページ

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

重要情報	このページを使用できるのは、コントロールされた自動化を実行している場合のみです。 次の表示枠があります。 • 「[自動化実行] ダイアログボックス」(87ページ) • 「[自動化実行] ダイアログボックス」(87ページ) • 「[自動化分析] > [インパクト - <ステータス>] 表示枠」(91ページ) • 「[自動化分析] > [自動化] 表示枠」(93ページ) • 「[自動化分析] > [衝突] 表示枠」(94ページ)

[実施の詳細] 表示枠

この表示枠では、自動化の開始予定日時を設定できます。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
予想終了時刻	自動化プロセスの終了が予想される時刻を表示します。 予想終了時刻の上にポインターを置くと、自動化プロセスの予想時間がツールチップに表示されます。自動化を初めて実行するときの時間は10分です。 自動化を初めて実行した後、Configuration Managerは個々の自動化にかかった平均時間を計算して安全バッファーを足し、時間を更新します。
フローのプロパティ	自動化パラメーターを表示します。 **注：** 必要な実行パラメーターを削除すると、[**OK**] ボタンが無効になります。
計画開始時刻	カレンダーを使用して、自動化の実行を開始する日時を設定できます。デフォルトの現在の日時を使用するか、将来の日付を選択して自動化が後で実行されるように再スケジュールできます。 将来の日付を選択すると、Configuration Managerは [自動化プランナー] ページのすべての自動化分析およびポリシー情報を再計算します。

[ポリシー] 表示枠

この表示枠では、自動化ポリシーモジュールで定義したポリシーのステータスを表示できます。

関連情報	「ポリシー」(182ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
◀ ▶	ポリシー詳細の表示/非表示を切り替えることができます。ポリシー名にポインターを置いて ▶ をクリックすると、[**管理**] > [**ポリシー**] > [**自動化ポリシー**] に定義されているポリシー情報が表示されます。詳細については、「[自動化ポリシー] ページ」(238ページ)を参照してください。 • **詳細**: ポリシーの説明。 • **関連するビュー**: ポリシーに割り当てられているビュー。 • **関連するCIタイプ**: ポリシーが関連付けられているCIタイプ。 • **制限**: ポリシーに定義されている条件。 ◦ **条件のタイプ**: オプションは [**関連する自動化**]、[**関連するCI**] です。 ◦ **条件**: このポリシーに定義されている自動化/CI条件。 ◦ **自動化分析**: その制限に定義されている条件値。このポリシーに対して定義されているすべての条件に自動化が適合する場合のみ、ポリシー違反となります。 ◀ をクリックすると、ポリシー詳細が非表示になります。
<自動化ポリシーリスト>	自動化ポリシーモジュールで定義した自動化ポリシーのリストを表示します。各ポリシーの違反または適合が判断されます。 自動化がこのポリシーに定義されているすべての条件を満たしてはいないことを示します。 自動化がこのポリシーに定義されているすべての条件を満たしていることを示します。 違反によってIT環境にリスクが発生しないことがわかっている場合は、ポリシー違反を無視して自動化を実行できます。違反がクリティカルな場合は、自動化を実行しない決定も可能です。また、自動化が後で実行されるように再スケジュールすることもできます。 たとえば、違反ポリシーの定義により、最終実行からの経過時間が1か月を超える自動化で違反が発生する場合、サーバーダウンタイムが発生する違

UI要素	詳細
	反とは異なるため、これによるリスクはないと判断することがあります。 **注：** Configuration Managerでは、自動化ポリシーへの違反があっても自動化を実行できます。

[自動化分析] > [インパクト - <ステータス>] 表示枠

この表示枠には、自動化の影響分析の計算結果を表示する方法があります。この表示枠には、自動化の影響を受けたビジネスおよびシステムCIが表示されます。これには、影響を受けたビジネスまたはシステムCIの一般情報と、自動化のインパクト重大度インジケーターが含まれます。

重要情報	表示枠のタイトルは、分析時に自動化がCIに与える影響を計算する際に、[**実際**] または [**認証済み**] のどちらかのステータスのビューのCIを対象にするかを示します。デフォルトでは [**実際**] です。 ビューを管理するステータスを選択するには、[**管理**] > [**設定**] > [**アプリケーション管理**] > [**インパクト**] に移動します。
関連情報	• 「ポリシー」(182ページ) • 「影響分析」(80ページ) • 「データ管理 - 実際のステータスと認証済みのステータス」(17ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
ビジネス上の重要性が最高のCI	自動化によるインパクトを受けたCIのうち、ビジネス上の重要性レベルが最大のCIを表示します。 ビジネス重要度の属性は、Universal CMDB で定義されます。ここでは、重要度レベルがビジネスCIに割り当てられます。各CIには、1 ～ 10の重要度レベルを割り当てることができます。 Universal CMDB におけるCIのビジネス上の重要性レベルは、次のようにマッピングされています。 • Universal CMDB の0 ～ 2 ---> Configuration Managerの [**低い**] • Universal CMDB の3 ～ 5 ---> Configuration Managerの [**中**] • Universal CMDB の6 ～ 8 ---> Configuration Managerの [**高い**] • Universal CMDB の9 ～ 10 ---> Configuration Managerの [**最高**]

UI要素	詳細
	ビジネス上の重要性レベルは次のアイコンで示されます。 最高 高い 中 低い ドリルダウン矢印 をクリックすると、ビジネス上の重要性レベルが最大のCIのリストを含む表が表示されます。この表には、各CIの**CI名**、**CIタイプ**、**インパクトの重大度**レベル、**ビジネス上の重要性**レベルがあります。 CIのインパクト重大度およびビジネスクリティカル度レベルを示すツールチップは、重大度およびクリティカル度のアイコンにポインターを置くと表示されます。 この矢印 をクリックすると、表が非表示になります。
ビジネスCIの合計数	自動化のインパクトを受けたビジネスCIの合計数を表示します。 ドリルダウン矢印 をクリックすると、インパクトを受けたビジネスCIのリストを含む表が表示されます。この表には、各CIの**CI名**、**CIタイプ**、**インパクトの重大度**レベル、**ビジネス上の重要性**レベルがあります。 インパクトの重大度レベルを示すアイコンの詳細については、この表の[**インパクトの重大度が最悪のCI**]を参照してください。 CIのインパクト重大度およびビジネスクリティカル度レベルを示すツールチップは、重大度およびクリティカル度のアイコンにポインターを置くと表示されます。 この矢印 をクリックすると、表が非表示になります。
システムCIの合計数	自動化のインパクトを受けたシステムCIの合計数を表示します。 ドリルダウン矢印 をクリックすると、インパクトを受けたCIのリストを含む表が表示されます。この表には、各CIの**CI名**、**CIタイプ**、**インパクトの重大度**レベルがあります。 CIのインパクトの重大度を示すツールチップは、重大度のアイコンにポインターを置くと表示されます。 この矢印 をクリックすると、表が非表示になります。
インパクトの重大度が最悪のCI	インパクトを受けたビジネスCIのうち、インパクトの重大度が最悪のCIを表示します。 インパクトの重大度レベルは次のアイコンで示されます。

UI要素	詳細
	最高 高い 中 低い 最低 ドリルダウン矢印 をクリックすると、インパクトの重大度レベルが最高のビジネスCIのリストを含む表が表示されます。この表には、各CIの **CI名**、**CIタイプ**、**インパクトの重大度**レベル、**ビジネス上の重要性**レベルがあります。 CIのインパクト重大度およびビジネスクリティカル度レベルを示すツールチップは、重大度およびクリティカル度のアイコンにポインターを置くと表示されます。 この矢印 をクリックすると、表が非表示になります。

[自動化分析] > [自動化] 表示枠

この表示枠には、過去の自動化の実行に関する一般情報が表示されます。

重要情報	コントロールされた自動化とコントロールされない自動化について統計が計算されますが、[自動化分析] > [自動化] 表示枠に表示されるのは、コントロールされた実行の統計のみです。
関連情報	「ポリシー」(182ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
構成変更の原因	自動化によって Universal CMDB のCIの変更が発生するかどうかを指定します。
ダウンタイムの原因	管理された自動化によって実行中にCIが使用できない状態になるかどうかを指定します。
実行率	この自動化の実行成功率および失敗率を表示します。成功率は緑で表示されます。失敗率は赤で表示されます。

UI要素	詳細
予想される期間	自動化プロセスの予想時間を表示します。自動化を初めて実行するときの予想時間は10分です。 自動化を初めて実行した後、Configuration Managerは個々の自動化にかかった平均時間を計算して安全バッファーを足し、時間を更新します。
最終実行日時	前回の自動実行の日時または日付を表示します。 • 自動化が過去48時間に実行された場合、日付と時刻の両方が表示されます。 • 現在から48時間以上前に実行された場合は、日付のみが表示されます。
実行回数	自動化が実行された回数を表示します。
リスク評価	管理された自動化のリスクレベルを表示します。有効な値： • 不明 • なし • 低い • 中 • 高い
成功した連続実行数	自動化の実行が連続して成功した回数を表示します。

[自動化分析] > [衝突] 表示枠

この表示枠には、自動化の衝突原因の詳細が表示されます。

関連タスク	「コントロールされた自動化またはコントロールされていない自動化の実行」(82ページ)
関連情報	• 「自動化の衝突」(80ページ) • 「変更要求」(29ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
<衝突が存在する>	自動化が別の自動化/RFCと衝突しているかどうかを示します。 衝突が発生するのは、共通のCIが、実行機関が重なる複数の自動化/RFCの影響を受けた場合です。

UI要素	詳細
<衝突が存在しない>	衝突は次の条件を満たす自動化によって発生します。 • Configuration Managerで現在実行中、または実行がスケジュールされている他の自動化と衝突している または • Micro Focus Service Managerで現在実施されている、または実施がスケジュールされているRFCと衝突している
CIの合計衝突数	衝突に関わり、影響を受けやすいすべてのビジネスCIおよびシステムCIを表示します。 ドリルダウン矢印 をクリックすると、衝突に関わったCIのリストを含む表が表示されます。表には **CI名**、**CIタイプ**、**衝突タイプ**が示されます。 次のアイコンは衝突タイプを示します。 **直接衝突**：ビジネスCIおよびシステムCIは衝突の影響を直接受けます。 **間接衝突：** ビジネスCIおよびシステムCIは衝突の影響を間接的に受けます。 衝突タイプのアイコンの上にマウスを置くと、CIの衝突タイプを示すツールチップが表示されます。 **システムCIに関する注記：** トップレベル(複合)CIのみが表示されます。 衝突している自動化が原因となって複数のCIで衝突が発生する場合、その重大度は最高のものとして決定されます。 矢印 をクリックすると、表が非表示になります。
衝突しているアクティビティの合計数	• **衝突している自動化：** Configuration Managerで実行中、または実行がスケジュールされている、衝突している自動化の合計数を示します。 • **衝突しているRFC：** Configuration Managerは、Micro Focus Service Managerで発生したUniversal CMDB変更要求(RFC)をインポートします。RFCは、それぞれが1つ以上のCIに関連付けられています。 衝突しているRFCは、Configuration Managerで現在実行中、または実行がスケジュールされている自動化のうち、Micro Focus Service Managerで現在実行中、または実行がスケジュールされているRFCと衝突するものの合計数を示します。 Configuration ManagerがRFCを受け取る方法の詳細については、「変更要求」(29ページ)を参照してください。

ベースラインポリシーウィザード

ベースラインポリシーウィザードでは、特定のビューに基づいて、CIをゴールドマスターとして定義するベースラインポリシーを作成できます。

このウィザードでは、ビューの調査モジュールでCIを選択し、選択したCIをビューにおける同じタイプのすべてのCIに対するゴールドマスターとして使用することができます。ウィザードを閉じるとすぐに結果のポリシーが計算され、ビューの調査モジュールが更新されます。

> **注：** ベースラインポリシーを作成するには、ポリシー管理権限および書き込み権限が必要です。

利用方法	ビューの調査モジュールで をクリックします。
重要情報	選択したビューには、ウィザードを有効にするために、1つ以上のCIが含まれていなければなりません。
関連タスク	「ベースラインポリシーまたはトポロジポリシーの定義」(185ページ)
ウィザードマップ	「ベースラインポリシーウィザード」には次のページが含まれています。 「[ベースライン定義] ページ」 > 「[ポリシー詳細] ページ」
関連情報	「ポリシーの概要」(182ページ)

[ベースライン定義] ページ

このページでは、ベースラインに使用されるCIタイプとその属性を指定できます。

標準設定では、ウィザードを開いた際に選択されたCIのCI構造と属性値は、ベースラインで使用されるように指定されています。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
<CIタイプのリスト>	選択したCIタイプと属性がマークされた状態で、全体的な複合CI構造が表示されます。 をクリックすると、ベースライン定義にその他のCIタイプを追加できます。ベースライン定義に含める属性について、属性の横にあるチェックボックスを選択します。各属性に対して、次の項目を指定できます。 • 含めるか除外するか（[**Not**] 列）

UI要素	詳細
	• 必要な演算子（[**演算子**] 列） • 特定の属性値（[**属性値**] 列） をクリックすると、ベースライン定義からCIタイプを削除できます。

[ポリシー詳細] ページ

このページでは、ベースライン定義の名前と説明を入力します。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
名前	ベースラインポリシーに割り当てる名前。
詳細	(任意指定) ベースラインポリシーの簡単な説明。

[CI詳細] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、選択したCIの詳細情報を表示します。

利用方法	[**複合CIの詳細の表示**] をクリックするか、[複合CI] 表示枠または [トポロジ] 表示枠でCIをダブルクリックします。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
	次の相違： リスト内にある次の複合CIに移動します。
	[属性] タブでは、選択したCIの属性すべての表示と、管理属性のみの表示を切り替えることができます。
[属性] タブ	左の表示枠にCI名が表示されます。複合CIの場合は、CIエントリを展開して個々のコンポーネントCIを表示できます。 右の表示枠には、このCIの属性名と値が表示されます。
[内向きの関係] タブ	選択したCIについて、内向きの関係をすべて表示します。 複合CIの場合は、CIエントリを展開して個々のコンポーネントCIを表示でき

UI要素	詳細
	ます。コンポーネントCIを1つ選択すると、[内部関係パス詳細] 表示枠がダイアログボックスの下に開き、関係の詳細情報が表示されます。
[外向きの関係] タブ	選択したCIについて、外向きの関係をすべて表示します。 複合CIの場合は、CIエントリを展開して個々のコンポーネントCIを表示できます。コンポーネントCIを1つ選択すると、[内部関係パス詳細] 表示枠がダイアログボックスの下に開き、関係の詳細情報が表示されます。

[新規RFCの作成] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、特定のCIに関するRFCを作成します。この変更はService Managerで検証されます。

利用方法	CIを1つ以上選択し、ビューの調査モジュールの [複合CI] 表示枠にある をクリックします。[**続行**] をクリックします。
重要情報	タイトルを入力し、作成中のRFCの関連情報を選択します。 [**送信**] をクリックすると、RFCが作成されるので、手動で選択したCIに関連付けます。
関連タスク	「特定CIのRFCを作成」(85ページ)
関連情報	「Service Manager」(224ページ) 「変更要求」(29ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
影響を受けるCI	[複合CI] 表示枠で承認を得るためにマークされた変更のリストです。
カテゴリ	表示されるカテゴリ値のリスト ([設定] モジュールで設定) からカテゴリを選択します。詳細については、「RFC作成」(223ページ)を参照してください。
詳細	CIと、各CIで実行する必要がある必須アクションのリストです。
影響	表示される値のリスト ([設定] モジュールで設定) から、変更が及ぼす影響の最大範囲を選択します。詳細については、「RFC作成」(223ページ)を参照してください。
要求終了日	RFCの実行期限となる日付です。

UI要素	詳細
リスク評価	表示される値のリスト（[設定] モジュールで設定）から、変更されたCIのリスクレベルを選択します。詳細については、「RFC作成」(223ページ)を参照してください。
サービス	CIで利用可能なサービスのリストです。
タイトル	RFCのタイトルを入力します（たとえば、要求された変更の短いサマリー）。
緊急度	表示される値のリスト（[設定] モジュールで設定）から、CIの変更の緊急度レベルを選択します。詳細については、「RFC作成」(223ページ)を参照してください。

[ポリシー修復用のRFCの作成] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、構成ポリシーに違反するCIを修復するRFCを作成します。この違反はService Managerで検証されます。

利用方法	ポリシー違反があるCIを1つ以上選択し、ビューの調査モジュールの [複合CI] 表示枠にある をクリックします。ポリシーを選択し、[**続行**] をクリックします。
重要情報	タイトルを入力し、ポリシーを修復するために作成中のRFCの関連情報を選択します。 [**送信**] をクリックすると、RFCが作成されるので、手動で選択したCIに関連付けます。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
影響を受けるCI	[複合CI] 表示枠で承認を得るためにマークされた変更のリストです。
カテゴリ	表示されるカテゴリ値のリスト（[設定] モジュールで設定）からカテゴリを選択します。詳細については、「RFC作成」(223ページ)を参照してください。
詳細	CIと、各CIで実行する必要がある必須アクションのリストです。 CIを1つ選択した場合は、自動生成される説明が表示されます。
影響	表示される値のリスト（[設定] モジュールで設定）から、変更が及ぼす影響の最大範囲を選択します。詳細については、「RFC作成」(223ページ)を参照してください。
要求終了日	RFCの実行期限となる日付です。

UI要素	詳細
リスク評価	表示される値のリスト（[設定] モジュールで設定）から、変更されたCIのリスクレベルを選択します。詳細については、「RFC作成」(223ページ)を参照してください。
サービス	CIで利用可能なサービスのリストです。
タイトル	RFCのタイトルを入力します（たとえば、要求された変更の短いサマリー）。
緊急度	表示される値のリスト（[設定] モジュールで設定）から、CIの変更の緊急度レベルを選択します。詳細については、「RFC作成」(223ページ)を参照してください。

[ビューの調査] ページ

このページでは、実際のステータスまたは認証済みのステータスのビューのスナップショットが表示されます。

利用方法	[**エクスプローラー**] > [**ビューの調査**] を選択します。
重要情報	[ビューの調査] ページには次の表示枠やタブがあります。 • **[複合CI] 表示枠：** CIを一覧表示し、各CIにポリシーステータスをアイコンで表示します。 • **[トポロジ] 表示枠：** CIをトポロジマップで表示し、各CIのポリシーステータスをアイコンで表示します。トポロジマップ内の各ノードには、名前、CIタイプ、管理ステータス、ポリシーステータス、選択したCIに関連するRFCが存在するかどうかが表示されます。 > **注：** インベントリモードでの [トポロジ] 表示枠は、[**関連CI**] と呼ばれます。 • **[ポリシー詳細] タブ：** 選択したCIについて、ポリシーの適合と違反の詳細を表示します。 • **[コントロールされた自動化] タブ**：現在実行中のコントロールされた自動化と、将来の実行がスケジュールされた自動化を表示します。 • **[フィルター] 表示枠：** インベントリモードでは、[フィルター] 表示枠で複合CIリストをフィルターできます。 [複合CI] 表示枠と[トポロジ] 表示枠は相互に連携しています。一方の表示枠でCIを選択すると、もう一方でも自動的に選択されます。
関連タスク	• 「コントロールされた自動化またはコントロールされていない自動化の実行」(82ページ) • 「ポリシー違反を修正するためのRFCの作成」(84ページ)

	• 「特定CIのRFCを作成」(85ページ) • 「複合CIの折りたたみルールの設定」(85ページ) • 「外部アプリケーションの起動」(85ページ)
関連情報	「ビューの調査の概要」(79ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
	ビューの選択： 別のビューを選択して [ビューの調査] ページで開くことができます。
	表示をインベントリモードに変更： 選択したビューの表示をインベントリモードに変更します。
	表示をトポロジモードに変更： 選択したビューの表示をトポロジモードに変更します。
状態： 実際のステータス 実際のステータス 認証済みのステータス	表示するビューのステータスを選択できます。 • **実際のステータス:** ビューの実際のステータスに含まれるCIと関係をすべて表示します。 • **認証済みのステータス:** ビューの認証済みのステータスに含まれるCIと関係をすべて表示します。
	スナップショットの選択： [表示するスナップショットの選択] ダイアログボックスを開きます。ここでは、ビューの保存済みのスナップショットを選択できます。
	コメントの編集： 選択したスナップショットのコメントを編集できます。 **注：** 255文字より長いコメントをスナップショットに追加することはできません。
	レポートのエクスポート： ポリシー分析レポートのデータをエクスポートする形式を選択できます。次のオプションを選択できます。 • **Excel:** テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる .XLS (Excel) ファイル形式に整形されます。 • **PDF:** テーブルのデータは、PDF形式でエクスポートされます。 • **CSV:** テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り (CSV) テキストファイル形式に整形されます。 レポートへの出力の生成時には、現在適用されているフィルターが考慮されます。
	更新： CIリストを更新します。

[複合CI] 表示枠

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
	複合CIのソート： [CIのソート] ダイアログボックスが開きます。ここでは、さまざまなソートフィールドでCIリストをソートできます。
	複合CIの詳細の表示： [CI詳細] ダイアログボックスを開きます。ここでは、選択したCIの管理対象属性が表示されます。詳細については、「[CI詳細] ダイアログボックス」(97ページ)を参照してください。
	選択したCIを使用して、このタイプのすべてのCIのゴールドマスターになる： ベースラインポリシーを作成できます。詳細については、「ベースラインポリシーウィザード」(96ページ)を参照してください。
	ポリシー違反を修復するRFCを作成： 選択した変更のポリシー違反を修復するRFCを作成できます。
	強調表示されたCIのRFCを作成： 強調表示されているCIに対するRFCを作成できます。
	選択したCIをUCMDB Browserで調査： 選択したCIのコンテキストでUCMDB Browserモジュールが開きます。
起動	**起動：** 選択したCIまたはビューのコンテキストで開く外部アプリケーションを選択できます。外部アプリケーションを選択するには をクリックします。[設定] ページで、表示するURLを指定する必要があります。詳細については、「UI統合」(226ページ)を参照してください。
	自動化の実行： [自動化実行] ダイアログボックスが開きます。ここでは、コントロールされた、またはコントロールされない自動化を実行できます。
	現在、CIが1つ以上のポリシーに違反していることを示します。
	現在、CIがすべてのポリシーに適合していることを示します。
	このCIに関連する1つ以上の変更要求 (RFC) があることを示します。
<CIのリスト>	ビュー内の現在または以前のCIすべてが表示されます。 リスト内のCIの上にポインターを置くと、CIの名前とタイプを含んだツールチップが表示されます。 CIの横にアイコンがない場合、そのCIにはポリシーが定義されていないことを示します。

[トポロジ] 表示枠

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
	トポロジ概要を表示： トポロジ概要表示の表示/非表示を切り替えます。
	凡例： トポロジ表示におけるノード間の接続の説明を表示します。
	レイヤーレイアウト： CIをレイヤーごとにまとめてトポロジマップを表示します。
	階層レイヤーレイアウト： CIをレイヤーの階層ごとにまとめてトポロジマップを表示します。
	分類レイアウト： CIを分類ごとにまとめてトポロジマップを表示します。
	[円形レイアウト]円形レイアウトでトポロジマップを表示します。
	トポロジマップをズームインまたはズームアウトできます。
	ウィンドウに合わせる： トポロジマップのサイズを [トポロジ] 表示枠のサイズに合わせて変更します。
	トポロジノードを強調表示： 実際のステータスのノードのみ、認証済みのステータスのノードのみ、または両方のステータスのノードを強調表示するかどうかを指定します。
	トポロジマップを全画面表示： トポロジマップを [トポロジ表示] ボックスに表示します。
<トポロジ概要表示>	[トポロジ概要表示] は、表示枠の右上隅に表示されます。[トポロジ] 表示枠のどの部分にトポロジマップを表示するかを示します。これは大型表示の場合、または表示をズームインする場合に有効です。 ノードでポリシーステータスインジケーターをクリックすると、そのCIのポリシー詳細情報 (ポリシー名、ポリシーのソース、そのポリシーに選択したCIのステータスを含む) が表示されます。

[ポリシー詳細] 表示枠

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
	[ポリシー詳細] ダイアログボックスを開きます。 **注:** このボタンは、ポリシーリストでベースラインルールを選択しないと表示されません。
[詳細] 表示枠	[ポリシーリスト] 表示枠で選択したポリシールールの詳細 (ルールの名前、説明、タイプ、検証日など) が表示されます。
[ポリシーリスト] 表示枠	選択したCIで定義されているポリシールールがすべて表示されます。各ルールについて、名前、ポリシーのソース、選択したステータスの状態、関連CIが表示されます。

[コントロールされた自動化] タブ

このタブは、現在実行中のコントロールされた自動化と、将来の実行がスケジュールされた自動化を表示します。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
[計画されているコントロールされた自動化] 表示枠	将来の日付で実行がスケジュールされているすべての自動化を表示します。自動化の実行が開始された後は、[Recent Automations (最近の自動化)] 表示枠に表示されます。 それぞれの自動化について、次のデータがあります。 • **自動化の名前。** • **自動化の開始日時と予想される期間。** • **キャンセル**: クリックすると、計画されている自動化をキャンセルできます。自動化をキャンセルすると、 アイコンが表示されます。自動化は、スケジュールされてた開始日時に [最近のコントロールされた自動化] 表示枠に表示され、スケジュールされた実行開始日時の24時間後に表示されなくなります。
[最近のコントロールされた自動化] 表示枠	過去24時間に実行したすべての自動化を表示します。実行開始後24時間経った自動化は、この表示枠には表示されません。

UI要素	詳細
	それぞれの自動化について、次のデータがあります。 • **自動化の名前。**自動化の名前は、Operations Orchestration のフロー実行レポートへのリンクになっています。 • **自動化の開始日時と期間。** ◦ 自動化の実行が開始された日時と期間 (自動化の実行が完了している場合)。 ◦ 自動化の実行が開始された日時と予想される期間 (自動化がまだ実行中の場合)。 • **自動化ステータスを示すアイコン:** **不明**: ステータスデータが使用できないか、Operations Orchestration で示されているステータスをシステムが認識できないことを示します。このアイコンは自動化を初めて実行したときに表示され、Operations Orchestration から更新ステータスを受け取ると置き換えられます。 **実行中:** 自動化の実行中です。 **成功:** 自動化の実行が成功しました。 **成功 (問題あり):** 自動化の実行が成功しましたが、問題が発生しました。 **失敗:** 自動化が失敗しました。 **キャンセル済み:** 自動化がキャンセルされました。 **エラー:** 一般エラーを示します。たとえば、Operations Orchestration に接続せずに自動化を実行した場合に発生します。

[フィルター] 表示枠

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
変更されたCI	変更ステータスに基づいてCIをフィルターします。[**はい**] を選択すると、変更のあるCIのみがビューに表示されます。[**いいえ**] を選択すると、変更のないCIのみがビューに表示されます。 **利用可能な対象:** モジュールの検証/承認

UI要素	詳細
CI名	CI名に基づいてCIをフィルターします。選択したCIのみがビューに表示されます。 値ボックスにCI名を手動で入力するか、[**詳細...**] をクリックしてダイアログボックスを開き、リストからCIを選択します。
CIタイプ	CIタイプに基づいてCIをフィルターします。選択したCIタイプのCIのみがビューに表示されます。 [**詳細...**] をクリックしてダイアログボックスを開き、リストから利用可能なCIタイプを選択できます。
RFCあり	選択されたCIにRFCが関連付けられているかどうかに従ってフィルターします。 **利用可能な対象：** モジュールの検証/承認
管理ステータス	管理ステータスに基づいてCIをフィルターします。選択したステータスのCIのみがビューに表示されます。 [**管理対象**] または [**非管理**] を選択します。
ポリシー名	それぞれのポリシー名に基づいてCIをフィルターします。選択したポリシーの適用対象となるCIのみがビューに表示されます。 [**詳細...**] をクリックしてダイアログボックスを開き、リストから利用可能なポリシーを選択できます。
ポリシーステータス	それぞれのポリシーステータスに基づいてCIをフィルターします。選択したステータスのCIのみがビューに表示されます。 [ポリシー名] フィールドでポリシーを指定しないと、ビュー内のCIに割り当てられるすべてのポリシーに選択したポリシーステータス条件が適用されます。指定した場合は、名前で指定されたポリシーに対してのみ、選択したポリシーステータス条件が適用されます。 [**違反**] または [**適合**] を選択します。
関連RFC	特定のRFCタイトルに基づいてCIをフィルターします。 [**詳細...**] をクリックしてダイアログボックスを開き、リストから関連するRFC値を選択できます。 **利用可能な対象：** モジュールの検証/承認

[ポリシー詳細] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、ベースラインポリシールールに関するCIのポリシー違反の詳細情報が表示されます。

利用方法	下部表示枠の [ポリシー詳細] タブにある [**スナップショットのポリシー詳細の表示**] ボタンをクリックします。
重要情報	[ポリシー詳細] ダイアログボックスが開くのは、ベースラインポリシーが適用されたCIを選択した場合のみです。このダイアログボックスには、選択したステータス (実際または認証済み) のポリシーの詳細情報が表示されます。

以下では、使用されるインターフェイス要素について説明します。

UI要素	詳細
	選択したCIについて、すべての属性の表示と違反した属性のみの表示を切り替えます。
	リスト内で、次の違反に移動します。
<左の表示枠>	CIの名前とベースラインが表示されます。複合CIの場合は、矢印をクリックして展開し、コンポーネントCIを表示します。ベースライン値のあるCIについては、ポリシー違反かどうかがアイコンで表示されます。 **注：** CIの属性の中で違反しているものが1つでもある場合や、ベースライン内のCIと一致しない場合、そのCIはポリシー違反とみなされます。
<右の表示枠>	左の表示枠で選択したCIについて、属性の名前と値、およびベースライン値が表示されます。ベースライン値が指定されている属性については、アイコンによって、選択したCIがその属性に関してポリシーに違反しているかどうかが示されます。

[ポリシールールの選択] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、修復する違反ポリシーを選択します。

利用方法	[複合CI] 表示枠の [**ポリシーの修復**] ボタンをクリックします。
関連タスク	「ポリシー違反を修正するためのRFCの作成」(84ページ)
関連情報	「Service Manager」(224ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
ポリシー名	ドロップダウンリストから修復対象の違反ポリシーの名前を選択します。選択したポリシーに違反しないCIは破棄されます。
ポリシーに違反するすべてのCIの選択	[複合CI] 表示枠で選択されていない場合でも、選択したポリシーに違反するすべてのCIを含めるようにチェックボックスを選択します。

[表示するスナップショットの選択] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、表示するスナップショットを選択します。

利用方法	ツールバーで、スナップショットの選択ボックスのいずれかをクリックします。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
<カレンダー>	カレンダーで日付を選択します。
<スナップショットのリスト>	リストには、選択した日付に、選択したビューで取得された、すべてのスナップショットが表示されます。
Authorized By	スナップショットを承認したユーザーの名前が表示されます。 リストをフィルターし、選択したユーザーによって承認されたスナップショットのみを表示するには、ドロップダウンリストを使用します。 [**作成者**] フィールドには、ユーザー「Internal Process」が表示されることがあります。これは、内部Configuration Managerのプロセスによって (ユーザーではない) 承認が実行され、次のいずれかの状況で発生したことを意味します。 • ビューが管理され、いくつかのCIが承認された最初のとき。 • ユーザーがポリシーを追加したとき。 • いくつかのCIを選択したビューと共有する別のビューでユーザーが承認を実行したとき。 **注：** このフィールドは、承認状態のスナップショットの場合にのみ表示されます。
変更の詳細	スナップショットの簡単な説明です。
コメント	スナップショットに関する注記です。
作成日時	スナップショットを取得した日時です。

[CIのソート] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、[複合CI] 表示枠のCIリストをソートします。

利用方法	[**複合CIのソート**] ボタンを [複合CI] 表示枠のツールバーでクリックします。
重要情報	CIをソートした後に [**更新**] ボタンをクリックすると、変更内容が有効になります。

以下では、使用されるインターフェイス要素について説明します。

UI要素	詳細
	[利用可能なソートフィールド] 表示枠から [選択したソートフィールド] 表示枠に、すべてのフィールドを移動します。
	[利用可能なソートフィールド] 表示枠から [選択したソートフィールド] 表示枠に、選択したフィールドを移動します。
	[選択したソートフィールド] 表示枠から選択したフィールドを削除します。
	[選択したソートフィールド] 表示枠からすべてのフィールドを削除します。
	選択したフィールドを [選択したソートフィールド] 内で上下に移動します。
	選択したフィールドごとに [**昇順**] または [**降順**] を選択すると、ソートの方向を変更できます。
利用可能なソートフィールド	CIをソートするフィールドとして選択可能なすべてのフィールド。
選択したソートフィールド	CIをソートするフィールドとして選択したフィールド。リスト内の順序に基づいてソートされます。

トポロジページ

このページでは、トポロジマップを大きな領域に表示します。

利用方法	[**トポロジマップを全画面表示**] ボタンを [トポロジ] 表示枠のツールバーでクリックします。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
<トポロジ表示枠のツールバーボタン>	[トポロジ] 表示枠のツールバーボタンは、[トポロジの表示] ダイアログボックスにもあります。詳細については、「[トポロジ] 表示枠」(103ページ)を参照してください。

トラブルシューティング – Explore Views

- **問題**: RFCを作成するためのボタンが無効化されている。

  考えられる理由:

  - アクティブ化された構成に対する変更管理統合が無効になっている。
  - 変更管理統合が定義されているか、保存されているか、アクティブ化されている状況で、ユーザーがConfiguration Managerに再度ログインしなかった。

  解決策: 次の操作を実行します。

  a. **[管理] > [統合] > [変更管理]** に移動します。統合を設定するには、チェックボックスをオンにして、Service Managerの構成の詳細情報を入力します。

  b. 構成内容を保存してアクティブ化します。

  c. 変更内容を有効にするには、いったんログアウトして再度ログインします。

- **問題:** RFCの作成に失敗する。

  - **理由1: [管理] > [統合] > [変更管理] > [Service Manager]** で、統合ユーザーに対して不正な資格情報が定義されていた。

    解決策1: Service Managerで、統合ユーザーが存在していることを検証します。必要に応じて、パスワードを更新します (詳細については、Service Managerのマニュアルを参照してください)。

  - **理由2:** ユーザーがService ManagerのWebサービスを呼び出すための適切な資格情報を持っていない。

    解決策2: この統合ユーザーに対して、SOAP APIを実行するための機能を有効にします (詳細は、Service Managerのマニュアルを参照してください)。

  - **理由3:** この統合のUNLファイルがService Managerに読み込まれていない。

    解決策3: UNLファイルがアップロードされているかを検出するには、次のService Manager URLを呼び出します。

<host>:<port example:13080>/sm/7/ucmdcm.wsdl

この呼び出しがXMLファイルを返す場合、webサービスはオンになり、UNLファイルがアップロードされたことを意味します。そうでない場合は、「Service ManagerへのUNLファイルのインポート」(134ページ)の指示に従ってください。

- **理由4:** 少なくとも次の不一致の1つが生じている状態でRFCが作成されている
  - サービスがService Managerに存在しない。
  - 1つまたは複数の選択したCIがService Managerに存在しない。
  - カテゴリ値がService Managerの有効な値と一致しない。
  - リスクアセスメントの値がService Managerの有効な値と一致しない。
  - インパクトの値がService Managerの有効な値と一致しない。
  - 緊急度の値がService Managerの有効な値と一致しない。

  解決策4: **[管理] > [アプリケーション管理] > [RFC] > [RFC作成]** で上記の不一致の可能性がある値をそれぞれ修正し、Service Managerでの対応する値と一致するようにします。設定に対する構成を反映するには、保存して、アクティブ化します。

- **問題:** Configuration ManagerがRFCを表示しない。

  > **ヒント:** 問題がUCMDBにあるのかService Managerにあるのかを特定するための最初の手順として、UCMDBですべてのRFCをService Managerから取得するTQLクエリを実行します。RFCが期待されていながらクエリの結果に表れない場合は、UCMDBとService Managerとの間の統合に何らかの問題があることになります。
  >
  > このTQLクエリを実行するには、次の手順を実行します。UCMDBにログインして **[モデリング] > [モデリングスタジオ] > [リソース]** タブに移動して([リソースタイプ] として [クエリ] を選択)**> [Configuration Manager] > [Configuration Manager – Do not modify] > [Generate RFC Queries]** で **amber_rfc_by_id** を実行します。

  - **理由1:** UCMDBとService Managerの間の統合ポイントが正しく構成されていないか存在しない。

    解決策1: UCMDBとService Managerとの間の統合をセットアップする方法の詳細については、UCMDBドキュメントを参照してください。

  - **理由2:** Configuration Manager設定のRFC変更フェースの値が、Service ManagerのRFCフェースの定義と一致しない。

    解決策2: Configuration Manager設定で、RFC変更フェーズのフィールドの値を有効な値(Service Managerで定義されたもの)に変更します。**[管理] > [アプリケーション管理] > [RFC] > [取得されるRFC基準] > [RFCフィルター]** に移動して設定を変更します。変更フェーズの

フィールドには、カンマ区切りで複数の値を含めることができます。設定に対する構成を反映するには、保存して、アクティブ化します。

- **理由3:** RFCが、RFCを取得するためのConfiguration Manager設定で定義された時間ウィンドウの条件を満たしていない。

  解決策3: RFCがConfiguration Manager設定の時間ウィンドウの条件に合致していることを確認するか、RFCが時間ウィンドウに合致するよう条件を変更します。設定に対する構成を反映するには、保存して、アクティブ化します。

- **理由4:** この統合のためにConfiguration Managerによって使用された統合ユーザーの日付と時間の形式が、Service Managerの対応するユーザーの形式と異なっている。

  解決策4: 定義されている時間の形式が両方のユーザーインスタンスで同じであることを確認します。Configuration Managerでは、日付形式の定義が **[管理] > [統合] > [変更管理] > [Service Manager] > [日付形式]** で見つかります。

第9章: ベースライン分析

本章の内容

ベースライン分析の概要 113
比較用の構成モデルの定義 114
ベースライン分析のユーザーインターフェイス 115

ベースライン分析の概要

ベースライン分析モジュールでは、管理ビューの複合CIを構成モデルと比較するための環境を作ることができます。構成モデルとは複合CIを記述したもので、トポロジ/階層、複合CIの属性を含んでいます。構成モデルは次のいずれかの方法で作成できます。

- 任意 (ユーザーが完全に自由にモデリング可能)
- 複合CIから作成 (その複合CIが実際にモデル比較の候補かどうかは無関係)
- ベースラインポリシーからインポート
- 類似する複合CIのグループに基づく

比較を行うと、この表示枠には複合CIごとにモデルとの一致率が棒グラフで表示されます。一致率は、トポロジおよび各複合CIの属性について、複合CIとモデルを比較することで決定されます。モデルCIで比較項目として属性が選択されていないと、モデルのトポロジのみに基づいて比較を行います。

CI階層のいずれかの属性がモデルの要件に適合しない場合、その複合CIはモデルに違反しているとみなされます。また、どのようなトポロジがモデルに適合しているとみなされるのかを、2つのオプションから選択できます。

- 複合CIのトポロジがモデルのトポロジと同じである場合
- 複合CIのトポロジにモデルのトポロジが含まれる場合

ベースライン分析モジュールの詳細については、「[ベースライン分析] ページ」(116ページ)を参照してください。

> **注:**

> - このモジュールを使用するには、**ビューCI** 権限が必要です。
> - 選択できるのは、**ビュー**権限、**CMでの認証**権限または**CMでの管理**権限があるCIのみです。

比較用の構成モデルの定義

このタスクでは、選択した複合CIと比較する構成モデルを定義する方法を説明します。

1. **[分析] > [ベースライン分析]** に移動します。次のいずれかの方法で、モデルを作成できます。
   - 類似するCIの特定のグループに基づいてモデルを作成するには、次の手順を実行します。
     - 複合CIを選択するビューのステータスを選択します。選択できるオプションは、[実際のステータス] または [認証済みのステータス] のいずれかです。
     - [**複合CIの追加**] をクリックし、[複合CIの追加] ダイアログボックスを開きます。比較するCIを含むビューを選択し、矢印を使用してCIを [選択したCI] 列に移動します。必要に応じて操作を繰り返してCIを追加し、完了したら [**OK**] をクリックします。選択したビューに含まれるCIが1,000を超える場合、一番上の矢印ボタンでCIを無作為に選択できます (最大1,000)。

       > **注:** [分析範囲] 表示枠でCIを選択してからモデルを作成する場合、選択したCIの中にモデルのタイプと一致しないCIタイプがあると、Configuration Managerによって自動的に削除されます。

     - [ベースライン分析] のメインツールバーで ベースラインの推奨 をクリックします。作成されたモデルは、範囲内のすべての複合CIに適合しようとします。

       > **注:** 選択したCIが十分でなかったり、属性または階層の差が大きすぎたりする場合、選択内容の変更が求められます。

   - 特定のCIタイプに基づいてモデルを作成するには、[構成モデル] ツールバーで をクリック (空のベースラインを作成) するか、[分析範囲] 表示枠でCIを選択して [構成モデル] 表示枠にドラッグ (完全指定のベースラインを作成) して、CIタイプを選択します。
   - 管理CI (必ずしも分析範囲内のCIとは限らない) に基づいてモデルを作成するには、[構成モデル] 表示枠で [**事前定義された構成の選択**] をクリックして、[**管理CIからモデルを作成**] を選択します。
   - ポリシーモジュールで作成したポリシーに基づいてモデルを作成するには、[構成モデル] 表示枠

で [**事前定義された構成の選択**] をクリックし、[**既存のベースラインポリシーからモデル定義を作成**] を選択します。

2. 属性の横のチェックボックスを選択すると、その属性が比較項目として追加されます。選択した属性の値を [属性値] 列、演算子を [演算子] 列に入力します。属性条件を定義するために使用される演算子のリストについては、「属性演算子」(196ページ)を参照してください。

3. メインツールバーで [**分析**] をクリックすると、比較が実行されます。

ベースライン分析のユーザーインターフェイス

本項の内容

[複合CIの追加] ダイアログボックス 115
[ベースライン分析] ページ 116
[比較詳細] ダイアログボックス 119
[ベースラインポリシーの選択] ダイアログボックス 120
[複合CIの選択] ダイアログボックス 120

[複合CIの追加] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、モデル定義で使用するCIを選択します。

利用方法	[**複合CIの追加**] を [分析範囲] 表示枠でクリックします。
重要情報	ビュー権限を持っているビューのみが表示されます。
関連タスク	「比較用の構成モデルの定義」(114ページ)
関連情報	「ベースライン分析の概要」(113ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
<CIのリスト>	左の表示枠にはCI名が表示されます。複合CIの場合は、CIエントリを展開して個々のコンポーネントCIを表示できます。 右の表示枠には、このCIの属性名と値が表示されます。

UI要素	詳細
フィルター	リストのCIをフィルターする文字列を入力します。
状態	[分析範囲] 表示枠で選択したCIの状態が表示されます。
ビュー	ドロップダウンリストからビューを選択します。

[ベースライン分析] ページ

このページでは、複合CIとの比較対象となる構成モデルを、管理ビューから作成します。

利用方法	[**分析**] > [**ベースライン分析**] を選択します。
重要情報	[ベースライン分析] ページには次の表示枠があります。 • 分析結果 • 分析範囲 • 構成モデル [構成モデル] 表示枠では、モデルを定義します。[分析範囲] 表示枠では、比較する複合CIを選択します。完了したら、[**分析**] をクリックすると比較を行います。 データを変更しても、分析結果は動的には更新されません。モデルまたは複合CIの選択を変更した場合は、[**分析**] をクリックして比較を再実行する必要があります。
関連タスク	「比較用の構成モデルの定義」(114ページ)
関連情報	「ベースライン分析の概要」(113ページ)

以下では、使用されるインターフェイス要素について説明します。

UI要素	詳細
	新しいモデルの作成: 新しい構成モデルを作成します。
	モデルを開く: 既存のモデルを選択して開くことができます。
	モデルの保存: 現在のモデルを保存します。
	モデルに名前を付けて保存: 現在のモデルを新しい名前で保存できます。

UI要素	詳細
詳細レベル	**詳細レベル:** 選択したCIへのモデルの適合をどれくらい厳密にするかを指定できます。次のスケールが表示されます。 簡略なモデル 0% 100% 詳細なモデル
ベースラインの推奨	**ベースラインの推奨**: 選択した詳細レベルに基づき、選択したCIからモデルを作成できます。
分析	**分析**: 比較を実行します。
	環境セグメント分析に戻る: セグメント分析モジュールに戻ります。

[分析結果] 表示枠

重要情報	分析の実行後、この表示枠の円グラフに、適合するCIの割合と、違反CIの適合度の内訳が表示されます。

[分析範囲] 表示枠

重要情報	この表示枠では、構成モデルとの比較対象となる複合CIを選択します。
関連情報	「[比較詳細] ダイアログボックス」(119ページ)

以下では、使用されるインターフェイス要素について説明します。

UI要素	詳細
	複合CIの追加: [複合CIの追加] ダイアログボックスを開きます。ここでは、複合CIを選択して分析範囲に追加できます。
	リストから複合CIを削除: 選択した複合CIを分析範囲から削除します。
	すべての複合CIを削除: すべての複合CIを分析範囲から削除します。
	比較詳細の表示: [比較詳細] ダイアログボックスを開きます。ここでは、ポリシーに違反しているCIの属性が表示されます。
<複合CI名>	分析範囲に含まれる管理CIの名前。

UI要素	詳細
類似性の結果	モデルとCIの類似レベルを棒グラフで表示します。
状態	複合CIが含まれるビューのステータスを選択します。 CIは、ビューの実際のステータスと認証済みのステータスの両方から選択できますが、比較は選択したステータスのみで実行されます。選択したビューのステータスのCIが存在しない場合、テキストが淡色表示になり、分析対象にはなりません。

[構成モデル] 表示枠

重要情報	この表示枠では、構成モデルを作成します。手順としては、モデルにCIタイプを追加し、選択した複合CIとの比較項目となる属性を選択します。

以下では、使用されるインターフェイス要素について説明します。

UI要素	詳細
	クリックすると、定義済みの構成を選択できます。 • **管理CIからモデルを作成:** 既存のCIを選択し、構成モデルとして使用できます。 • **既存のベースラインポリシーからモデル定義を作成:** ポリシーで定義済みの構成モデルを選択できます。
	構成モデルの作成: [構成モデルにCIタイプを追加] ダイアログボックスを開きます。ここでは、構成モデルに追加できるCIタイプのリストが示されます。CIカウント機能を使用すると、同じタイプのCIを複数追加できます。 **注:** CIは現在選択しているCIの下の階層に追加されます。
	選択したアイテムを構成モデルから削除: 選択したCIを構成モデルから削除できます。
	一致するCIの結果: 比較したCIが適合と違反に分類されます。
	属性が比較項目であることを示します。
	属性が比較項目であり、システムの照合アルゴリズムで順位が付けられていることを示します。
[属性名] 列	選択したCIタイプの属性名。
[属性値] 列	選択したCIタイプの属性の値。各属性の値を選択または入力してください。推奨値を表示するには、入力を開始するか下矢印キーを押します。

UI要素	詳細
CIタイプ	選択したCIタイプ。 モデルでは、同じタイプのCITを複数選択することができます。このモードは、**共通定義モード**と呼ばれます。このモードでは、選択したCITのうちの1つを変更すると、変更内容がすべてのCITに適用されます。
追加の内部CIを違反とみなす	[**追加の内部CIを違反とみなす**] を選択すると、この構成モデルと比較するCIに追加の内部CIが存在する場合、ポリシー違反とみなされます。
[一致するCIの結果] 列	適合CI、違反CI、欠落しているCIの数がCIタイプごとに棒グラフで表示されます。カーソルをグラフの上に置くと、割合 (%) がツールチップで表示されます。
[一致の結果] 列	モデル内で指定した属性値と一致する複合CIの数が、選択した属性ごとに割合 (%) で表示されます。
[演算子] 列	属性のベースライン値と実際値に必要な関係を定義する演算子を選択します。詳細については、「属性演算子」(196ページ)を参照してください。

[比較詳細] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、選択したCIの比較結果に関する詳細情報を表示します。

利用方法	[分析範囲] 表示枠にある [**比較詳細の表示**] をクリックします。
関連タスク	「比較用の構成モデルの定義」(114ページ)
関連情報	「ベースライン分析の概要」(113ページ)

以下では、使用されるインターフェイス要素について説明します。

UI要素	詳細
	すべてのCIとすべての属性の表示と、選択した複合CIに違反する属性とCIのみの表示を交互に切り替えます。
	現在の複合CI内の次の違反に移動します。
<左の表示枠>	CI名とCIそれぞれのモデルが表示されます。複合CIの場合は、矢印をクリックして展開し、コンポーネントCIを表示します。モデル値が指定されている各CIについては、アイコンによって、ポリシーに違反しているかどうかが示されます。 **注:** CIは、その属性の1つがポリシーに違反している場合やモデル内の

UI要素	詳細
	CIと一致しない場合に、ポリシー違反とみなされます。
<右の表示枠>	左の表示枠で選択したCIについて、属性の名前と値、およびベースライン値が表示されます。ベースライン値が指定されている属性については、アイコンによって、選択したCIがその属性に関してポリシーに違反しているかどうかが示されます。

[ベースラインポリシーの選択] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、モデル定義に使用するベースラインを持つ既存のベースラインポリシーを選択できます。

利用方法	[構成モデル] 表示枠で をクリックして、[**既存のベースラインポリシーからモデル定義を作成**] を選択します。
関連タスク	「比較用の構成モデルの定義」(114ページ)
関連情報	「ベースライン分析の概要」(113ページ)

以下では、使用されるインターフェイス要素について説明します。

UI要素	詳細
ポリシー名	モデルのベースラインに使用できる定義済みベースラインポリシーのリストを表示します。
ポリシーステータス	リストの各ポリシーについて、ポリシーに適合または違反するCIの割合を表示します。

[複合CIの選択] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、モデル定義で使用するCIを選択します。

利用方法	[構成モデル] 表示枠で をクリックし、[**管理CIからモデルを作成**] を選択します。
重要情報	モデル定義のために特定のCIを選択すると、範囲内のCIのタイプが選択したCIのタイプと一致しない場合、その範囲のCIは削除されます。 ユーザーがビュー権限を持っているビューのみが表示されます。

関連タスク	「比較用の構成モデルの定義」(114ページ)
関連情報	「ベースライン分析の概要」(113ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
<CIのリスト>	選択しビュー内のCIの名前およびタイプのリスト。モデルCIとして使用するCIを1つ選択します。
フィルター	リストのCIをフィルターする文字列を入力します。
状態	[**実際**] または [**承認**] を選択します。
ビュー	ドロップダウンリストからビューを選択します。

第10章: セグメント分析

本章の内容:

セグメント分析の概要 122
類似するCIのグループを含むCIの選択 123
セグメント分析のユーザーインターフェイス 124

セグメント分析の概要

セグメント分析モジュールでは、CIセグメント (類似する構成を持つCIのグループ) を作成できます。

関連するCI一致ルールを定義するために、Universal CMDB のCIタイプマネージャーを使用します。詳細については、UCMDBヘルプのモデリングに関するセクションの「[一致ルール] ページ」を参照してください。属性が必須の一致する属性として指定されていて、厳密な一致が見つからない場合、コンポーネントCIは同じセグメントの一部としては見なされません。

CIを入力として選択し、作成した各セグメントのCI間の類似性レベルを指定します。CIを入力として選択する際に、それらのCI間に特定の類似性が存在する必要はありません。セグメントのリストは自動的に生成され、各セグメントの構成モデルが作成されます。入力として選択した各CIは、作成されたセグメントのいずれかの構成要素になります。

セグメントを選択してベースライン分析モジュールで分析したり、その中に含まれているCIを別のモデルのベースとして使用したりすることができます。

セグメント分析モジュールの詳細については、「[セグメント分析] ページ」(126ページ)を参照してください。

> **注:**
>
> - Advancedライセンスを購入しない限り、このモジュールにはアクセスできません。適切なライセンスを入手するには、Micro Focusの営業担当またはMicro Focusソフトウェアビジネスパートナーに連絡してください。
> - このモジュールを使用するには、**ビューCI** 権限が必要です。
> - **ビュー**権限を持っているビューのみが表示されます。

類 似 するCIのグループを含 むCIの選 択

このタスクでは、類 似 するCIのグループを検 索 する際 のCIの選 択 方 法 を説 明します。

1. **[分 析] > [セグメント分 析]** に移 動します。
2. 比 較 用 にCIを選 択 するビューのステータスを選 択 します。選 択 できるオプションは、[実 際 のステータス] または [認 証 済 みのステータス] のいずれかです。
3. [**複 合 CIの追 加**] をクリックし、[複 合 CIの選 択] ダイアログボックスを開 きます。手 順 2で選 択 したステータスからCIが選 択 されます。最 大 1,000個 の複 合 CIを選 択 できます。

   > **注 :** 同 じタイプのCIを選 択 する必 要 があります。

4. パラメータ をクリックして、セグメントサイズのパラメーターを目 的 の値 に設 定 し、セグメントの範 囲 を定 義 します。
   - 低 い値 を選 択 すると多 数 の小 さいセグメントが作 成 され、それらのセグメントの中 の複 合 CIの類 似 性 が高 くなります。
   - 高 い値 を選 択 すると少 数 の大 きなセグメントが作 成 され、それらのセグメントの中 の複 合 CIの差 異 が大 きくなります。
5. セグメントの分析 をクリックし、セグメントを作 成 します。
6. 結 果 をレビューします。セグメントリストに、各 セグメントの名 前 、セグメント内 の複 合 CIの数 とモデルに対 する平 均 的 な類 似 性 レベルが表 示 されます。リスト ([セグメントリスト] 表 示 枠) または円 グラフ ([セグメント結 果] 表 示 枠) でセグメントをクリックし、[構 成 モデル] 表 示 枠 でモデルを表 示 します。
7. セグメントの内 容 をさらに分 析 するには、セグメントリストでセグメントを選 択 して [**選 択 したセグメントのベースライン分 析 の表 示**] をクリックします。ベースライン分 析 モジュールが表 示 され、選 択 したセグメントがモデルとして使 用 されています。

   > **注 :** この時 点 でベースライン分 析 モジュールで変 更 を加 えても、セグメント分 析 モジュールには反 映 されません。たとえば、ベースライン分 析 モジュールの分 析 範 囲 でCIの削 除 や追 加 を行 っても、セグメント分 析 モジュールのセグメントや範 囲 では削 除 も追 加 もされません。

セグメント分 析 のユーザーインターフェイス

本 項 の内 容

[複 合 CIの追 加] ダイアログボックス 124
[CI詳 細] ダイアログボックス 125
[比 較 詳 細] ダイアログボックス 125
[セグメント分 析] ページ 126
[セグメント パラメーター] ダイアログボックス 129

[複 合 CIの追 加] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、モデル定 義 で使 用 するCIを選 択 します。

利 用 方 法	[**複 合 CIの追 加**] を [分 析 範 囲] 表 示 枠 でクリックします。
重 要 情 報	• ビュー権 限 を持っているビューのみが表 示 されます。 • 定 義 には、同じタイプのCIのみ選 択 できます。
関 連 タスク	「類 似 するCIのグループを含 むCIの選 択 」(123ページ)
関 連 情 報	「セグメント分 析 の概 要 」(122ページ)

ユーザーインターフェイス要 素 の説 明 を次 に示 します (ラベルのない要 素 は山 括 弧 で囲 んで示 します)。

UI要 素	詳 細
<CIのリスト>	左 の表 示 枠 にはCI名 が表 示 されます。複 合 CIの場 合 は、CIエントリを展 開 して個 々 のコンポーネントCIを表 示 できます。 右 の表 示 枠 には、このCIの属 性 名 と値 が表 示 されます。
フィルター	リストのCIをフィルターする文 字 列 を入 力 します。
状 態	[分 析 範 囲] 表 示 枠 で選 択 したCIの状 態 が表 示 されます。
ビュー	ドロップダウンリストからビューを選 択 します。

[CI詳 細] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、選 択したCIの比 較 結 果 に関 する詳 細 情 報 を表 示 します。

利 用 方 法	[分 析 範 囲] 表 示 枠 にある [**CI詳 細 の表 示**] をクリックします。
関 連 タスク	「類 似 するCIのグループを含 むCIの選 択 」(123ページ)
関 連 情 報	「セグメント分 析 の概 要 」(122ページ)

ユーザーインターフェイス要 素 の説 明 を次 に示 します。

UI要 素	詳 細
	選 択 したCIの属 性 すべての表 示 と、管 理 属 性 のみの表 示 と、選 択 したCIの属 性 すべての表 示 を切 り替 えます。デフォルトでは、管 理 属 性 のみ表 示 されます。
CI名	選 択 したCIの名 前 が表 示 されます。
属 性 名	選 択 したCI用 にモデリングされている属 性 が一 覧 表 示 されます。
値	選 択 した属 性 に現 在 割 り当 てられている値 が表 示 されます。

[比 較 詳 細] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、選 択 したCIの比 較 結 果 に関 する詳 細 情 報 を表 示 します。

利 用 方 法	[分 析 範 囲] 表 示 枠 にある [**比 較 詳 細 の表 示**] をクリックします。
関 連 タスク	「類 似 するCIのグループを含 むCIの選 択 」(123ページ)
関 連 情 報	「セグメント分 析 の概 要 」(122ページ)

以 下 では、使 用 されるインターフェイス要 素 について説 明 します。

UI要 素	詳 細
	すべてのCIとすべての属 性 の表 示 と、選 択 した複 合 CIに違 反 する属 性 とCIのみの表 示 を交 互 に切 り替 えます。

UI要素	詳細
	現在の複合CI内の次の違反に移動します。
<左の表示枠>	CI名とCIそれぞれのモデルが表示されます。複合CIの場合は、矢印をクリックして展開し、コンポーネントCIを表示します。モデル値が指定されている各CIについては、アイコンによって、ポリシーに違反しているかどうかが示されます。 **注 :** CIは、その属性の1つがポリシーに違反している場合やモデル内のCIと一致しない場合に、ポリシー違反とみなされます。
<右の表示枠>	左の表示枠で選択したCIについて、属性の名前と値、およびベースライン値が表示されます。ベースライン値が指定されている属性については、アイコンによって、選択したCIがその属性に関してポリシーに違反しているかどうかが示されます。

[セグメント分析] ページ

このページでは、環境内の類似するCIのグループを検索できます。

利用方法	**[分析] > [セグメント分析]** を選択します。
重要情報	[セグメント分析] ページには次の表示枠があります。 • 分析範囲 • セグメントリストおよびセグメント結果 (グラフ形式) • 構成モデル [分析範囲] 表示枠では、セグメントの作成に使用する複合CIを選択します。完了したら、[**セグメントの分析**] をクリックします。 データを変更しても、分析結果は動的には更新されません。分析範囲または次に示すパラメーターに変更を加えるたびに、[**セグメントの分析**] を再度クリックしてグループを作成し直す必要があります。
関連タスク	「類似するCIのグループを含むCIの選択」(123ページ)
関連情報	「セグメント分析の概要」(122ページ)

ユーザーインターフェイス要 素 の説 明を次 に示します。

UI要 素	詳 細
	新しいモデルの作 成 : 選 択したすべての値 とセグメントをクリアします。
パラメータ	**パラメーター**: [セグメント パラメーター] ダイアログボックスが開きます。詳 細 については、「[ビューの調 査] ページ」(100ページ)を参 照してください。
セグメントの分析	**セグメントの分 析 :** 選 択したCIに基 づいてセグメントを作 成します。

[分析範囲] 表示枠

重 要 情 報	この表 示 枠 で、セグメントの作 成 に使 用 する複 合 CIを選 択します。
関 連 情 報	「[CI詳 細] ダイアログボックス」(125ページ)

ユーザーインターフェイス要 素 の説 明を次 に示します。

UI要 素	詳 細
	複 合 CIの追 加 : [CI詳 細] ダイアログボックスが開き、分 析 範 囲 に追 加 する複 合 CIを選 択 できます。
	リストから複 合 CIを削 除 : 選 択した複 合 CIを分 析 範 囲 から削 除します。
	すべての複 合 CIを削 除 : すべての管 理 CIを分 析 範 囲 から削 除します。
	CI詳 細 の表 示 : [CI詳 細] ダイアログボックスが開き、選 択したCIの詳 細 を表 示します。
<複 合 CI名 >	[分 析 範 囲] に含 まれる複 合 CIの名 前 。
セグメントID	複 合 CIの割 り当 て先 セグメントの名 前 を表 示します。
状 態	複 合 CIが含 まれるビューのステータスを選 択します。 CIは、ビューの実 際 のステータスと認 証 済 みのステータスの両 方 から選 択 できますが、セグメント化 は選 択したステータスのみで実 行 されます。選 択したビューのステータスのCIが存 在 しない場 合 、テキストが淡 色 表 示 になり、セグメント化 対 象 にはなりません。

[構成モデル] 表示枠

重要情報	この表示枠には、選択したセグメントのために生成された構成モデルが表示されます。モデルのCIを選択して、定義されている属性を表示します。モデルに対して選択されていない属性はグレー表示されます。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
属性名	選択したCIタイプの属性名。
属性値	選択したCIタイプの属性の値。
CIタイプ	選択したCIタイプ。
演算子	モデルの属性と複合CIの属性に必要な関係。詳細については、「属性演算子」(196ページ)を参照してください。

[セグメントリスト] 表示枠

重要情報	セグメントの作成後、この表示枠に作成されたセグメントが一覧表示されます。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
	選択したセグメントのベースライン分析の表示: [ベースライン分析] ページに移動します。ここでは、モデルを編集したり保存したりすることができます。
平均類似性	セグメントのCIとそのセグメントの構成モデルの類似性の平均割合。
CI数	各セグメントのCI数。
[演算子] 列	属性と属性値の関係を定義する属性です。詳細については、「属性演算子」(196ページ)を参照してください。

[セグメント結果] 表示枠

重要情報	セグメントの作成後、この表示枠の円グラフに、作成されたCIのグループが選択したセグメントサイズに基づいて表示されます。

[セグメント パラメーター] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、推 奨されるセグメントの構 成 要 素 になる選 択したCIの詳 細レベルと範 囲を指 定します。

利用方法	[セグメント分 析] ページの [**パラメーター**] をクリックします。
関連タスク	「類 似 するCIのグループを含 むCIの選 択 」(123ページ)
関連情報	「セグメント分 析 の概 要 」(122ページ)

UI要素	詳細
類似性レベル	[類 似 性 レベル] 設 定 には、セグメント内 のCIの類 似 性 レベルを指 定 します。次 のスケールが表 示 されます。 値を小 さくするとセグメントに含 まれるCIの差 異 が大 きくなり、値を大 きくするとセグメントに含 まれるCIの類 似 性 が高くなります。
構成モデル範囲の定義	モデルに表 示 する必 要 があるCIタイプと属 性 を指 定 します。デフォルトでは、選 択したCIのすべてのコンポーネントと属 性 がモデルの構 成 要 素 になります。特 定 のコンポーネントをモデルの構 成 要 素 にしない場 合 は、そのコンポーネントの横 にあるチェックボックスの選 択 を解 除 します。 コンポーネントをモデルから削 除 すると、そのすべての属 性 も自 動 的 にモデルから削 除 されます。[属 性 名] の横 にあるタイトルバーのチェックボックスの選 択 を解 除 すると、コンポーネントをモデルに含 めることができますが、そのすべての属 性 が削 除 されます。また、これらのチェックボックスの選 択 を解 除 すると、選 択 した属 性 を削 除 できます。

第11章: レビュー/認証

本章の内容

レビュー/認証の概要 130

Service Managerとの統合 131

レポート 132

CIの変更の認証 133

Service ManagerへのUNLファイルのインポート 134

外部アプリケーションの起動 134

レビュー/認証のユーザーインターフェイス 135

トラブルシューティング – レビュー/認証 147

レビュー/認証の概要

レビュー/認証モジュールでは、ビューのレビューや変更の認証を行うことができます。レビュー/認証では、実際のステータスまたは認証済みのステータスのビューに現在含まれているCIがすべて表示されます。たとえば、アプリケーション所有者がアプリケーションサービスツリーで発生した変更を追跡して確認しようとすることがあります。[複合CI] 表示枠と[トポロジ] 表示枠では、ビューに追加されたCI、ビューから削除されたCI、2つのステータス間で更新されたCIがそれぞれのアイコンで示されます。アイコンの詳細については、「[複合CI] 表示枠」(141ページ)を参照してください。

認証プロセスでは、まず認証する変更を分析 (レビュー) します。変更のタイプと性質、新規ポリシー違反の有無、関連するRFCの有無を確認します。変更済みのマークが付いているCIから認証する変更を選択します。[**認証**] をクリックすると、選択したすべての変更の認証が行われます。認証が終わると、選択した変更によって認証ステータスが更新され、ビューのスナップショットが保存されます。手動による認証の詳細については、「CIの変更の認証」(133ページ)を参照してください。

自動ステータス遷移機能を使用すると、ビューを自動的に認証できます。ビューのすべての管理CIに対して自動ステータス遷移ルールが検証され、これらのルールに適合する場合はCIの変更が自動的に認証されます。詳細については、「自動ステータス遷移」(174ページ)を参照してください。

変更の認証 (手動または自動のステータス遷移) 前に、Configuration Managerでは、変更の認証結果として削除される可能性があるCIに他のCIが依存していないかどうかが確認されます。次の場合、認証中に警告通知が表示されます。

- あるビュー内のCIの削除によって別のビュー内の依存するCIが削除される場合。
- CIの削除によって別のビュー内の複合CIのコンポーネントであるCIが削除される場合。
- 削除対象のCIが別のビューに関係を持っている場合。
- あるビュー内の変更の認証によって別のビューにポリシー違反が発生する場合。

> **注 :** レビュー/認証モジュールにアクセスするには、次のいずれかの権限が必要です。
>
> - [**ビュー**] 権限では、変更を選択してレビューできます。
> - **CMでの認証** 権限では、変更をレビューして認証できます。

Service Managerとの統合

Configuration Managerでは、UCMDBからService Managerに認証済みステータスまたは実際のステータスのCIをプッシュできます。ServiceManagerAdapter9.xアダプターを使用してUCMDBに新しい統合ポイントを作成する場合、どのステータスデータからプッシュするかを選択できます。詳細については、『UCMDBヘルプのデータフロー管理に関するセクション』の「[新規統合ポイント] / [統合ポイントの編集] ダイアログボックス」を参照してください。ただし、UCMDBのデータフローモジュールにアクセスできるのは、実際のステータスでConfiguration Managerにログインしているときのみです。

統合をセットアップする場合、**cm4sm.unl** ファイルをService Managerに読み込む必要があります。このファイルを使用すると、Service ManagerとConfiguration Manager間の統合を可能にするサービスを有効にできます。詳細については、「Service ManagerへのUNLファイルのインポート」(134ページ)を参照してください。

計画変更と計画外変更の両方が、認証前に考慮されます。次のいずれかのシナリオが可能です。

- 計画変更 - 検出された変更用に1つ以上の関連するRFCがすでに開かれています。認証すると、関連するRFCが検証されます。
- 計画外変更 - 変更用にまだRFCが開かれていません。
  - 変更がCIに影響を与えない場合 (このCIの検出パターンが変更された場合など)、RFCを作成せずに変更を認証できます。
  - CIまたはその属性に実際の変更が行われている場合、Configuration Managerを使用してRFCを作成できます。

オフライン分析プロセスの一環として、Configuration Managerでは、変更されたCIに関連するRFCがチェックおよび格納されます。次のCIがRFCに対してチェックされます。

- 変更されたCI
- 変更されたCIのコンテナー
- 変更されたCIの関係

管理ビュー内の各CIについて、分析プロセスでは、CIに関連するRFCがあるかどうかがチェックされます。CIに関連するRFCがない場合、上位CIでRFCのクエリが行われ、上位CIにRFCがない場合、接続されているCIがチェックされます。

同じRFCを複数のCIに関連付けることができ、1つのCIを複数のRFCに関連付けることもできます。たとえば、あるビューのホストにRFCがあった場合、同じRFCが他のビューのそのホストに関連付けられます。

Configuration ManagerのCIとService ManagerのRFC間では、次の4つの関係が考えられます。

- 直接 - CIにRFCとの直接関係があります。
- コンテナー - CIのコンテナーにRFCに対する関係があります。
- 手動 - RFCが変更されたCIに対して手動で作成されています。
- 関係 - お互いに関連する複数のCIが同じRFCに関連付けられています。

RFCの作成の詳細については、次を参照してください。

- 「特定CIのRFCを作成」(85ページ)
- 「ポリシー違反を修正するためのRFCの作成」(84ページ)
- 「[変更をロールバックするためのRFCの作成] ダイアログボックス」(137ページ)

レポート

Configuration Managerには、定義済みポリシーに違反しているCIに関する情報を含むビューのポリシー情報をエクスポートする機能があります。違反CIの原因として次の理由が考えられます。

- ベースライン条件を満たさないCI
- 欠落CI
- 複合CI内の追加CI

> **注 :** 違反CIに関する情報は、.pdf形式でエクスポートされるレポートには含められません。

レポートでは、ビューの2つのステータス間のCIのポリシーステータスを比較します。少なくとも1つのステータスに違反がある場合、詳細情報が属性レベルまで表示されます。レポートには、違反の原因、各ステータスでの違反CIまたは属性のステータスが表示されます。

CIの変更の認証

このタスクでは、複合CIの変更を認証する方法を説明します。

CIの変更には、次のものがあります。

- CIのすべての属性の変更 (個々の属性の変更は認証できません)
- CIの追加または削除
- 内向きの関係の変更
- 外向きの関係の変更

変更を認証するには、次の手順を実行します。

1. レビュー/認証モジュールの [複合CI] 表示枠に、変更が発生したCIのエントリが表示されます。各チェックボックスの左にある小さな矢印をクリックするとCIエントリが展開し、CIの変更が1行ずつ表示されます。
2. 変更内容をレビューしたら、認証する変更のチェックボックスを選択します。

   > **注 :** CIのチェックボックスを選択すると、そのCIの変更内容がすべて自動的に選択されます。

3. 変更のレビューを完了したら、次のいずれかの操作を実行します。
   - [**認証**] 認証 をクリックして選択した計画変更を認証し、既存のRFCを検証します。

     変更の認証が開始されることを示すメッセージが表示されます。[**OK**] をクリックします。
   - [**選択した変更のロールバックRFCを作成**] をクリックして、選択した各CIに対するRFCインシデントチケットを作成します。

     必要な情報を入力して [**送信**] をクリックします。詳細については、「[変更をロールバックするためのRFCの作成] ダイアログボックス」(137ページ)を参照してください。

   > **注 :** 認証には時間がかかる場合があります。認証中も、他のビューの作業は続行できます。

   ビューを更新すると、認証済みのステータスになります。

Service ManagerへのUNLファイルのインポート

このタスクでは、Service ManagerとConfiguration Manager間 の統 合 を有 効 にするサービスをアクティブ化 するために、**cm4sm.unl** UNLファイルをService Managerにアップロード する方 法 を説 明します。

> **注 :** Micro Focus Service Managerのバージョンが9.30以 降 の場 合 は、このタスクをスキップしてください。

UNLファイルをインポートするには、次 の手 順 を実 行します。

1. Service Managerで、 **[メニューナビゲーション] > [カスタマイズ] > [データベースマネージャー]** をクリックします。
2. [詳 細] ボタンをクリックして、[**インポート/ロード**] を選 択します。
3. Micro Focus Service Managerの [ファイルのロード/インポート] ページで、[**ファイルを指 定**] をクリックし、**<Configuration_Manager_インストール_ディレクトリ>/adapters/sm/cm4sm.unl**を選 択します。

   ファイルブラウザー経 由 でファイルが読 み込 まれます。
4. [**インポートの説 明**] ボックスに説 明 を入 力します。
5. [**ファイルタイプ**] リストで **winnt** を選 択します。
6. 表 示 オプションを選 択します。
7. [**フォアグラウンドでロード**] をクリックして、読 み込 みを開 始します。

外 部 アプリケーションの起 動

Configuration Managerには、UCMDB CIまたはUCMDBビューのコンテキストで任 意 のアプリケーション ユーザーインターフェイスを起 動 することができる、汎 用 UI統 合 を設 定 するメカニズムが追 加 されています。たとえば、一 部 のCIで検 出 された問 題 に関 連 した新 しいディスカッションを開 いたり、UCMDBを起 動 して選 択 したCIのCIプロパティを表 示 したりするために、Micro Focus Enterprise Collaborationユーザーインターフェイスを起 動 できます。この機 能 は [検 証/承 認] と[Explore Views] モジュールで利 用 できます。

> **注 :** 外 部 アプリケーションと統 合 できるようにするため、すべてのアプリケーションをLW-SSOで設 定 し、同 じユーザー管 理 システムを使 用 することをお勧 めします。これにより、外 部 アプリケーションごとにユーザー名 を入 力 してログインする必 要 がなくなります。

外 部 アプリケーションを起 動 するには、次 の手 順 を実 行します。

1. 開くアプリケーションのURLを指定します。例:

   ```
   https://<UCMDBサーバーマシンまたはIPアドレス>:8443/ucmdb-ui/cms/
   directAppletLogin.do?cmd=ShowProperties&objectId=
   ${ucmdbId}&navigation=false&interfaceVersion=9.0.0
   ```

   この例の場合、`${ucmdbId}` は選択した(UCMDBに表示される)複合CI のIDで置き換えられます。

   詳細については、「UI統合」(226ページ)を参照してください。

   > **注:** 起動 ボタンが表示されるようにするには、この手順を実行する必要があります。

2. 検証/承認モジュールまたはExplore Viewsモジュールで 起動 をクリックします。

   設定したアプリケーションがブラウザーウィンドウで開かれます。

レビュー/認証のユーザーインターフェイス

本項の内容

[選択した差異の認証] ダイアログボックス 135
[CI詳細] ダイアログボックス 136
[変更をロールバックするためのRFCの作成] ダイアログボックス 137
[ポリシー詳細] ダイアログボックス 138
[レビュー/認証] ページ 139
[CIのソート] ダイアログボックス 146
[トポロジの表示] ダイアログボックス 147

[選択した差異の認証] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、認証する特定の変更を選択します。

利用方法	[レビュー/認証] モジュールの左の表示枠にある [**認証**] 認証 をクリックします。

重要情報	[**送信**] をクリックすると、提案された変更が認証されます。これにより、CIの実際のステータスが認証済みのステータスになります。 [設定] ページの [**変更管理統合を有効にする**] チェックボックスが有効になっている場合、選択したRFCの検証が変更管理システムにログ記録されます。このチェックボックスが選択されていない場合、変更はレポートの作成時にのみ記録され、RFCは変更管理システムで検証されません。 **注:** CIの親がビューに含まれていないと、CIは認証できません。
関連タスク	「CIの変更の認証」(133ページ)
関連情報	• 「レビュー/認証の概要」(130ページ) • 「変更管理」(218ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
<提案された変更付きのCIのリスト>	[複合CI] 表示枠で認証の対象として表示した変更のリスト。 リスト内の各CIについて、関連するRFCのリストが表示されます。変更管理システムにログ記録する特定の変更について、関連するRFCチェックボックスを選択します。

[CI詳細] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、選択したCIの詳細情報を表示します。

利用方法	[**複合CIの詳細の表示**] をクリックするか、[複合CI] 表示枠または [トポロジ] 表示枠でCIをダブルクリックします。
関連タスク	「CIの変更の認証」(133ページ)
関連情報	「レビュー/認証の概要」(130ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
	差異のみを表示: 2つのステータス間で値が異なる属性のみを表示します。
	次の相違: リスト内にある次の複合CIに移動します。

UI要素	詳細
	すべての詳細を表示: [属性] タブでは、管理属性のみの表示と、選択したCIの属性すべての表示を切り替えることができます。デフォルトでは、管理属性のみ表示されます。
	値が一致しません: 2つのステータス間で異なる値を示します。
[属性] タブ	左の表示枠にCI名を表示します。複合CIの場合は、CIエントリを展開して個々のコンポーネントCIを表示できます。 右の表示枠には、このCIの属性名と値が表示されます。実際の属性値と認証済みの属性値の両方が表示されます。
[内向きの関係] タブ	選択したCIについて、内向きの関係をすべて表示します。 複合CIの場合は、CIエントリを展開して個々のコンポーネントCIを表示できます。コンポーネントCIを1つ選択すると、[内部関係パス詳細] 表示枠がダイアログボックスの下に開き、関係の詳細情報が表示されます。
[外向きの関係] タブ	選択したCIについて、外向きの関係をすべて表示します。 複合CIの場合は、CIエントリを展開して個々のコンポーネントCIを表示できます。コンポーネントCIを1つ選択すると、[内部関係パス詳細] 表示枠がダイアログボックスの下に開き、関係の詳細情報が表示されます。

[変更をロールバックするためのRFCの作成] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、計画外変更と不要な変更に関するRFCを作成します。この変更はService Managerで検証されます。

利用方法	CIを1つ以上選択し、レビュー/認証モジュールの [複合CI] 表示枠にある をクリックします。
重要情報	タイトルを入力し、計画外変更用に作成中のRFCの関連情報を選択します。 [**送信**] をクリックすると、RFCが作成されるので、手動で選択したCIに関連付けます。
関連タスク	• 「CIの変更の認証」(133ページ) • 「Service ManagerへのUNLファイルのインポート」(134ページ)
関連情報	• 「レビュー/認証の概要」(130ページ) • 「Service Manager」(224ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
影響を受けるCI	[複合CI] 表示枠で承認を得るためにマークされた変更のリストです。
カテゴリ	表示されるカテゴリ値のリスト ([設定] モジュールで設定) からカテゴリを選択します。詳細については、「RFC作成」(223ページ)を参照してください。
詳細	CIと、各CIで実行する必要がある必須アクションのリストです。 CIを1つ選択した場合は、自動生成される説明が表示されます。
影響	表示される値のリスト ([設定] モジュールで設定) から、変更が及ぼす影響の最大範囲を選択します。詳細については、「RFC作成」(223ページ)を参照してください。
要求終了日	RFCの実行期限となる日付です。
リスク評価	表示される値のリスト ([設定] モジュールで設定) から、変更されたCIのリスクレベルを選択します。詳細については、「RFC作成」(223ページ)を参照してください。
サービス	CIで利用可能なサービスのリストです。
タイトル	RFCのタイトルを入力します (たとえば、要求された変更の短いサマリー)。
緊急度	表示される値のリスト ([設定] モジュールで設定) から、CIの変更の緊急度レベルを選択します。詳細については、「RFC作成」(223ページ)を参照してください。

[ポリシー詳細] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、ベースラインポリシールールに関するCIのポリシー違反の詳細情報が表示されます。

利用方法	[比較詳細] 表示枠にある [**複合CIの詳細の表示**] をクリックします。
重要情報	[ポリシー詳細] ダイアログボックスが開くのは、ベースラインポリシーが適用されたCIを選択した場合のみです。 アイコンの横にある小さな矢印をクリックし、ポリシー詳細として実際のステータスまたは承認済みのステータスのいずれかを選択します。
関連情報	「ポリシー」(15ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
	違反のみ表示: 選択したCIについて、すべての属性の表示と違反した属性のみの表示を切り替えます。
	次のコンポーネント違反: リスト内で、次の違反に移動します。
<左の表示枠>	CIの名前とベースラインが表示されます。複合CIの場合は、矢印をクリックして展開し、コンポーネントCIを表示します。ベースライン値のあるCIについては、ポリシー違反かどうかがアイコンで表示されます。 **注:** CIの属性の中で違反しているものが1つでもある場合や、ベースライン内のCIと一致しない場合、そのCIはポリシー違反とみなされます。
<右の表示枠>	左の表示枠で選択したCIについて、属性の名前と値、およびベースライン値が表示されます。ベースライン値が指定されている属性については、アイコンによって、選択したCIがその属性に関してポリシーに違反しているかどうかが示されます。

[レビュー/認証] ページ

このページでは、実際のステータスのビューを表示し、認証する変更を選択します。

利用方法	**[変更] > [レビュー/認証]** を選択します。

重要情報	[レビュー/認証] ページには次の表示枠があります。 • **複合CI:** ビューに含まれるCIのリストを表示します。リスト内では、実際のステータスと認証済みのステータスを比較し、各CIで発生した変更のタイプをアイコンで示します。 • **トポロジ:** ビューに含まれるCIのトポロジマップを表示します。マップ内では、実際のステータスと認証済みのステータスを比較し、各CIで発生した変更のタイプをアイコンで示します。トポロジマップ内の各ノードには、名前、CIタイプ、管理ステータス、変更タイプ、現在と前回のポリシーステータス(関連する場合)が表示されます。 > **注:** インベントリモードでの[トポロジ] 表示枠は、[**関連CI**] と呼ばれます。 • **比較詳細:** 選択したCIの変更の詳細が表示されます。タブをクリックすると、選択したCIの変更の詳細情報が表示されます。 • **フィルター:** インベントリモードでは、[フィルター] 表示枠で複合CIリストをフィルターできます。詳細については、「[フィルター] 表示枠」(105ページ) を参照してください。 [複合CI] 表示枠でCIの横にあるチェックボックスをクリックして、認証する変更を選択します。
関連タスク	「CIの変更の認証」(133ページ)
関連情報	• 「レビュー/認証の概要」(130ページ) • 「[CI詳細] ダイアログボックス」(136ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
	ビューの選択: 別のビューを [レビュー/認証] ページで開くことができます。
	表示をインベントリモードに変更: 選択したビューの表示をインベントリモードに変更します。
	表示をトポロジモードに変更: 選択したビューの表示をトポロジモードに変更します。
	レポートのエクスポート: エクスポートするレポートとデータのエクスポート形式を選択します。 次のレポートを選択できます。 • **変更レポート** • **ポリシー分析レポート**

UI要素	詳細
	次の形式オプションを選択できます。 • **Excel:** テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる .XLS (Excel) ファイル形式に整形されます。 • **PDF:** テーブルのデータは、PDF形式でエクスポートされます。 • **CSV:** テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り (CSV) テキストファイル形式に整形されます。 レポートへの出力の生成時には、現在適用されているフィルターが考慮されます。
	更新: CIリストを更新します。

[複合CI] 表示枠

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
	すべて選択: 選択したビューのすべてのCIエントリを選択します。
	すべてクリア: 選択したビューのすべてのCIエントリをクリアします。
	複合CIのソート: [CIのソート] ダイアログボックスが開きます。ここでは、さまざまなソートフィールドでCIリストをソートできます。
	複合CIの詳細の表示: [CI詳細] ダイアログボックスを開きます。ここでは、選択したCIの管理対象属性が表示されます。
認証	**選択した変更を認証:** 選択した変更が認証され、ステータスが「認証済み」に変わります。 **注:** リスト内でCI (変更済み) を選択しないと、このボタンは有効になりません。
起動	**起動:** 選択したCIまたはビューのコンテキストで開く外部アプリケーションを選択できます。外部アプリケーションを選択するには をクリックします。[設定] ページで、表示するURLを指定する必要があります。詳細については、「UI統合」(226ページ)を参照してください。
	強調表示されたCIのRFCを作成します。

UI要素	詳細
	選択した変更に対するロールバックRFCを作成します。
	選択したCIのコンテキストでUCMDB Browserモジュールが開きます。
	選択したCIがビューに追加されたことを示します。
	選択したCIがビューから削除されたことを示します。
	選択したCIが更新されたことを示します。
	実際のステータスで、CIが1つ以上のポリシーに違反していることを示します。
	認証済みのステータスで、CIが1つ以上のポリシーに違反していることを示します。
	実際のステータスで、CIがすべてのポリシーに適合していることを示します。
	認証済みのステータスで、CIがすべてのポリシーに適合していることを示します。
	このCIに関連する1つ以上の変更要求 (RFC) があることを示します。
<CIのリスト>	このリストには、ビュー内の現在または以前のCIすべてが表示されます。CIの右側に表示されるアイコンは、このCIおよびそのポリシーステータスに加えられた変更を示します。CIの横にある三角形をクリックすると、各変更が別の行に表示されます。 リスト内のCIの上にポインターを置くと、CIの名前とタイプを含んだツールチップが表示されます。 CIの横にアイコンがない場合、そのCIには変更が発生していないことを示します。 変更を選択してから横のチェックボックスを選択すると、認証の対象としてマークされます。

[比較詳細] 表示枠

重要情報	[複合CI] 表示枠または [トポロジ] 表示枠でCIを選択すると、そのCIのデータが含まれるタブにはアスタリスク (*) のマークが付きます。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
[変更された属性] タブ	左の表示枠には、CI名と変更タイプのアイコンが表示されます。複合CIの場合は、属性に変更があるコンポーネントCIが表示されます。 右の表示枠には、左の表示枠で選択したCIの属性名と、実際の属性値および認証済みの属性値が表示されます。
[変更された外向きの関係] タブ	左表示枠には、選択したCIが進行中の関係によって関連付けられているCIが表示されます。各エントリを展開してコンポーネントCIの関係を表示するには、矢印をクリックします。関係ごとに関係タイプが表示され、アイコンにより変更の関連タイプが示されます。 右表示枠には、左表示枠で選択した関係のソース、ターゲット、方向が表示されます。
[ポリシー詳細] タブ	[**ポリシーリスト**] 表示枠には、ポリシールールごとに次のデータが表示されます。 • ポリシールール名 • ポリシーのソースである外部製品 (存在する場合) • 実際のステータスでのルールステータス • 認証済みのステータスでのルールステータス • 関連CI [**詳細**] 表示枠には、ルール名、説明、タイプ、検証日付など、[ポリシーリスト] 表示枠で選択したポリシールールの詳細が表示されます。 **注 :** ステータスバーは、認証済みのステータスのCIを含む連携ポリシーには表示されません。
[関連RFC] タブ	左の表示枠には、オフライン分析プロセス中に選択したCIに関連付けられたRFC IDまたはユーザーによって手動でアタッチされたRFC ID、タイトル、関係タイプも表示されます。 右の表示枠には、左の表示枠で選択したRFC IDのプロパティが表示されます。 **注 :** オフラインプロセスが実行されている場合、ビューのCIに対して次のRFCのみが検出されます。 • [取得されるRFC基準] の設定で指定されているステータスのRFC • 計画開始日が本日からX日間引いた日付 (設定で定義されている) よりも後になっているRFC • 計画終了日が当日よりも早いRFC したがって、RFCが複数のCIにアタッチされているときに、複数のCIがこれらの基準に適合しない場合、一部のCIがRFCに接続されているものとして示されない可能性があります。

[フィルター] 表示枠

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
変更されたCI	変更ステータスに基づいてCIをフィルターします。[**はい**] を選択すると、変更のあるCIのみがビューに表示されます。[**いいえ**] を選択すると、変更のないCIのみがビューに表示されます。 **利用可能な対象:** モジュールの検証/承認
CI名	CI名に基づいてCIをフィルターします。選択したCIのみがビューに表示されます。 値ボックスにCI名を手動で入力するか、[**詳細...**] をクリックしてダイアログボックスを開き、リストからCIを選択します。
CIタイプ	CIタイプに基づいてCIをフィルターします。選択したCIタイプのCIのみがビューに表示されます。 [**詳細...**] をクリックしてダイアログボックスを開き、リストから利用可能なCIタイプを選択できます。
RFCあり	選択されたCIにRFCが関連付けられているかどうかに従ってフィルターします。 **利用可能な対象:** モジュールの検証/承認
管理ステータス	管理ステータスに基づいてCIをフィルターします。選択したステータスのCIのみがビューに表示されます。 [**管理対象**] または [**非管理**] を選択します。
ポリシー名	それぞれのポリシー名に基づいてCIをフィルターします。選択したポリシーの適用対象となるCIのみがビューに表示されます。 [**詳細...**] をクリックしてダイアログボックスを開き、リストから利用可能なポリシーを選択できます。
ポリシーステータス	それぞれのポリシーステータスに基づいてCIをフィルターします。選択したステータスのCIのみがビューに表示されます。 [ポリシー名] フィールドでポリシーを指定しないと、ビュー内のCIに割り当てられるすべてのポリシーに選択したポリシーステータス条件が適用されます。指定した場合は、名前で指定されたポリシーに対してのみ、選択したポリシーステータス条件が適用されます。 [**違反**] または [**適合**] を選択します。

UI要素	詳細
関連RFC	特定のRFCタイトルに基づいてCIをフィルターします。 [**詳細...**] をクリックしてダイアログボックスを開き、リストから関連するRFC値を選択できます。 **利用可能な対象:** モジュールの検証/承認

[トポロジ] 表示枠

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
	トポロジ概要を表示: トポロジ概要表示の表示/非表示を切り替えます。
	凡例: トポロジ表示におけるノード間の接続の説明を表示します。
	レイヤーレイアウト: CIをレイヤーごとにまとめてトポロジマップを表示します。
	階層レイヤーレイアウト: CIをレイヤーの階層ごとにまとめてトポロジマップを表示します。
	分類レイアウト: CIを分類ごとにまとめてトポロジマップを表示します。
	[円形レイアウト]円形レイアウトでトポロジマップを表示します。
	トポロジマップをズームインまたはズームアウトできます。
	ウィンドウに合わせる: トポロジマップのサイズを [トポロジ] 表示枠のサイズに合わせて変更します。
	トポロジノードを強調表示: 実際のステータスのノードのみ、認証済みのステータスのノードのみ、または両方のステータスのノードを強調表示するかどうかを指定します。
	トポロジマップを全画面表示: トポロジマップを [トポロジ表示] ボックスに表示します。
<トポロジ概要表示>	[トポロジ概要表示] は、表示枠の右上隅に表示されます。[トポロジ] 表示枠のどの部分にトポロジマップを表示するかを示します。これは大型表示の場合、または表示をズームインする場合に有効です。

UI要素	詳細
	ノードでポリシーステータスインジケーターをクリックすると、そのCIのポリシー詳細情報 (ポリシー名、ポリシーのソース、そのポリシーに選択したCIのステータスを含む) が表示されます。

[CIのソート] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、[複合CI] 表示枠のCIリストをソートします。

利用方法	[**複合CIのソート**] を [複合CI] 表示枠のツールバーでクリックします。
重要情報	変更を反映するには、新しいソートフィールドを保存します。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
	すべて追加: [利用可能なソートフィールド] 表示枠から [選択したソートフィールド] 表示枠に、すべてのフィールドを移動します。
	追加: [利用可能なソートフィールド] 表示枠から [選択したソートフィールド] 表示枠に、選択したフィールドを移動します。
	削除: [選択したソートフィールド] 表示枠から選択したフィールドを削除します。
	すべて削除: [選択したソートフィールド] 表示枠からすべてのフィールドを削除します。
	上/下: 選択したフィールドを [選択したソートフィールド] 内で上下に移動します。
	昇順/降順: 選択した各フィールドに対して検索方向を指定できます。
利用可能なソートフィールド	CIをソートするフィールドとして選択可能なすべてのフィールド。
選択したソートフィールド	CIをソートするフィールドとして選択したフィールド。リスト内の順序に基づいてソートされます。

[トポロジの表示] ダイアログボックス

このページでは、トポロジマップを大きな領域に表示します。

利用方法	[トポロジ] 表示枠のツールバーで [**トポロジマップを全画面表示**] ボタンをクリックします。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
	トポロジノードを強調表示: リストが表示され、次のトポロジマップの表示モードを選択できます。 • 実際のステータスを強調表示 • 認証済みのステータスを強調表示 • 両方を強調表示
<トポロジ表示枠のツールバーボタン>	[トポロジ] 表示枠のツールバーボタンは、[トポロジの表示] ダイアログボックスにもあります。詳細については、「[トポロジ] 表示枠」(103ページ)を参照してください。

トラブルシューティング – レビュー/認証

- **問題**: RFCを作成するためのボタンが無効化されている。

  考えられる理由:

  - アクティブ化された構成に対する変更管理統合が無効になっている。
  - 変更管理統合が定義されているか、保存されているか、アクティブ化されている状況で、ユーザーがConfiguration Managerに再度ログインしなかった。

  解決策: 次の操作を実行します。

  a. **[管理] > [統合] > [変更管理]** に移動します。統合を設定するには、チェックボックスをオンにして、Service Managerの構成の詳細情報を入力します。

  b. 構成内容を保存してアクティブ化します。

  c. 変更内容を有効にするには、いったんログアウトして再度ログインします。

- **問題:** RFCの作成に失敗する。
  - **理由1: [管理] > [統合] > [変更管理] > [Service Manager]** で、統合ユーザーに対して不正な資格情報が定義されていた。

    解決策1: Service Managerで、統合ユーザーが存在していることを検証します。必要に応じて、パスワードを更新します (詳細については、Service Managerのマニュアルを参照してください)。
  - **理由2:** ユーザーがService ManagerのWebサービスを呼び出すための適切な資格情報を持っていない。

    解決策2: この統合ユーザーに対して、SOAP APIを実行するための機能を有効にします (詳細は、Service Managerのマニュアルを参照してください)。
  - **理由3:** この統合のUNLファイルがService Managerに読み込まれていない。

    解決策3: UNLファイルがアップロードされているかを検出するには、次のService Manager URLを呼び出します。

    <host>:<port example:13080>/sm/7/ucmdcm.wsdl

    この呼び出しがXMLファイルを返す場合、webサービスはオンになり、UNLファイルがアップロードされたことを意味します。そうでない場合は、「Service ManagerへのUNLファイルのインポート」(134 ページ) の指示に従ってください。
  - **理由4:** 少なくとも次の不一致の1つが生じている状態でRFCが作成されている
    - サービスがService Managerに存在しない。
    - 1つまたは複数の選択したCIがService Managerに存在しない。
    - カテゴリ値がService Managerの有効な値と一致しない。
    - リスクアセスメントの値がService Managerの有効な値と一致しない。
    - インパクトの値がService Managerの有効な値と一致しない。
    - 緊急度の値がService Managerの有効な値と一致しない。

    解決策4: [管理] > [アプリケーション管理] > [RFC] > [RFC作成] で上記の不一致の可能性がある値をそれぞれ修正し、Service Managerでの対応する値と一致するようにします。設定に対する構成を反映するには、保存して、アクティブ化します。
  - **問題:** Configuration ManagerがRFCを表示しない。

    > **ヒント:** 問題がUCMDBにあるのかService Managerにあるのかを特定するための最初の手順として、UCMDBですべてのRFCをService Managerから取得するTQLクエリを実行します。RFCが期待されていながらクエリの結果に表れない場合は、UCMDBとService Managerとの間の統合に何らかの問題があることになります。

このTQLクエリを実行するには、次の手順を実行します。UCMDBにログインして **[モデリング] > [モデリングスタジオ] > [リソース]** タブに移動して ([リソースタイプ] として [クエリ] を選択) **> [Configuration Manager] > [Configuration Manager – Do not modify] > [Generate RFC Queries]** で **amber_rfc_by_id** を実行します。

- **理由 1:** UCMDBとService Managerの間の統合ポイントが正しく構成されていないか存在しない。

  解決策 1: UCMDBとService Managerとの間の統合をセットアップする方法の詳細については、UCMDBドキュメントを参照してください。

- **理由 2:** Configuration Manager設定のRFC変更フェースの値が、Service ManagerのRFCフェースの定義と一致しない。

  解決策 2: Configuration Manager設定で、RFC変更フェーズのフィールドの値を有効な値 (Service Managerで定義されたもの) に変更します。**[管理] > [アプリケーション管理] > [RFC] > [取得されるRFC基準] > [RFCフィルター]** に移動して設定を変更します。変更フェーズのフィールドには、カンマ区切りで複数の値を含めることができます。設定に対する構成を反映するには、保存して、アクティブ化します。

- **理由 3:** RFCが、RFCを取得するためのConfiguration Manager設定で定義された時間ウィンドウの条件を満たしていない。

  解決策 3: RFCがConfiguration Manager設定の時間ウィンドウの条件に合致していることを確認するか、RFCが時間ウィンドウに合致するよう条件を変更します。設定に対する構成を反映するには、保存して、アクティブ化します。

- **理由 4:** この統合のためにConfiguration Managerによって使用された統合ユーザーの日付と時間の形式が、Service Managerの対応するユーザーの形式と異なっている。

  解決策 4: 定義されている時間の形式が両方のユーザーインスタンスで同じであることを確認します。Configuration Managerでは、日付形式の定義が **[管理] > [統合] > [変更管理] > [Service Manager] > [日付形式]** で見つかります。

第12章: 変更履歴

本章の内容

変更履歴の概要 150

レポート 151

スナップショットの比較 151

変更履歴のユーザーインターフェイス 151

変更履歴の概要

ビューのスナップショットとは、ある時点でのビューのステータスを示したものであり、ビューの履歴の一部として記録されます。Configuration Managerは、認証時にビューの実際のステータスと認証済みのステータスを示すスナップショットを自動的に記録します。さらに、管理ビューに変更が発生していないかどうかを定期的にチェックし、実際のステータスまたは認証済みのステータスのいずれかで変更が発生した場合はスナップショットを取得します。スナップショットを使用することによって、問題が発生した時点でのシステム情報を正確に把握できるので、問題解決に便利です。

スナップショットの使用方法の一例として、インストールの後にスナップショットを取得することにより、オリジナルの構成ベースラインとして比較できます。

変更履歴モジュールでは、実際のステータスのビューで取得された2つのスナップショットを比較し、結果を表示します。このモジュールでは、認証済みのステータスの2つのスナップショットの比較を表示します。どちらのモジュールでも、トポロジマップとCIリストには、いずれかのスナップショットのビューに含まれるCIがすべて表示されます。スナップショットの比較で差異が検出されたCIには、変更がアイコンで表示されます。

比較するスナップショットは、これまでに保存したスナップショットや、現在のステータス(実際または認証済み)のビューから選択できます。スナップショットの選択の詳細については、「[表示するスナップショットの選択] ダイアログボックス」(168ページ)を参照してください。

> **注:** 変更履歴モジュールにアクセスするには、次のいずれかの権限が必要です。
>
> - **ビュー**権限では、ビューを選択できます。
> - **CMでの認証**権限では、ビューを選択し、スナップショットを保存できます。

レポート

Configuration Managerには、定義済みポリシーに違反しているCIに関する情報を含むビューのポリシー情報をエクスポートする機能があります。違反CIの原因として次の理由が考えられます。

- ベースライン条件を満たさないCI
- 欠落CI
- 複合CI内の追加CI

> **注:** 違反CIに関する情報は、.pdf形式でエクスポートされるレポートには含められません。

レポートでは、2つの時点間のCIのポリシーステータスを比較します。少なくとも1つのステータスに違反がある場合、詳細情報が属性レベルまで表示されます。レポートには、違反の原因、各時点での違反CIまたは属性のステータスが表示されます。

スナップショットの比較

このタスクでは、実際のステータスのビューのスナップショットを2つ選択し、比較する方法を説明します。

1. 変更履歴モジュールで、ツールバーにある最初の選択ボックスか、**[スナップショットの選択]** ボタンをクリックします。[**表示するスナップショットの選択**] ダイアログボックスが開きます。
2. リストからスナップショットを選択し、[**OK**] をクリックします。
3. 2番目の選択ボックスをクリックして別のスナップショットを選択し、[**OK**] をクリックします。

   選択した2つのスナップショットの差異がトポロジマップに表示されます。

変更履歴のユーザーインターフェイス

本項の内容

[変更履歴] ページ 152
[CI詳細] ダイアログボックス 156
[ポリシー詳細] ダイアログボックス 157

[表示するスナップショットの選択] ダイアログボックス 158
[CIのソート] ダイアログボックス 159
トポロジページ 160

[変更履歴] ページ

このページでは、実際のステータスのビューのスナップショット2つを比較します。

利用方法	**[変更] > [変更履歴]** を選択します。
重要情報	[変更履歴] ページには次の表示枠があります。 • **複合CI:** 2つの選択したスナップショット間に各CIで発生した変更のタイプを示すアイコンと一緒に、ビュー内のCIのリストを表示します。 • **トポロジ:** 2つの選択したスナップショット間に各CIで発生した変更のタイプを示すアイコンと一緒に、ビュー内のCIのトポロジマップを表示します。トポロジマップ内の各ノードには、名前、CIタイプ、管理ステータス、および両方のスナップショットに関する変更タイプと現在および前回のポリシーステータスが表示されます。 > **注:** インベントリモードでの [トポロジ] 表示枠は、**[関連CI]** と呼ばれます。 • **比較詳細:** 選択したCIの変更の詳細が表示されます。タブをクリックすると、選択したCIの変更の詳細情報が表示されます。 • **フィルター:** インベントリモードでは、[フィルター] 表示枠で複合CIリストをフィルターできます。詳細については、「[フィルター] 表示枠」(105ページ) を参照してください。
関連タスク	「スナップショットの比較」(151ページ)
関連情報	「変更履歴の概要」(150ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
	ビューの選択: [変更履歴] ページ上で別のビューを選択して開くことができます。
	表示をインベントリモードに変更: 選択したビューの表示をインベントリモードに変更します。
	表示をトポロジモードに変更: 選択したビューの表示をトポロジモードに変更します。

UI要素	詳細
	<スナップショット>間の比較: スナップショット選択ボックスをクリックして [**表示するスナップショットの選択**] ダイアログボックスを開くことにより、2つのスナップショットを比較できます。 **注:** 最初に選択されたスナップショットの時刻から、2番目のスナップショットの時刻 (その時刻を含む) までの間にCIで発生した変更すべてについて実行されます。
	コメントの編集: 選択したスナップショットのコメントを編集できます。
	<次の/前の>スナップショット日に移動: 次の、または前のスナップショットのペアに移動できます。
	レポートのエクスポート: エクスポートするレポートとデータのエクスポート形式を選択できます。 次のレポートを選択できます。 • **変更レポート:** 選択したスナップショット間にCIとその属性で発生した変更 (追加、削除、または更新) を表示します。 • **ポリシー分析レポート:** 各スナップショットの時刻における、CI、その関連ポリシー、各ポリシーのステータスを表示します。 次の形式オプションを選択できます。 • **Excel:** テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる .XLS (Excel) ファイル形式に整形されます。 • **PDF:** テーブルのデータは、PDF形式でエクスポートされます。 • **CSV:** テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り (CSV) テキストファイル形式に整形されます。 レポートへの出力の生成時には、現在適用されているフィルターが考慮されます。
	更新: CIリストを更新します。

[複合CI] 表示枠

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
	複合CIのソート: [CIのソート] ダイアログボックスが開きます。ここでは、さまざまなソートフィールドでCIリストをソートできます。
	複合CIの詳細の表示: [CI詳細] ダイアログボックスを開きます。ここでは、選択したCIの管理対象属性が表示されます。
	選択したCIがビューに追加されたことを示します。
	選択したCIがビューから削除されたことを示します。
	選択したCIが更新されたことを示します。
	プライマリスナップショット内のCIが少なくとも1つのポリシーに違反していることを示します。
	セカンダリスナップショット内のCIが少なくとも1つのポリシーに違反していることを示します。
	プライマリスナップショット内のCIがそのすべてのポリシーに適合していることを示します。
	セカンダリスナップショット内のCIがそのすべてのポリシーに適合していることを示します。
<CIのリスト>	このリストには、ビュー内の現在または以前のCIすべてが表示されます。CIの右側に表示されるアイコンは、このCIおよびそのポリシーステータスに加えられた変更を示します。CIの横にある三角形をクリックすると、各変更が別の行に表示されます。 リスト内のCIの上にポインターを置くと、CIの名前とタイプを含んだツールチップが表示されます。 CIの横にアイコンがない場合、そのCIには変更が発生していないことを示します。

[比較詳細] 表示枠

重要情報	[複合CI] 表示枠または [トポロジ] 表示枠でCIを選択すると、そのCIのデータが含まれるタブにはアスタリスク (*) のマークが付きます。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
[変更された属性] タブ	左表示枠には、CI名と変更タイプアイコンが表示されます。複合CIの場合は、属性に変更があるコンポーネントCIが表示されます。 右表示枠には、左表示枠で選択したCIの名前およびプライマリとセカンダリスナップショットの属性値が表示されます。
[変更された外向きの関係] タブ	左表示枠には、選択したCIが進行中の関係によって関連付けられているCIが表示されます。各エントリを展開してコンポーネントCIの関係を表示するには、矢印をクリックします。関係ごとに関係タイプが表示され、アイコンにより変更の関連タイプが示されます。 右表示枠には、左表示枠で選択した関係のソース、ターゲット、方向が表示されます。
[ポリシー詳細] タブ	[**ポリシーリスト**] 表示枠には、ポリシールールごとに次のデータが表示されます。 • ポリシールール名 • プライマリスナップショットのルールステータス ([ステータス]) • セカンダリスナップショットのルールステータス ([前のステータス]) • 関連CI [**詳細**] 表示枠には、ルール名、説明、タイプ、検証日付など、[ポリシーリスト] 表示枠で選択したポリシールールの詳細が表示されます。

[トポロジ] 表示枠

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
	トポロジ概要を表示: トポロジ概要表示の表示/非表示を切り替えます。
	凡例: トポロジ表示におけるノード間の接続の説明を表示します。
	レイヤーレイアウト: CIをレイヤーごとにまとめてトポロジマップを表示します。
	階層レイヤーレイアウト: CIをレイヤーの階層ごとにまとめてトポロジマップを表示します。

UI要素	詳細
	分類レイアウト: CIを分類ごとにまとめてトポロジマップを表示します。
	[円形レイアウト]円形レイアウトでトポロジマップを表示します。
	トポロジマップをズームインまたはズームアウトできます。
	ウィンドウに合わせる: トポロジマップのサイズを[トポロジ]表示枠のサイズに合わせて変更します。
	トポロジノードを強調表示: 実際のステータスのノードのみ、認証済みのステータスのノードのみ、または両方のステータスのノードを強調表示するかどうかを指定します。
	トポロジマップを全画面表示: トポロジマップを[トポロジ表示]ボックスに表示します。
<トポロジ概要表示>	[トポロジ概要表示]は、表示枠の右上隅に表示されます。[トポロジ]表示枠のどの部分にトポロジマップを表示するかを示します。これは大型表示の場合、または表示をズームインする場合に有効です。 ノードでポリシーステータスインジケーターをクリックすると、そのCIのポリシー詳細情報(ポリシー名、ポリシーのソース、そのポリシーに選択したCIのステータスを含む)が表示されます。

[CI詳細]ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、選択したCIの詳細情報を表示します。

利用方法	**[複合CIの詳細の表示]** をクリックするか、[複合CI]表示枠または[トポロジ]表示枠でCIをダブルクリックします。
関連タスク	「スナップショットの比較」(151ページ)
関連情報	「変更履歴の概要」(150ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
	差異のみを表示: 2つのステータス間で値が異なる属性のみを表示します。
	次の相違: クリックすると([属性]タブの)リスト内にある次の複合CIに移動

UI要素	詳細
	できます。
	すべての詳細を表示: ([属性] タブで) 選択したCIの属性すべての表示と、管理属性のみの表示を切り替えることができます。
	2つのステータス間で異なる値を示します。
[属性] タブ	左の表示枠にはCI名が表示されます。複合CIの場合は、CIエントリを展開して個々のコンポーネントCIを表示できます。 右の表示枠には、このCIの属性名と値が表示されます。比較対象となる2つのスナップショットの属性値が表示されます。
[内向きの関係] タブ	選択したCIについて、内向きの関係をすべて表示します。 複合CIの場合は、CIエントリを展開して個々のコンポーネントCIを表示できます。コンポーネントCIを1つ選択すると、[内部関係パス詳細] 表示枠がダイアログボックスの下に開き、関係の詳細情報が表示されます。
[外向きの関係] タブ	選択したCIについて、外向きの関係をすべて表示します。 複合CIの場合は、CIエントリを展開して個々のコンポーネントCIを表示できます。コンポーネントCIを1つ選択すると、[内部関係パス詳細] 表示枠がダイアログボックスの下に開き、関係の詳細情報が表示されます。

[ポリシー詳細] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、ベースラインポリシールールに関するCIのポリシー違反の詳細情報が表示されます。

利用方法	[比較詳細] 表示枠の [ポリシー詳細] タブにある [**スナップショットのポリシー詳細の表示**] ボタンをクリックします。 [**スナップショットのポリシー詳細の表示**] または [**前回のスナップショットのポリシー詳細の表示**] を選択できます。
重要情報	[ポリシー詳細] ダイアログボックスが開くのは、ベースラインポリシーが適用されたCIを選択した場合のみです。 アイコンの横にある小さな矢印をクリックし、選択したスナップショットのいずれかのポリシー詳細を表示するダイアログボックスを選択します。
関連タスク	「スナップショットの比較」(151ページ)
関連情報	「変更履歴の概要」(150ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
	違反のみ表示: 選択したCIについて、すべての属性の表示と違反した属性のみの表示を切り替えます。
	次のコンポーネント違反: リスト内で、次の違反に移動します。
<左の表示枠>	CIの名前とベースラインが表示されます。複合CIの場合は、矢印をクリックして展開し、コンポーネントCIを表示します。ベースライン値のあるCIについては、ポリシー違反かどうかがアイコンで表示されます。 **注:** CIの属性の中で違反しているものが1つでもある場合や、ベースライン内のCIと一致しない場合、そのCIはポリシー違反とみなされます。
<右の表示枠>	左の表示枠で選択したCIについて、属性の名前と値、およびベースライン値が表示されます。ベースライン値が指定されている属性については、アイコンによって、選択したCIがその属性に関してポリシーに違反しているかどうかが示されます。

[表示するスナップショットの選択] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、比較対象となるスナップショットを2つ選択します。

利用方法	ツールバーで、スナップショットの選択ボックスのいずれかをクリックします。
重要情報	最初の選択ボックスでスナップショットを選択し、2番目の選択ボックスで別のスナップショットを選択します。この2つのスナップショットの比較結果が表示されます。
関連タスク	「スナップショットの比較」(151ページ)
関連情報	「変更履歴の概要」(150ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
<カレンダー>	カレンダーで日付を選択します。
<スナップショットのリスト>	リストには、選択した日付に、選択したビューで取得された、すべてのスナップショットが表示されます。

UI要素	詳細
Authorized By	スナップショットを承認したユーザーの名前が表示されます。 リストをフィルターし、選択したユーザーによって承認されたスナップショットのみを表示するには、ドロップダウンリストを使用します。 [**作成者**] フィールドには、ユーザー「Internal Process」が表示されることがあります。これは、内部Configuration Managerのプロセスによって (ユーザーではない) 承認が実行され、次のいずれかの状況で発生したことを意味します。 • ビューが管理され、いくつかのCIが承認された最初のとき。 • ユーザーがポリシーを追加したとき。 • いくつかのCIを選択したビューと共有する別のビューでユーザーが承認を実行したとき。 **注:** このフィールドは、承認状態のスナップショットの場合にのみ表示されます。
変更の詳細	スナップショットの簡単な説明です。
コメント	スナップショットに関する注記です。
作成日時	スナップショットを取得した日時です。

[CIのソート] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、[複合CI] 表示枠のCIリストをソートします。

利用方法	[複合CI] 表示枠のツールバーで [**複合CIのソート**] ボタンをクリックします。
重要情報	CIをソートした後に [**更新**] をクリックすると、変更内容が有効になります。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
	すべて追加: [利用可能なソートフィールド] 表示枠から [選択したソートフィールド] 表示枠に、すべてのフィールドを移動します。
	追加: [利用可能なソートフィールド] 表示枠から [選択したソートフィールド] 表示枠に、選択したフィールドを移動します。

UI要素	詳細
	削除: [選択したソートフィールド] 表示枠から選択したフィールドを削除します。
	すべて削除: [選択したソートフィールド] 表示枠からすべてのフィールドを削除します。
	上/下: 選択したフィールドを [選択したソートフィールド] 内で上下に移動します。
	昇順/降順: 選択した各フィールドに対して検索方向を指定できます。
利用可能なソートフィールド	CIをソートするフィールドとして選択可能なすべてのフィールド。
選択したソートフィールド	CIをソートするフィールドとして選択したフィールド。リスト内の順序に基づいてソートされます。

トポロジページ

このページでは、トポロジマップを大きな領域に表示します。

利用方法	[トポロジ] 表示枠のツールバーで [**トポロジマップを全画面表示**] ボタンをクリックします。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
	トポロジノードを強調表示: リストが表示され、次のトポロジマップの表示モードを選択できます。 • <第1スナップショット>を強調表示 • <第2スナップショット>を強調表示 • 両方を強調表示
<トポロジ表示枠のツールバーボタン>	[トポロジ] 表示枠のツールバーボタンは、[トポロジの表示] ダイアログボックスにもあります。詳細については、「[トポロジ] 表示枠」(103ページ)を参照してください。

第13章: 認証履歴

本章の内容

認証履歴の概要 161
レポート 162
スナップショットの比較 162
認証履歴のユーザーインターフェイス 162

認証履歴の概要

ビューの**スナップショット**とは、ある時点でのビューのステータスを示したものであり、ビューの履歴の一部として記録されます。Configuration Managerは、認証時にビューの実際のステータスと認証済みのステータスを示すスナップショットを自動的に記録します。さらに、管理ビューに変更が発生していないかどうかを定期的にチェックし、実際のステータスまたは認証済みのステータスのいずれかで変更が発生した場合はスナップショットを取得します。スナップショットを使用することによって、問題が発生した時点でのシステム情報を正確に把握できるので、問題解決に便利です。

スナップショットの使用方法の一例として、インストールの後にスナップショットを取得することにより、オリジナルの構成ベースラインとして比較できます。

認証履歴モジュールでは、実際のステータスのビューで取得された2つのスナップショットを比較し、結果を表示します。このモジュールでは、認証済みのステータスの2つのスナップショットの比較を表示します。どちらのモジュールでも、トポロジマップとCIリストには、いずれかのスナップショットのビューに含まれるCIがすべて表示されます。スナップショットの比較で差異が検出されたCIには、変更がアイコンで表示されます。

比較するスナップショットは、これまでに保存したスナップショットや、現在のステータス(実際または認証済み)のビューから選択できます。スナップショットの選択の詳細については、「[表示するスナップショットの選択] ダイアログボックス」(168ページ)を参照してください。

> **注:** 認証履歴モジュールにアクセスするには、次のいずれかの権限が必要です。
>
> - **ビュー**権限では、ビューを選択できます。
> - **CMでの認証**権限では、ビューを選択し、スナップショットを保存できます。

レポート

Configuration Managerには、定義済みポリシーに違反しているCIに関する情報を含むビューのポリシー情報をエクスポートする機能があります。違反CIの原因として次の理由が考えられます。

- ベースライン条件を満たさないCI
- 欠落CI
- 複合CI内の追加CI

> **注:** 違反CIに関する情報は、.pdf形式でエクスポートされるレポートには含められません。

レポートでは、2つの時点間のCIのポリシーステータスを比較します。少なくとも1つのステータスに違反がある場合、詳細情報が属性レベルまで表示されます。レポートには、違反の原因、各時点での違反CIまたは属性のステータスが表示されます。

スナップショットの比較

このタスクでは、認証済みのステータスのビューのスナップショットを2つ選択し、比較する方法を説明します。

1. 認証履歴モジュールで、ツールバーにある最初の選択ボックスか、**[スナップショットの選択]** ボタンをクリックします。[**表示するスナップショットの選択**] ダイアログボックスが開きます。
2. リストからスナップショットを選択し、[**OK**] をクリックします。
3. 2番目の選択ボックスをクリックして別のスナップショットを選択し、[**OK**] をクリックします。

   選択した2つのスナップショットの差異がトポロジマップに表示されます。

認証履歴のユーザーインターフェイス

本項の内容

[認証履歴] ページ 163
[CI詳細] ダイアログボックス 166
[ポリシー詳細] ダイアログボックス 167

[表示するスナップショットの選択] ダイアログボックス 168
[CIのソート] ダイアログボックス 169
トポロジページ 170

[認証履歴] ページ

このページでは、認証済みのステータスのビューのスナップショット2つを比較します。

利用方法	**[変更] > [認証履歴]** を選択します。
重要情報	[認証履歴] ページには次の表示枠があります。 • **複合CI:** 2つの選択したスナップショット間に各CIで発生した変更のタイプを示すアイコンと一緒に、ビュー内のCIのリストを表示します。 • **トポロジ:** 2つの選択したスナップショット間に各CIで発生した変更のタイプを示すアイコンと一緒に、ビュー内のCIのトポロジマップを表示します。トポロジマップ内の各ノードには、名前、CIタイプ、管理ステータスに加えて、両方のスナップショットの変更タイプおよび現在と前のポリシーステータスが表示されます。詳細については、「[トポロジ] 表示枠」(103ページ) を参照してください。 > **注:** インベントリモードでの [トポロジ] 表示枠は、**[関連CI]** と呼ばれます。 • **比較詳細:** 選択したCIの変更の詳細が表示されます。選択したCIの変更の詳細を表示するには、関連するタブをクリックします。 • **フィルター:** インベントリモードでは、[フィルター] 表示枠で複合CIリストをフィルターできます。詳細については、「[フィルター] 表示枠」(105ページ) を参照してください。
関連タスク	「スナップショットの比較」(162ページ)
関連情報	「認証履歴の概要」(161ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
	ビューの選択: [変更履歴] ページ上で別のビューを選択して開くことができます。
	表示をインベントリモードに変更: 選択したビューの表示をインベントリモードに変更します。

UI要素	詳細
	表示をトポロジモードに変更: 選択したビューの表示をトポロジモードに変更します。
	<スナップショット>間の比較: スナップショット選択ボックスをクリックして [**表示するスナップショットの選択**] ダイアログボックスを開くことにより、2つのスナップショットを比較できます。 **注:** 最初に選択されたスナップショットの時刻から、2番目のスナップショットの時刻 (その時刻を含む) までの間にCIで発生した変更すべてについて実行されます。
	コメントの編集: 選択したスナップショットのコメントを編集できます。
	<次の/前の>スナップショット日に移動: 次の、または前のスナップショットのペアに移動できます。
	レポートのエクスポート: エクスポートするレポートとデータのエクスポート形式を選択できます。 次のレポートを選択できます。 • **変更レポート:** 選択したスナップショット間にCIとその属性で発生した変更 (追加、削除、または更新) を表示します。 • **ポリシー分析レポート:** 各スナップショットの時刻における、CI、その関連ポリシー、各ポリシーのステータスを表示します。 次の形式オプションを選択できます。 • **Excel:** テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる .XLS (Excel) ファイル形式に整形されます。 • **PDF:** テーブルのデータは、PDF形式でエクスポートされます。 • **CSV:** テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り (CSV) テキストファイル形式に整形されます。 レポートへの出力の生成時には、現在適用されているフィルターが考慮されます。
	更新: CIリストを更新します。

[複合CI] 表示枠

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
	複合CIのソート: [CIのソート] ダイアログボックスが開きます。ここでは、さまざまなソートフィールドでCIリストをソートできます。
	複合CIの詳細の表示: [CI詳細] ダイアログボックスを開きます。ここでは、選択したCIの管理対象属性が表示されます。
	選択したCIがビューに追加されたことを示します。
	選択したCIがビューから削除されたことを示します。
	選択したCIが更新されたことを示します。
	プライマリスナップショット内のCIが少なくとも1つのポリシーに違反していることを示します。
	セカンダリスナップショット内のCIが少なくとも1つのポリシーに違反していることを示します。
	プライマリスナップショット内のCIがそのすべてのポリシーに適合していることを示します。
	セカンダリスナップショット内のCIがそのすべてのポリシーに適合していることを示します。
<CIのリスト>	このリストには、ビュー内の現在または以前のCIすべてが表示されます。CIの右側に表示されるアイコンは、このCIおよびそのポリシーステータスに加えられた変更を示します。CIの横にある三角形をクリックすると、各変更が別の行に表示されます。 リスト内のCIの上にポインターを置くと、CIの名前とタイプを含んだツールチップが表示されます。 CIの横にアイコンがない場合、そのCIには変更が発生していないことを示します。

[比較詳細] 表示枠

重要情報	[複合CI] 表示枠または [トポロジ] 表示枠でCIを選択すると、そのCIのデータが含まれるタブにはアスタリスク (*) のマークが付きます。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
[変更された属性] タブ	左表示枠には、CI名と変更タイプアイコンが表示されます。複合CIの場合は、属性に変更があるコンポーネントCIが表示されます。 右表示枠には、左表示枠で選択したCIの名前およびプライマリとセカンダリスナップショットの属性値が表示されます。
[変更された外向きの関係] タブ	左表示枠には、選択したCIが進行中の関係によって関連付けられているCIが表示されます。各エントリを展開してコンポーネントCIの関係を表示するには、矢印をクリックします。関係ごとに関係タイプが表示され、アイコンにより変更の関連タイプが示されます。 右表示枠には、左表示枠で選択した関係のソース、ターゲット、方向が表示されます。
[ポリシー詳細] タブ	[**ポリシーリスト**] 表示枠には、ポリシールールごとに次のデータが表示されます。 • ポリシールール名 • プライマリスナップショットのルールステータス ([ステータス]) • セカンダリスナップショットのルールステータス ([前のステータス]) • 関連CI [**詳細**] 表示枠には、ルール名、説明、タイプ、検証日付など、[ポリシーリスト] 表示枠で選択したポリシールールの詳細が表示されます。

[CI詳細] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、選択したCIの詳細情報を表示します。

利用方法	[**複合CIの詳細の表示**] をクリックするか、[複合CI] 表示枠または [トポロジ] 表示枠でCIをダブルクリックします。
関連タスク	「スナップショットの比較」(151ページ)
関連情報	「変更履歴の概要」(150ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
	差異のみを表示: 2つのステータス間で値が異なる属性のみを表示します。

UI要素	詳細
	次の相違: クリックすると([属性]タブの)リスト内にある次の複合CIに移動できます。
	すべての詳細を表示: ([属性]タブで)選択したCIの属性すべての表示と、管理属性のみの表示を切り替えることができます。
	2つのステータス間で異なる値を示します。
[属性]タブ	左の表示枠にはCI名が表示されます。複合CIの場合は、CIエントリを展開して個々のコンポーネントCIを表示できます。 右の表示枠には、このCIの属性名と値が表示されます。比較対象となる2つのスナップショットの属性値が表示されます。
[内向きの関係]タブ	選択したCIについて、内向きの関係をすべて表示します。 複合CIの場合は、CIエントリを展開して個々のコンポーネントCIを表示できます。コンポーネントCIを1つ選択すると、[内部関係パス詳細]表示枠がダイアログボックスの下に開き、関係の詳細情報が表示されます。
[外向きの関係]タブ	選択したCIについて、外向きの関係をすべて表示します。 複合CIの場合は、CIエントリを展開して個々のコンポーネントCIを表示できます。コンポーネントCIを1つ選択すると、[内部関係パス詳細]表示枠がダイアログボックスの下に開き、関係の詳細情報が表示されます。

[ポリシー詳細]ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、ベースラインポリシールールに関するCIのポリシー違反の詳細情報が表示されます。

利用方法	[比較詳細]表示枠の[ポリシー詳細]タブにある[**スナップショットのポリシー詳細の表示**] ボタンをクリックします。 [**スナップショットのポリシー詳細の表示**]または[**前回のスナップショットのポリシー詳細の表示**]を選択できます。
重要情報	[ポリシー詳細]ダイアログボックスが開くのは、ベースラインポリシーが適用されたCIを選択した場合のみです。 アイコンの横にある小さな矢印をクリックし、選択したスナップショットのいずれかのポリシー詳細を表示するダイアログボックスを選択します。
関連タスク	「スナップショットの比較」(151ページ)
関連情報	「変更履歴の概要」(150ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
	違反のみ表示: 選択したCIについて、すべての属性の表示と違反した属性のみの表示を切り替えます。
	次のコンポーネント違反: リスト内で、次の違反に移動します。
<左の表示枠>	CIの名前とベースラインが表示されます。複合CIの場合は、矢印をクリックして展開し、コンポーネントCIを表示します。ベースライン値のあるCIについては、ポリシー違反かどうかがアイコンで表示されます。 **注:** CIの属性の中で違反しているものが1つでもある場合や、ベースライン内のCIと一致しない場合、そのCIはポリシー違反とみなされます。
<右の表示枠>	左の表示枠で選択したCIについて、属性の名前と値、およびベースライン値が表示されます。ベースライン値が指定されている属性については、アイコンによって、選択したCIがその属性に関してポリシーに違反しているかどうかが示されます。

[表示するスナップショットの選択] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、比較対象となるスナップショットを2つ選択します。

利用方法	ツールバーで、スナップショットの選択ボックスのいずれかをクリックします。
重要情報	最初の選択ボックスでスナップショットを選択し、2番目の選択ボックスで別のスナップショットを選択します。この2つのスナップショットの比較結果が表示されます。
関連タスク	「スナップショットの比較」(151ページ)
関連情報	「変更履歴の概要」(150ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
<カレンダー>	カレンダーで日付を選択します。
<スナップショットのリスト>	リストには、選択した日付に、選択したビューで取得された、すべてのスナップショットが表示されます。

UI要素	詳細
Authorized By	スナップショットを承認したユーザーの名前が表示されます。 リストをフィルターし、選択したユーザーによって承認されたスナップショットのみを表示するには、ドロップダウンリストを使用します。 [**作成者**] フィールドには、ユーザー「Internal Process」が表示されることがあります。これは、内部Configuration Managerのプロセスによって (ユーザーではない) 承認が実行され、次のいずれかの状況で発生したことを意味します。 • ビューが管理され、いくつかのCIが承認された最初のとき。 • ユーザーがポリシーを追加したとき。 • いくつかのCIを選択したビューと共有する別のビューでユーザーが承認を実行したとき。 **注:** このフィールドは、承認状態のスナップショットの場合にのみ表示されます。
変更の詳細	スナップショットの簡単な説明です。
コメント	スナップショットに関する注記です。
作成日時	スナップショットを取得した日時です。

[CIのソート] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、[複合CI] 表示枠のCIリストをソートします。

利用方法	[複合CI] 表示枠のツールバーで [**複合CIのソート**] ボタンをクリックします。
重要情報	CIをソートした後に [**更新**] をクリックすると、変更内容が有効になります。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
	すべて追加: [利用可能なソートフィールド] 表示枠から [選択したソートフィールド] 表示枠に、すべてのフィールドを移動します。
	追加: [利用可能なソートフィールド] 表示枠から [選択したソートフィールド] 表示枠に、選択したフィールドを移動します。

UI要素	詳細
	削除: [選択したソートフィールド] 表示枠から選択したフィールドを削除します。
	すべて削除: [選択したソートフィールド] 表示枠からすべてのフィールドを削除します。
	上/下: 選択したフィールドを [選択したソートフィールド] 内で上下に移動します。
	昇順/降順: 選択した各フィールドに対して検索方向を指定できます。
利用可能なソートフィールド	CIをソートするフィールドとして選択可能なすべてのフィールド。
選択したソートフィールド	CIをソートするフィールドとして選択したフィールド。リスト内の順序に基づいてソートされます。

トポロジページ

このページでは、トポロジマップを大きな領域に表示します。

利用方法	[トポロジ] 表示枠のツールバーで [**トポロジマップを全画面表示**] ボタンをクリックします。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
	トポロジノードを強調表示: リストが表示され、次のトポロジマップの表示モードを選択できます。 • <第1スナップショット>を強調表示 • <第2スナップショット>を強調表示 • 両方を強調表示
<トポロジ表示枠のツールバーボタン>	[トポロジ] 表示枠のツールバーボタンは、[トポロジの表示] ダイアログボックスにもあります。詳細については、「[トポロジ] 表示枠」(103ページ)を参照してください。

第14章: ビュー

本章の内容

ビューの概要 171

トポロジビューとインベントリビュー 173

ビューの更新頻度 173

自動ステータス遷移 174

管理対象ビューの追加 175

ビューの自動ステータス遷移ルールの設定 176

ビューの更新頻度の指定 177

ビューのユーザーインターフェイス 177

トラブルシューティングおよび制限事項 – ビュー 180

ビューの概要

Configuration Managerでの作業では、まずビューを選択します。ビューはUCMDBで定義され、環境での管理作業に使用されるので、管理ビューと呼ばれます。ビュー管理では、履歴の追跡、ポリシーの定義、変更の認証による各ステータスの管理などを行います。

ビューモジュールは、Configuration Managerで管理するビューのリストを操作します。このリストには、現在管理対象となっているビューがすべて一覧表示されます。また、このリストにビューを新しく追加したり、不要になったビューを削除することができます。詳細については、「ビューの更新頻度」(173ページ)を参照してください。

管理ビューでは、そのビューで表示する管理CIタイプを定義します。管理CIタイプのみを認証することができ、非管理CIタイプはビュー内で淡色表示されます。1つのCIタイプを複数のビューで管理することは可能ですが、同じ複合CIを複数のビューで管理しないでください。同じCIを複数のビューで管理すると、CIを管理するビューが他に存在することを示す警告メッセージが表示されます。管理するCIタイプの詳細については、『UCMDBヘルプのモデリングに関するセクション』の [属性の追加/編集] ダイアログボックスを参照してください。

大きなビューの管理と更新では、Configuration ManagerシステムとUCMDBシステムに負荷がかかるため、管理ビューの情報を更新する頻度を決定できます。ビューの更新頻度を指定すると、負荷を分散

するのに役立ちます。ビューの更新頻度を低くすると、1日に1回指定された時間にビューが更新されます。ビューの更新頻度を高くすると(デフォルト)、オフライン分析の繰り返し間隔に従って、ビュー内の管理CIで変更が検出されるたびにビューが更新されます。

> **注 :** ビューモジュールにアクセスするには、少なくとも1つのビューで **CMでの認証**権限または **CMでの管理**権限が必要です。
>
> - 特定のビューの **CMでの認証**権限では、そのビューの表示と変更を行うことができます。
> - 特定のビューの **CMでの管理**権限では、そのビューの管理と管理解除を行うことができます。

管理するビューを選択したら、次の操作タイプでビューの管理方法を指定できます。

- **削除の候補 :** UCMDBで削除候補としてマークしたCIを、ビューの実際のステータスから削除します。詳細については、「[削除候補ポリシー] 表示枠」(179ページ)を参照してください。
- **自動ステータス遷移 :** ビューを自動的に認証できる条件を定義できます。詳細については、「自動ステータス遷移」(174ページ)を参照してください。

このような機能は、ビューの管理作業の一部を自動化するときに便利です。

管理ビューリストにビューを追加すると、そのビューは [ビューサマリー] ページに他の管理ビューとともに表示されます。ビューにはレビュー/認証モジュールなどでアクセスできます。

管理ビューリストを追加する方法の詳細については、「管理対象ビューの追加」(175ページ)を参照してください。

定義済みのビュー

> **注 :** Advancedライセンスを購入していない場合、このコンテンツを利用することはできません。適切なライセンスを入手するには、Micro Focusの営業担当またはMicro Focusソフトウェアビジネスパートナーに連絡してください。

Configuration Managerには、UCMDBで使用可能な定義済みのビューのグループが用意されており、すぐに管理に使用できます。これらのビューは、UCMDBの次の場所にあります: **[モデリングスタジオ] > [リソース]** タブ (リソースタイプとして **[ビュー]** を選択) **> [Configuration Manager] > [Configuration Manager - Do not modify] > [Automanaged Views]** フォルダー。

設定済みのビューにはいくつかのタイプがあります。

- すべてのサーバー - すべてのWindowsサーバーまたはすべてのUNIXサーバーを自動的に含むビューを管理できます。

- 仮想化または非仮想化クラスター - 非HACMP、J2EE、MS、Oracle RAC、Service Guard、Sun、またはVeritasマシンだけを含むビューを管理できます。

トポロジビューとインベントリビュー

管理ビューには、2つのタイプがあります。**トポロジビュー**と**インベントリビュー**です。トポロジビューでは、ビューのトポロジおよび複合CI間の関係を把握することができます。インベントリビューでは、類似した複合CIをグループ化することができ、トポロジビューよりも関係の数は少なく、ビューのサイズは大きくなります。ビューのタイプは、ビューモジュールの [全般] 表示枠で定義します。インベントリビューの一例として、サーバーに接続されているデータベースCIをすべて含むビューがあります。

ビューの調査モジュール、レビュー/認証モジュール、変更履歴モジュール、および認証履歴モジュールでは、トポロジモードとインベントリモードのいずれかでビューを表示できます。ビューは、作成時にトポロジビューまたはインベントリビューのいずれかを指定しますが、どちらのモードを使っても表示できます。ビューに含まれる複合CIの数が250を超えると、トポロジビューとして定義されていても、自動的にインベントリビューで表示されます。Configuration Managerでは、最大5000の複合CIがサポートされています。

ビューの更新頻度

Configuration Managerでは、同時に最大1200個のビューを管理でき、頻繁に更新されるビューでは、オフライン分析の繰り返し間隔に従って最大100個のビューを管理できます。

多数のビューを管理する場合、ビューの更新頻度が重要になります。オフライン分析プロセスの実行には時間がかかり、Configuration ManagerシステムとUCMDBシステムに負荷がかかるため、更新頻度を調整して、システムの負荷を分散できます。次の表に、各オプションに関する情報を示します。

1日に1回	• 管理ビューに対するTQLクエリの結果で変更に関する通知はUCMDBから受信されません。 • ビューに変更があったかどうかに関わらず、オフライン分析プロセスは実行されます。 • 複数のビューの計算は順次実行されるため、複数の管理ビューを1日に1回更新する場合、特定のビューの計算が遅延される可能性があります。 • 次の場合、ビューの1日に1回のみの更新に例外が発生します。 ○ 初めてビューを管理する場合 (ビューの比較、統計、スナップショットに影響)。

	◦ ポリシー計算を開始し、選択したビューがポリシーの範囲にある場合。 ◦ 別のビューでCIを認証し、そのCIが選択したビューでも管理されている場合 (ビューの比較、統計、スナップショットに影響)。
ビューの更新時	• 分析は、オフライン分析の繰り返し間隔に従って実行されます。 • ビューでは、UCMDB内のアクティブなTQLクエリが使用されます。 • ビューからのTQL結果で変更に関する通知をUCMDBから受信します。 • ビューに変更があった場合にのみ、オフライン分析プロセスが実行されます。

ビューの更新頻度を決定する場合、次の問題を考慮することができます。

UCMDBでのTQLクエリの優先度はどうなっているのか?	低い場合、Configuration Managerで1日に1回以上ビューを更新する必要がない可能性があります。
UCMDBで検出をどのくらいの頻度で実行するのか?	検出プロセスの実行頻度が1日に1回未満の場合、ビューを1日に1回以上更新する利点はありません。
ビューの変更頻度はどの程度なのか?	さほど頻繁でない場合、頻繁な更新を要求する理由はありません。
更新された情報の取得がどの程度重要なのか?	非常に重要な場合、ビューの更新頻度を1日に1回より多くしてください。
ビューの大きさはどの程度なのか?	頻繁に変更される大きなビューを更新すると、Configuration ManagerとUCMDBに負荷がかかる可能性があります。ビューのより頻繁な更新が重要でない限り、Configuration Managerの更新頻度を1日に1回のみにすることを検討してください。

詳細については、「ビューの更新頻度の指定」(177ページ)を参照してください。

自動ステータス遷移

Configuration Managerには、自動ステータス遷移機能があります。これにより、ビューで発生した変更を自動的に認証する条件を定義できます。ビューを選択し、認証する変更タイプ、変更を認証するCIタイプ、新しいポリシー違反を許可するかどうかを定義します。すべての変更が定義済みの条件を満たす場合のみ変更を自動的に認証するか、定義済みの条件を満たす個々の変更を自動的に認証する(その

他の変更は認証しない) かを選択できます。1つ以上のルールに違反するすべてのCIは認証されません。また、そのようなCIに依存するCIも認証されません。その他のCIは認証されます。

次に例を挙げて、認証がどのように適用されるかを示します。変更の認証を承認するCIタイプとして [computer] と[net device] を選択し、承認する変更タイプとして [追加されたCI] のみを選択します。また、新しいポリシー違反は許可しないように選択します。

- ビューレベルの認証を指定した場合、認証を承認する変更はCIタイプ [computer] または [net device] の追加のみです。これ以外のタイプのCIをビューに追加した場合や、CIを変更または削除した場合は、自動認証の対象にはなりません。同様に、任意のCIで新しいポリシー違反が検出されると、認証は行われません。たとえば、あるコンピューターを追加して別のコンピューターを削除すると、追加したコンピューターのCIがルールに適合していても、変更は自動認証されません。
- CIレベルの認証を指定した場合、[computer] または [net device] の追加のみが認証されます。その他の変更は認証されません。

  新しいポリシー違反が許可され、ビューに新しいトポロジポリシー違反がある場合、この違反の原因になっているのがどの変更かを特定する方法がないため、変更は認証されません。存在するのが新しいベースラインポリシー違反のみである場合、ベースラインポリシーに違反しているCIのみが認証されません。

認証条件は、1つのビューに対して複数定義できます。自動ステータス遷移は、任意のビューで関連する認証条件を満たすすべての変更に対して実行可能です。

管理対象ビューの追加

このタスクでは、ビューを管理ビューリストに追加する方法を説明します。

1. ビューモジュールで、ツールバーの [**ビューを管理ビューリストに追加**] ボタンをクリックします。[**管理するビューの選択**] ダイアログボックスが開きます。
2. 目的のビューを選択して [**OK**] をクリックします。[詳細] 領域にビューの詳細が表示されます。

   > **注 :** リスト内に目的のビューが表示されていない場合は、[**更新**] をクリックするとビューリストが更新されます。

3. [全般] 表示枠で、ビュータイプと管理CIタイプを設定します。
4. オプションで、[削除候補ポリシー] 表示枠のチェックボックスを選択できます。詳細については、「[削除候補ポリシー] 表示枠」(179ページ)を参照してください。
5. オプションで、ビューの自動ステータス遷移条件を設定できます。詳細については、「ビューの自動ス

テータス遷移ルールの設定」(176ページ)を参照してください。

6. ツールバーで [**保存**] をクリックします。ビューが管理ビューリストに追加され、他のモジュールがビューにアクセスが可能な状態になります。

ビューの自動ステータス遷移ルールの設定

このタスクでは、ビューの自動ステータス遷移ルールを設定する方法を説明します。

1. ビューモジュールの左の表示枠でビューを選択し、[自動ステータス遷移] 表示枠にある [**自動ステータス遷移を有効にする**] チェックボックスを選択します。詳細については、「自動ステータス遷移」(174ページ)を参照してください。
2. [**ビューレベル**] 認証か [**CIレベル**] 認証を選択します。
3. 条件テーブルで、次のオプションを構成します。
   - [**CIタイプ**] をクリックしてCIタイプツリーを開きます。自動認証で承認するCIタイプを選択します。
   - [**構成ポリシー**] をクリックして目的のオプション ([**ビューで新規ポリシー違反を許可する**] または [**ビューで新規ポリシー違反を許可しない**]) を選択します。
   - [**検出された変更タイプ**] をクリックして、認証を承認する変更タイプを選択します。
4. [**構成のテスト**] をクリックすると、設定した認証条件を満たした変更がビューに含まれているかどうかをチェックできます。
   - すべての変更が自動ステータス遷移ルールに適合している場合、テストのステータスが [**適合**] になります。
   - 一部またはすべての変更が自動ステータス遷移ルールに適合しない場合は、テストのステータスが [**違反**] になります。
5. [**OK**] をクリックして [ビュー] ウィンドウに戻り、[**保存**] をクリックして条件を保存するか、認証ルールを編集して再度テストします。

これで、自動ステータス遷移ルールを設定できました。自動ステータス遷移を実行すると、ビュー内に設定した条件を満たす変更があれば認証されます。詳細については、「CIの変更の認証」(133ページ)を参照してください。

> **注 :** 自動ステータス遷移は、自動ステータス遷移が有効になっているすべてのビューで実行されます。

ビューの更新頻度の指定

1. [**ビュー**] に移動します。
2. ビューを選択します。

   > **注 :** 新規ビューの作成時にも、ビューの更新頻度を指定できます。

3. [全般] 表示枠で、ビューの更新頻度を選択します。ビューの更新を1日に1回、またはビュー内の管理CIで変更が行われるたびに行うことを選択できます。

   1日に1回更新されるビューでは、この更新を開始する時間を指定できます。デフォルトの時間は 12:00 AM (真夜中) です。

   > **注 :** これは計算が始まる時間です。1日に1回以上更新されるビューでは、計算は順次実行されます。

   a. **[管理] > [設定] > [アプリケーション管理] > [オフライン分析と認証] > [日次ビューの更新設定]** を選択します。

      > **ヒント :** できる限り、UCMDB上の検出プロセスが実行されていないときに実行するようにオフライン分析をスケジュールし、パフォーマンスの低下を回避します。

   b. ドロップダウンリストから、更新を実行する時間を選択します。

4. をクリックします。

ビューのユーザーインターフェイス

本項の内容

[ビュー] ページ 177

[ビュー] ページ

このページには、現在管理対象になっているビューのリストが表示されます。

利用方法	[**ビュー**] を選択します。

重要情報	左の表示枠には、管理ビューが一覧表示されます。[全般] 表示枠、[削除候補ポリシー] 表示枠、[自動ステータス遷移] 表示枠には、左の表示枠で選択した管理ビューの詳細情報が表示されます。 ビューを管理ビューリストに追加すると、システムの更新が完了するまでの間、数分間データを参照できなくなることがあります。
関連タスク	• 「管理対象ビューの追加」(175ページ) • 「ビューの自動ステータス遷移ルールの設定」(176ページ)
関連情報	「ビューの概要」(171ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
<ビューのフィルター>	表示されているビューのリストをフィルターするための文字列を入力します。
	お気に入りビューのみを表示する: すべてのビューを表示するか、お気に入りビューのみを表示するかを切り替えます。
	ビューの追加: 管理ビューのリストに追加するビューを選択できます。[**管理するビューの選択**] ダイアログボックスが開きます。
	ビューの削除: 選択したビューが管理ビューのリストから削除されます。
	保存: 変更を保存できます。
	取り消す: ビューの変更を取り消すことができます。
	自動ステータス遷移: すべてのビューで自動ステータス遷移をトリガーできます。
	更新: ビューのリストを更新します。
ビュー名	管理ビューの名前。

[全般] 表示枠

UI要素	詳細
詳細	UCMDBで選択した管理ビューの説明。
管理CIタイプ	このビューで管理するCIタイプを選択します。このビューで選択したCIタイプのみが管理対象になります。たとえば、CIタイプに子CIタイプが複数存在する場合、一部のみを選択しても親CIタイプは管理対象になりません。

UI要素	詳細
	注: 標準設定では、すべてのCIタイプが選択されています。
ビュー名	選択した管理ビューの名前。
ビューの更新頻度	[**1日に1回**] または [**ビューの更新時**] のいずれかを選択します。
ビュータイプ	ビューのタイプを選択します。[**トポロジ**] と[**インベントリ**] のいずれかを選択できます。詳細については、「トポロジビューとインベントリビュー」(173ページ)を参照してください。

[削除候補ポリシー] 表示枠

UI要素	詳細
実際のステータスから、削除候補としてマークされたCIを削除する (UCMDBエイジングメカニズムを上書きする)	このチェックボックスを選択すると、UCMDBで削除候補としてマークしたCIが、ビューの実際のステータスから即時で削除されます。チェックボックスの選択を解除すると、UCMDBで設定された削除時刻まで削除されません。

[自動ステータス遷移] 表示枠

関連タスク	「ビューの自動ステータス遷移ルールの設定」(176ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
<条件リスト>	自動ステータス遷移ルールは、次の項目に基づいて設定します。 • **CIタイプ:** 自動認証で承認する変更のCIタイプを指定します。このオプションが強調表示されると、CIタイプツリーが下に表示されます。ツリーから目的のCIタイプを選択します。 • **構成ポリシー:** ビュー内で新しいポリシー違反が発生した場合に、自動認証で承認するかどうかを指定します。 [**ビューで新規構成違反を許可する**] チェックボックスを選択すると、Configuration Managerポリシーのすべての違反が無視されます。 チェックボックスを選択していない場合、新規ポリシー違反によって自動化が停止されます。 ◦ CIに新規ベースラインポリシー違反がある場合、そのCIの変更のみが認証

UI要素	詳細
	されません。 ○ - CIに新規トポロジポリシー違反がある場合、ビュー内のCIの変更は認証されません。 • **検出された変更タイプ:** 自動認証で承認する変更のタイプを指定します。次のオプションを選択できます。 ○ 追加されたCI ○ 変更されたCI ○ 削除されたCI
<条件リスト> (続き)	• **関連RFC:** ビューの自動ステータス遷移が行われるために、変更されたCIにRFCがある必要があるかどうかを指定します。[**関連RFCがない変更を許可しない**] のみを選択すると、CIに直接関連付けられているRFCのみ検証されます。CIに間接的に関連付けられているRFCを検証するには、[**CI上の間接RFCを許可する**] を選択します。 [**変更管理システムのログで、選択したRFCでの変更が検出されました**] チェックボックスを選択して、変更管理システムのRFCに関連する変更でマークします。
自動ステータス遷移を有効にする	このチェックボックスを選択すると、[自動ステータス遷移] 表示枠のフィールドがアクティブになります。次のオプションを利用できます。 • **ビューレベル**の認証 (デフォルト): このオプションでは、ビュー内のすべてのCIのすべてのルールに適合する場合、選択したビューのすべての変更が自動認証されます。つまり、すべてのルールに適合する場合はビュー内のすべての変更が自動認証され、定義済みのルールに適合しない変更が1つでもある場合はビュー内のどの変更も認証されません。 • **CIレベル**の認証 : このオプションでは、自動ステータス遷移を実行する特定のCIタイプと変更タイプを選択できます。この場合、ビュー内のすべてのCIがすべてのルールに適合する必要はありません。 複数のビューで管理される変更の認証を含める場合は、[**複数のビューで管理されているCIの変更を認証する**] チェックボックスを選択します。標準設定では、選択したビューに対して [自動ステータス遷移] が指定されている場合でも、複数のビューで管理されるCIに対する変更は自動的には認証されません。
構成のテスト	自動ステータス遷移を設定した後、[**構成のテスト**] をクリックすると、設定した認証条件を満たす変更がビュー内に存在するかどうかをチェックできます。

トラブルシューティングおよび制限事項 – ビュー

Configuration Managerで管理ビューを操作する際には、次のような制限があります。

- 連携TQLクエリを含むビューは、管理ビューリストに追加するために選択することはできません。
- 日付制限を持つノードがビューに含まれる場合、このビューの更新されたデータが表示されるのは、1日に1回 (ビューが更新されるたびではなく) 更新されるように設定されている場合にかぎります。このようなビューの更新されたデータを見るには、JMXコンソールを使用して手動でビューを更新します。

第 15章 : ポリシー

本 章 の内 容

ポリシーの概 要 182

ベースラインの設 定 184

ポリシーグループ 184

ベースラインポリシーまたはトポロジポリシーの定 義 185

類 似 性 ポリシーの定 義 186

Configuration Managerのトポロジポリシー - ユースケース 187

Configuration Managerの類 似 性 ポリシー - ユースケース 192

ポリシーのユーザーインターフェイス 196

トラブルシューティングおよび制 限 事 項 – ポリシー 204

ポリシーの概 要

ポリシーでは、ビューで期 待 される構 成 を定 義 できます。ポリシーを管 理ビューに適 用 することにより、標 準 を設 定 することができます。ポリシーを使 用 することによって、基 準 にしたがってビューを作 成 し、IT環 境 構 築 をより予 測 可 能 にできます。

ポリシーモジュールでは、管 理ビューで定 義 したポリシーグループとポリシーを管 理 します。次 の3つのタイプのポリシーを定 義 できます。

- **ベースラインポリシー**

  ベースラインポリシーは、複 合 CI用 のベースラインであり、ビューに含 まれるCIと比 較 する属 性 を選 択 します。たとえば、「ビュー内 の運 用 サーバーは、1台 あたりCPUを2基 以 上 搭 載 しなければならない」というベースラインポリシーを定 義 するとします。このポリシーでは、ビュー内 にあるすべてのサーバーCIがベースラインCIと比 較 されます。ポリシーを満 たしていないCIが存 在 すると、ビューはポリシー違 反 とみなされます。

  > **注 :** 条 件 を満 たした構 成 を持 つCIがすでに存 在 する場 合 、これをベースラインとして選 択 することができます。

ベースラインポリシーのCIに関する詳細情報は、ビューの調査、変更のレビュー/認証、変更履歴、認証履歴の各モジュールにあります。

- **トポロジポリシー**

  トポロジポリシーでは、ビューの構成を決定する条件TQLクエリを定義します。たとえば、「運用J2EEの各クラスターは2台以上のサーバーで構成する」という条件を条件TQLで定義します。この条件を満たしたビューは、トポロジポリシーを満たすことになります。この条件を満たさないビューは、ポリシー違反とみなされます。

  ポリシーに適合する構成ではなく、違反するトポロジをTQLクエリで定義する方が簡単な場合もあります。このような場合は、トポロジポリシーの条件を逆にするオプションを使用することにより、ポリシーの適合条件を逆にすることができます (上の例では、サーバーが2台未満のクラスターのみが条件を満たすことになります)。

  トポロジポリシーのCIに関する詳細情報は表示できません。

- **類似性ポリシー**

  類似性ポリシーでは、ビューの特定のタイプのすべてのCIまたはビューのCIのグループ (各グループが定義されたCITに接続されている) の間で類似性を強制するCIおよび属性を選択します。たとえば、Oracleデータベースに接続されている、ラボのすべてのUNIXマシンに同一のOSバージョンが必要であることを示す類似性ポリシーを定義できます。別の例では、各クラスター内のすべてのサーバーでアプリケーションの同一のバージョンを実行していることを示す類似性ポリシーを定義できます。

  類似性ポリシーは静的ではありません (ベースラインポリシーとは異なり、コンポーネント数が固定されておらず、属性値も設定されていません)。したがって、値を指定せずに属性やコンポーネントを選択します。ポリシー計算では、すべての複合CI (グループ化を選択した場合は、各グループのCI) で現在の値やコンポーネントを比較し、それに従ってポリシーステータス (すべての複合CIがポリシーを満たしているか、ポリシーに違反しているか) を決定します。

  類似性ポリシーのCIに関する詳細情報は、ビューの調査 (最新のスナップショットのみ) および変更のレビュー/認証の各モジュールで表示できます。

3つのすべてのタイプのポリシーで、次の項目も定義できます。

- **有効性:** ポリシーの有効期間を設定します。
- **フィルター:** ポリシーをビュー内のCIのサブセットに限定します。たとえば、ベースラインCIのタイプが「Oracle」の場合、フィルターによって「Oracle version 9」に限定することができます。

3つのすべてのタイプのポリシーを、Configuration Managerのすべての管理ビューに適用できます。

さらに、UCMDBには、Configuration Managerですぐに使用できる定義済みポリシーのグループが用意されています。詳細については、「ポリシー」(15ページ)を参照してください。

ポリシーの定義の詳細については、「[ポリシー] ページ」(197ページ)を参照してください。

注 :

- Advancedライセンスを購入しない限り、このモジュールにはアクセスできません。適切なライセンスを入手するには、Micro Focusの営業担当またはMicro Focusソフトウェアビジネスパートナーに連絡してください。
- このモジュールを使用するには、**ポリシー管理**権限が必要です。
- また、次のいずれかの権限も必要です。
  - **CMでの認証**権限によって、:ポリシーの割り当てやビューからのポリシーの削除を行うことができます。
  - **ビュー**権限によって、:ポリシーのプレビューや管理CIからのベースラインポリシーの作成を行うことができます (**CMでの認証**権限に含まれます)。

ベースラインの設定

構成ベースラインとは、正式なレビューを行った結果、操作の基準として承認されたサービス、製品、インフラストラクチャーの構成を指します。ベースラインは、構成の構造、コンテンツ、詳細情報をキャプチャーし、相互に関連性のある構成項目のセットを示します。

ベースラインを作成することにより、次の操作が可能になります。

- サービスの開発におけるマイルストーンを設定
- 定義した入力セットからサービスコンポーネントを構築
- 後日、バージョンを変更または再構築
- 変更やリリースの準備として、すべての関連コンポーネントをまとめる
- 構成の監査や取り消し (変更後など) のベースを提供

ポリシーグループ

ポリシーを論理的にまとめることにより、ポリシーグループを定義することができます。ポリシーグループには、ベースラインポリシーとトポロジポリシーを含めることができます。個々のポリシーではなくポリシーグループをビューに割り当てることにより、ポリシー管理が簡単になります。また、ポリシーグループ内でサブグループを定義することも可能です。

グループ内のポリシーは、コピーして別のグループまたはツリーのルートに貼り付けることができます。この方法を使うと、ポリシーグループにポリシーを簡単に追加できます。既存のポリシーに類似したポリシーを定義する場合は、コピーしてから変更してください。コピーしたポリシーを変更しても、元のポリシーには影響しません。また、グループのポリシーを切り取って、別のポリシーに貼り付けることもできます。この場合、ポリシーは元のグループから削除されます。

ポリシーグループをコピーまたは切り取ってから、別のポリシーグループまたはポリシーツリーのルートに貼り付けることも可能です。1回の操作で切り取りまたはコピーできるのは、単一のポリシーまたはグループのみです。

ポリシーやポリシーグループをコピーまたは切り取ってから他の場所に貼り付けても、ビューの割り当てはそのまま変わりません。ただし、グループポリシーがビューに割り当てられている状態で、グループ内のポリシーを別のグループにコピーすると、コピーされたポリシーは、前のグループではなく新しいグループのビューに適用されます。

ポリシーグループの定義の詳細については、「[ポリシー] ページ」(197ページ)を参照してください。

ベースラインポリシーまたはトポロジポリシーの定義

このタスクでは、新しいポリシーを定義し、管理ビューに適用する方法を説明します。

1. [ポリシー] ツールバーの [**ポリシーの追加**] ボタンをクリックして、次のいずれかを選択します。
   - ベースラインポリシーの追加
   - トポロジポリシーの追加
2. [詳細] 表示枠の [全般] 領域で、ポリシーの名前と説明を入力します。
3. [詳細] 表示枠の [ビュー] 領域で、新しいポリシーの割り当て先となるビューを選択します。
4. [詳細] 表示枠の [有効性] 領域で、ポリシー検証の期間を選択します。
5. [詳細] 表示枠の [フィルター] 領域で、ポリシーの適合性のテスト対象となるCIのCIタイプを選択します。オプションで、ポリシーの適合性をテストするCIのCIタイプをフィルターする際に、詳細フィルターとして使用するTQLを選択できます。
6. 次のいずれかを実行します。
   - ベースラインポリシーについては、[詳細] 表示枠の [ベースラインCI] 領域でベースラインCIと属性を設定します。

- トポロジポリシーについては、[詳細] 表示枠の [条件] 領域で条件タイプと条件TQLを設定します。

7. 完了したら、[**保存**] を [ポリシー] ツールバーでクリックして、ポリシーを保存します。

> **注 :** ベースラインポリシーウィザードを使用してベースラインポリシーを作成することもできます。詳細については、「ベースラインポリシーウィザード」(96ページ)を参照してください。

類似性ポリシーの定義

このタスクでは、新しいポリシーを定義し、管理ビューに適用する方法を説明します。

1. [ポリシー] ツールバーの [**ポリシーの追加**] ボタンをクリックして、[類似性ポリシーの追加] を選択します。
2. [詳細] 表示枠の [全般] 領域で、ポリシーの名前と説明を入力します。
3. [詳細] 表示枠の [ビュー] 領域で、新しいポリシーの割り当て先となるビューを選択します。
4. [詳細] 表示枠の [有効性] 領域で、ポリシー検証の期間を選択します。
5. 次のいずれかを実行します。
   - 関連する構成のグループ化を有効にする場合、[**CIタイプとパターンによるグループ化を有効にします**] チェックボックスを選択します。その後、グループ化CIタイプと、グループ化の作成に使用する関連TQLクエリ (パターン) を選択します。
   - グループ化を有効にしない場合、[**CIタイプとパターンによるグループ化を有効にします**] チェックボックスが選択されていないことを確認します。[比較範囲] 表示枠で、ポリシーの適合性のテスト対象となるCIのCIタイプを選択します。
6. [類似性の基準] 領域で、比較対象のCIタイプと属性を指定します。
7. 完了したら、[ポリシー] ツールバーの [**保存**] ボタンをクリックして、ポリシーを保存します。

Configuration Managerのトポロジポリシー - ユースケース

本項では、Configuration Managerでのトポロジポリシーのユースケースを紹介します。

このシナリオには次の手順が含まれています。

- 「前提条件」(187ページ)
- 「UCMDBでの条件TQLクエリの作成」(188ページ)
- 「Configuration Managerでのトポロジポリシーの定義」(191ページ)

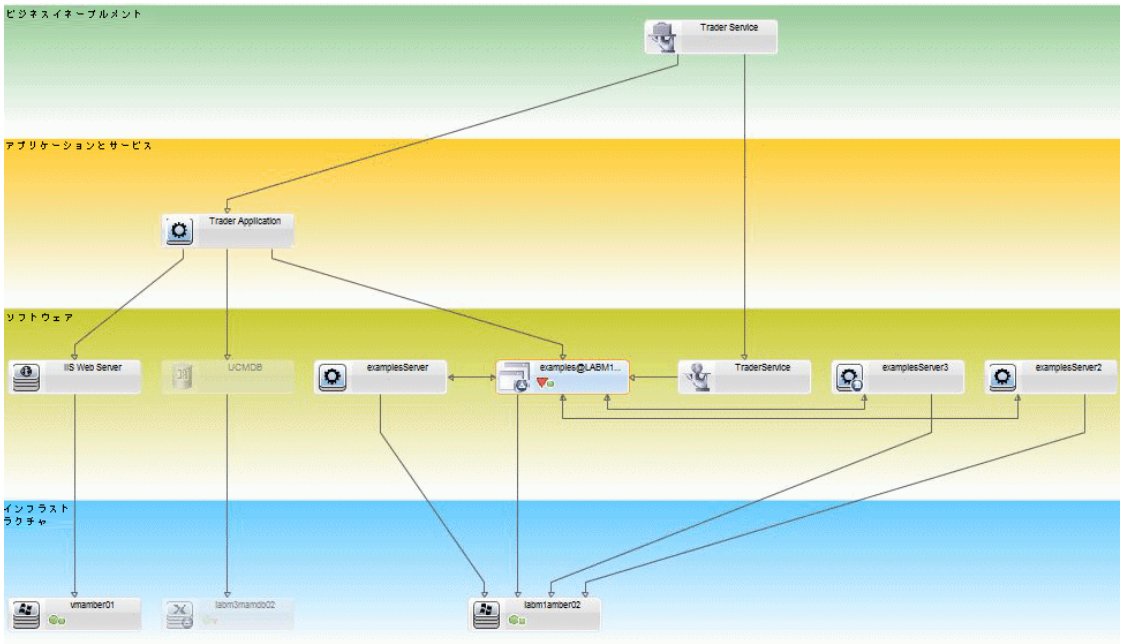
1. **前提条件**

   トレーダーサービスの所有者は、サービスが高い可用性と復元性を発揮していることを継続的に監視する必要があります。このサービスには、複数のWeb Logicサーバーで構成されるJ2EE Clusterを使用します。各サーバーはWindowsホスト上で稼働します。

   サービスの所有者は、クラスターでこの構成をサポートする場合、十分なレベルのサービス提供とアプリケーションの応答時間を実現するためには物理ホストが3台以上必要になることを特定しました。したがって、変更が発生した状況でも、合意された要件に基づいてサービスを確実に連続稼働するためには、適切なレベルのリソースを確保することが重要になります。

   そこでサービスの所有者は、Configuration Managerのトポロジポリシーを定義し、クラスターをサポートするホスト数を監視することにしました。つまり、サービスをサポートするクラスターに含まれるホスト数が2台以下になった場合、インジケーターで確認できるようにしました。

   サービストポロジはUCMDBのビューでモデル化され、これに対応する管理ビューがConfiguration Managerに存在します。次の図は、Configuration Managerでのサービストポロジを示します。

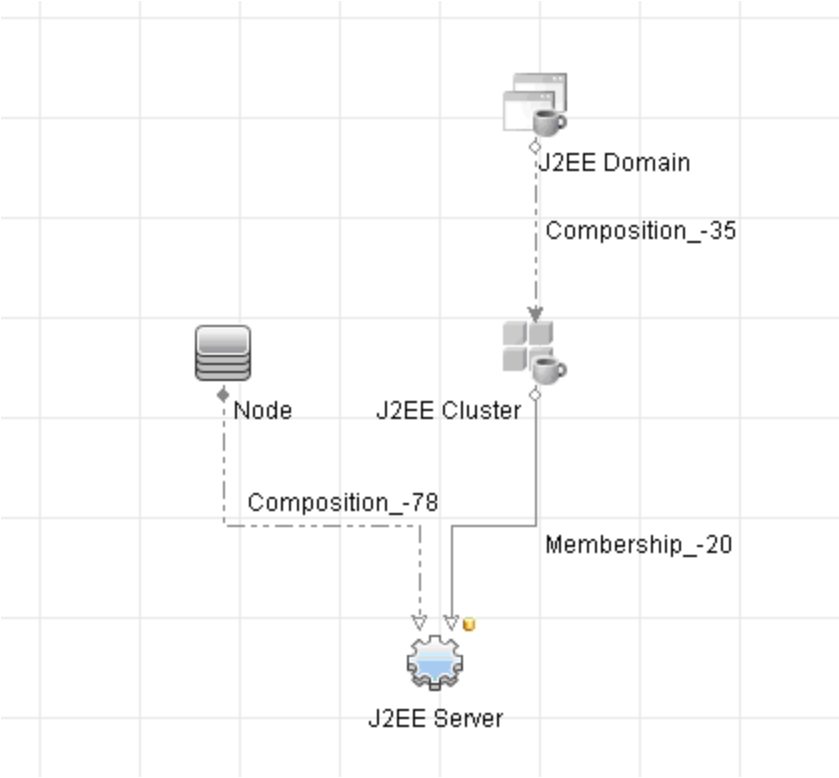


2. **UCMDBでの条件TQLクエリの作成**

UCMDBウィンドウを開きます ([**UCMDBの起動**] ボタンをクリックし、ログインします)。

[**モデリングスタジオ**] に移動します。[リソース] タブで、リソースとして [**ビュー**] を選択し、[**Trader**] ビューを探します。ダブルクリックして開きます。このビューには、J2EEドメインとWindowsホスト間の接続を定義する関係が含まれています。

次の図は、UCMDBのビューの関連部分を示します。



J2EEドメインとNode CIとの間にある関係パスから、J2EEドメインとホスト (Node CI) 間の複合関係を示すクエリを作成します。

複合関係を含むクエリを作成するには、次の手順を実行します。

a. [モデリングスタジオ] の [**新規作成**] ボタンをクリックし、[**クエリ**] を選択します。

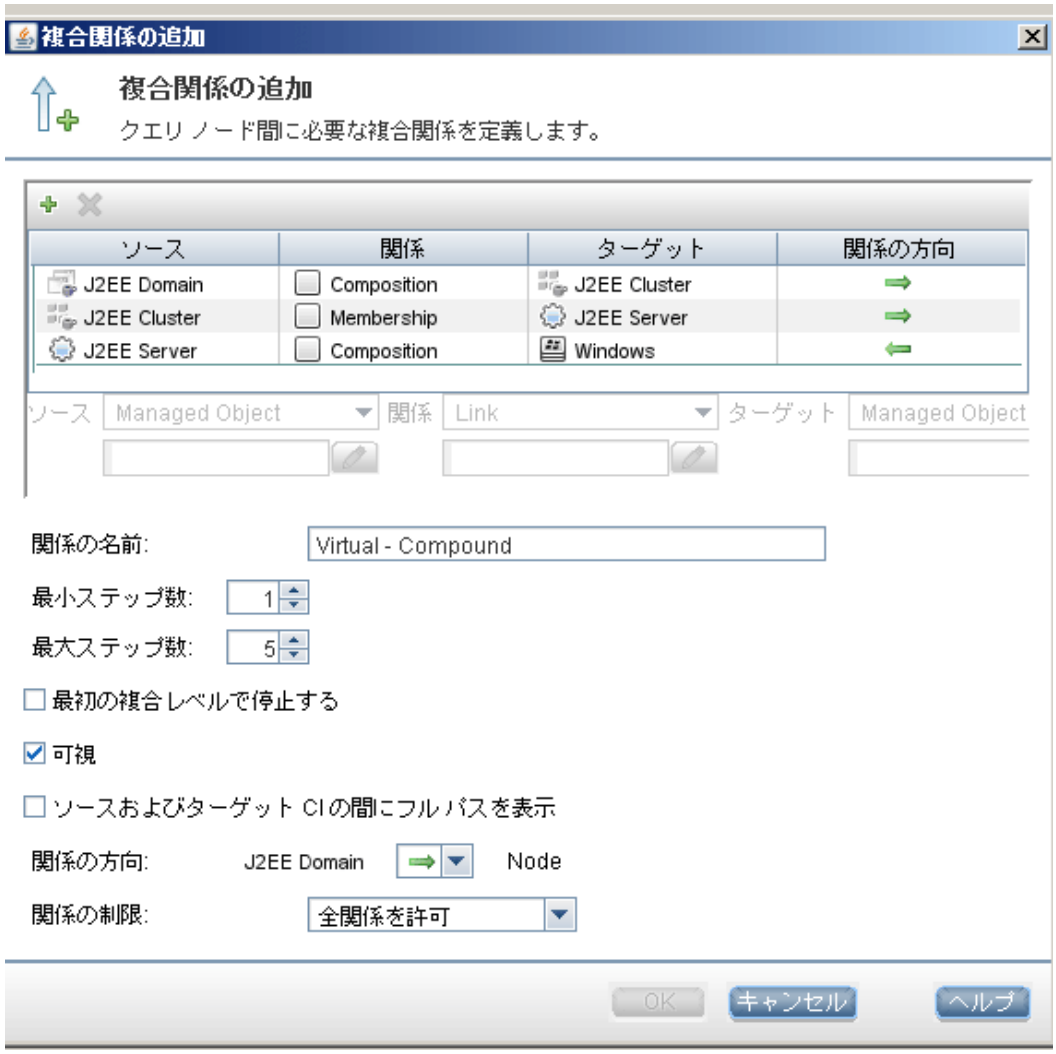
b. [J2EE Domain] と [Node] の各CIを [モデリング] 表示枠にドラッグします。

c. 両方のCIを選択して、新しい複合関係を追加します (右クリックのコンテキストメニューを使用)。

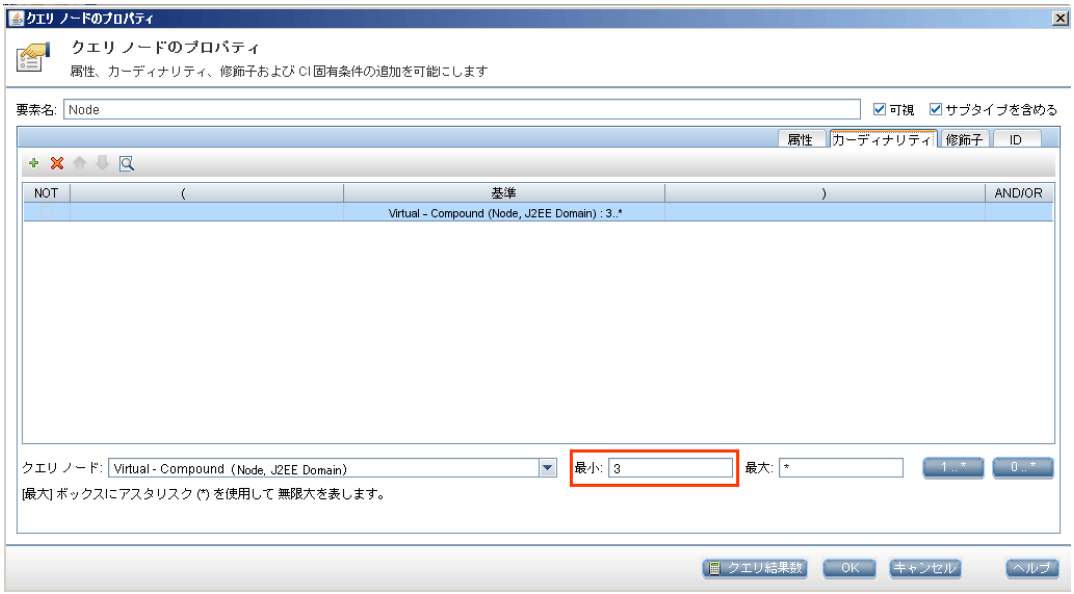
d. 複合関係を編集して、次のパス要素を追加します。

- J2EE Domain - Composition - J2EE Cluster
- J2EE Cluster - Membership - J2EE Server
- J2EE Server - Composition - Windows

複合関係の方向は、[J2EE Domain] から [Node] である点に注意してください。



e. [Node] のカーディナリティの値 の最 小 値 を3に設 定します。ノード CIを右 クリックして [**クエリノードのプロパティ**] を選 択し、[**カーディナリティ**] タブを選 択して [**最 小**] ボックスに「**3**」と入 力します。



f. 完 了したらクエリを保 存します。

3. **Configuration Managerでのトポロジポリシーの定 義**

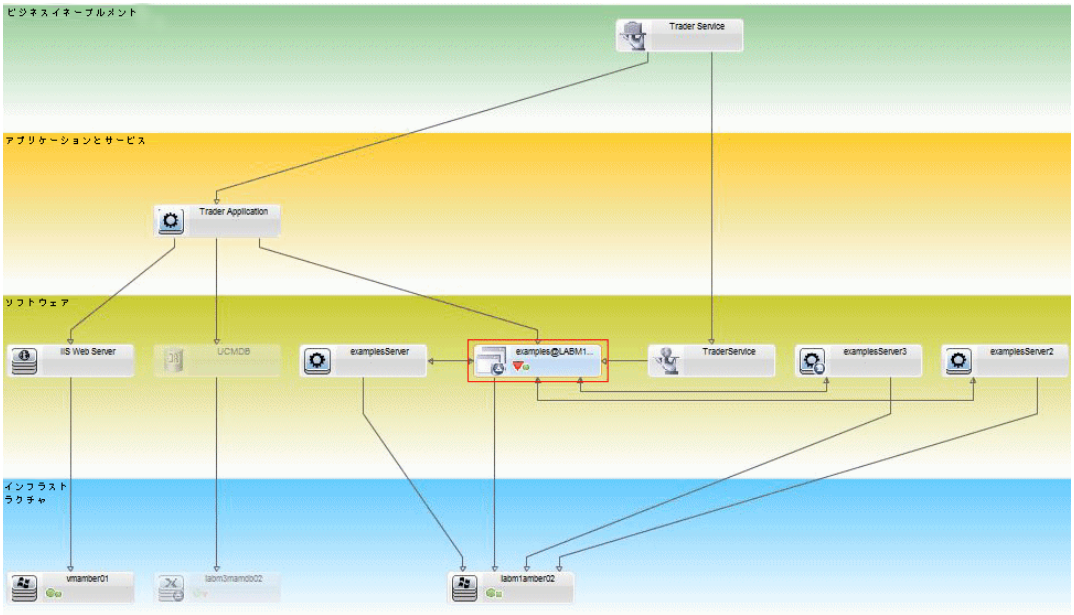
a. Configuration Managerで、ポリシーモジュールに移 動し、新しいトポロジポリシーを作 成します。

b. 名 前 と説 明を設 定し、新 規 作 成したポリシーを「**Trader**」管 理ビューに割り当 てます。

c. [条 件] で、UCMDBで作 成したクエリを選 択し、[条 件 タイプ] で [**正**] を選 択します。

d. 新規作成したポリシーを保存し、プレビューします。

この新しいポリシーは、J2EE Clusterをサポートするノード数が2以下になると、次の図で示すように、J2EE Domainの違反を通知します。



Configuration Managerの類似性ポリシー - ユースケース

本項では、Configuration Managerでの類似性ポリシーのユースケースを紹介します。

- 「Oracleデータベースに接続されるラボ内のすべてのUNIXマシンのOSバージョンは、同一にする必要がある」(192ページ)
- 「各クラスター内のすべてのアプリケーションサーバーが同じ属性を持つ必要がある」(194ページ)

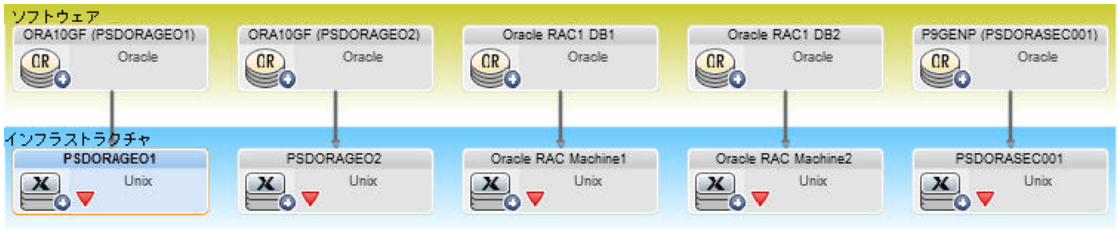
Oracleデータベースに接続されるラボ内のすべてのUNIXマシンのOSバージョンは、同一にする必要がある

このシナリオには次の手順が含まれています。

- 「前提条件」(193ページ)
- 「類似性ポリシーの定義」(193ページ)

1. 前提条件

   UNIXラボ管理者が、Configuration Managerで管理されている次のビューを持っていること。



   UNIXラボ管理者は、Oracleデータベースに接続されているすべてのUNIXマシン (つまり、上の図で強調されているマシン) のOSバージョンを、常に同じバージョンにしたいと考えています。また、常に最新パッチを実行したいと考えているため、このバージョンは頻繁に変更されます。

2. 類似性ポリシーの定義

   Configuration Managerで [ポリシー] に移動し、新しい類似性ポリシーを作成します。

   a. [**CIタイプとパターンによるグループ化を有効にする**] チェックボックスを選択解除します。
   b. 名前と説明を設定します。
   c. UNIXをメインCITとして選択します。
   d. 比較範囲を [**Oracleに関連**] でフィルターします。
   e. OSバージョン属性を類似性基準として選択します。

   > **注 :** ベースラインポリシーとは異なり、これには、ポリシーの作成または更新時に入力される固定属性値が含まれます。

   新規ポリシーによって、上の図で強調されているUNIXマシンそれぞれのOSバージョン属性の不整合が常に動的に検出されます。つまり、ユーザーは、環境で更新が発生するたびにポリシー定義を手動で更新する必要はありません。

   このポリシーを定義すると、ポリシーステータスのアイコンは、レビュー/認証、変更履歴、認証履歴、およびビューの調査の各モジュールに表示されます。

各クラスター内のすべてのアプリケーションサーバーが同じ属性を持つ必要がある

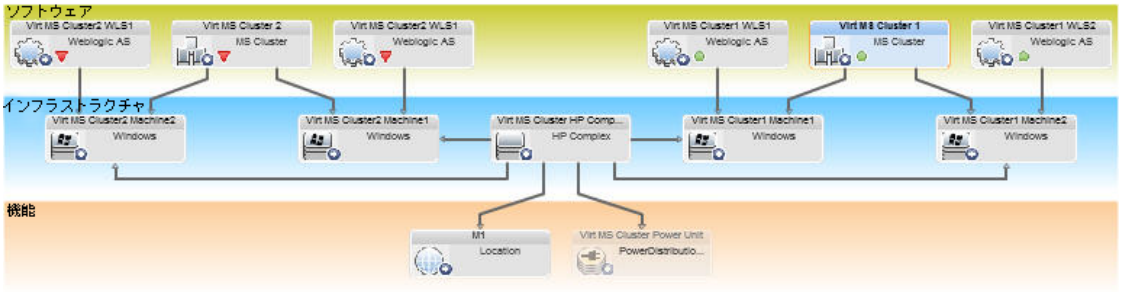
この例では、同じでなければならない属性は、アプリケーションインストールパス、アプリケーションバージョンの説明、ベンダー、およびバージョンです。

このシナリオには次の手順が含まれています。

- 「前提条件」(193ページ)
- 「ビューの作成」(194ページ)
- 「類似性ポリシーの定義」(193ページ)

1. 前提条件

   ユーザーが、Configuration Managerで管理されている次のビューを持っていること。



   多くのクラスターがあり、各クラスター内に多くのアプリケーションサーバーがあるため、ユーザーは、各クラスターについて、アプリケーションサーバーが同じ定義された属性を持つことを確認したいと考えています。

2. ビューの作成

   上記に示すビューを使用するか、新しいビュー(それぞれのビューにクラスターが含まれている)を作成して、ポリシーへの適合性をテストします。

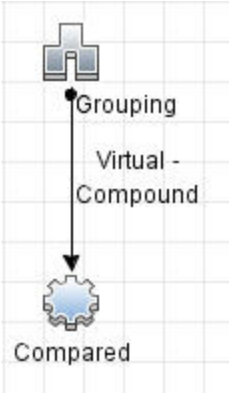
3. 類似性ポリシーの定義

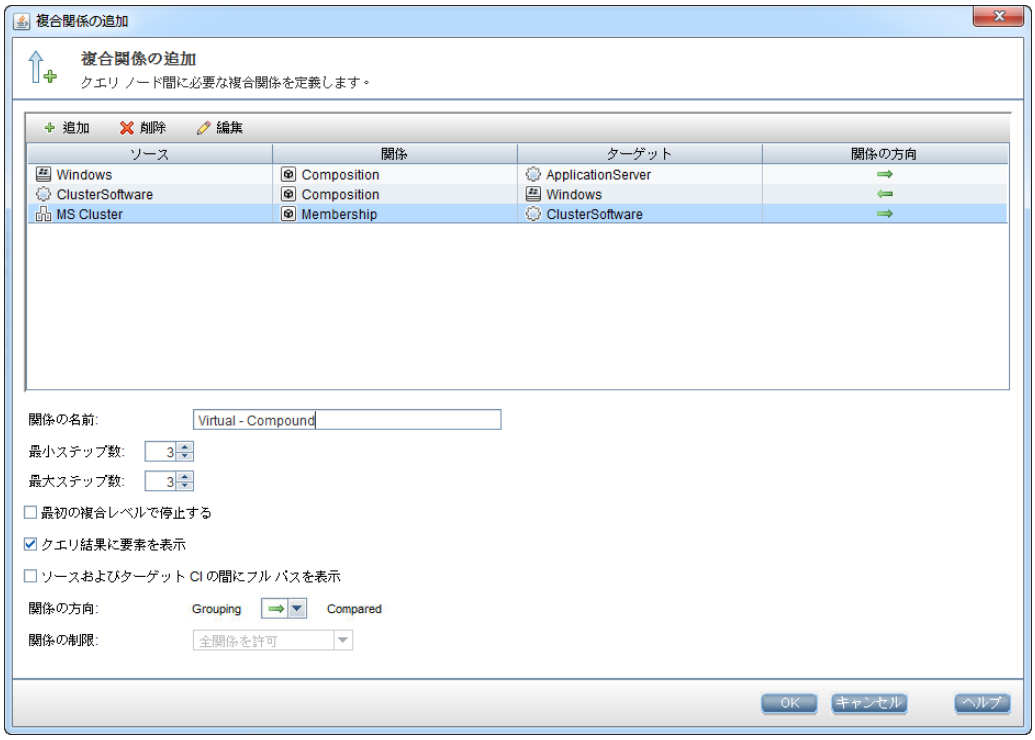
   Configuration Managerで [ポリシー] に移動し、新しい類似性ポリシーを作成します。

   a. [**CIタイプとパターンによるグループ化を有効にする**] チェックボックスが選択されていることを確認します。

   b. [グループ化] セクションで、次の手順を実行します。

- グループ化 CIタイプを選 択します (クラスターなど)。
- クラスターCITとアプリケーションサーバー間 の必 要 なパスを定 義 するグループ化 TQLを選 択 します。例 :





c. 名 前 と説 明 を設 定 します。

d. バージョン属 性 を類 似 性 基 準 として選 択 します。

> **注 :** ベースラインポリシーとは異 なり、これには、ポリシーの作 成 または更 新 時 に入 力 される固 定 属 性 値 が含 まれます。

新規ポリシーによって、上の図で強調されている各アプリケーションサーバーグループの比較される属性の不整合が常に動的に検出されます。つまり、ユーザーは、環境で更新が発生するたびにポリシー定義を手動で更新する必要はありません。比較される属性は、各クラスターグループ内でのみ比較され、異なるグループ間では比較されません。

このポリシーを定義すると、ポリシーステータスのアイコンは、レビュー/認証、変更履歴、認証履歴、およびビューの調査の各モジュールに表示されます。

ポリシーのユーザーインターフェイス

本項の内容

属性演算子 196
[ポリシー] ページ 197
[ポリシープレビュー] ダイアログボックス 203
[複合CIの選択] ダイアログボックス 204

属性演算子

次の表は、属性の条件定義で使用する演算子を示します。

任意の演算子の横にある [NOT] 列のチェックボックスを選択し、その演算子の値を属性条件から除外します。

演算子	記号	詳細
含む		属性値に指定した値が含まれるかどうかをチェックします。
含む (大文字小文字の区別なし)		属性値に指定した値が含まれるかどうかをチェックします。大文字と小文字は区別されません。
空		属性値が空であるかどうかをチェックします。
等しい		属性値が指定した値と等しいかどうかをチェックします。
等しい (大文字小文字の区別なし)		属性値が指定した値と等しいかどうかをチェックします。大文字と小文字は区別されません。

演算子	記号	詳細
大きい	>	属性値が指定した値より大きいかどうかをチェックします。
以上	≥	属性値が指定した値以上かどうかをチェックします。
含まれる	∈	属性値が定義した値リストに含まれるかどうかをチェックします。値のリストを編集するには、[**値の編集**] ボタンをクリックします。
含まれる (大文字小文字の区別なし)	∈A	属性値が定義した値リストに含まれるかどうかをチェックします。大文字と小文字は区別されません。値のリストを編集するには、[**値の編集**] ボタンをクリックします。
小さい	<	属性値が指定した値より小さいかどうかをチェックします。
以下	≤	属性値が指定した値以下かどうかをチェックします。
類似	~	ワイルドカード (%または *) を使用します。[**類似**] を指定すると、名前の一部を検索できます。ワイルドカード文字を名前の一部として挿入できます。
類似 (大文字小文字の区別なし)	~A	ワイルドカード (%または *) を使用します。[**類似 (大文字小文字の区別なし)**] を指定すると、名前の一部を検索できます。文字列の大文字と小文字は区別されません。
後に発生		(日付タイプの属性を選択したときに表示されます)ポリシーがビューで適用される時点で計算される (時間単位の) 指定期間後に、属性値が生じるかどうかを確認する相対演算子。
以内に発生		(日付タイプの属性を選択したときに表示されます)ポリシーがビューで適用される時点で計算される (時間単位の) 指定期間内に、属性値が生じるかどうかを確認する相対演算子。

[ポリシー] ページ

このページでは、構成ポリシーを定義および編集します。

利用方法	[**ポリシー**] を選択します。

重要情報	左の表示枠には、展開可能なポリシーリストが表示されます。[詳細] 表示枠には、左の表示枠で選択したポリシーの詳細が表示されます。
関連タスク	• 「ベースラインポリシーまたはトポロジポリシーの定義」(185ページ) • 「類似性ポリシーの定義」(186ページ)
関連情報	「ポリシーの概要」(182ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
	ポリシーグループの追加: 新しいポリシーグループを定義できます。
	ポリシーの追加: 新しいポリシーを定義できます。次のオプションのいずれかを選択します。 • ベースラインポリシーの追加 • トポロジポリシーの追加 • 類似性ポリシーの追加
	削除: 選択したポリシーまたはグループを削除します。
	切り取り: 選択したポリシーまたはグループを現在の場所から削除して、クリップボードに保存します。
	コピー: 選択したポリシーまたはグループをクリップボードにコピーします。
	貼り付け: コピーしたポリシーまたはグループを選択した場所に追加します。
	取り消す: 最後に実行した操作を取り消します。
	保存: 現在のポリシーに加えた変更を保存します。
	プレビュー: [ポリシープレビュー] ダイアログボックスが開き、選択したビューの選択したポリシー適合レベルのプレビューが表示されます。 ベースラインポリシーのプレビューで、CIを選択してドリルダウンし、その詳細を分析できます。 **注:** ユーザーがビュー権限を持っているビューのみがサーバーに送信され、プレビュー結果に表示されます。ユーザーが特定のビューのビュー権限を持たずにプレビューしようとすると、エラーメッセージが表示されます。
	ポリシー分析の再計算: 選択したポリシーのポリシー分析を再計算します。

UI要素	詳細
	レポートのエクスポート: ポリシーレポートのデータで使用するエクスポート形式を選択できます。次のオプションを使用できます。 • **Excel:** テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる .XLS (Excel) ファイル形式に整形されます。 • **PDF:** テーブルのデータは、PDF形式でエクスポートされます。 • **CSV:** テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り (CSV) テキストファイル形式に整形されます。 レポートへの出力の生成時には、現在適用されているフィルターが考慮されます。
	更新: ポリシーリストの表示内容を更新します。

左の表示枠

重要情報	[**ポリシー**] (ポリシーツリーのルート) の横にある矢印をクリックすると、ツリーが展開されます。ポリシーグループの横にある矢印をクリックすると、グループに含まれるポリシーのリストが展開されます。

[詳細] 表示枠

重要情報	左の表示枠でポリシーグループを選択すると、そのグループの詳細情報が [詳細] 表示枠に表示されます。左の表示枠でポリシーを選択すると、そのポリシーの詳細情報が [詳細] 表示枠に表示されます。

詳細: <ポリシー> セクション

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
比較範囲 (類似性ポリシー用)	このセクションでは、類似性を比較するメインCIタイプの指定 (およびオプションで絞り込み) を行います。 比較範囲CIタイプは、[グループ化] オプションを使用したときに自動的に選択されます。
フィルター (ベースラインポリシーと	このセクションでは、ポリシーへの適合性がテスト済みのCIをフィルターします。本項の内容

UI要素	詳細
トポロジポリシー用)	• ポリシーへの適合性をテストするためにフィルターするメインCIタイプです。 ボタンをクリックすると[**CIタイプの選択**] ダイアログボックスが開き、CIタイプを選択できます。 • メインCIタイプのプロパティセレクターです。 ボタンをクリックすると、[**フィルターのベースラインを指定**] ダイアログボックスが開きます。プロパティの選択の詳細については、「[ポリシー] ページ」(197ページ)を参照してください。 • メインCIタイプに関連付けられている追加のCIタイプです。 ボタンをクリックすると[**CIタイプの選択**] ダイアログボックスが開き、追加のCIタイプを選択できます。 • 選択結果の絞り込みに使用する追加のTQLクエリです。 ボタンをクリックすると[**TQLの選択**] ダイアログボックスが開き、必要なフィルターTQLクエリを選択できます。
全般	本項の内容 • **詳細:** ポリシーの説明を入力します。 • **ポリシー名:** ポリシーの名前を入力します。 • **カテゴリ:** カテゴリは、ポリシーを論理的に分類するユーザー定義のキーワード (任意指定) であり、フィルターに使用できます。たとえば、すべてのラボコンピューターに標準ソフトウェアがあることを検証するベースラインポリシーを作成すると、キーワード「標準化」を使用してポリシーを分類できます。 をクリックして [**ポリシーカテゴリ**] ダイアログボックスを開き、 をクリックして必要なカテゴリを追加します。複数のカテゴリをポリシーに追加できます。
グループ化 (類似性ポリシー用)	このセクションでは、類似にする必要があるCIのグループを指定します。CIが同じグループ内にあるある場合にのみ、相互の類似性についてCIが比較されます。[**CIタイプとパターンによるグループ化を有効にする**] チェックボックスは、デフォルトで選択されています。本項の内容 • ポリシーへの適合性をテストするためのグループのベースとして使用するメインCIタイプです。 ボタンをクリックすると[**CIタイプの選択**] ダイアログボックスが開き、CIタイプを選択できます。 グループ化CIタイプの選択後、システムのフォルダーがスキャンされ、選択したCIタイプに関連するグループ化パターンのみが[**グループ化パターンの選択**] ダイアログボックスに表示されます。 • メインCIタイプのグループ化パターンです。 ボタンをクリックし、[**グループ化パターンの選択**] ダイアログボックスを開きます。 グループ化パターンとは、特定のTQLクエリです (UCMDBで定義されている)。これらのTQLクエリによって、必要なグループ化CIタイプから必要な比較された (メイン) CIへの複合リンクのみが定義される必要があります。

UI要素	詳細
	Configuration Managerでグループ化 CIタイプと比較された (メイン) CIタイプが正しく特定されるように、TQLクエリの要素名をそれぞれGrouping、Comparedにする必要があります。 これらのグループ化 TQLクエリは、UCMDBの次の場所に存在する必要があります: **[モデリングスタジオ] > [リソース]** タブ (リソースタイプとして **[クエリ]** を選択) **> [Configuration Manager] > [Grouping Patterns]** フォルダー。[**Grouping Patterns**] フォルダーが存在しない場合は、作成します。 パターンを選択すると、[比較範囲] セクションのCIタイプが自動的に選択されます。 • グループ化 CIタイプのプロパティセレクターです。 ボタンをクリックすると、[**フィルターのベースラインを指定**] ダイアログボックスが開きます。プロパティの選択の詳細については、「[ポリシー] ページ」(197ページ)を参照してください。 • グループ化 CIタイプに関連付けられている追加のCIタイプです。 ボタンをクリックすると [**CIタイプの選択**] ダイアログボックスが開き、追加のCIタイプを選択できます。 • 選択結果の絞り込みに使用する追加のTQLクエリです。 ボタンをクリックすると [**TQLの選択**] ダイアログボックスが開き、必要なフィルターTQLクエリを選択できます。 グループの詳細については、「Configuration Managerの類似性ポリシー - ユースケース」(192ページ)を参照してください。
類似性の基準 (類似性ポリシー用)	本項は、ポリシーへの適合性をテストするCIタイプと属性を指定するために使用します。デフォルトでは、選択したCIのすべてのコンポーネントと属性が含められます。特定のコンポーネントを類似性範囲の構成要素にしない場合は、そのコンポーネントの横にあるチェックボックスの選択を解除します。 コンポーネントを類似性の基準から削除すると、そのすべての属性も自動的にその範囲から削除されます。[属性名] の横にあるタイトルバーのチェックボックスの選択を解除すると、コンポーネントを含めることができますが、そのすべての属性が削除されます。また、これらのチェックボックスの選択を解除すると、選択した属性を削除できます。 比較範囲CI (類似性の基準の適用対象) は、[グループ化] オプションを使用したときに自動的に選択されます。
有効性	この項は、ポリシーの有効期間の範囲を指定するために使用します。[カレンダー] ボタン をクリックし、開始日時と終了日時を選択します。
ビュー	[**ポリシーの割り当て先ビュー**] フィールドには、このポリシーが適用されるビューが一覧表示されます。 ボタンをクリックして [ビューの選択] ダイアログボックスが開き、ポリシーを適用するビューを選択します。

[ベースラインCI] セクション

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
	事前定義された構成の選択: 次のオプションのいずれか1つを選択できます。 • **管理CIからベースラインを作成:** ベースラインCIとして利用する既存のCIをビューから選択できます。 • **既存の構成モデルからベースラインを作成:** 構成分析モジュールから、ベースラインCIとして利用するモデルを選択できます。
	ベースラインにCIクラスタイプを追加: ベースライン定義に追加するCIタイプを選択できます。(ベースラインが定義されていない場合、[**ベースラインの作成**] と表示されます)。CIカウント機能を使用すると、同じタイプのCIを複数追加できます。
	選択したアイテムをベースラインから削除: ベースライン定義から選択したCIを削除します。
<チェックボックス列>	属性の横にあるチェックボックスを選択すると、属性をベースライン定義に追加できます。列ヘッダーのチェックボックスを選択すると、すべての属性が選択されます。
<比較可能列>	• 選択した属性の [比較可能] 列に何も表示されていない場合、その属性は比較項目ではありません。 • アイコンが選択した属性の [比較可能] 列に表示されている場合、その属性は比較項目です。 • アイコンが選択した属性の [比較可能] 列に表示されている場合、その属性は比較項目であり、システムの照合アルゴリズムで順位が割り当てられています。
[属性名] 列	選択したCIの属性名。
[属性値] 列	選択したCIの属性値。 • 属性タイプが [**Enum**] の場合、ドロップダウンリストから値を選択するか、フリーテキストを使って新しい値を入力します。 • 属性タイプが [**string_list**] の場合、 ボタンをクリックして [属性名] ダイアログボックスを使用することで、複数の値を追加できます。

UI要素	詳細
CIタイプ	ベースラインからCIタイプを選択します。このCIタイプの属性がテーブル形式で表示されます。 **注:** ベースラインでは、同じタイプのCITを複数選択することができます。このモードは、**共通定義モード**と呼ばれます。このモードでは、選択したCITのうちの1つを変更すると、変更内容がすべてのCITに適用されます。
追加の内部CIを違反とみなす	[**追加の内部CIを違反とみなす**] を選択する場合、追加の内部CIが存在するCIをこのベースラインと比較すると、ポリシー違反とみなされます。
[演算子] 列	属性と属性値の関係を定義する演算子を選択します。詳細については、「属性演算子」(196ページ)を参照してください。

[ポリシープレビュー] ダイアログボックス

このページでは、管理ビューのポリシー適合レベルをプレビューできます。

利用方法	[ポリシー] ツールバーの [**プレビュー**] をクリックします。
関連タスク	• 「ベースラインポリシーまたはトポロジポリシーの定義」(185ページ) • 「類似性ポリシーの定義」(186ページ)
関連情報	「ポリシーの概要」(182ページ)

以下では、使用されるインターフェイス要素について説明します。

UI要素	詳細
	計算の続行: 一時停止していたポリシー適合レベルの計算を続行します。
	計算の一時停止: ポリシー適合レベルの計算を一時停止します。
	ポリシー詳細の表示: 選択したビューのCIについての詳細を表示します。
CI名	選択したビューに含まれるCIの名前。
ポリシー適合性	ビューがポリシーに適合しているレベル(%)。
ポリシーステータス	選択したビューの各CIに関するポリシーのステータス。
状態	ビューのステータスを選択します。
ビュー名	ビューの名前。

[複合CIの選択] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、ベースライン定義で使用するCIを選択します。

利用方法	[**事前定義された構成の選択**] をクリックし、[詳細] 表示枠の [ベースラインCI] セクションから [**管理CIからベースラインを作成**] を選択します。
重要情報	ベースライン定義で使用するCIを選択すると、その定義で選択されていたCIタイプは削除されます。
関連タスク	• 「ベースラインポリシーまたはトポロジポリシーの定義」(185ページ) • 「類似性ポリシーの定義」(186ページ)
関連情報	「ポリシーの概要」(182ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
<CIのリスト>	選択しビュー内のCIの名前およびタイプのリスト。モデルCIとして使用するCIを1つ選択します。
フィルター	リストのCIをフィルターする文字列を入力します。
状態	[**実際**] または [**承認**] を選択します。
ビュー	ドロップダウンリストからビューを選択します。

トラブルシューティングおよび制限事項 – ポリシー

ポリシーを操作する際には、次のような制限があります。

条件TQLクエリでは、管理対象でない属性で属性条件を指定することはできません。

第16章: レポート

本章の内容

レポートの概要 205

レポートのスケジュール 206

レポートのユーザーインターフェイス 207

レポートの概要

レポートモジュールでは、電子メールで自動的に送信される操作レポートをスケジュールします。これらのレポートには、現在の環境ステータスや環境に対して選択した変更に関する詳細を受信する方法が表示されます。

送信される電子メールの本文には、レポートの名前、その説明、レポートが構成されるビューの名前が表示されます。

事前定義された使用可能なレポートの種類のリストを次に示します。

名前	詳細
実際のポリシーステータス	定義済みのポリシーがあるすべてのCIのポリシーステータス情報を表示します
認証済みのすべての変更	2つの時刻間で発生した承認済みのすべての変更を表示します
検出されたすべての変更	2つの時刻間で検出されたすべての変更を表示します
承認済みの構成比較	2つの時刻間の、構成内の承認済みの変更を比較します
認証済みの計画変更	2つの時刻間で認証された、すべての計画変更を表示します
認証済みの計画外変更	2つの時刻間で認証された、すべての計画外変更を表示します
認証待ちの変更	認証待ちのすべての変更を表示します

名前	詳細
構成比較	2つの時刻間の構成を比較します
詳細なポリシー誤差	定義済みのポリシーがあるすべてのCIのポリシーステータスを比較し、2つの時刻間で違反があるCIの詳細なポリシー情報を表示します
違反CI	ポリシー違反があるすべてのCIのポリシーステータス情報を表示します

レポートのスケジュール

このタスクでは、システムのステータスに関する操作レポートをスケジュールし、これらのレポートが指定する頻度で電子メールによって自動的にユーザーに送信されるようにする方法を説明します。

レポートをスケジュールするには、次の手順を実行します。

1. 開始する前に、システム管理者がシステムで電子メール通知の送信を有効にし、ユーザーの電子メールアドレスを用意していることを確認してください。詳細については、次を参照してください。
   - 「[設定] ページ」(215ページ)の「メール設定」(220ページ)に関する項
   - 「電子メール受信者の定義方法」(『UCMDBヘルプの管理に関するセクション』)
2. [**レポート**] に移動します。
3. 次のいずれかを実行します。
   - をクリックし、新しいレポートを作成します。
   - をクリックし、既存のレポートを編集します。

   レポートの追加ウィザードの [レポート定義] ページが表示されます。次の情報を指定します。
   - レポートのベースとなるビュー。選択できるのは、少なくともビュー権限があるビューのみです。
   - 生成されるレポートのタイプ。選択したレポートタイプのデフォルトの説明が入力されていますが、編集可能です。この説明は、電子メールの本文とレポートにも表示されます。
   - レポートのファイル名として使用されるレポートの名前は、スケジュールされたレポートのリスト、電子メールの件名、およびレポートの本文に表示されます。
   - 生成されたレポートの出力形式。デフォルトの形式はMicrosoft Office Excelブック (*.xls) です。
4. [**次へ**] をクリックします。[頻度の選択] ページが表示されます。

   レポートの生成頻度を指定します。
5. オプションで、[**次へ**] をクリックして、選択したビューに含まれている情報のフィルターをさらに1つまたは

複数追加するか、[**完了**] をクリックして終了します。これで、レポートがスケジュールされたレポートのリストに表示されます。

> **注:** 使用可能なフィルターは、選択したレポートタイプに応じて異なります。

詳細については、「レポートの詳細ウィザード」(207ページ)を参照してください。

レポートのユーザーインターフェイス

本項の内容

レポートの詳細ウィザード 207
[レポート] ページ 209

レポートの詳細ウィザード

このウィザードでは、自動的な操作レポートをスケジュールします。

利用方法	レポートモジュールで をクリックします。
関連タスク	「レポートのスケジュール」(206ページ)
ウィザードマップ	「レポートの詳細ウィザード」には次のページが含まれています。 「[レポート定義] ページ」 > 「[頻度の選択] ページ」 > 「[フィルターの選択] ページ」
関連情報	「レポートの概要」(205ページ)

[レポート定義] ページ

このページでは、一般レポートの詳細を指定します。

以下では、使用されるインターフェイス要素について説明します。

UI要素	詳細
ファイルタイプ	ドロップダウンリストから、レポートの受信形式を選択します。 使用可能なタイプは次のとおりです。

UI要素	詳細
	• Microsoft Office Excelブック (*.xls) • Adobe文書 (*.pdf) • カンマ区切りの値 (*.csv)
レポートの詳細	レポートの種類の簡単な説明。
レポート名	レポートに割り当てる名前。
レポートタイプ	をクリックし、定義したレポートの種類の1つを選択します。
ビュー	をクリックし、レポートのベースとなるビューを選択します。

[頻度の選択] ページ

このページでは、レポートの受信頻度を指定します。

特定のレポートの種類では、2つの時点のデータを比較します。これらのレポートの場合、指定した頻度によってもレポートの作成時にどの時点を使用するかが決定されます。

以下では、使用されるインターフェイス要素について説明します。

UI要素	詳細
頻度	使用可能な頻度は次のとおりです。 • **日ごと**: レポートを毎日生成します。 • **週ごと**: レポートを週1回生成します。 • **月ごと**: レポートを月1回生成します。

[フィルターの選択] ページ

このページでは、レポートに含まれている情報に追加フィルターを指定します。使用可能なフィルターのリストは、選択したレポートの種類に応じて異なります。

指定するフィルターは、生成したレポートに表示されます。

以下では、使用されるインターフェイス要素について説明します。

UI要素	詳細
<フィルターのリスト>	(任意指定) 使用可能なフィルターを1つまたは複数指定します。

[その他の受信者] ページ

このページでは、レポートの追加の受信者を指定できます。

以下では、使用されるインターフェイス要素について説明します。

UI要素	詳細
<受信者リスト>	(任意指定) 電子メールアドレスをセミコロン区切りで1つまたは複数指定します。

[レポート] ページ

このページでは、新たにスケジュールされたレポートの追加、既存のレポートの変更や既存のスケジュールされたレポートの削除、スケジュールされたレポートジョブの手動実行を行います。

利用方法	[**レポート**] を選択します。
関連タスク	「レポートのスケジュール」(206ページ)
関連情報	「レポートの概要」(205ページ)

以下では、使用されるインターフェイス要素について説明します。

UI要素	詳細
	レポートの作成: 新たにスケジュールされたレポートをリストに追加できます。
	選択したレポートの編集: 既存のスケジュールされたレポートを編集できます。
	選択したレポートの削除: スケジュールされたレポートをリストから削除できます。
	レポートを生成: 選択したレポートを手動で生成して送信できます。 **注:** レポートは、スケジュールされたイベント時間の変更なしで生成および送信されます。
	更新: スケジュールされたレポートのリストを更新します。
	レポートのエクスポート: レポートの追加ウィザードで定義された形式でレポートをエクスポートします。詳細については、「[レポート定義] ページ」(207ページ

UI要素	詳細
	ジ)を参照してください。
詳細	レポートの追加ウィザードで指定されている、レポートの簡単な説明。詳細については、「[レポート定義] ページ」(207ページ)を参照してください。
最終実行時間	レポートが生成された最終時間。
名前	レポートの追加ウィザードで指定されている、レポートに割り当てる名前。詳細については、「レポートの詳細ウィザード」(207ページ)を参照してください。
次の実行時間	レポートの生成がスケジュールされている次の時間。詳細については、「[頻度の選択] ページ」(208ページ)を参照してください。
レポートタイプ	レポートの追加ウィザードで指定されている、レポートのベースとして使用されるレポートの種類。詳細については、「[レポート定義] ページ」(207ページ)を参照してください。
ビュー	レポートのベースとなるビュー。詳細については、「レポートの詳細ウィザード」(207ページ)を参照してください。 **注 :** レポートのベースとなるビューがUCMDBから削除されていたり、レポートのベースとなるビューにアクセスするための権限がなかったりすると、ビュー名の横に警告アイコンが表示され、エラーメッセージが表示されます。これらの場合、レポートを生成および送信することはできません。

第17章: 設定

本章の内容

設定の概要 211
トポロジレイアウトへの新しいレイアウトの追加 212
構成の変更の保存と適用 213
設定のユーザーインターフェイス 213

設定の概要

設定モジュールでは、環境のセットアップに必要な構成セットを定義します。

構成セットには、システムに関して定義したプロパティが含まれています。構成セットを複数作成しておき、そのうちの1つをシステムの実行用に選択することができます。Configuration Managerにより、作成したすべての構成セットの履歴が保持されます。既存の構成セットのすべてのバージョンを一覧表示する方法については、「[構成セットを開く] ダイアログボックス」(214ページ)を参照してください。

Configuration Managerでは、構成セットをシステム間で移動できます。次のことが行えます。

- ローカルディレクトリに構成セットをエクスポートする。
- ローカルシステムから別のシステムに構成セットをインポートする(テスト環境から実稼働環境への移動など)。

新しく作成した構成セットは、ドラフトとして保存されます。ドラフトとは、まだアクティブになっていない構成セットです。ドラフトは、最初にアクティブ化するまでの間は編集可能です。ドラフトがアクティブになった時点で、新しい構成プロパティがConfiguration Managerに適用されます。ドラフトをアクティブ化する方法の詳細については、「構成の変更の保存と適用」(213ページ)を参照してください。

構成セットは、アクティブ化した後は編集できなくなります。したがって、編集の必要がある場合には、ドラフトの新規作成が必要になります。既存の構成セットを元に新しくドラフトを作成し、新しい名前で保存してください。

ドラフトを作成する方法の詳細については、「[ドラフトとして保存] ダイアログボックス」(214ページ)を参照してください。

Configuration Managerは、構成セットの検証を行い、構成に問題があるかどうか(フィールドに値が入力されていないなど)を判定します。問題が検出されると、問題の説明、問題が検出された構成表示枠へのリンク、問題の重大度を示すアイコンが表示されます。

構成に対するこのような検証は、次の操作の後に実行されます。

- 構成セットを保存する
- 構成セットを開く
- 構成セットをインポートする

問題処理の詳細については、「[問題] 表示枠」(227ページ)を参照してください。

> **注:** Configuration Managerの設定を変更するために、サーバー管理者権限が有効になっていることを確認してください。

トポロジレイアウトへの新しいレイアウトの追加

このタスクでは、新しいレイヤーをトポロジレイアウトに追加する方法を説明します。

1. **[管理] > [設定] > [アプリケーション管理] > [トポロジ表示] > [トポロジレイアウト]** に移動します。
2. [レイヤー] 表示枠で、 をクリックし、新しい構成を構成セットに追加します。
   - [表示名] フィールドに新しいレイヤーの名前を入力します。
   - [名前] リストから [**virtualization_infrastructure**] を選択します。
   - [レベル数] フィールドに「**5**」と入力します。
   - [レイヤー] 列の [色] で、新しいレイヤーの色を選択します。新しいレイヤーの色が仮想化インフラストラクチャー分類の色と同じであることを確認してください。

     > **注:** レイヤーの色と分類値の色を同じにすることを推奨します。
3. [機能] レイヤーの [レベル数] フィールドに「**6**」と入力します。
4. をクリックして新しい構成セットを保存します。
5. [ドラフトとして保存] ダイアログボックスに新しい構成セットの名前を入力し、[**保存**] をクリックします。
6. をクリックし、保存した構成セットをアクティブ化します。

構成の変更の保存と適用

このタスクでは、構成の変更を保存する方法と、Configuration Managerに新しい構成プロパティを適用する方法について説明します。

1. **[管理] > [設定]** を選択して、必要な構成の変更を行います。
2. 左の表示枠にある [**現在の編集可能な構成セットの保存**] ボタンアクションの編集をクリックすると、[ドラフトとして保存] ダイアログボックスが開きます。ここで、変更した構成セットをドラフトとして保存します。ドラフトとは、まだアクティブになっていない構成セットです。ドラフトがアクティブ化されると、新しい構成プロパティがConfiguration Managerに適用されます。
3. [**ドラフト名**] ボックスにドラフトの名前を入力し、[**保存**] をクリックします。
4. 左の表示枠にある [**構成セットを開く**] ボタンをクリックすると、[構成セットを開く] ダイアログボックスが開きます。
5. [**ドラフト**] ボタンをクリックすると、既存のドラフトのみが表示されます。
6. 必要なドラフトを選択して、[**開く**] をクリックします。現在選択されている構成セットの名前が、左の表示枠の一番上に表示されます。
7. 左の表示枠にある [**現在の構成セットのアクティベーション**] ボタンをクリックします。選択したドラフトがアクティブになり、Configuration Managerに新しい構成プロパティが適用されます。

設定のユーザーインターフェイス

本項の内容

[構成セットを開く] ダイアログボックス 214
[ドラフトとして保存] ダイアログボックス 214
[設定] ページ 215

[構成セットを開く] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、既存の構成セットバージョンがすべて一覧表示されます。

利用方法	左の表示枠で、**[管理] > [設定] > [構成セットを開く]** を選択します。
重要情報	構成セットバージョンの名前は変更できません。
関連タスク	「構成の変更の保存と適用」(213ページ)
関連情報	「構成の変更の保存と適用」(213ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
	現在アクティブな構成セット: 現在アクティブな構成セットを示します。
	以前にアクティベーションした構成セット: これまでにアクティベーションした構成セットを示します。
	ドラフト: まだアクティブになっていない構成セットである、ドラフトを示します。ドラフトをアクティブ化すると、ドラフトの変更内容がConfiguration Managerの履歴に適用および保存されます。
アクティベーション済み	現在アクティブな構成セットを表示します。
すべて	既存の構成セットとドラフトをすべて表示します。
ドラフト	既存のドラフトをすべて表示します。
最終アクティベーション実行者	ドラフト/構成セットを最後にアクティベーションしたユーザーの名前。
最終アクティベーション実行日時	ドラフト/構成セットを最後にアクティベーションした日時。
最終更新者	ドラフト/構成セットを最後に変更したユーザーの名前。
最終変更日時	ドラフト/構成セットを最後に変更した日時。

[ドラフトとして保存] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、新しい構成セットのドラフトを作成します。ドラフトとは、まだアクティブになっていない構成セットです。ドラフトは、最初にアクティブ化するまでの間は編集可能です。ドラフトをアクティブ

化すると、構成プロパティがConfiguration Managerに適用されます。ドラフトをアクティブ化する方法の詳細については、「構成の変更の保存と適用」(213ページ)を参照してください。

利用方法	左の表示枠で、**[管理] > [設定] > [現在の編集可能な構成セットの保存]** を選択します。
重要情報	既存のドラフトの名前は変更できません。
関連タスク	「構成の変更の保存と適用」(213ページ)
関連情報	「設定の概要」(211ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
<既存のドラフトのリスト>	既存のドラフトをすべて一覧表示します。
ドラフト名	新しいドラフトの名前として、一意の名前を入力します。
最終更新者	ドラフトを最後に変更したユーザーの名前。
最終変更日時	ドラフトを最後に変更した日時。
名前	ドラフトの名前。

[設定] ページ

このページでは、Configuration Managerの構成セットを変更します。

利用方法	**[管理] > [設定]** を選択します。
重要情報	設定を変更すると、左の表示枠で、変更したカテゴリの名前の横にアスタリスクが表示されます。
関連タスク	「構成の変更の保存と適用」(213ページ)
関連情報	「設定の概要」(211ページ)

左の表示枠

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
	現在の編集可能な構成セットの保存: 新しい構成セットのドラフトを作成します。ドラフトとは、まだアクティブになっていない編集可能な構成セットです。 このボタンは、現在アクティブになっている構成セットを変更すると有効になります。詳細については、「[ドラフトとして保存] ダイアログボックス」(214ページ)を参照してください。
	構成セットを開く: 既存の構成セットバージョンすべてを一覧表示します。詳細については、「[構成セットを開く] ダイアログボックス」(214ページ)を参照してください。
	構成セットのインポート: ローカルシステムから同じシステムまたは別のシステムに構成セットをインポートします。[構成セットのインポート] ダイアログボックスが開きます。 **重要:** Configuration Managerでは、同じバージョンのConfiguration Managerから一部エクスポートした構成セットを既存の構成セットにインポートできます。 • 既存の構成セットをすべてのプロパティで上書きできます。 • インポートした構成セットにない既存の構成を削除することはできません。 例: 1. **[管理] > [設定] > [アプリケーション管理] > [トポロジ表示] > [トポロジレイアウト]** を選択します。 2. [レイヤー] 表示枠で [**ソフトウェア**] フィールドとフィールドに関連付けられた色を削除します。 3. 構成セットをエクスポートします。 4. 次に、構成セットを、[**ソフトウェア**] フィールドが存在する別のドラフトにインポートします。インポート操作を実行しても、[**ソフトウェア**] フィールドはドラフトから削除されません。他の既存のエントリが上書きされるか、そのドラフトに新しいエントリが追加されるだけです。エントリを削除するには、手動で行います。 **注:** • まだアクティブになっていない構成セット (ドラフト) の使用中に構成

UI要素	詳細
	セットをインポートすると、インポートした構成セットによって現在のドラフトが上書きされます。 • すでにアクティブになっている構成セットの使用中に一部エクスポートした構成セットをインポートするには、[構成セットのインポート] ダイアログボックスの [ドラフト名] ボックスに別のドラフト名を入力してドラフトを作成する必要があります。 **制限事項:** • Configuration Managerのユーザーインターフェイスを使用してエクスポートした構成セットを、構成セットのエクスポートユーティリティでインポートすることはできません。詳細については、「構成セットのエクスポート」(249ページ)を参照してください。 • 構成セットのエクスポートユーティリティを使用してエクスポートした構成セットを、Configuration Managerのユーザーインターフェイスでインポートすることはできます。この場合、現在アクティブな構成セットが完全に上書きされます (インポートしたセットにない構成アイテムは削除されます)。 **<Configuration_Manager_インストール_ディレクトリ>\conf** フォルダーにある **vanilla.zip** ファイルから構成セットをインポートする場合も、現在アクティブな構成セットが上書きされます。
	構成セットをzipファイルにエクスポート: ローカルディレクトリに構成セット全体または構成セットの一部をzipファイルでエクスポートします。[構成セットのエクスポート] ダイアログボックスが開きます。 [構成セットのエクスポート] ダイアログボックスで、ツリーからエクスポートする構成セットを選択します。
	現在の構成セットのアクティベーション: ドラフト/構成セット内の構成プロパティをConfiguration Managerに適用します。これにより、この構成セットはアクティブな構成セットになります。 **注:** 同時に複数の構成セットがアクティブになることはありません。
	構成を構成セットに追加: 構成ツリーでノードを選択すると、このボタンが有効になります。下位構成を追加できます。
	構成を構成セットから削除: 構成ツリーでノードを選択すると、このボタンが有効になります。下位構成を削除できます。
	構成カテゴリを表します。 **注:** 各カテゴリの横の矢印をクリックすると、下位レベルのカテゴリを展開したり折りたたむことができます。

UI要素	詳細
<構成ツリー>	構成カテゴリが表示されます。ツリー内でノードを選択すると、右の表示枠に構成フィールドが表示されます。ツリー内でファイルを選択すると、右の表示枠で開きます。

構成セットは、次のカテゴリに分類されます。

自動化インパクト

利用方法	**[管理] > [設定] > [アプリケーション管理] > [自動化インパクト]** を選択します。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

設定	詳細
影響分析のステータス	実際または認証済みステータスのビューから、自動化がCIに及ぼす影響を影響分析で計算するかどうかを決定できます。 次のオプションを選択できます。 • ACTUAL (デフォルト) • 認証済み 詳細については、「[自動化分析] > [インパクト - <ステータス>] 表示枠」(91ページ)を参照してください。

変更管理

利用方法	**[管理] > [設定] > [統合] > [変更管理]** を選択します。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

設定	詳細
変更管理統合を有効にする	このチェックボックスを選択すると、次のことができます。 • 変更管理システムとの直接統合を有効にしてRFCを作成する。 • 変更管理システムで関連するRFCの認証アクションをログ記録する。 これらは、レビュー/認証モジュールのロールバックRFCまたはビューの調査モジュールのポリシー修復RFCのいずれかになります。

表示設定

利用方法	**[管理] > [設定] > [表示設定]** を選択します。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

設定	詳細
CIが複数のビューに存在することを示す表示	CIが複数のビューで管理されていることを示すCIリストで警告アイコンを表示する場合に、このチェックボックスを選択します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。

取得されるRFC基準

利用方法	**[管理] > [設定] > [アプリケーション管理] > [RFC] > [取得されるRFC基準]** を選択します。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

設定	詳細
RFC最大日数	RFCの終了予定日から経過可能な最大日数。
RFC CIタイプ	RFCの定義が可能なCIタイプを設定します。 • クリックすると、新しいCIタイプを追加します。 • クリックすると、選択したCIタイプを削除します。 CIタイプ名は手動で編集できます。
RFCフィルター	プロパティ名と値に基づいて、分析および表示するRFCをフィルターします。 • クリックすると、新しいプロパティを追加します。 • クリックすると、選択したプロパティを削除します。 プロパティの名前と値は手動で編集できます。 **注:** プロパティは1行ずつ表示され、値はカンマ区切りで表示されます。RFCのプロパティ値が指定された値のいずれかの場合、そのRFCは表示されます。

高優先度ビュー - オフライン分析と認証タスク

利用方法	**[管理] > [設定] > [アプリケーション管理] > [ジョブの同期] > [オフライン分析と認証] > [オフライン分析と認証タスク]** を選択します。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

設定	詳細
オフライン分析の繰り返し間隔	基本となる間隔を秒単位で指定します。他のタスクでは、この間隔を基準 (倍数) に設定を行います。
候補の削除の繰り返しサイクル数	候補の削除を連続実行する際の実行間隔 (サイクル数)。
自動認証の繰り返しサイクル数	自動認証を連続実行する際の実行間隔 (サイクル数)。

低優先度ビュー - 日次ビューの更新設定

利用方法	**[管理] > [設定] > [アプリケーション管理] > [ジョブの同期] > [オフライン分析と認証] > [日次ビューの更新設定]** を選択します。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

設定	詳細
低優先度ビューの更新を開始する時間	オフライン分析を実行する時間を選択します。
1日あたりの低優先度ビューの更新回数	低優先度ビューが更新される1日あたりの回数を選択します。

メール設定

利用方法	**[管理] > [設定] > [アプリケーション管理] > [メール設定]** を選択します。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

設定	詳細
メールを有効にする	電子メールの送信を有効にするには、このオプションを選択します。詳細については、「[ユーザープリファレンス] ダイアログボックス」(243ページ)を参照してください。
メールを送信する時間 (0～23)	システムによって通知が送信される時間。
SMTPサーバーアドレス	SMTPサーバーの送信アドレス。
SMTPポート	SMTPサーバーのポート番号。
SMTP送信者のメールアドレス	通知の送信元のSMTPサーバーのメールアドレス。
SMTPでは認証が必要です	SMTPサーバーで認証が必要かどうかを指定します。
SMTPユーザー名	SMTPサーバーのユーザー名。[**SMTPでは認証が必要です**] を選択した場合にのみ関連します。
SMTPパスワード	SMTPサーバーのパスワード。[**SMTPでは認証が必要です**] を選択した場合にのみ関連します。
Configuration Managerの完全なURL	Configuration Managerサーバーの完全なURL。このURLは次の2つの目的に果たします。 • Configuration Managerへのリンクを電子メール通知とスケジュールされたレポートに挿入できるようにする (このURLが指定され、詳細情報が要求された場合)。 • UCMDBの起動ページからConfiguration Managerにリンクする(このURLはUCMDBでも設定できる)。 **注:** Configuration Managerがリバースプロキシを挟んでインストールされている場合、リバースプロキシURLを入力してください。

設定	詳細
管理者のメールアドレス	システム管理者のメールアドレス。通知を送信しようとしたときに発生した問題に関する電子メールを、直接システム管理者に送信する場合に使用されます。

オフライン消去

利用方法	**[管理] > [設定] > [アプリケーション管理] > [ジョブの同期] > [オフライン消去]** を選択します。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

設定	詳細
オフライン消去の繰り返し間隔	ポリシー履歴と統計履歴を連続実行する際の実行間隔 (日数)。
履歴の保持	環境スナップショット、ポリシー履歴、統計履歴を格納する日数。この日数よりも古いポリシー履歴と統計履歴は、次回の消去時に削除されます。

Operations Orchestration

利用方法	**[管理] > [設定] > [統合] > [Operations Orchestration] > [Operations Orchestration]** を選択します。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

設定	詳細
周期間隔	Operations Orchestration サーバーで自動化フローの結果をチェックする頻度を示す間隔 (単位: 秒) を定義します。 **標準設定:** 60秒
ホスト	Operations Orchestration サーバーがインストールされているマシンのホスト名。
パスワード	Operations Orchestration サーバーへの接続に必要なパスワード。
ポート	Operations Orchestration サーバーで使用するポート。
ユーザー名	Operations Orchestration サーバーへの接続で必要なユーザー名。
バージョン	Operations Orchestration のバージョン。

RFC作成

利用方法	**[管理] > [設定] > [アプリケーション管理] > [RFC] > [RFC作成]** を選択します。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

設定	詳細
カテゴリ	RFCの作成時に使用できるカテゴリの考えられる範囲。 **関連項目:** 計画RFC
デフォルト割り当てグループ	RFCの作成時に使用されるデフォルト割り当てグループを設定します。
デフォルト変更コーディネーター	RFCの作成時に使用されるデフォルト変更コーディネーターの値を設定します。
デフォルトサービス名	RFCの作成時に使用されるデフォルトサービス名の値を設定します。
影響	RFCの可能なインパクトの範囲。
緊急度	RFCの緊急度:
リスク評価	RFCのリスクの評価: **関連項目:** 計画RFC
変更の理由	RFCが必要な理由。

RFC表示

利用方法	**[管理] > [設定] > [アプリケーション管理] > [RFC] > [RFC表示]** を選択します。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

設定	詳細
RFCプロパティ	表示するRFCプロパティを設定します。 • クリックすると、新しいプロパティを追加します。 • クリックすると、選択したプロパティを削除します。

設定	詳細
	プロパティ名は手動で編集できます。

Service Manager

利用方法	**[管理] > [設定] > [統合] > [変更管理] > [Service Manager]** を選択します。
重要情報	Service ManagerとConfiguration Manager間の統合を可能にするサービスを有効にするには、**cm4sm.unl** ファイルをService Managerにロードする必要があります。詳細については、「Service ManagerへのUNLファイルのインポート」(134ページ)を参照してください。
関連情報	「変更管理」(218ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

設定	詳細
接続ストラテジ	HTTP を選択します。
ホスト名	Service Managerサーバーのホスト名。
ポート番号	Service Managerサーバーのポート番号 (デフォルト: 13080)。
ユーザー名	Service Managerユーザー名。
パスワード	Service Managerパスワード。
日付形式	使用する日付形式を選択します。選択した日付形式は、Service Managerなどの変更管理システムでサポートされている必要があります。

トポロジレイアウト

利用方法	**[管理] > [設定] > [アプリケーション管理] > [トポロジ表示] > [トポロジレイアウト]** を選択します。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

設定	詳細
レイヤー	トポロジマップで表示するレイヤーを設定します。

設定	詳細
	• クリックすると、新しいレイヤーを追加します。 • クリックすると、選択したレイヤーを削除します。 レイヤーの名前、表示名、レベル数、色を編集できます。 詳細については、「トポロジレイアウトへの新しいレイアウトの追加」(212ページ)を参照してください。
分類	トポロジマップで表示する分類を設定します。 • クリックすると、新しい分類を追加します。 • クリックすると、選択した分類を削除します。 分類の名前、表示名、レベル数、色を編集できます。
レイアウト例外	上記で定義した分類に対して例外を設定します。 • クリックすると、新しい例外を追加します。 • クリックすると、選択した例外を削除します。 選択したCIタイプについて、指定した属性が指定した値である場合、指定した分類が適用されます。

トポロジ制限

利用方法	**[管理] > [設定] > [アプリケーション管理] > [トポロジ制限]** を選択します。
重要情報	トポロジ制限の設定を変更した後、Configuration Managerサーバーを再起動する必要があります。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

設定	詳細
グラフィックレイアウトの上限	トポロジマップで表示可能な複合CIの最大数。

UCMDBファウンデーション

利用方法	**[管理] > [設定] > [統合] > [UCMDBファウンデーション] > [UCMDBファウンデーション]** を選択します。
重要情報	本項では、インストール時に指定されたUCMDBファウンデーション接続情報について説明します。編集できるのは、[UCMDBアクセスURL] フィールドだけです。UCMDBに対してリバースプロキシまたはルートコンテキストを定義している場合、[UCMDBアクセスURL] フィールドをそれに応じて更新する必要があります。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

設定	詳細
接続ストラテジ	UCMDBへの接続方法。
顧客	UCMDB顧客の名前。
UCMDBサーバー名	UCMDBサーバーの名前。
UCMDBサーバーポート	UCMDBサーバーのポート番号。
UCMDBアクセスURL	UCMDBへのアクセスに使用するURL。
ユーザー名	UCMDBユーザー名。
パスワード	UCMDBユーザーパスワード。

UI統合

利用方法	**[管理] > [設定] > [統合] > [UI統合]** を選択します。
関連タスク	「外部アプリケーションの起動」(85ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

設定	詳細
構成されたUI	開くことができるURLを構成します。 • クリックすると、リストに新しいURLを追加できます。 リストに追加する各URLについて、表示名と開かれるURLを指定します。URLには、次のいずれかの変数を含めることができます。

設定	詳細
	◦ **${ucmdbId}** - 複合CIのID (UCMDBに表示される) ◦ **${ucmdbName}** - 複合CIの名前 (UCMDBに表示される) ◦ **${ucmdbViewName}** - ビューの名前 (UCMDBに表示される) ◦ **${ucmdbcmViewId}** - ビューのID (Configuration ManagerビューID) • クリックすると、選択したURLを削除します。 有効なURLは次のいずれかで開始する必要があります。 • **http://** • **https://** • **mailto:**

値の推奨

利用方法	**[管理] > [設定] > [アプリケーション管理] > [ジョブの同期] > [オフライン分析と認証] > [値の推奨]** を選択します。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

設定	詳細
最大保存数	推奨される属性値をデータベースに保存する際の、属性値の最大個数。
最大表示数	推奨される属性値を表示する際の、属性値の最大個数。
属性値の統計情報の計算を有効にする	属性値の統計情報の計算を有効または無効にします。
属性値統計の繰り返しサイクル数	属性値統計の再計算を連続実行する際の実行間隔 (サイクル数)。

[問題] 表示枠

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
⚠	問題の重大度レベルを示します。次のアイコンが表示されます。

UI要素	詳細
	• : 構成セットにエラーが存在することを示します。この場合、構成セットをアクティブ化することはできません。また、[**現在の構成セットのアクティベーション**] ボタンは無効になります。 • : 警告を示します。この状態でも構成セットのアクティブ化は可能です。 • : 情報メッセージを表示します。この状態でも構成セットのアクティブ化は可能です。
コード	問題がある表示枠へのリンクを示します。リンクをクリックすると、構成ツリーでノードが選択され、それに対応する表示枠が右側に表示されます。
詳細	問題の説明を示します。

第18章: 自動化設定

> **注:** このモジュールは、Universal CMDB Configuration Managerのバージョン9.2または9.3の関連ライセンスを購入したお客様が使用される場合にのみ有効です。新しいお客様はこのライセンスを購入できません。
>
> UCMDB Browserモジュール > 自動化ウィジェット を使用して構成管理条件に基づく自動化フローを構成することが推奨されます。詳細については、CMSユーザーインターフェイス > UCMDB Browserモジュールオンラインヘルプの自動化ウィジェットについてのセクションを参照してください。

本章の内容

自動化設定の概要 229

自動化のセットアップ 230

[自動化設定] ユーザーインターフェイス 231

自動化設定の概要

Configuration Managerでは、Operations Orchestration で事前定義されたフローを使用して、標準的なシステム運用作業を自動化できます。

自動化には、次の情報が含まれます。

- 名前や説明などの一般的な詳細
- 自動化を実行するCIタイプ
- 自動化の管理の有無
- 自動化のリスク計算に使用するパラメーター
- 自動化設定で指定できるパラメーターマッピング
  - OOフローから入力される選択リスト
  - OOフローから入力される標準設定値

> **注:** Operations Orchestration バージョン 9.0からフローをインポートした場合、Configuration Managerには標準設定値は表示されません。標準設定値は、セットアップ時または実行時

> に手動で入力する必要があります。

- フリーテキスト
- 実行時に選択したCIからの値

  マッピングできるCIタイプは次のとおりです。

  - **ノード**: ドメイン名、ホスト名、IPアドレス
  - **実行中のソフトウェア**: ドメイン名、ホスト名、IP アドレス、インストールパス、ソフトウェア名

自動化のセットアップ

このタスクでは、Operations Orchestration のフローから自動化を作成し、構成する方法を説明します。

本項の内容

- 「Operations Orchestrationの接続設定」(230ページ)
- 「次からのフローのインポート: Operations Orchestration」(231ページ)
- 「自動化プロパティの指定」(231ページ)

1. **Operations Orchestrationの接続設定**

   a. [**管理**] > [**設定**] > [**統合**] > [**Operations Orchestration (OO)**] > [**OO Server Location**] へ移動します。

   b. 次の詳細を入力します。

UI要素	詳細
周期間隔	Operations Orchestration サーバーで自動化フローの結果をチェックする頻度を示す間隔 (単位: 分) を定義します。 **標準設定:** 60秒
ホスト	Operations Orchestration サーバーがインストールされているマシンのホスト名。
パスワード	Operations Orchestration サーバーへの接続に必要なパスワード。
ポート	Operations Orchestration サーバーで使用するポート。
ユーザー名	Operations Orchestration サーバーへの接続で必要なユーザー名。

UI要素	詳細
バージョン	Operations Orchestration のバージョン。

2. **次からのフローのインポート: Operations Orchestration**

   Micro Focus Operations Orchestrationからフローをインポートする場合、Configuration Managerで自動化を作成します。

   a. [**管理**] > [**自動化設定**] を選択します。

   b. をクリックして [**フローの選択**] ウィンドウを開きます。

   c. 左の表示枠でフローツリーをクリックして展開し、Configuration Managerで自動化として実行するMicro Focus Operations Orchestrationのフローを選択します。

   d. [**OK**] をクリックして [自動化設定] ウィンドウに戻ります。

3. **自動化プロパティの指定**

   a. [自動化] ウィンドウの左の表示枠で、構成する自動化を選択します。

   b. 自動化に必要な詳細を入力します。

      - 自動化の名前はOOフローから自動的に取得されますが、変更も可能です。
      - 自動化するCIタイプを指定する必要があります。

   c. [**保存**] をクリックします。

[自動化設定] ユーザーインターフェイス

本項の内容

[自動化設定] ページ 231

[自動化設定] ページ

このページには、現在管理対象になっている自動化のリストが表示されます。このページで、Operations Orchestration のフローをインポートし、構成を変更できます。

利用方法	[**管理**] > [**自動化設定**] を選択します。
重要情報	左の表示枠には、自動化が一覧表示されます。右の表示枠には、左の

	表示枠で選択した自動化の詳細が表示されます。
関連タスク	• 「自動化のセットアップ」(230ページ) • 「コントロールされた自動化またはコントロールされていない自動化の実行」(82ページ)
関連情報	「自動化設定の概要」(229ページ)

左の表示枠

UI要素	説明
	クリックすると、自動化リストが更新されます。
	クリックすると、選択した自動化に加えた変更を保存できます。
	クリックすると、編集可能なすべての自動化に加えた変更を保存できます。
	クリックすると、自動化リストにフローを追加できます。
	クリックすると、選択した自動化を自動化リストから削除できます。

<自動化>表示枠 - [自動化の詳細] 領域

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	説明
関連するCIタイプ	この自動化を割り当てる特定のCIタイプを選択できます。をクリックして[CIの選択] ウィンドウを開きます。 実行中は、選択したCIタイプに割り当てられた自動化のみが表示されます。たとえば、CIタイプとしてWindowsを選択して自動化を実行すると、Windows CIタイプに関連する自動化と、階層でその上位にある他のブランチが表示されます。
詳細	自動化の説明。デフォルトでは、インポートしたフローの説明が自動化の説明として使用されますが、変更も可能です。
フローパス	Operations Orchestration ツリーでインポートしたフローの元のフルパスと名前を(参考情報として)表示します。
フローUUID	インポートしたフローの一意の識別子を(参考情報として)表示します。

UI要素	説明
名前	自動化の名前。デフォルトでは、インポートしたフローの名前が自動化の名前として使用されますが、変更も可能です。

<自動化>表示枠 - [実行の詳細] 領域

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	説明
構成変更の原因	自動化によってUCMDBのCIの変更が発生するかどうかを指定します。[**はい**] または [**いいえ**] を選択します。ポリシー定義や自動化分析の際に使用します。
ダウンタイムの原因	自動化によって実行中にCIが使用できない状態になるかどうかを指定します。[**はい**] または [**いいえ**] を選択します。ポリシー定義や自動化分析の際に使用します。
コントロールされた実行	このチェックボックスを選択すると、選択したフローをコントロールされた自動化として実行するように指定できます。 このチェックボックスの選択を解除すると、選択したフローをコントロールされない自動化として実行するように指定できます。 • コントロールされた自動化では、自動化を実行する前にポリシーおよび分析をレビューします。 • コントロールされない自動化では、追加情報なしで自動化が実行されます。 自動化の実行の詳細については、「コントロールされた自動化またはコントロールされていない自動化の実行」(82ページ)を参照してください。
推定リスクレベル	自動化におけるリスクレベルの客観的評価です。有効な値: • 不明 • なし • 低い • 中 • 高い ポリシー定義や自動化分析の際に使用します。

<自動化>表示枠 - [実行パラメーター] 領域

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	説明
<フロー実行パラメーター>	自動化を実行するときに使用するパラメーターを指定します。このリストに表示されるパラメーターは、選択したフローによって異なります。 **注:** グレーのアスタリスクは、Operations Orchestration フローの必須フィールドを示します。必須値を入力しないと、ビューの調査モジュールで自動化を実行できません。自動化の実行方法については、「コントロールされた自動化またはコントロールされていない自動化の実行」(82ページ)を参照してください。

第19章: 自動化ポリシー

> **注:** このモジュールは、Universal CMDB Configuration Managerのバージョン9.2または9.3の関連ライセンスを購入したお客様が使用される場合にのみ有効です。新しいお客様はこのライセンスを購入できません。
>
> UCMDB Browserモジュール > 自動化ウィジェット を使用して構成管理条件に基づく自動化フローを構成することが推奨されます。詳細については、CMSユーザーインターフェイス > UCMDB Browserモジュールオンラインヘルプの自動化ウィジェットについてのセクションを参照してください。

本章の内容

自動化ポリシーの管理の概要 235

自動化ポリシーの定義 236

Configuration Manager自動化ポリシー - 使用例 236

[自動化ポリシー] ユーザーインターフェイス 238

自動化ポリシーの管理の概要

自動化ポリシーは、自動化を実行する上でどのような場合にリスクが高まるかを判断するビジネスルールです。自動化ポリシーの評価により、これらのリスクを認識できます。

すべての自動化ポリシーは、自動化ポリシー管理モジュールで管理されています。自動化ポリシーによって、自動化実行の情報および評価に基づいて制限を定義できます。

Configuration Managerは組織のポリシーを事前に評価し、自動化がビジネスルールに適合しているかどうかを判断します。

条件の基準に使用できるのは、インパクトの重大度や重要度などのCI分析情報と、成功率や衝突条件などのフロー統計です。これは、その条件で容認できるしきい値を示します。それぞれのポリシー評価で、違反または合格という結果が出ます。

たとえば、**My_CI** アプリケーションのインパクトの重大度レベルが [**クリティカル**] または [**高い**] である場合、ポリシー違反とするルールを定義できます。自動化がすべての条件を満たす場合、ポリシー違反とみなされます。

自動化の実行方法については、「[自動化実行] ダイアログボックス」(87ページ)を参照してください。

自動化ポリシーの定義の詳細については、「[自動化ポリシー] ページ」(238ページ)を参照してください。

> **注: 自動化ポリシー**権限を持っているユーザーは、すべてのポリシーを表示、変更できます。

自動化ポリシーの定義

このタスクでは、新しい自動化ポリシーの定義方法を説明します。

1. [**管理**] > [**自動化ポリシー**] ツールバーで [**新規ポリシーの追加**] をクリックします。
2. [**全般**] 領域で、次を入力します。
   - ポリシーの名前
   - ポリシーの説明
   - ポリシーの検証頻度
3. [**範囲**] 領域で、新しい自動化ポリシーを適用するビューを選択します。特定のビューを選択するか、ポリシーをすべてのビューに適用します。
4. (任意指定) ポリシーへの適合性をテストするCIのCIタイプを選択します。
5. [**制限**] 領域で、必要な自動化/CI条件を定義します。
6. [自動化ポリシー] ツールバーで [**保存**] をクリックして、ポリシーを保存します。

Configuration Manager自動化ポリシー - 使用例

本項では、Configuration Managerで自動化ポリシーを定義する例を紹介します。

このシナリオには次の手順が含まれています。

- 「前提条件」(237ページ)
- 「前提条件 - Universal CMDB からの管理ビューのインポート」(237ページ)
- 「Configuration Managerでの自動化ポリシーの定義」(237ページ)
- 「ポリシー評価結果の表示」(238ページ)

1. **前提条件**

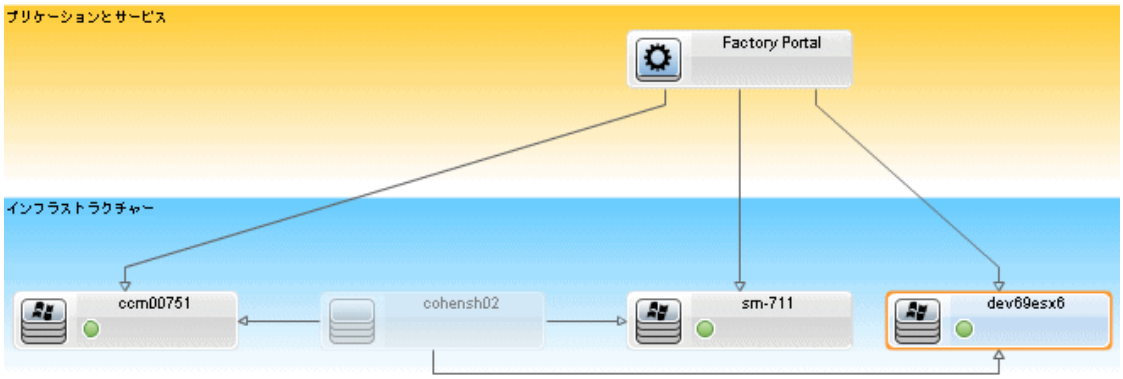
   Factory Portalアプリケーション (サンプルアプリケーション) の所有者は、このアプリケーションの高可用性を継続的に監視する必要があります。そのため、変更が発生したときに、アプリケーションが合意されている要件に従って機能することを保証することが重要です。

   アプリケーション所有者はこの目的を達成するために、次の場合にインジケーターを表示する自動化ポリシーを定義します。

   - 変更を実施する自動化によってアプリケーションダウンタイムが発生した場合
   - 複数の自動化によってCIが直接的な影響を受けた場合

2. **前提条件 - Universal CMDB からの管理ビューのインポート**

   アプリケーショントポロジは、Universal CMDB のビューでモデリングされます。目的のビューをインポートすると、Configuration Managerに対応する管理ビューが存在します。次の図に、Configuration Managerでの**Factory Portal**アプリケーショントポロジを示します。



   管理ビューをインポートする方法の詳細については、「管理対象ビューの追加」(175ページ)を参照してください。

3. **Configuration Managerでの自動化ポリシーの定義**

   a. [**管理**] > [**自動化ポリシー**] へ移動し、新しい自動化ポリシーを作成します。

   b. [**全般**] 領域で、次の手順を実行します。

      - [**名前**] ボックスで、次の内容を入力します。`Causes downtime and a CI collision on the Factory Portal application.`
      - (任意指定) [**説明**] ボックスに、適切な説明を入力します。
      - [**検証の実行**] チェックボックスで、ポリシーの検証頻度を定義します。

   c. [**範囲**] 領域で、次の手順を実行します。

- [**選択したビュー**] を選択し、ボタンをクリックしてポリシーを適用する管理ビューを選択します。
- [**CIタイプの割り当て**] ボックスで ボタンをクリックし、ポリシーへの適合性をテストするCIタイプとして [**BussinessApplication**] を選択します。

d. [**制限**] 領域で、次の手順を実行します。

- **自動化制限条件**で [**ダウンタイムの原因**] を選択します。
- **CI制限条件**で [**直接衝突が存在**] を選択します。

e. 新しい自動化ポリシーを保存します。

4. **ポリシー評価結果の表示**

ポリシー評価結果を、コントロールされた自動化の実行中のコンテキストで表示できます。詳細については、「コントロールされた自動化またはコントロールされていない自動化の実行」(82ページ)を参照してください。

[自動化ポリシー] ユーザーインターフェイス

本項の内容

[自動化ポリシー] ページ 238

[自動化ポリシー] ページ

Configuration Managerには、定義済みの自動化ポリシーがあります。各ポリシーの説明を表示するには、[ポリシー] 表示枠で目的のポリシーを選択します。ポリシーの説明が [全般] 表示枠の [**説明**] ボックスに表示されます。

このページでは、自動化ポリシーを定義および編集します。

利用方法	[**管理**] > [**自動化ポリシー**] を選択します。
重要情報	このモジュールを使用するには、自動化ポリシー権限が必要です。
関連タスク	• 「自動化ポリシーの定義」(236ページ) • 「コントロールされた自動化またはコントロールされていない自動化の実行」(82ページ) • 「Configuration Manager自動化ポリシー - 使用例」(236ページ)
関連情報	「[自動化実行] ダイアログボックス」(87ページ)

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	説明
	新規ポリシーの追加: 新しいポリシーを作成します。
	ポリシーの削除: 選択したポリシーを削除します。
	すべて保存: 現在のポリシーに加えたすべての変更を保存します。
	[**更新**] をクリックすると、[ポリシー管理] ページの情報が更新されます。

[ポリシー] 表示枠

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	説明
<ポリシーリスト>	定義済みおよびユーザー定義の自動化ポリシーのリストを表示します。

[全般] 表示枠

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	説明
説明	ポリシーの説明を入力します。
検証の実行	ポリシーを検証する範囲を選択します。次のオプションを使用できます。 • **有効期間の開始日:** このチェックボックスだけを選択すると、ポリシーの有効期間がカレンダーで選択した日付から始まり、常に有効になります。カレンダー ボタンをクリックして開始日時を選択します。 • **有効期間の終了日:** ポリシーの固定された有効期間を選択します。固定期間を選択するには、[**有効期間の開始日**] と [**有効期間の終了日**] の両方のチェックボックスを選択する必要があります。カレンダー ボタンをクリックして終了日時を選択します。 **注:** どちらのチェックボックスも選択しない場合、ポリシー検証は計算されません。
ポリシー名	一意のポリシー名を入力します。

[範囲] 表示枠

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	説明
CIタイプの割り当て	ポリシーへの適合性をテストするCIのCIタイプです。 ボタンをクリックすると[CIタイプの選択] ダイアログボックスが開き、CIタイプを選択できます。 ポリシー検証が計算されるには、インパクトトポロジマップに選択したCIタイプのCIが1つ以上表示されている必要があります。 たとえば、ビューで **Unix** タイプのCIに衝突があっても、[**CIタイプの割り当て**] ボックスで **Windows** を選択した場合、**Unix** タイプのCIに対してはポリシーは評価されません。 トポロジマップに **Windows** タイプのCIがない場合、ポリシーは評価されません。 **注:** CIタイプを指定しない場合、ポリシーはすべてのCIに適用されます。
ポリシーの割り当て先ビュー	ポリシーを適用するビューを選択できます。 • **すべてのビュー:** ポリシーをすべての管理ビューに適用します。 **注:** ポリシーをすべてのビュー (管理対象外のビューを含む) に適用するには、認証権限が必要です。認証権限を持っていない場合、ポリシーを適用できるのは管理対象のビューのみです。 • **選択したビュー:** ポリシーを適用するビューを選択します。ボタンをクリックすると、[ビューの選択] ダイアログボックスが開きます。 **注:** [**すべてのビュー**] を選択せず、また [**選択したビュー**] オプションからもビューを選択しない場合、ポリシーの有効性は計算されません。

[制限] 表示枠

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	説明
自動化制限条件	このポリシーの自動化制限条件を示します。

UI要素	説明
	たとえば、自動化の初回実行時はポリシー違反が発生することを示すポリシーを定義できます。 **注:** AND演算子は定義済みのすべての条件を結合します。したがって、このポリシーに対して定義されているすべての条件に自動化が適合する場合のみ、ポリシー違反となります。 属性条件を定義するために使用される演算子のリストについては、「属性演算子」(196ページ)を参照してください。 定義できる条件の説明については、「[自動化実行] ダイアログボックス」(87ページ)を参照してください。
CI制限条件	このポリシーのCI制限条件を示します。 AND演算子は定義済みのすべての条件を結合します。したがって、このポリシーに対して定義されているすべての条件に自動化が適合する場合のみ、ポリシー違反となります。 ポリシー違反が発生するには、定義されているすべての条件に適合するCIがインパクトマップに1つ以上存在する必要があります。 • 違反CIは [CI制限] 表示枠のすべての条件に適合する必要があります。 • CIは [範囲] 表示枠で選択したビューに存在する必要があります。 • CIは [CIタイプの割り当て] ボックスで選択したCIタイプ、またはそのサブタイプである必要があります。 属性条件を定義するために使用される演算子のリストについては、「属性演算子」(196ページ)を参照してください。 CI制限条件には次のものがあります。 • **衝突が存在:** 衝突 (直接的または間接的) が存在するかどうかをチェックします。 • **直接衝突が存在:** 直接衝突が存在するかどうかをチェックします。 • **インパクトの重要度:** インパクトの重要度レベルをチェックします。 • **インパクトの重大度:** インパクトの重大度レベルをチェックします。 • **間接衝突が存在:** 間接衝突が存在するかどうかをチェックします。 衝突の詳細については、「[自動化実行] ダイアログボックス」(87ページ)を参照してください。 インパクトの重要度とインパクトの重大度の詳細については、「[自動化分析] > [インパクト - <ステータス>] 表示枠」(91ページ)を参照してください。

第20章: ユーザープリファレンス

本章の内容

ユーザープリファレンスの概要 242
電子メール通知の構成 242
ユーザープリファレンスのユーザーインターフェイス 243

ユーザープリファレンスの概要

ユーザープリファレンスモジュールでは、Configuration Managerで使用するお気に入りビュー、ローカリゼーション設定、通知オプションを選択できます。

電子メール通知の構成

このタスクでは、システムを構成して何らかのアクションの実行に必要なイベントの概要を送信してもらえるようにする方法を説明します。

> **注:** モバイルデバイスで電子メール通知内のリンクをクリックすると、UCMDB Browserモジュールが開きます。

本項の内容

1. 「前提条件」(242ページ)
2. 「通知の内容と頻度の指定」(243ページ)

1. 前提条件

   システム管理者が次のアイテムを指定済みであることを確認します。

   - 電子メールアドレス: 詳細については、『UCMDBヘルプの管理に関するセクション』の「電子メール受信者の定義方法」を参照してください。
   - 電子メールの時間とSMTPアカウント情報:

2. 通知の内容と頻度の指定

   a. [**ユーザープリファレンス**] ボタンをクリックします。[**通知**] をクリックします。

   b. [**通知を有効にする**] チェックボックスを選択します。

   c. 次の手順を実行します。

      i. 通知を受信するビューを選択します。

      ii. 通知を受信するアイテムのタイプ、受信する情報がこれらのアイテムの詳細か、サマリーのみかを指定します。

      > **注 :** Configuration Managerのレビュー/認証モジュールにあるこれらのアイテムへの直接リンクを受信する場合、詳細の受信を選択する必要があります。

      iii. 通知を受信する頻度を指定します。

   d. [**適用**] をクリックし、[**OK**] をクリックします。

ユーザープリファレンスのユーザーインターフェイス

本項の内容

[ユーザープリファレンス] ダイアログボックス 243

[ユーザープリファレンス] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、次の操作を実行します。

- Configuration Managerのすべてのモジュールに表示するお気に入りビューを選択する
- 表示に使用する言語を選択する
- ポリシー違反やビューの変更に関する電子メール通知を受信するかどうか、これらの通知の頻度と範囲を構成するかどうかを指定する

利用方法	[Configuration Manager] 画面の上部にある をクリックします。
重要情報	次のオプションを利用できます。 • **お気に入りビュー:** お気に入りにするビューを選択します。左のテーブルで選択してダブルクリックするか、矢印ボタンで右のテーブルに移動してください。

	• **ローカリゼーション設定 :** Configuration Managerの表示で使用する言語を選択します。 • **通知 :** ビューで注意が必要な変更が行われたときに通知を受信するには、このオプションを選択します。 **注 :** • お気に入りビューを定義すると、各種モジュールで、ビューをすべて表示するオプションとお気に入りのビューのみを表示するオプションを選択できます。 • [**OK**] をクリックすると、プリファレンスが自動的に適用されます。ログアウトしてからログインし直す必要はありません。
関連タスク	「電子メール通知の構成」(242ページ)

お気に入りビュー

ビュー権限を持っているビューのみが表示されます。

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
	クリックすると、選択したビューがお気に入りビューリストから削除されます。
	クリックすると、お気に入りビューリストからビューがすべて削除されます。
	クリックすると、すべてのビューがお気に入りビューリストに追加されます。
	クリックすると、選択したビューがお気に入りビューリストに追加されます。
<左のテーブル>	使用可能なすべてのビューの名前と説明が表示されます。
<右のテーブル>	お気に入りビューの名前が表示されます。
お気に入りビューの選択	お気に入りビューのフィルターを有効または無効にします。次のオプションのいずれかを選択します。 • **すべてのビュー:** お気に入りビューリストが定義されていません。すべてのビューを表示します。 • **選択したビュー:** お気に入りビューリストのビューを選択します。お気に入りビューのみを表示します。

ローカリゼーション設定

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
言語	ドロップダウンリストから言語を選択します。 **注:** 言語設定を変更した後、変更を有効にするには、ログインし直す必要があります。
サンプル	選択した言語での日付と数値の形式。

通知

ユーザーインターフェイス要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
頻度	通知を受信する頻度を選択します。次のオプションのいずれかを選択します。 • **日ごと:** 通知を受信する間隔 (日数)を指定します。 • **週ごと:** 通知を受信する間隔 (週数)、受信する曜日を指定します。 • **月ごと:** 通知を受信する間隔 (月数)、受信する日付を指定します。
全般	電子メール通知を有効にするには、[**通知を有効にする**] チェックボックスを選択します。
通知範囲	通知を受信する次のConfiguration Managerアクションのいずれかまたは両方を選択します。 • 承認待ちの認証 • 違反しているポリシー また、[**詳細情報の表示**] を選択すると、注意が必要なアイテムの詳細情報 (Configuration Managerへのリンクを含む)を受信するかどうかを指定できます。

UI要素	詳細
ビュー	通知を受信するビューを選択します。次のオプションのいずれかを選択します。 • **すべてのビュー:** ビュー権限があるすべてのビューの通知を受信します。 • **認証権限があるビューのみ: CMでの認証**権限があるすべてのビューの通知を受信します (デフォルト)。 • **お気に入りビュー:** お気に入りビューの通知のみ受信します。 • **選択したビュー:** カスタマイズされたビューのリストの通知を受信します。

付録

付録 A: キャパシティに関する制限事項 – Configuration Manager

次の表は、Configuration Managerの容量の上限値を示します。

大きなビューのサポートの有効化の詳細については、インタラクティブ形式のUniversal CMDBデプロイメントガイド の大容量計画に関する項を参照してください。

ビューの最大数	1200
高優先度ビュー (1日に複数回更新されるビュー) の最大数	100
ポリシーの最大数	300
ビューあたりのコンポーネントCIの最大数	300,000
ビューあたりの複合CIの最大数 (大きなビューのサポートが有効になっている場合)	20,000
同時ユーザーの最大数	50
構成分析モジュールでの複合CIの最大数	1000
自動認証用に同時にテストできる複合CIの最大数	1000
ビューを更新するたびに更新されるように同時に構成できるビューの最大数	100

付録 B: ユーティリティ

本項では、次のユーティリティについて説明します。

構成セットのエクスポート 249
構成セットのインポート 251
パスワード暗号化 253
ポピュレート 254
キー生成 254

> **注:** これらのユーティリティをLinuxシステムで実行する場合は、次の手順を実行してください。
>
> - 手順に記載されているバックスラッシュをフォワードスラッシュ (/) に変更します。
> - 各ユーティリティ名の **.bat** を **.sh** に置き換えます。

構成セットのエクスポート

構成セットのエクスポートユーティリティでは、構成セットを構成ダンプファイルにエクスポートできます。この構成ダンプファイルを、後で別の名前でConfiguration Managerの同じインスタンスに、またはConfiguration Managerの別のインスタンスにインポートできます。これは、たとえばステージング環境またはテスト環境の構成セットを本稼働環境に移行する場合に便利です。

> **注:** この機能はConfiguration ManagerのUIでも使用できます。このユーティリティは、Configuration Managerを無効な構成で起動したためにサーバーが起動できないなど、何らかの理由でUIがロックされている場合にのみ使用します。
>
> このユーティリティでは、Configuration Managerサーバーが動作している必要はありません。

構成セットをエクスポートするには、次の手順を実行します。

次のコマンドを実行します。

```
<Configuration_Manager_インストール_ディレクトリ>\bin\export-cs.bat <データベースプロパティ> <構成セットID><ダンプファイル名>
```

<データベースプロパティ>には、**database.properties** ファイルの場所を示して指定するか、各データベースプロパティを指定します。

構成セットIDを特定するには、**--history** または **--drafts** オプションを使用して構成セットのエクスポートユーティリティを実行し、すべての履歴またはドラフト構成セットを表示します。履歴構成セットには、現在の構成セットを含め、これまでにアクティブ化したすべての構成セットが含まれます。

次にコマンドラインの<オプション>を示します。

オプション	詳細
--connection-url	データベース接続URL。 **注:** これは、**-p** を使用していない場合のみ使用します。--dialect、--driver、--username、--passwordとともに使用します。
--dialect	データベースダイアレクト。 **サポートされているダイアレクト:** H2Dialct、SQLServerDialect、Oracle9iDialect、Oracle10gDialect **注:** これは、**-p** を使用していない場合のみ使用します。--connection-url、--driver、--username、--passwordとともに使用します。
--driver	データベースドライバークラス名。例: org.h2.Driver、net.sourceforge.jtds.jdbc.Driver、oracle.jdbc.OracleDriver **注:** これは、**-p** を使用していない場合のみ使用します。--connection-url、--dialect、--username、--passwordとともに使用します。
--drafts	構成セットのドラフトを表示します。すべて非アクティブな構成セットです。
-f <ファイル名> **--file <ファイル名>**	ダンプファイル名。 **注:** このオプションは必須です。
-h **--help**	使用法メッセージ。
--history	構成セットの履歴を表示します。すべてアクティブな構成セットです。
-i <id> **--Id <id>**	エクスポートする構成セットのID。
-p <ファイル> **--database-properties <ファイル>**	**database.properties** ファイルの場所。 **注:** データベースプロパティの指定に --connection-url、--driver、--username、--passwordを使用していない場合、このオプションは必須です。
--password	データベースパスワード。

オプション	詳細
	注: これは、**-p** を使用していない場合のみ使用します。--connection-url、--dialect、--driver、--usernameとともに使用します。
--username	データベースユーザー名。 **注:** これは、**-p** を使用していない場合のみ使用します。--connection-url、--dialect、--driver、--passwordとともに使用します。
--verbose	冗長モード。

- 次に、履歴構成セットの表示方法の例を示します。

```
cd <CMのインストールホーム>\bin\
export-cs.bat -p ..\conf\database.properties --history
```

- 構成セットをエクスポートするには、次の手順を実行します。

```
<CMのインストールホーム>\bin\export-cs.bat -p <database.propertiesの場所> -i <構成セットID> -f <ダンプファイル名>
```

例: ID 1の構成セットをdump.zipにエクスポートする場合

```
cd <CMのインストールホーム>\bin\
export-cs.bat -p ..\conf\database.properties -i 1 -f dump.zip
```

構成セットのインポート

構成セットのインポートユーティリティでは、構成セットのダンプファイルをConfiguration Managerのインスタンスにインポートできます。構成セットのインポートは、たとえば、別の環境への移行 (ステージング環境またはテスト環境から本稼働環境へ) に便利です。

> **注:**
>
> - この機能はConfiguration ManagerのUIでも使用できます。UIオプションを使用して、インポートした構成セットの検証も実行することをお勧めします。
> - インポートされる構成セットの名前は、ダンプファイルと同じ名前になります。構成セットの名前は一意であるため、同じ名前のダンプファイルを2回インポートすることはできません。

構成セットをインポートするには、次の手順を実行します。

1. このユーティリティの使用時にサーバーが動作している可能性もありますが、構成によってはシステム全体の再起動が必要になるため、まずConfiguration Manager, の実行中のインスタンスをすべて停止することをお勧めします。
2. 次のコマンドを実行します。

   `<Configuration_Manager_インストール_ディレクトリ>\bin\import-cs.bat <データベースプロパティ> <ダンプファイル名 >`

   <データベースプロパティ>には、**database.properties** ファイルの場所を示して指定するか、各データベースプロパティを指定します。

次にコマンドラインの<オプション>を示します。

オプション	詳細
--activate	インポートした構成をアクティブ化します。
--connection-url	データベース接続URL。 **注:** これは、**-p** を使用していない場合のみ使用します。--dialect、--driver、--username、--passwordとともに使用します。
--dialect	データベースダイアレクト。 **サポートされているダイアレクト:** H2Dialct、SQLServerDialect、Oracle9iDialect、Oracle10gDialect **注:** これは、**-p** を使用していない場合のみ使用します。--connection-url、--driver、--username、--passwordとともに使用します。
--driver	データベースドライバークラス名。例:org.h2.Driver、net.sourceforge.jtds.jdbc.Driver、oracle.jdbc.OracleDriver **注:** これは、**-p** を使用していない場合のみ使用します。--connection-url、--dialect、--username、--passwordとともに使用します。
-f <ファイル名 > **--file <ファイル名 >**	ダンプファイル名。 **注:** このオプションは必須です。
-h **--help**	使用法メッセージ。
-p <ファイル> **--database-properties <ファイル>**	**database.properties** ファイルの場所。 **注:** データベースプロパティの指定に --connection-url、--driver、--

オプション	詳細
	username、--passwordを使用していない場合、このオプションは必須です。
--password	データベースパスワード。 **注:** これは、**-p** を使用していない場合のみ使用します。--connection-url、--dialect、--driver、--usernameとともに使用します。
--username	データベースユーザー名。 **注:** これは、**-p** を使用していない場合のみ使用します。--connection-url、--dialect、--driver、--passwordとともに使用します。
--verbose	冗長モード。

構成セットをインポートするには、次の手順を実行します。

```
<cmのインストールホーム>\bin\import-cs.bat -p <database.propertiesの場所> -f <ダンプファイル名>
```

例:構成セットのダンプファイルmydump.zipをインポートする場合

```
cd <CMのインストールホーム>\bin
import-cs.bat -p ..\conf\database.properties -f mydump.zip
```

パスワード暗号化

パスワードを暗号化するには、次の手順を実行します。

1. Configuration Managerのインストールディレクトリに、次のファイルが格納されている **security** ディレクトリがあることを確認します。

   encrypt_security

   このファイルは、インストールプロセスで作成されます。ただし、このファイルが存在しない場合は、次を**<Configuration_Manager_インストール_ディレクトリ>\bin** ディレクトリで実行します。

   ```
   generate-keys.bat
   ```

2. 次のコマンドを実行します。

   ```
   <Configuration_Manager_インストール_ディレクトリ>\bin\encrypt-password <オプション>
   ```

   コマンドラインでは次の<オプション>を使用できます。

オプション	詳細
-p <パスワード> **--password <パスワード>**	1つの平文パスワードを暗号化します。
-d <フォルダー> **--dir <フォルダー>**	指定したパスにある暗号化キーを使用します。このオプションを指定しない場合、デフォルトのキーの場所は **<CMのインストールホーム>\security** です。ここで、キー生成ユーティリティで秘密鍵および公開鍵が作成されます。
-h **--help**	このメッセージを出力します。

例: 1つのパスワードを暗号化する場合

```
EncryptPassword.bat -p <暗号化するパスワード>
```

3. 生成された暗号化パスワード (**{ENCRYPTED} <暗号化されたパスワード>**) をコピーし、適切な Configuration Manager構成ファイルに貼り付けます。

ポピュレート

ポピュレートユーティリティでは、Configuration Managerデータベースでテーブルを作成できます。

> **注:** このユーティリティにより、データベースに格納されていたデータを削除できます。

ポピュレートユーティリティを使用するには、次の手順を実行します。

次のコマンドを実行します。

```
<Configuration_Manager_インストール_ディレクトリ>\bin\populate.bat -i
```

キー生成

キー生成ユーティリティはインストール時に自動的に実行され、公開鍵と秘密鍵を作成します。暗号化プロパティファイルの値に変更があった場合、次の操作が必要です。

- キー生成ユーティリティを使用して、公開鍵および秘密鍵を生成し直します。
- パスワード暗号化ユーティリティを使用してデータベースパスワードを生成し直した後、データベースプ

ロパティファイルを更 新します。

キー生 成 ユーティリティを使 用 するには、次 の手 順 を実 行します。

次 のコマンドを実 行します。

```
<Configuration_Manager_インストール_ディレクトリ>\bin\generate-keys.bat
```

付録 C: システムデータのエクスポートとインポート

本項の内容

システムデータのインポートとエクスポートの概要 256
システムデータのエクスポート 258
システムデータのインポート 258
ログの冗長レベルの設定 259

システムデータのインポートとエクスポートの概要

JMXを使用して、Configuration Managerデータをインポートおよびエクスポートできます。これらの操作は、たとえば、システムデータをステージング環境から実稼働環境に移動する場合や、システムがクラッシュした後のリカバリの際に実行します。

エクスポートしたデータには、次のリソースが含まれます。

- Configuration Managerで管理されているビューと、ビューモジュールで各ビューに対して定義されている管理CIタイプのリスト。ビューが参照しているTQLはエクスポートされません。
- ポリシーモジュールで定義されている構成ポリシーの設定。参照されているTQLはエクスポートされません。
- 構成分析モジュールで保存した構成分析結果 (保存したモデルおよび複合CIを含む)。複合CIの実際のCI情報 (属性など) はエクスポートされません。

エクスポート操作では、データが移行され、Configuration Managerが動作しているマシンのファイルシステムに格納されます。また、ネットワークパスを指定して、別のサーバーにエクスポートデータを格納することもできます。データはXMLファイルとしてエクスポートされます。

システムデータを含むXMLファイルを、Configuration Managerのファイルシステムから、同じバージョンの別のConfiguration Managerシステムにインポートすることができます。また、ネットワークパスを指定して、別のサーバーからのエクスポートデータをインポートすることもできます。

注意:

> Configuration Managerシステム間 でシステムデータをインポートするときは、Configuration Managerのバージョンが同じか互 換 性 があることを確 認 する必 要 があります。
>
> Configuration Managerの2つのインスタンス間 (Configuration Managerの各 インスタンスが別 のUniversal CMDB インスタンスに接 続されている) でデータを移 行 する前 に、まず Universal CMDB インスタンス間 で関 連 するTQLをエクスポートしてからビューをエクスポートする必 要 があります。
>
> ベースラインポリシーを適 用した場 合 、ポリシーモジュールの [**詳 細 フィルター**] ボックスで選 択したTQLをエクスポートする必 要 があります。
>
> トポロジポリシーを適 用した場 合 、ポリシーモジュールの [**条 件 TQL**] ボックスの条 件 TQLと [**詳 細 フィルター**] ボックスで選 択したTQLをエクスポートする必 要 があります。
>
> 参 照 されるTQLをエクスポートするには、Universal CMDB のパッケージマネージャーを使 用します。詳 細 については、UCMDBヘルプの管 理 に関 するセクションを参 照 してください。

インポート 操 作 のログファイル

インポート操 作 では、**amber_import_export.log** ファイルが **<Configuration_Manager_インストール_ディレクトリ>\servers\<Configuration Managerサーバー拡 張 名 >\logs** ディレクトリに生 成 されます。

すべてのインポートアクションは、エラーエッセージやエラー原 因 を含 めて **amber_import_export.log** に書 き込 まれます。例 :

- Managing view 'View1'
  - View 'View1' already exists
  - View 'View1' was created
  - View 'View1' was not created: reason...
- Adding configuration analysis (adhoc) model 'Model1'
  - Configuration analysis (adhoc) model 'Model1' was created
  - Configuration analysis (adhoc) model 'Model1' already exists
- Adding policy rule 'Rule1'
  - Policy rule 'Rule1' was created
  - Policy rule 'Rule1' already exists
  - Policy rule 'Rule1' was not created: reason...

ログファイルのメッセージ重 大 度を設 定 する方 法 については、「ログの冗 長 レベルの設 定 」(259ページ)を参照してください。

システムデータのエクスポート

このタスクでは、Configuration Managerのシステムデータ、ビュー、ポリシーを一 覧 表 示 およびエクスポートし、ファイルシステムに格 納 する方 法 を説 明します。

1. Webブラウザーを起 動して、次 のアドレスを入 力します。**http://<サーバー名 >:<ポート番 号 >/cnc/jmx-console**。**<サーバー名 >**は、Configuration Managerがインストールされているマシンの名前 です。
2. JMXコンソールの認 証 資 格 情 報を入 力します。
3. [**Configuration Manager**] の下 の [**ImportExport service**] をクリックします。
4. 次 のいずれかの操 作 を見 つけます。
   - **exportData**
   - **listAllViews**
   - **exportViews**
   - **listAllPolicies**
   - **exportPolicies**
5. [**Value**] フィールドに、ファイル名 と、データをエクスポートするConfiguration Managerサーバーのファイルシステムのディレクトリのフルパスを入 力します。また、エクスポートファイルを同じサーバーに置 かない場 合 は、ネットワークパスを指 定 することもできます。
6. [**Invoke**] をクリックしてデータをエクスポートします。データが指 定 したディレクトリにXMLファイルとしてエクスポートされます。

システムデータのインポート

このタスクでは、JMXコンソールを使 用して、Configuration Managerのファイルシステムのシステムデータを含 むXMLファイルを、同じバージョンの別 のConfiguration Managerにインポートする方 法 を説 明します。

1. Webブラウザーを起 動して、次 のアドレスを入 力します。**http://<サーバー名 >:<ポート番 号 >/cnc/jmx-console**。**<サーバー名 >**は、Configuration Managerがインストールされているマシンの名

前です。

2. JMXコンソールの認証資格情報を入力します。
3. [**Configuration Manager**] の下の [**ImportExport service**] をクリックします。
4. [**importData**] 操作を特定します。
5. [**Value**] フィールドに、ファイル名と、データをインポートするConfiguration Managerサーバーのファイルシステムのディレクトリのフルパスを入力します。また、ネットワークパスを指定して、別のサーバー上にあるファイルからデータをインポートすることもできます。
6. [**Invoke**] をクリックしてデータをインポートします。

ログの冗長レベルの設定

インポート操作は **amber_import_export.log** という名前のログファイルに書き込まれます。このタスクでは、**amber_import_export.log** ファイルのメッセージ重大度レベルを変更する方法について説明します。

amber_import_export.log ファイルについては、「インポート操作のログファイル」(257ページ)を参照してください。

表示されるメッセージ重大度レベルを変更するには、次の手順を実行します。

<CM_installation_directory>\conf\cmlog4j.properties ファイルで、次の行を編集します。

```
log4j.logger.amber.import-export=INFO, amber_import_export_fileout
```

次のタイプのログメッセージコマンドを使用できます。

- **ERROR**: エラーメッセージのみが表示されます。
- **WARN:** 警告およびエラーメッセージが表示されます。
- **INFO:** 警告およびエラーメッセージに加え、システムが実行する処理アクティビティを記録する情報メッセージが表示されます。
- **DEBUG:** すべてのタイプのメッセージと追加のデバッグメッセージが表示されます。

> **注意:** ログレベルを **DEBUG** に設定すると、パフォーマンスに影響する可能性があります。

ドキュメントに関するフィードバックの送信

このドキュメントに関するコメントについては、電子メールでドキュメントチームまでご連絡ください。ご使用のシステムに電子メールクライアントが設定されている場合は、上記のリンクをクリックすると電子メールウィンドウが開き、以下の情報が件名の行に表示されます。

ユーザーガイド (Universal CMDB Configuration Manager 2018.08) に関するフィードバック

電子メールにフィードバックを記入して、送信ボタンをクリックしてください。

使用できる電子メールクライアントがない場合は、上記の情報をWebメールクライアントの新しいメッセージにコピーして、フィードバックを cms-doc@microfocus.com に送信してください。

お客様からのご意見をお待ちしております。